目次

追加内容。2024年9月下旬。物質一般の社会について。引力や斥力と、保存性やエネルギー性との対応関係。引力や斥力と、専制支配や暴力支配との対応関係。物質一般における引力の存在と、資本主義の根源との関連。それらの知見の、生物一般の社会や人間社会への適用。
追加内容。2024年9月下旬。その2。従来の物理学における、地球の重力や位置エネルギーや保存力の概念。それらを全面的に置換する、新たな上位互換の視点の必要性。その最終目標としての、物質一般における引力や斥力の法則の解明の必要性。物質一般における物理法則の研究において新たに克服されるべき、従来の社会的価値観。
追加内容。2024年11月上旬。保存性物質における、内部発熱と内部発光の発生のメカニズム。保存性物質における、熱エネルギー内部保有のメカニズム。その物質における構成要素同士の引力行使の大きさとの関連。保存性物質内部における、保存性とエネルギー性との共存。弁証法的物質としての保存性物質。保存性物質における、エネルギー性行為としての爆発と、その直後の再度の沈静化の、定期的な繰り返しの発生について。
追加内容。2024年12月上旬。Python3のマルチプロセッシング機能を利用した、引力と斥力の両方を考慮した、汎用的な物質動作シミュレーションプログラム。その最初のスクラッチ版のソースコード。
追加内容。2025年1月上旬。物質の分子や原子の構造における、陽子と電子、引力と斥力、保存性とエネルギー性、女性性と男性性との、相互関連。物質における化学反応と、保存性やエネルギー性との関連。物質個体における一般社会理論。生物的神経系における斥力の出力の実現。相対性理論と、移動性や定住性との関連。
追加内容。2025年1月中旬。物理学における発光や発熱の研究についての方向修正の必要性。物質個体における、エネルギーや斥力の行使についての一般的な法則の樹立を、より優先すべきであること。サブクラスとしての光や熱には、研究の視点を置かないこと。それらのスーパークラスに該当する、エネルギーや斥力そのものへと、研究の視点を、新たに集中すべきであること。その際に、生物神経科学との社会的分業が、新たに必要であること。
追加内容。2025年1月下旬。巨大な保存性物質における、その中心部からのエネルギー性の対外放射。保存性物質のエネルギー性物質への転換。
追加内容。2025年2月上旬。引力や保存力は、斥力やエネルギーの源であること。保存性物質や女性は、エネルギー性物質や男性の源であること。保存性物質や女性は、家屋であること。エネルギー性

物質や男性は、その借用者であること。そのことが、男女の性差の根源であり、その差を覆すことは、誰にも出来ないこと。
追加内容。2025年3月下旬。磁力と磁石と、エネルギー性物質や保存性物質との関連。プラズマと、エネルギー性物質との関連。
追加内容。2025年5月中旬。保存性物質や生物における、資産肥満者や資産デブの存在。彼らの社会的な有害性を、新たに認識することが必要であること。彼らに対する社会的治療や矯正が必要であること。
追加内容。2025年5月中旬。保存性物質は、世界の中心を指向すること。保存性物質は、世界の中心者になりたがること。保存性物質における、自己中心性。保存性物質における、自己中心化の実現方法。
追加内容。2025年5月下旬。保存性物質の各粒子は、その内部世界の中心を指向すること。そのことが、保存性物質内部を、活火山化させること。そのことが、活火山爆発を引き起こすこと。その結果。保存性物質は、エネルギー性物質の発生の母胎となること。引力性物質は、斥力性物質の発生の母胎となること。ある宇宙世界における最上位の保存性物質は、その宇宙世界の中心に位置する超巨大恒星であること。生物世界における最上位の生物は、結局は、女性であること。
追加内容。2025年6月中旬。宇宙物理学における、互いに専門化され分断された各分野の様々な知見の、新たな統合と総括。そのことによってもたらされる、宇宙物理学が持つ、新たな全貌。その要約。
追加内容。2025年6月中旬。量子力学と質子力学との対比。今後の物理学において、質子力学が新たな主流となるべきこと。宇宙物理学や分子動力学との関連について。
追加内容。2025年6月下旬。熱エネルギーと、運動エネルギーとの関係について。光熱の発生の、保存性やエネルギー性との関連について。光熱の発生の、世界における中心性との関連について。物質の様々な性質の、ビジュアル化の方法について。
追加内容。2025年10月下旬。エネルギー性優位社会は、仮想性優位であり、仮想資産の運用によって動くこと。保存性優位社会は、実体性優位であり、実体資産の貯蓄によって動くこと。定型発達者は、保存性で動き、発達障害者は、エネルギー性で動くこと。生物界において、保存性の生物は、本尊や母屋や飼い主であり、エネルギー性の生物は、脇侍や寄宿者や暴れ馬であること。
私の書籍についての関連情報。
　私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。
　筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。

参考文献。
私が執筆した全ての書籍。その一覧。
私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。
私の略歴。

物質一般における、
動作と社会。
生物や人間への、
適用。

IWAO OTSUKA

物質一般における、動作と社会。生物や人間への、適用。
Iwao Otsuka

全体総括的な要約的説明。2024年10月。

私自身がこれまで生成した、物質や生物についての、一般社会理論。それらについての全体総括的な要約的説明。それらの社会的な存在意義や有用性についての説明。
2024年10月。Iwao Otsuka.

物質世界は、以下の２つの力から成り立っていること。

各々の粒子において。
--
保存力。
物事を止める力。ブレーキ。物事を低速化する力。物事を不動化する力。物事を微動化する力。
物事を減速させる力。物事を停滞させる力。物事の前例を踏襲する力。物事を冷却する力。物事を鎮める力。物事を抑制する力。物事を陰気にする力。物事を沈静化する力。物事を消極化する力。物事を制止し禁止する力。
物事を低くする力。物事の温度を下降させる力。物事の位置を下降させる力。
現状を維持する力。現状を保存する力。原状回復する力。治癒する力。メンテナンスする力。補給する力。元に戻す力。
自己を保身する力。安全なことだけ行う力。
全世界の中心や中枢に位置することを、指向する力。
物事を吸引し吸収する力。物事を貯蔵し貯蓄する力。物事を保有する力。物事を重くする力。物事を余剰化させる力。物事を肥満させる力。自己所有物を貸し出す力。
内方向へと動こうとする力。物事の内部と外部とを、隔てるように

する力。物事を内部へと閉じ込める力。物事を外部へと締め出す力。開口部を塞ぐ力。物事を非公開化する力。物事を隠蔽する力。物事を機密化する力。物事を排他化する力。表面張力。物事の表裏を作る力。表面的な綺麗事の主張と、内面的な汚濁や不浄や停滞とで、動く力。
防御する力。抑圧し鎮圧する力。
閉じ込める力。隠蔽する力。局所的でいる力。免疫力。
--
エネルギー。
物事を動かす力。アクセル。物事を高速化する力。物事を移動させる力。
物事を加速させる力。物事を進歩させ進化させる力。物事を加熱する力。物事を沸き立たせる力。物事を燃焼させる力。物事を陽気にする力。物事を活発化する力。物事を積極化する力。物事を自由化する力。
物事を高くする力。物事の温度を上昇させる力。物事の位置を上昇させる力。
現状を変える力。現状を破壊する力。仕事する力。稼ぐ力。元に戻せなくする力。
自己を消耗させる力。自己を致傷させる力。捨て身で動く力。危険を冒す力。
全世界に普遍的に分布することを、指向する力。
物事を放出する力。物事を拡散する力。物事を消費する力。物事を軽くする力。物事を不足化させる力。物事を消耗させる力。他者の所有物を一時的に借用して済ませる力。
外方向へと動こうとする力。物事の内部と外部とを、隔てないようにする力。物事を解放する力。物事を穿孔する力。物事を開放する力。物事を公開化する力。物事を暴露する力。物事を露出させる力。物事の表面を解消する力。物事の表裏を無くす力。率直さで動く力。
攻撃する力。暴れ回る力。
解放する力。公開する力。世界に拡がって行く力。感染力。
--

複数の粒子の間において。
--
引力。
互いに惹き付け合う力。互いに接近し結合し融合する力。互いに連

結する力。互いに接着し癒着する力。互いに融合する力。互いに集合する力。互いに連続化する力。互いにアナログ化する力。互いに全体化する力。自己を実体化させる力。互いに湿った塊として存在しようとする力。
互いに依存し合う力。互いに一体化し合体する力。互いに調和する力。互いに同一化する力。互いに同質化する力。
中心や中枢へと進もうとする力。互いに足を引っ張り合う力。
内側へと外部資源を吸い込み貯め込む力。資本主義の原点としての、所有し貯蔵し蓄積する力。富裕性や豊潤性を実現するための原動力。
専制支配を行う力。
--
斥力。
互いに反発し合う力。互いに分離する力。互いに離散する力。互いに切断する力。互いに断片化する力。互いにデジタル化する力。互いに個人化する力。自己を仮想化させる力。互いに乾いた粉粒として存在しようとする力。
互いに自立し独立する力。互いに束縛されずに個人で自由に動き回る力。互いに多様化する力。互いに異質化する力。相互批判を行う力。
普遍的にグローバルに分布しようとする力。互いに自由に動き回る力。
対外的に、内部資源を、エネルギーに変えて放出する力。消費し消耗する力。清貧性や喜捨性を実現するための原動力。
暴力支配を行う力。
--

保存力が、個体間に引力をもたらすこと。引力が、それらの個体に保存力をもたらすこと。
エネルギーが、個体間に斥力をもたらすこと。斥力が、それらの個体にエネルギーをもたらすこと。
--
保存力と引力とは、それらの存在において、互いに密接に関連していること。
エネルギーと斥力とは、それらの存在において、互いに密接に関連していること。
--

物質一般において。
--
保存力。引力。それらの力で動く物体や個体。それは、保存性の物質であること。
それは、液体や固体であること。それは、生物一般であること。
生物において。それは、生きた細胞であること。それは、女性や卵子であること。それは、定住生活様式社会の構成員であること。それは、女性優位社会の構成員であること。
例。中国。ロシア。日本。韓国。東南アジア諸国。それらの社会の人々。
--
エネルギー。斥力。それらの力で動く物体や個体。それは、エネルギー性の物質であること。
それは、気体であること。
生物において。それは、ウィルスであること。それは、男性や精子であること。それは、移動生活様式社会の構成員であること。それは、男性優位社会の構成員であること。
例。欧米諸国。中東諸国。それらの社会の人々。
--

保存力や引力で動く社会における、社会的禁忌。それは、以下の内容であること。
エネルギーや斥力を、露骨に行使すること。
例。個人主義的に動くこと。自由主義的に動くこと。反抗し批判すること。内情暴露を行うこと。暴力支配を行うこと。
それらは、定住生活様式の社会における、社会的禁忌であること。
それらは、女性優位社会における、社会的禁忌であること。
例。それらは、中国やロシアや韓国や日本における、社会的禁忌であること。
--
エネルギーや斥力で動く社会における、社会的禁忌。それは、以下の内容であること。
保存力や引力を、露骨に行使すること。
例。集団主義的に全体主義的に動くこと。統制と禁止で動くこと。内的調和を強制的に保つこと。秘密主義で動くこと。専制支配を行うこと。

それらは、移動生活様式の社会における、社会的禁忌であること。
それらは、男性優位社会における、社会的禁忌であること。
例。それらは、欧米諸国や中東諸国における、社会的禁忌であること。
--

生物。
それは、保存性物質の一種であること。
それは、自己保存や自己保身で動く物質であること。
それは、内的貯蔵の増大や増強を、ひたすら指向する物質であること。それは、資本主義で動く物質であること。
例。生物における自己増殖。それは、自己複製や自己バックアップを行うことで、自己保存や自己保身をより確実にする行為であること。
それは、そうした性質を保持するために、外部資源を絶えず消費し続ける物質であること。
それは、そうした性質を保持するために、そうした外部資源を絶えず必要とする物質であること。
それは、そうした外部資源を、絶えず獲得し吸収し続ける必要がある物質であること。
それは、そうした外部資源獲得のために、エネルギー性の行為を絶えず必要とする物質であること。
エネルギー性の行為。
それは、対外的に楔を差し込むこと。それは、対外的にドリルで穿孔すること。それは、対外的にツルハシや金槌を打ち込むこと。
それは、対外的に破壊行為を行うこと。
それは、稼ぐこと。それは、仕事すること。それは、破壊すること。それは、改変すること。

--
生物。
それは、そうした保存性とエネルギー性との相反する相互矛盾する機能を、同時に必要とする、同時に内包する、弁証法的物質であること。

生物における、そうした、保存性とエネルギー性との、相反する両

面性の保有において。
--
保存性を主に受け持つ個体。それは、女性や卵子であること。それは、生きた細胞であること。
それは、生物における王道を行く存在であること。それは、生物における本質を示す存在であること。それは、生物における主流的存在であること。
それは、自己保存や自己保身により適した、楽で快適で安全な領域に滞留する存在であること。
それは、生物における自己複製や資源保有のための設備を、独占的に所有する存在であること。
それは、そうした自己占有する体内設備を、男性や精子やウィルスに貸し出すことが出来る存在であること。
それは、そのことで、不労所得で優雅に暮らすことが出来る、投資家的存在であること。それは、地主や工場主や銀行家と同様の、富裕で豊潤な存在であること。
それは、生物の世界において、本質的に、上位で優位の存在であること。
彼らの形成する社会の典型例。農耕定住民の社会。それは、保存性や原状回復性の社会の特徴であること。それは、引力主体の社会の特徴であること。それは、女性優位社会の特徴であること。
--
エネルギー性や破壊性を主に受け持つ生物個体。それは、男性や精子であること。それは、ウィルスであること。
それは、生物における脇道を行く存在であること。それは、生物における付随的性質を示す存在であること。それは、生物における非主流的存在であること。
それは、捨て身や討ち死ににより適した、苛酷で不快で危険な領域で活躍するしか無い存在であること。
それは、生物における自己複製や資源保有のための設備を、女性や卵子や生きた細胞から借用するしか無い存在であること。
それは、そのことで、ひたすら苦役し労働し続ける、企業家的存在であること。それは、小作人や工場労働者や借金返済者と同様の、貧相で清貧な存在であること。
それは、生物の世界において、本質的に、下位で劣位の存在であること。
--

エネルギー性や破壊性を主に受け持つ生物個体。男性や精子。ウィルス。
彼らが、上記の、そうした惨めな社会的地位を、挽回し逆転するための、絶好の条件。それは、以下の内容であること。
--
エネルギー性や移動性をより必要とする生活環境の下で生活すること。移動生活様式を必要とする環境の下で生活すること。
--
保存性や不動性の保有が、生存面でより不利となる環境。そうした特有の環境の下で生活すること。
例。乾燥地帯における生活。遊牧民の生活。放牧を伴う牧畜民の生活。具体例。欧米諸国や中東諸国の人々の生活。
--
彼ら特有の、離散性や粉粒性や身軽さや開放性といった性質。それらの性質をより必要とする生活環境を、新たに実現すること。
デジタルで仮想的な情報の活用を主流とする生活環境を、新たに実現すること。
例。
現代の欧米諸国が主導する、インターネット情報網社会。
それは、エネルギー性や破壊性の社会の特徴であること。それは、斥力主体の社会の特徴であること。それは、男性優位社会の特徴であること。
--

そうした移動生活様式で暮らすこと。そのことが、そうした生物個体に対してもたらす、社会的価値観上の、大きな副作用や制限や束縛や歪曲。それらは、以下の内容である。
例。人間の場合。移動生活様式の社会の人々の場合。男性優位社会の人々の場合。その具体例。欧米諸国。中東諸国。
彼ら自身と酷似した身体的働きを持つ、他種の生物。彼ら自身と高い同質性を互いに共有する、他種の生物。大型哺乳類としての、牛や馬や豚や羊や山羊。
そうした他種の生物を、放牧生活において、多数飼育する必要があること。
そうした他種の生物を、彼ら自身の栄養補給を満たすために、頻繁に屠殺する必要があること。
それは、以下の内容であること。
彼ら自身と同質の、本来彼ら自身にとって仲間的で同等的な生物

を、頻繁に殺戮すること。
そうした行為を、生活上、どうしても回避することが出来ないこと。
そうした、殺戮行為。そうした殺生。
それらの頻繁な生起は、そのままでは、彼ら自身の精神に対して、深刻な負担やダメージを、繰り返しもたらすこと。
その結果。
彼ら自身の精神が破壊され、彼ら自身の生存が危うくなること。
彼らは、そうした彼ら自身の精神の破壊を回避するために、以下の行為を、社会的禁忌として、徹底的に忌避するしか無くなること。
--
彼ら自身と、そうした殺戮対象の他種生物とを、共通の、生物一般という枠組みで、包括して捉えること。
彼ら自身と、そうした殺戮対象の他種生物とを、区別せずに、同質の存在として、同じ仲間や同等者として、捉えること。
--
更に根本的に。彼らは、そうした彼ら自身の精神破壊を回避するために、以下の行為を、社会的禁忌として、徹底的に忌避するしか無くなること。
--
彼ら自身と、彼ら自身を除く全ての他種生物とを、共通の、生物一般という枠組みで、包括して捉えること。
彼ら自身と、彼ら自身を除く全ての他種生物とを、区別せずに、同質の存在として、同じ仲間や同等者として、捉えること。
--
あるいは。彼らは、そうした彼ら自身の精神破壊を回避するために、以下の行為を、社会的禁忌として、徹底的に忌避するしか無くなること。
--
彼ら自身の精神と、彼ら自身を除く全ての他種生物の精神とを、共通の、生物一般の神経系の働きという枠組みで、包括して捉えること。
彼ら自身の神経系と、彼ら自身を除く全ての他種生物の神経系とを、区別せずに、同質で同等の存在として、平等に捉えること。
--

それらの結果、彼らが止むを得ず作り上げた、価値観の体系。
それは、人間と、その他の種類の生物とをひたすら峻別するタイプ

の、社会的通念であること。

人間と、その他の種類の生物とをひたすら峻別する場合。以下の２通りの選択肢しか存在しないこと。
--
人間を、その他の全ての種類の生物の上に、位置付けること。その内容は、人間にとって十分に心地良いこと。その選択肢は、選んで良いこと。
人間を、その他の全ての種類の生物の下に、位置付けること。その内容は、人間にとって屈辱的過ぎること。その選択肢は、避けるしか無いこと。
--
それゆえ、人間は、下記の選択肢を選ぶしか無いこと。人間を、その他の全ての種類の生物の上に、位置付けること。
結局。
それは、人間を、その他の全ての種類の生物の上に位置付けるタイプの、社会的通念であること。
例。ユダヤ教やキリスト教やイスラム教といった、一神教。
そうした価値観の体系。それは、生物社会や人間社会の真実を、決して直視しようとしない、歪んだ視点に基づいていること。
その結果。そうした価値観の体系。
それは、生物研究や人間研究を今後進展させる上で、大きな障害物や足枷として作用していること。
それは、生物研究や人間研究を今後進展させる上で、とても無益で有害な存在となっていること。
その事例研究。
現代の欧米諸国の社会学において。人間における生物的な側面を、徹底的に嫌悪して、除外して把握しようとして、あがき続けること。
その具体例。
フェミニズム。男女の性差の存在を、意図的に無視し、男女平等の理想を、ひたすら提唱し続けること。
ポリティカル・コレクトネス。男女の性差の存在を明示する研究者を、性差別主義者として、社会的に弾劾し抹殺し続けること。

上記の歪んだ価値観の体系を、生きていく上であまり必要としない、生活様式。農耕生活。植物栽培メインで暮らす定住生活。
そうした定住生活様式の社会。不動性を移動性よりも優先する、女

性優位社会。
その具体例。中国。ロシア。韓国。日本。東南アジア諸国。
そうした生活において。
人間と、植物とは、性質的に、類似度がかなり低めであること。人間と、植物とは、相互に十分に異質であること。
仮に、人間が植物を殺生したとしても、あまり精神的負担にはならないこと。
そうした社会向けに、上記の、移動生活様式特有の歪んだ価値観からの解放が、新たに必要であること。
そうした社会の人々向けに、以下のような内容の価値観の体系の構築が新たに必要であること。
--
彼ら自身と、彼ら自身を除く全ての他種生物とを、共通の、生物一般という枠組みで、包括して捉えること。
彼ら自身と、彼ら自身を除く全ての他種生物とを、区別せずに、同質の存在として、同じ仲間や同等者として、捉えること。
--
彼ら自身の精神と、彼ら自身を除く全ての他種生物の精神とを、共通の、生物一般の神経系の働きという枠組みで、包括して捉えること。
彼ら自身の神経系と、彼ら自身を除く全ての他種生物の神経系とを、区別せずに、同質で同等の存在として、平等に捉えること。
--
更に究極的には。
彼ら自身と、彼ら自身を除く全ての他種物質とを、共通の、物質一般という枠組みで、包括して捉えること。
彼ら自身と、彼ら自身を除く全ての他種物質とを、区別せずに、同質の存在として、同じ仲間や同等者として、捉えること。
--

そうした新たな価値観の体系の構築。それは、今まで、明示的には殆ど実現されていなかった、未知領域の産物であること。
その実現こそが、私自身の終生のライフワークであること。
その内容こそが、私自身の今までの著作におけるメインテーマであること。

私の理論における新規性。2024

年12月下旬。

私が今までに生成した現状の各種電子書籍の内容の、既存の思想や学説や理論内容に対する、新規性や革新性。
私が今までに生成した現状の各種電子書籍の内容における、アピールポイント。
それらについての簡潔な要約。
それらは、以下の内容である。

男女の性差の根源を、一通り突き止めたこと。有性生殖の発生の意義を、一通り突き止めたこと。
そうした性差の発生。そうした有性生殖の発生。
それらは、生物における弁証法的物質としての性格の内蔵に、端を発していること。
生物本来の性質は、保存性であること。
しかし。生物は、彼ら自身の自己保存状態を維持するために、各種資源の消費を常時必要とすること。例。酸素。水。食料。栄養分。
その結果。生物は、彼ら自身の体内において消費して不足した各種資源を、再び補充する必要が生じること。
生物は、そのために、資源探索行為や資源掘削行為や資源吸引行為や不用物廃棄行為といった、周囲環境を改変し破壊する行為の実行を、常時必要とすること。
そうした資源獲得への欲求が、生物が空間移動行為を引き起こす、根本原因であること。
そうした資源獲得への欲求が、生物が環境改変行為や環境破壊行為を引き起こす、根本原因であること。
そうした資源獲得が、ある程度、常時安定的に充足されるようになった場合。生物は空間移動行為を直ちに止めて、定住生活様式へと移行すること。
例。光合成で生きる植物が、光が当たる、水が得られやすい場所に芽吹くと、そのまま根付くこと。
例。移動生活で生きる人々が、そうした植物たちを利用した安定的な食糧生産が可能な場所に到達すると、そのまま定住して、農耕生活を持続すること。

生物において、彼ら自身の生存維持に必要な資源を、外部環境から常時調達し獲得することが、必須であること。
そのために、本来保存性で専ら動くべき生物において、エネルギー

性の行為の遂行が、常時、不可避的に必要となること。
その結果。生物において、以下の状況が新たにもたらされること。
生物内部における、保存性とエネルギー性との対立の発生。
生物内部における、そうした内部対立を止揚する社会的分業の必要性の発生。
生物個体における、保存性を主体として動く個体と、エネルギー性を主体として動く個体との、機能分化。そうした機能分化の、遺伝子複製時の異常に基づく偶然的で自動的な発生。
生物社会内部における、保存性の生物としての女性と、エネルギー性の生物としての男性との、社会的分業の発生。
生物社会内部においては、保存性の生物としての女性が本流であり、エネルギー性の生物としての男性は傍流であること。
保存性の生物としての女性は、彼女自身の弱小性を、より大きく強調すること。それは、即ち、謙遜の精神であること。
エネルギー性の生物としての男性は、彼自身の強大性を、より大きく強調すること。それは、即ち、自己主張の精神であること。

物質世界における究極的な単純性や簡潔性を、一通り突き止めたこと。
物質世界には、エネルギー性物質と、保存性物質との、二択しか存在しないこと。
物質世界には、エネルギー性の原動力としての斥力と、保存性の原動力としての引力との、二択しか存在しないこと。
物質世界には、エネルギー性に基づく自己普遍化への指向と、保存性に基づく世界の中心位置獲得への指向との、二択しか存在しないこと。

そうした知見を、生物に対して応用することの有用性を、一通り突き止めたこと。
生物世界には、エネルギー性生物としての男性と、保存性生物としての女性との、二択しか存在しないこと。
生物世界には、グローバリズムをひたすら指向する男性と、世界の中心位置の獲得をひたすら指向する女性との、二択しか存在しないこと。
生物世界には、エネルギー性の思想を重視する男性優位社会と、保存性の思想を重視する女性優位社会との、二択しか存在しないこと。
生物世界には、エネルギー性の力としての斥力の行使による暴力支

配と、保存性の力としての引力の行使による専制支配との、二択しか存在しないこと。
男性優位社会においては暴力支配が蔓延し、女性優位社会においては専制支配が蔓延すること。
そうした生物世界についての知見を、人間社会に対して応用することの有用性を、一通り突き止めたこと。
例。
欧米諸国と、中国やロシアとの思想的対立の根源を、一通り突き止めたこと。
それらは、結局、エネルギー性の思想を重視する諸国と、保存性の思想を重視する諸国との思想的対立として、簡潔に説明可能であること。

物質世界における暗黒性の根源を、一通り突き止めたこと。
それは、保存性物質における、外界に対する表面張力の行使によって、もたらされること。
それは、保存性物質における、外界に対する自己遮蔽性の行使であること。
その結果。彼ら自身の内部が密閉され、光が一切差し込まなくなること。
そのことによって、彼ら自身に対して、暗黒性がもたらされること。
暗黒物質。それは、結局、保存性物質であること。
保存性物質としての生物。彼らは、暗黒物質の一種であること。
生物としての人間。彼らは、暗黒物質の一種であること。彼らの精神は、暗黒性によって満たされていること。
彼らの精神は、プライバシー保持重視という名の、内部暗黒性によって満たされていること。
彼らの精神は、光明性を元々何も内蔵していないこと。
彼らにとっての光明性は、彼らの周囲の外部環境によって、専ら、もたらされること。
彼らにとっての光明性は、彼らの内部において、相対的にエネルギー性が強い男性によって、専ら、もたらされること。
彼らの内部において、相対的に保存性が強い女性は、そうした男性を、生活上の問題を解決するための道具として、ひたすらこき使うこと。
そうした、相対的に自己保身性が強い女性は、そうした男性へと、危険で苛酷な作業を全て押し付けて、彼女自身は、楽で快適で安全

な温室的な空間への定住状態をキープし続けること。
そのことで男性が消耗し創傷したら、彼らに対してメンテナンスや養分補給や治癒行為を実施して、原状回復を行うこと。
そうした行為を日常化させることで、彼ら男性を、表向き救い主として崇めつつ、便利な家畜として手元のロープに繋いだまま飼育し続けること。
そうした個体レベルの動きの、社会レベルへの応用。それは、以下の内容である。
相対的に保存性が強い女性優位社会の生物たちは、そうした男性優位社会の生物たちを、生活上の問題を解決するための道具として、ひたすらこき使うこと。
女性優位社会の生物たちは、そうした男性優位社会の生物たちの成果出力を、より高品質化し、最終的な完成度を飛躍的に高めて、圧倒的な低コストで、生物世界全体に向けて、量産化製品として大量に出力し続けること。
女性優位社会の生物たちは、そうすることで、そうした男性優位社会の生物たちの成果出力を、最終的に自分たちの資産へと転化させて、そうした大元の男性優位社会の生物たちの成果出力のお株を奪うこと。
そのことで、女性優位社会の生物たちは、そうした男性優位社会の生物たちの生物世界における競争力や影響力を低下させること。
そのことで、女性優位社会の生物たちは、代わりに自分たちが、生物世界の中心に、新たに君臨し続けるようになること。
そうした行為を日常化させることで、彼ら男性優位社会の生物たちを、表向き救い主として崇めつつ、便利な家畜として手元のロープに繋いだまま飼育し続けること。
例。近現代の人間社会において。
日本や中国や韓国が、欧米諸国の先進科学技術を、表向き最大限の敬意を払いつつ、容赦無く全て盲目的に丸呑みして模倣し続けていること。
それらの女流の国々は、それらの丸呑みによって獲得した科学技術の内容を独自に高品質化して、そうして低コストで量産した工業製品を、世界市場に向けて大量供給して、欧米諸国における工業生産の基盤を、根本的に破壊しf続けていること。
その結果。欧米諸国は、金融や情報通信技術分野への転身を余儀なくされていること。

そうした暗黒物質としての保存性物質。
そうした保存性物質の塊は、中心部に行くほど、引力が大きくなり

高圧化すること。
そうした引力が大きくなり高圧化した場合。その塊を構成する各粒子の運動が、その塊の中心部に近づくほど、強力に抑圧されて、振動と熱へと転化すること。
その結果。そうした保存性物質の塊は、中心部に行くほど、高熱化すること。
その結果。そうした高熱化した保存性物質の塊の中心部は、その本質が暗黒性であるにも関わらず、発光するようになること。
そうした高熱化が、保存性物質の塊の表面部まで及んだ場合。そうした高熱化した保存性物質の塊の全体が、光明化すること。
例。巨大恒星が、周囲に対して、とても明るく光ること。
それは、暗黒物質の光明化として捉えられること。

物質世界における資本主義の発生の根源を、一通り突き止めたこと。
資本主義の精神。
それは、保存性物質における、周囲の他の個体を、彼ら自身の元へと引き寄せようとする、引力の行使によってもたらされること。
それは、保存性物質における、周囲の他の物質を、彼ら自身の元へと集積しようとする、引力の行使によってもたらされること。
それは、保存性物質において、以下のように実現されること。
彼ら自身が既に集積した物質を元手にして、そうした物質の集積質量を更にどんどん倍増させて行こうとすること。
彼ら自身による、周囲の他物質に対する引力の行使量の加速度的な増大。

生物は、保存性物質の一種であること。それゆえ。生物一般は、資本主義の精神に基づいて行動すること。
資本主義の精神。
それは、自己増殖の加速化を追求する鵜様々な生物において、普遍的な精神であること。例。栄養富裕な湖水における、プランクトンの大量発生。
それは、西欧近代の人間社会に特有のものでは、全然無いこと。

そうした保存性物質における、内的に蓄積された質量が大きくなるほど、その物質のその後の資本増加の度合いは、どんどん加速化されること。
その結果。そうした保存性物質は、彼自身の資本増強において、ど

んどん貪欲になって行くこと。その度合いの増加は、彼自身が超富裕状態になっても、止まるところを知らないこと。
そうした保存性物質が蓄積した質量の合計が、一定以上に巨大化した場合。そうした彼自身の資本増強のプロセスを止められる他の存在が、誰も居なくなること。
その結果。そうした超富裕化した超巨大保存性物質は、巨大な自己爆発を引き起こして、自己消滅すること。
例。超巨大恒星が、最終的に、超新星爆発を引き起こして自己解体すること。

そうした内容の、生物社会の分析への適用。
そうした生物における、内的に蓄積された資産が大きくなるほど、その生物のその後の資本増加の度合いは、どんどん加速化されること。
その結果。そうした生物は、彼自身の資本増強において、どんどん貪欲になって行くこと。その度合いの増加は、彼自身が超富裕状態になっても、止まるところを知らないこと。
そうした超富裕化した生物が、周囲の生物から、資産をどんどん収奪し続ける結果。そうした超富裕化した生物は、更に超富裕化すること。その周囲の生物たちは、残らず、加速度的に貧困化すること。
その結果。彼らの間において、取り返しの付かない大きな経済格差が生じること。
そうした超富裕の生物が蓄積した資産の合計が、一定以上に巨大化した場合。そうした彼自身の資本増強のプロセスを止められる他の存在が、彼自身も含めて、誰も居なくなること。
その結果。そうした超富裕化した生物は、資産面における巨大な自己爆発を引き起こして、自己保有資産量において、自己消滅すること。
即ち。そうした超富裕化した生物は、最終的に、資産面での超新星爆発を起こして、自滅すること。そのことが、将来的に予想されること。
そうした超富裕化した生物は、彼自身では、その発生を一切阻止出来ないこと。
その最後の時まで、超富裕層の生物と、それ以外の生物との間における経済格差の増大が、止めどなく、極限まで続くこと。

例。そうした生物の一種としての人間。現代世界における、超富裕層の人々。
彼らは、最終的に、資産面での超新星爆発を起こして、自滅するこ

と。そうした事象の発生が、近い将来において、確実に予想されること。
彼ら自身が、そうした事象発生まで、有効な手立てを打つことが、何も出来ないこと。
残りの超貧乏人たちも、そうした事象発生まで、有効な手立てを打つことが、何も出来ないこと。
その最後の時まで、超富裕層の人々と、それ以外の人々との間における経済格差の増大が、止めどなく、極限まで続くであろうこと。

例。そうした生物の一種としての人間。現代世界における、資本主義を批判しつつ、社会主義や共産主義を主導する人々。例。中国や北朝鮮の共産党の指導部。
彼らは、金銭における資本蓄積行為を批判し、そうした方面での経済格差の解消に躍起となること。
しかし。彼ら自身は、社会的縁故の形成と維持発展に注力することによって、社会関係における資本蓄積とそうした資本の次世代への伝達を平然と行っていること。
彼らは、そのことで、非明示的な形で、社会的に富裕化し特権階級化すること。
彼らは、そのことで、別タイプの資本主義の体現者へと、図らずも、なってしまっていること。

物質世界における権威主義の発生の根源を、一通り突き止めたこと。
権威主義の精神。
それは、保存性物質が持つ、以下のような性質に由来すること。
彼ら自身よりも強く大きい力を持つ他の物質からの働きかけを、盲目的に丸呑みすること。例。湖沼の水面に重い石を投げ込むと、湖水の水面は、その重い石を盲目的に丸呑みして、重い石は水面下に沈んでいくこと。
彼ら自身よりも強く大きい力を持つ他の物質からの働きかけに対して、盲従し隷従すること。
彼ら自身よりも弱く小さい力を持つ他の物質からの働きかけを、完全無視して、一切動じないこと。そうした軽く小さい力を持つ物質に対して、対内的な受け入れを全面的に拒絶し、締め出しを続けることで、対内的な影響力をゼロにすること。例。湖沼の水面に軽い乾いた落ち葉を投げ込むと、湖水の水面は、その落ち葉を水面上に留めたまま、締め出し続けること。

彼ら自身よりも弱く小さい力を持つ他の物質からの働きかけを、常時完全に無効化すること。
そうすることで、彼ら自身よりも弱く小さい力を持つ他の物質を、専制支配すること。
液体。水滴。湖水や海水。生物一般。女性。女性優位社会。定住生活様式の社会。それらは、皆、保存性物質であり、それゆえ権威主義の精神で動くこと。

物質世界における社会的上下関係の発生の根源を、一通り突き止めたこと。
それは、所有の有無であること。
行使可能な引力や斥力の、大きさや持続性や俊敏性の高さ。
物質個体間の引力や斥力の行使における、有能性や既得権益。
物質個体間の引力や斥力の行使の元手となる、資源や資産や設備。
それらの所有者や占有者が、相互の競争や闘争に勝利して、社会的上位者となること。
それらの非所有者や借用者が、相互の競争や闘争に敗北して、社会的下位者となること。

物質世界における社会的上下関係の発生の根源。
それは、所有物におけるコストパフォーマンスの良し悪しであること。
コストパフォーマンスの良い製品の所有者が、相互の競争や闘争に勝利して、社会的上位者となること。
コストパフォーマンスの悪い製品の所有者が、相互の競争や闘争に敗北して、社会的下位者となること。

社会的上位者は、社会的下位者を、常時、虐待し、搾取し、養分化すること。
社会的上位者は、そのことで、社会的地位を更に上昇させること。
社会的下位者は、そのことで、社会的地位を更に下降させること。

社会的上位者は、社会的下位者が下剋上しないように、色々対策をすること。
社会的下位者の勢力を削ぐこと。社会的下位者の所有物を、租税徴収の形で、定期的に簒奪し続けること。

社会的下位者が団結して反乱を起こさないように、親衛隊の警察や

軍隊や諜報機関を組織すること。
社会的下位者に対して、恣意的な処罰や軍事的威圧や監視や思想統制を、定期的に行うこと。
そのことで、社会的下位者に、社会的上位者に対する恐怖心を植え付けること。そのことで、社会的下位者から、社会的上位者に対する反抗心を、一通り除去すること。
あるいは。
社会的下位者を懐柔すること。
社会的下位者に対して、少量の慈恵的な施しを、定期的に行うこと。そのことで、社会的下位者から、社会的上位者に対する反抗心を、一通り除去すること。

社会的下位者は、社会的地位が上昇するように、色々対策をすること。
社会的上位者に取り入って、絶えずご機嫌取りをしながら、その社会的上位者からの地位の禅譲をひたすら期待すること。
既存の社会的上位者を凌ぐ新たな所有物を、何とかして手に入れること。そうした新たな所有物を元手に、従来の社会的上位者を打ち負かして、代わりに、彼自身が社会的上位者へと成り替わること。

新たに社会的上位者に成り上がった元の社会的下位者は、結局は、従来の社会的上位者と、本質的に同一の行為を行うこと。それは、以下の内容である。
いったん獲得した社会的上位の地位を、保全し死守し続けること。
あるいは。更なる社会的上位の地位の獲得に向けて、ひたすらもがき続けること。

移動生活様式の社会。斥力やエネルギー性を重視する社会。男性優位社会。例。欧米諸国。中東諸国。
そうした社会における、彼ら自身の生物性を嫌悪する思想の、蔓延。
そうした社会における、彼ら自身の生殖行為を嫌悪する思想の、蔓延。例。異性に対して性的誘引を行う行為。性行為。それらの行為を嫌悪する思想の、蔓延。
例。欧米社会学における、生物学的アプローチの徹底的な嫌悪と回避。社会生物学に対する攻撃や無視の、常態化。
そうした状況発生の原因を、一通り明示したこと。
それは、彼らの生活における、家畜の屠殺や肉食の発生の常態化と、そうした状況発生の回避不能性に基づくこと。

家畜と人間。彼らは、相互に生物としての同質性が高い存在であること。
生物は、一般的に、殺生を行うことについて、大きな精神的抵抗を有すること。
生物は、一般的に、自分と同質の仲間を殺害することについて、大きな精神的抵抗を有すること。
そうした殺生行為を短期間に繰り返すことで、彼ら自身の精神において、取り返しの付かない大きなダメージが生じて、彼らの気が狂うこと。
そうした危機的状況発生回避のために、彼ら自身の他の生物との同質性や近親性を、日常生活において、恒常的に徹底的に封印し続ける必要があること。
人間と、それ以外の生物とを、存在として徹底的に区別する思想の、蔓延。
人間が、それ以外の生物に対して、絶対的に上位者であることを、徹底的に主張する思想の、蔓延。
例。ユダヤ教やキリスト教やイスラム教といった、宗教思想。
人間が、それ以外の生物に対して、絶対的な影響力を行使していることを、徹底的に主張する思想の、蔓延。
人間が地球環境を変動させる力の大きさを、徹底的に誇示する思想の、蔓延。
人類による生態系破壊や環境破壊や気候変動の凄まじさを、徹底的に強調する思想の、蔓延。
例。現代の欧米諸国の超富裕層における、生物多様性維持活動や地球の環境保護運動や気候変動対策活動の、高揚。

移動生活様式の社会。斥力やエネルギー性を重視する社会。男性優位社会。例。欧米諸国。中東諸国。
そうした社会における、引力やブレーキや保存力の行使それ自体を嫌悪する思想の、蔓延。
そうした社会における、代わりに、斥力やエネルギー性の行使それ自体を賛美し崇拝する思想の、蔓延。
例。革新性や新規性を、過度に重視する思想。変化や変動や創造的破壊を、過度に重視する思想。仕事や稼ぎにおける有能性を、過度に重視する思想。

移動生活様式の社会。斥力やエネルギー性を重視する社会。男性優位社会。例。欧米諸国。中東諸国。
そうした社会における、引力やブレーキや保存力の存在それ自体を

隠蔽する思想の、蔓延。
例。
欧米主導の近代物理学や現代物理学の学界において。
物質における保存性を積極的に研究することが、回避されたままであること。
保存力という概念を、保存性を実現する力には決して割り当てようとせず、代わりに、位置エネルギーの保存の概念に割り当てて、平然としていること。
保存性物質としての液体の研究が、何時まで経っても回避されたままであること。
ブレーキを踏む行為における摩擦力についての積極的研究が、回避されたままであること。

移動生活様式の社会。斥力やエネルギー性を重視する社会。男性優位社会。例。欧米諸国。中東諸国。
そうした社会における、引力やブレーキや保存力の行使を得意とする物質や生物を、嫌悪し蔑視し差別する思想の、蔓延。
例。
女性に対する社会的蔑視。女性性そのものに対する嫌悪。
女性における女性性を剥奪して、代わりに男性性を女性に対して植え付けようとする社会運動。
それらの社会的な蔓延。
その具体例。
欧米社会において。
女性の社会的劣位性についての主張のみを許容し、女性の社会的優位性についての主張を全面的に拒絶するフェミニズム。
女性が男性並みに稼ぐことの実現をひたすら推進する、男女共同参画の思想。
それらの社会的な蔓延。

移動生活様式の社会。斥力やエネルギー性を重視する社会。男性優位社会。例。欧米諸国。中東諸国。
そうした社会における、定住性や不動性の行使を得意とする物質や生物を、嫌悪し侮蔑し差別する思想の、蔓延。
例。
イスラム教世界において。
移動を苦手とする家畜としての豚に対する嫌悪。それらの社会的な蔓延。

移動生活様式の社会。斥力やエネルギー性を重視する社会。男性優

位社会。例。欧米諸国。中東諸国。
そうした社会における、引力やブレーキや保存力の行使を得意とする社会を、嫌悪し、攻撃対象とする思想の、蔓延。
そうした社会における、定住性や不動性の行使を得意とする社会を、嫌悪し、攻撃対象とする思想の、蔓延。
そうした社会における、女性優位社会を、嫌悪し、攻撃対象とする思想の、蔓延。
例。
欧米諸国における、ロシアや中国に対する、強力な嫌悪感の表明と軍事的攻撃の、常態化。
第二次世界大戦後の東西冷戦の長期化。
直近における、NATOを後ろ盾とするウクライナと、ロシアとの、軍事的衝突の長期化。

物質個体の動作のコンピュータシミュレーション技術において。
各個体に、一つずつ独立した、生きた動作プロセスを割り当てること。
そうした、生きた相互独立の動作プロセス同士を、自発的に相互作用させること。
そうした技術における最もプリミティブな基盤部分の確立に、とりあえず成功したこと。

例。
気体分子や液体分子のコンピュータシミュレーションへと応用すること。
各分子粒子に、一つずつ独立した、生きた動作プロセスを割り当てること。
そうした、生きた相互独立の完全ローカルな動作プロセス同士を、自発的に相互作用させること。
そのことで、全体の場の制御を外部から絶えず行う必要性を、大元から除去すること。
そうした機能における最もプリミティブな基盤部分の確立に、とりあえず成功したこと。

例。
生きた形で動作する、自由設計と動作確認が可能な、生物的神経回路網の作成。
そうした生物的神経回路網に、学習機能を付与すること。

その神経回路網は、何も外的教示が無くても、自主的にトライアンドエラーと新規回路の自主的形成を引き起こすこと。
その神経回路網は、何も外的教示が無くても、自主的に回路の強化や弱化を、引き起こすこと。
そうした機能における最もプリミティブな基盤部分の確立に、とりあえず成功したこと。

私の理論における新規性。その２。2025年6月中旬。

私の理論の内容。
それは、欧米エスタブリッシュメント層の人々が主導して考え出した諸理論の内容の、完全な逆張りであること。

欧米エスタブリッシュメント層の人々は、以下のように考えていること。
物理学は、専ら、動く物体メインの理論内容であること。
物理学は、専ら、エネルギー性メインの理論内容であること。

私は、以下のように考えていること。
物理学は、むしろ、不動か微動の物体メインの理論内容であること。
物理学は、むしろ、保存性メインの理論内容であること。

欧米エスタブリッシュメント層の人々は、以下のように考えていること。
人間を、他の生物とは峻別すること。
そうして、人間を、他の生物の一番上位に位置付けること。

私は、以下のように考えていること。
生物一般の概念を、一番上位に位置付けていること。
人間を、生物一般へと包含して考えること。

人間は、所詮は、生物一般の概念のサブクラスに過ぎない。

欧米エスタブリッシュメント層の人々は、以下のように考えていること。
全世界において普遍的に、男性が優位で、女性が劣位であること。
本来、男女に性差は無い。男女の性差は無くすべきだ。

私は、以下のように考えていること。
男女の性差は、峻別すべきだ。
男女の性差は、永遠に無くせない。
生物一般において、保存性部門を担う女性が優位で、エネルギー性を担う男性が劣位であること。
生物一般のサブクラスの人間においても、本来は、女性が優位で、男性が劣位であること。
男性優位は、欧米諸国の人々のような移動生活様式の社会においてのみ成立する、特殊現象であること。

欧米エスタブリッシュメント層の人々は、私の理論に対して、勝利することが出来なければならないこと。
私は、その成否を、ただ静かに見守ることしか出来ないこと。

追加の要約。2025年1月下旬。エネルギー性。保存性。それらの性質についての、更に新たなまとめの表。三訂版。

エネルギー性。保存性。それらの性質についての、更に新たなまとめの表。三訂版。

エネルギー性。	保存性。
高速であること。	低速であること。速度ゼロであること。
加速すること。アクセルを踏むこと。	減速すること。停止すること。ブレーキを踏むこと。
	速度を加減速せずに、ひたすら慣性の法則に従って、動き続けること。回転すること。自転すること。
移動すること。変動すること。動作すること。自発的であること。進んで動くこと。	不動であること。微動すること。定住すること。停止すること。なるべく動こうとしないこと。嫌々ながら動くこと。
自力に積極的に頼ること。保存性物質に対して、力作業を朝貢すること。	自力はなるべく行使せず、他力としてのエネルギー性物質に頼ること。エネルギー性物質に対する誘引と待ち受けとを、同時に行うこと。
流動すること。	滞留すること。停留すること。停滞すること。
不安定であること。揺らぎ。中断すること。断続すること。	安定すること。恒常的であること。持続すること。連続すること。永続すること。
不確実であること。不確定であること。	確実であること。確定すること。
飛翔すること。浮遊すること。浮動すること。遊牧すること。	定着すること。根を下ろすこと。
破壊すること。革命すること。	保全すること。現状を維持すること。
攻撃すること。侵入すること。暴露すること。脱出すること。	防御すること。締め出すこと。受容すること。丸呑みすること。包含すること。包含されること。受け止めること。無効化すること。消化吸収すること。
奪取すること。	上から目線で、相手に恵んであげること。
危険を冒すこと。挑戦すること。	安全確保を最優先して、危険を冒

さないこと。退嬰的であること。

彼自身より強そうな他者に対して、正面から勝負を挑むこと。

彼女自身より強そうな他者に対して、勝負を回避して、取り敢えず隷従すること。

彼自身より弱そうな他者に対して、正面から勝負を挑んで、一方的に叩き潰すこと。

彼女自身より弱そうな他者に対して、最初から勝負もせずに、彼女自身へと一方的に隷従させること。

捨て身で動くこと。

自己保身性で動くこと。

革新すること。

守旧すること。復旧すること。保守すること。

鋭敏であること。

鈍重であること。

極端であること。過激であること。異常であること。偏っていること。辺境であること。周辺であること。少数であること。孤立していること。

中間であること。中道であること。中庸であること。通常であること。普通であること。穏健であること。偏りが無いこと。満遍無いこと。中心であること。世界の中心に位置しようとすること。多数であること。派閥であること。

先進的であること。先端的であること。

後進的であること。遅滞的であること。

鋭角的であること。尖っていること。突き刺すこと。穿孔すること。傷付けること。突破すること。

円満であること。穴埋めすること。傷を消すこと。治癒すること。消毒すること。

角を立てること。不穏にすること。

角を立てないこと。穏便に済ませること。

有事とすること。事件を引き起こすこと。

無事とすること。最初から無かったことにすること。

決断すること。決定を先延ばししないこと。即断即決すること。

優柔不断であること。決定を先延ばしすること。延々と引き摺ること。

反抗すること。批判すること。不忠であること。反対すること。反転すること。逆転すること。変更すること。風を吹かせること。何かをすること。

従順であること。順応すること。忠誠であること。隷従すること。賛成すること。そのままにすること。惰性で動くこと。無風であること。何もしないこと。様子見をすること。

競争性を明示すること。闘争性を明示すること。

表面的には、互いに、競争も闘争も一切しない、一体感に包まれた

仲良しであるかのように、対外的に見せかけること。内部において、相互に、中心位置の獲得を巡って、陰湿で苛烈な内部抗争を、ひたすら繰り広げること。

敵であること。ライバルであること。

仲間であること。同士であること。

自立すること。自助努力すること。頼らないこと。救いや助けを求めないこと。自己防衛すること。自己責任を強調すること。

助け合うこと。頼ること。救いや助けを求めること。依存すること。護送船団方式を採用すること。責任転嫁すること。

変化すること。

現状維持すること。慣性で動くこと。安定すること。一定であること。不変であること。

斬新であること。新機軸であること。創造すること。非常識であること。革命すること。改革すること。

伝統的であること。前例踏襲すること。古風であること。常識的であること。復古すること。

パラダイムを転換すること。

小改良すること。改善すること。

未踏であること。探検すること。探査すること。

既存であること。既知であること。

加速すること。

減速すること。制止すること。

急速であること。

緩慢であること。

多動すること。

静止すること。

積極的であること。チャレンジ精神で動くこと。冒険すること。リスクを取ること。

消極的であること。退嬰的であること。事無かれ主義で動くこと。冒険を回避すること。リスクを回避すること。

表面が無いこと。表裏が無いこと。表面張力が無いこと。内部と外部との区別が無いこと。

表面が有ること。表裏が有ること。表と裏が違うこと。表面張力が強いこと。内部と外部との区別が有ること。所有している表面を利用して、対外的に見栄を張ること。そうした表面によって覆われた内部事情を、恥辱や秘密として扱い、対外的に隠蔽すること。

外部に存在すること。外部に対して、代表者として直接露出すること。

内部に存在すること。内部の奥の部分において、大切に守られるべき本体部分として鎮座し続けること。

開放すること。通風すること。換気すること。入れ替えが有ること。	密閉すること。閉鎖すること。排他的であること。密封すること。入れ替えが無いこと。
公開すること。開放すること。移住を容認すること。	非公開とすること。隠蔽すること。機密とすること。門を閉ざすこと。入門への事前審査を実施すること。締め出すこと。追放すること。
他者は、その物質に対して、いつでも自由に出入り出来ること。	他者は、その物質に対して、中々、その内部に入れて貰えないこと。他者は、一旦その物質の内部に入ると、二度と自力ではその物質の外部へと出てこられなくなること。
明示すること。明瞭であること。	非明示であること。曖昧であること。内部における暗黙の了解に従って動くこと。
解放すること。	牢獄であること。閉じ込めること。外出出来なくすること。
自律すること。別々になること。別々にすること。離れること。傍観すること。俯瞰すること。	他律的であること。一緒になること。一緒にすること。連帯すること。巻き込むこと。
自由であること。	統制すること。検閲すること。管理すること。相互牽制すること。相互抑圧すること。相互に足を引っ張り合うこと。嫉妬深いこと。
可能とすること。容認すること。有効化すること。	不可能とすること。禁止すること。許可が必要であること。
保存性の能力を、抑圧し不能化すること。	エネルギー性の能力を、抑圧し不能化すること。
打開すること。打破すること。	閉塞すること。体制を保持すること。
いい加減であること。粗雑であること。粗暴であること。低品質であること。最終完成度が低いこと。	厳格であること。緻密であること。高品質であること。最終完成度が高いこと。
暴力支配すること。	専制支配すること。
軽量であること。	重量があること。
浮上すること。昇天すること。天	沈降すること。沈殿すること。大

空に位置すること。	地に位置すること。
矮小であること。	巨大であること。
消耗すること。	補給すること。
消費すること。不足すること。	生産すること。多産すること。充足すること。満足すること。貯蓄すること。
切り捨てを行うこと。	蓄積すること。貯蔵すること。
淘汰すること。	増殖すること。
貧困であること。欠乏していること。	富裕であること。豊潤であること。
粗末であること。	豪華であること。
取り替え可能な非貴重な存在であること。	取り替え不能な、大切で貴重な存在であること。
非所有であること。無所有であること。借用すること。寄宿すること。所有者や宿主としての保存性物質に対して、利用料金を一方的に支払うこと。	所有すること。占有すること。貸与すること。宿主となること。借用者や寄宿者としてのエネルギー性物質から、利用料金を一方的に徴収すること。
企業者であること。稼ぐこと。投資者としての保存性物質に対して、彼自身が得た利益を一方的に差し出すこと。	投資者であること。企業者としてのエネルギー性物質から、彼らの稼ぎの上前を撥ねること。企業性の物質から、投資によって得られた利益を一方的に回収すること。
道具であること。	道具の使い手であること。道具をメンテナンスすること。道具の世話をすること。
実際の作業者であること。作業の納品者であること。	エネルギー性物質に対しての、作業の発注者であること。エネルギー性物質による作業結果の、検収者であること。
光明であること。可視的であること。光を灯すこと。光を当てること。	暗黒であること。不可視であること。盲目であること。闇のままとすること。
事態を打開すること。現状を打破すること。	事態を放置して様子見すること。現状を維持すること。
明瞭であること。透明であること。	不明瞭であること。不透明であること。
解明すること。	不明とすること。そのまま幕引きすること。遮蔽すること。
陽性であること。プラスであるこ	陰性であること。マイナスである

と。

こと。

肯定すること。楽観すること。陽気であること。

否定すること。悲観すること。不安であること。陰気であること。

極端であること。偏っていること。

中庸であること。

酷寒であること。冷涼であること。酷暑であること。高熱であること。

温室であること。生温かいこと。中熱であること。

不快であること。

快適であること。

苦しいこと。難しいこと。生き辛いこと。

楽であること。生きやすいこと。

超低温であること。超高温であること。

適度に涼しく温かい温度であること。

超低湿であること。乾燥していること。

湿潤であること。濡れていること。

切断すること。破断すること。傷付けること。

接着すること。癒着すること。

断裂すること。分断すること。分離すること。分散すること。沸騰すること。蒸発すること。断片化すること。絆が弱いこと。

接合すること。縫い合わせること。統合すること。融合すること。融解すること。繋ぎ合わせること。絆が強いこと。粘着すること。

離散すること。デジタルであること。

連続すること。アナログであること。一体であること。

非同調であること。非同期であること。相違すること。異質化すること。

同調すること。同期すること。同一化すること。同質化すること。

不調和であること。不和であること。合わせないこと。仲良くしないこと。

調和すること。和合すること。仲良くすること。

分けること。差を付けること。分析すること。

分けないこと。差を付けないこと。分析を拒絶すること。一括すること。一体化すること。丸ごとで扱うこと。

よそよそしいこと。

親密であること。

非社会的であること。関係を持たないこと。自閉的であること。音信不通であること。

社会的であること。関係を持ちたがること。通信したがること。

非結合であること。相互作用しないこと。引力が無いこと。引力を

結合すること。相互作用したがること。相互作用が頻繁であるこ

行使しないこと。疎遠であること。孤独であること。	と。引力が有ること。引力が強いこと。協調すること。連帯すること。
結合を切断すること。結合を破壊すること。斥力を行使すること。	結合を維持すること。結合を強化すること。引力を行使すること。
相互接近を妨げること。仲違いすること。不仲となること。	相互接近を促すこと。仲良くすること。仲間となること。
個人主義で動くこと。相互独立すること。	集団主義で動くこと。相互束縛すること。
独自であること。個性が強いこと。	没個性であること。周囲の色に染まること。
低密度であること。	高密度であること。
空きが有ること。隙が有ること。隙間を空けること。余裕が有ること。	空きが無いこと。隙間が無いこと。緻密であること。過密であること。隙間を埋めること。詰め込むこと。余裕が無いこと。
中心部が低圧であること。中心部が低熱であること。中心部の発光が暗いこと。中心部が低エネルギーであること。	中心部が高圧であること。中心部が高熱であること。中心部の発光が明るいこと。中心部が高エネルギーであること。
周辺部が高圧であること。周辺部が高熱であること。周辺部の発光が明るいこと。周辺部が高エネルギーであること。	周辺部が低圧であること。周辺部が低熱であること。周辺部の発光が暗いこと。周辺部が低エネルギーであること。
仮想的であること。見掛けだけであること。存在しないこと。真空であること。	実体的であること。実在的であること。具体的であること。存在すること。空気があること。
専門的であること。契約すること。	総括すること。総合すること。何でも引き受けること。
切り分けること。	一括して丸呑みすること。
傷付けること。執刀すること。	治癒すること。原状回復すること。元気にすること。傷跡を元通りに戻すこと。
消すこと。殺すこと。捨てること。終了すること。	再生すること。不滅となること。再開すること。新生すること。転生すること。永続すること。
減らすこと。	増やすこと。自己複製すること。自己増殖すること。
保存性物質の内部へと飛び込んで、そのまま呑まれて居なくなる	他物質を、丸ごと呑み込んで、そのまま消化吸収した後に、残余の

こと。

消費すること。使い切ること。喜捨の精神で動くこと。

需要すること。消耗すること。

非所有であること。非所有物を保存性物質から借りること。保存性物質へと、賃貸料を支出することで、自己資産を減らし喪失すること。そうした喪失分を補填するために、働き稼ぎ続けるしか無いこと。

緩いこと。適当であること。いい加減であること。ルールを守らないこと。違反すること。

粗雑であること。ガサツであること。出力の品質が低いこと。出力の完成度が低いこと。

個別であること。単独であること。

粉粒であること。バラバラであること。まとまりが無いこと。

多様であること。不調和であること。

相互に異質化すること。

拡散すること。多極化すること。

自己を普遍化すること。彼自身の自己複製物を、出来るだけ広範囲へと満遍無く撒き散らすこと。

非限定であること。

大局的であること。グローバルであること。

低密度であること。空疎であること。真空であること。

独立していること。

剛直であること。

硬いこと。固いこと。ハードであ

不要物を対外排出すること。

貯蓄すること。貯蔵すること。資本を増強すること。資本主義の精神で動くこと。

生産すること。産出すること。供給すること。補給すること。

所有すること。所有物をエネルギー性物質へと貸すこと。エネルギー性物質から、賃貸料の収入を、不労所得として獲得すること。そのことで、何もせずに、自己資産を増強出来ること。

緊縛すること。きちんとすること。ルールを守ること。遵守すること。

緊密で綿密であること。繊細で微細であること。出力の品質が高いこと。出力の完成度が高いこと。

集団であること。全体であること。一体融合化すること。団結すること。

団体であること。まとまること。群れること。つるむこと。

画一的であること。調和すること。

相互に同質化すること。

集中すること。一極化すること。

自己を中心化すること。その物質内部における最も中心の位置を、内部抗争の末に奪取して、そのまま終末まで居座り続けること。

限定すること。

局所的であること。

高密度であること。凝縮されていること。実体があること。

相互依存していること。

柔軟であること。

ソフトであること。しなうこと。

ること。	クッションであること。
直線的であること。融通が利かないこと。	曲線的であること。融通が利くこと。
跳ね返すこと。打ち返すこと。反転すること。	受け止めること。抱き止めること。表向き順応しつつ、実際には無効化すること。
辛酸であること。	円満であること。
切断用のカッターやナイフであること。穿孔用のドリルであること。破砕用のハンマーであること。	円であること。輪や環であること。球であること。丸いこと。
バラバラであること。サラサラであること。粉粒であること。	ひとまとまりであること。ひとかたまりであること。ベトベトしていること。
辛口であること。酸っぱいこと。	甘口であること。
不満であること。不足であること。	満足であること。充足していること。
淡泊であること。	濃厚であること。
痩せていること。	肥えていること。太っていること。
貧しいこと。	富裕であること。
清潔であること。澄明であること。	汚濁していること。腐敗していること。不透明であること。
エネルギー性のサブクラス。	保存性のサブクラス。
気体。	液体。
粉状の固体。	金属固体。
ウィルス。	生物一般。生細胞。
精子。	卵子。
男性。	女性。
エネルギー性の根源。	保存性の根源。
斥力。	引力。
個体間の引力が無いこと。個体間の引力が弱いこと。	個体間の引力が有ること。個体間の引力が強いこと。
個体間の斥力が有ること。個体間の斥力が強いこと。	個体間の斥力が無いこと。個体間の斥力が弱いこと。
エネルギー性の指標。	保存性の指標。
質量が軽いこと。	質量が重いこと。
温度が高いこと。	表面温度が低いこと。中核温度が高いこと。
湿度が低いこと。	湿度が高いこと。

密度が低いこと。　　　　　　　　　　密度が高いこと。

初期内容。2022年12月初出。複数物質の操作。物質間の社会的相互作用。それらの内容の一覧。物質における、エネルギー性と保存性との、区別の必要性。

物質の操作。物体の操作。
単体の物質自身による、自己操作。例。粒子。分子。電子。原子。素子。素粒子。量子。
複数の物質同士による、相互の操作。
複数の物質同士による、相互作用。
それらは、以下の内容を、もたらす。
複数の物質同士における、社会性。
物質社会の、生成や形成や構築。

物質の操作。
単一物質の操作。複数物質の操作。
複数の物質の間における、社会的相互作用。
それらは、以下の内容である。

--
有ること。存在すること。
無いこと。存在しないこと。
--
可能なこと。出来ること。

不可能なこと。出来ないこと。
--
止めること。留めること。停止。制止。停留。
動かすこと。移動。運動。行動。
動かないこと。不動。静止。
--
作用。
反作用。
--
働きかけること。
受け止めること。
反応すること。フィードバックすること。
--
働くこと。
休むこと。怠けること。
--
増やすこと。プラスにすること。陽性にすること。加点すること。
減らすこと。マイナスにすること。陰性にすること。減点すること。
ゼロにすること。
--
慣性。不変性。保存。現状維持。
変化。変質。変性。
--
不動。
変動。
--
平静。平和。凪。
混乱。波乱。
-
順調。
乱調。
-
安定。
不安定。
-
安全。
危険。脅威。
-
無害。無毒。

有害。有毒。
-
無風。
弱風。
強風。
暴風。
-
沈着。
爆発。暴発。
-
丁寧。
乱暴。粗暴。
--
制御可能。沈静。
制御不能。暴走。暴発。
--
責任が有ること。責任を負うこと。責任を取ること。
無責任。責任回避。責任転嫁。
--
品質保持。
劣化。
--
自動。
手動。
--
慢性。
急性。
--
一定性。恒常性。状態維持。
--
変更。
無変更。
--
増加。
減少。
-
増大。
縮小。
-
強化。

弱化。
--
遺伝。先天性。
文化。後天性。
--
前世。
現在。昨今。
後世。
--
祖先。前世からの繰越。
後世への継承。世代間継承。後継。
-
継承の断絶。
--
加工。工作。改変。
素性。無加工。原型保持。
-
覆面。演技。見せ掛け。酔い。
素面。
-
作話。物語。フィクション。
事実。真実。
--
操作。制御。
-
指揮。指示。指令。命令。
遵守。
--
法則。規則。法規。
無規則。ランダム。
--
保有。保守。保持。
放棄。遺棄。破棄。
--
移動。
不動。
--
放浪。浮遊。根無し。
所属。定着。根付き。
--

--
単体。
組成。合成。対合。化合。合体。
解体。
--
自己。
他者。周囲。環境。
--
主体。
客体。
--
主観。
客観。
--
内部。
外部。
--
部分。
全体。全部。
--
孤立。
関与。
-
共存。
--
独立。
相互依存。
一方的な依存。
--
支配。
従属。
独立。
--
自立。
依存。
--
分割。分化。分業。システム。
不分。複製。複写。
--

所有。
非所有。
--
急所。脆弱性。
急所で無い場所。
--
強い点。
弱い点。
中立点。
--
武装。
非武装。
--
＝＝＝＝＝
当事者。利害関係者。
-
敵。ライバル。脅威。
味方。仲間。協力者。友達。
＝＝＝
傍観者。第三者。中立者。
-
仲裁者。裁判者。
＝＝＝＝＝
--
公共。
プライベート。
--
共有。
非共有。占有。専有。私有。
--
比較。
唯一性。
--
合成。統合。
分解。分析。還元。
--
有機。
無機。
--
結合。融合。

分離。引き離し。
--

--
入力。
中間処理。
出力。
--
上昇。
停留。
下降。
--
上澄み。
沈殿。
--
呑み込み。丸呑み。
泡。脱出。引き籠もり。
--
包含。
突入。没入。
-
親。
子供。
--
置換。代替。
-
組み換え。
-
並べ替え。順列。
-
組み合わせ。
-
変形。整形。幾何。トポロジー。
-
微分。
積分。
--
時間。
空間。
--

正負。
-
プラス。陽性。
マイナス。陰性。
ゼロ。無性。
--
増加。プラスの変動。
減少。マイナスの変動。
--
拡大。拡張。
縮小。縮退。
--
集合。
離散。拡散。
--
保管。保全。
劣化。変性。病変。
--
集中保管。
散逸。散佚。
--
混合。
純粋。分離。隔離。
--
混交。交雑。雑種。
純血。
--
対立。
併存。共存。
--
自律。
他律。
--
区別。
一体運用。
-
非同調。
同調。
-
非調和。

調和。
-
対立。抗争。
和合。和解。
-
決別。離別。
融合。結合。婚姻。
--
新品。未使用。
中古。使用済み。
--
蓄積。
流動。
--
保存。
廃棄。破棄。
--
発明。発見。
前例踏襲。
--
進出。
滞留。
--
拡張。
圧縮。
--
未知。新規。
既知。既存。前例。
--
元の動作。元の行動。
反応。有関心。
無反応。無視。無関心。
--
感心。感動。
不感心。無感動。
--
選好。
嫌悪。
--
健康。

病気。
--

--
単層。
重層。複層。
--
単相。
複相。
--
可変。
固定。
--
柔軟性。展性。延性。
硬性。剛性。
--
析出。
溶解。
--
一定。
不定。
--
傾性。
ランダム性。
--
統計。分布。
--
正の相関性。
負の相関性。
無相関性。
--
凹凸。
--
複製。複写。
--
削除。抹消。
--
獲得。取得。
喪失。付与。譲渡。
--

奪取。強奪。
死守。守り抜くこと。
--
攻撃。襲撃。
防衛。防御。
反撃。
--
総力。
片手間。
--
誕生。
生存維持。活かすこと。生かすこと。
死亡。殺戮。抹消。無効化。
--
意識が有ること。反応が有ること。
麻痺。意識は有るが、反応出来ないこと。
意識不明。無反応。睡眠。昏睡。
--
軽症。
重症。
--
原型保持。
歪曲。変形。
粉砕。破壊。破断。
--
構築。
崩壊。
--
保有。所持。
喪失。
-
交換。
-
搾取。
朝貢。
-
貸すこと。
借りること。
-
与えること。払い下げ。恩寵。慈恵。慈悲。福祉。

乞うこと。貰うこと。
--
収入。
支出。
--
利潤。利益。
損失。
--
対価。
-
支払い。譲渡。清算。
受け取り。
--
貸出。
借受。
--
開通。流通。疎通。
不通。閉塞。
--
発生。
消失。解消。
--
保存。
-
紛失。消失。
崩壊。壊滅。
--
流入。
流出。
-
輸入。
輸出。
--
豊潤。
欠乏。
-
富裕。
貧困。
--

--
構築。
解体。
--
若年。
壮年。
老年。
--
歴史。
-
発生。誕生。
成長。隆起。
成熟。熟練。
隆盛。繁栄。
陳腐化。腐敗。
衰退。滅亡。
--
摩擦。
-
擦ること。
擦られること。
--
勝利。
敗北。
引き分け。
--
優位。
劣位。
同位。
--
切断。
接合。
--
先鋭化。鋭敏化。
鈍化。
--
反発。離反。
惹きつけ合い。結合。調和。
--
矛盾。

整合。
--
抑圧。
解放。
--
強制。強引。
任意。自主。自発。
-
恣意。
--
支配。
従属。
独立。
--
自律。
他律。
--
自立。
依存。
--
促進。
抑制。
--
自由。自分勝手。
規制。統制。管理。
--
攻撃。批判。
防御。
-
和平。和合。調和。
--
内部。
外部。
-
内外区別。
内外の非区別。
--
開放。自由。
閉鎖。束縛。
--

公開。
非公開。機密。秘密。
--
受け入れ。共存。
排除。除外。
--
外向。
内向。
--
発射。発信。攻め。凸。
-
中継。媒介。仲介。媒体。溶媒。
-
待ち受け。待機。
-
受容。受信。受け。凹。
--
交信。対話。会話。交渉。折衝。やり取り。
交信の拒絶。対話の断絶。交渉しないこと。
-
交信記録。
--
記憶。学習。
忘却。
--
開始。
終了。完了。
-
持続。連続。維持。
切断。破断。断絶。
-
中断。
再開。
--

--
有為。何かすること。
無為。何もしないこと。
-
能動。

受動。
-
生成。作成。
複製。増殖。
削減。
抹消。削除。消去。
--
作為。人工。調整。調節。
自然。天然。無調整。
--
衝突。
緩衝。クッション。和らげ。
--
硬化。
軟化。
--
放置。放任。自由化。
干渉。束縛。管理。統制。
--
開放。
閉鎖。閉門。密閉。
--
一体化。融合。
衛星。
離散。離隔。
--
一緒。
隔離。
--
平常。通常。
異常。
--
一般。
特殊。
-
普通。
特別。
--
中庸。中位。平均。中央。中立。
極端。両端。両翼。偏向。

-
中和。無極性。不偏性。
極化。極性。偏性。
-
左翼。左派。
中道。中間派。
右翼。右派。
-
最高。
最低。
--
高密度。
低密度。
-
大まか。粗雑。粗暴。
詳細。精細。繊細。
-
高濃度。
低濃度。
--
高湿度。湿潤。
低湿度。乾燥。
--
強力。
弱力。
--
高重力。高重量。
低重力。低重量。
--
高負荷。高圧。
低負荷。低圧。
--
高エネルギー。高仕事。稼ぎ。
低エネルギー。低仕事。
-
活発。
不活発。
-
高熱。
低熱。

-
高温。
低温。
-
高周波。
低周波。
-
高電気。
低電気。
--

--
量。多少。
質。
力。
位置。高低。上下。左右。
サイズ。大きさ。
価値。
--
一次元。
多次元。
--
正。メイン。
副。サブ。
-
主要。基幹。根幹。親。
付加。添加。枝葉末節。子供。
-
多数派。
少数派。
--
物体間力。個体間力。粒子間力。分子間力。
-
表面張力。
-
表面。
裏面。
-
外面。
内面。

-
外側。
内側。中側。奥側。
-
外殻。
内実。中身。
-
外圧。
内圧。
-
気体。
液体。
固体。
-
気化。沸騰。沸点。
液化。融解。溶解。融点。
固化。凝固。凝固点。結晶化。
-
動作。稼働。
静止。停止。
-
移動。
定住。不動。
--
刻印。
読み取り。
-
摩耗。
--
記憶。学習。
忘却。
--
実体。実物。
情報。データ。仮想物。
機能。関数。
-
代数。数値。文字列。
幾何。形状。
--
生産。生成。

伝達。伝播。伝導。配布。配達。
消費。
残滓の排泄。ゴミ出し。
--
送付。
配送。配達。物流。
受付。受け取り。
--
送信。
配信。
受信。
--
共有。
占有。専有。
--
均一。均等。均質。
--
同一。相似。
相違。
--
同質。同類。同種。
異質。異類。異種。別種。
--
平等。同等。
区別。差別。
--

--
点。時点。地点。位置。
線。境界線。時刻。
領域。帯域。幅。空間帯。時間帯。
面。面積。
立体。箱。山。川。湖。海。溜まり。建物。体積。
--
流体。気体。液体。粉粒状の固体。
非流体。固体。固体的な液体。
--
粘性。接着。
非粘性。剥離。
--

禁止。阻止。
許可。黙認。
--
可侵。
不可侵。
--
侵入。侵攻。進入。加入。
滞在。滞留。
-
認可。許可。
-
閉門。締め出し。阻止。防衛。
追放。追い出し。
--
取り込み。呑み込み。丸呑み。捕捉。逮捕。拿捕。
逃避。逃走。
-
閉じ込め。幽囚。幽閉。
脱出。脱走。
--
浸すこと。浸液。浸水。
抜くこと。液抜き。脱液。水抜き。脱水。
--
潰すこと。取り潰し。芽潰し。押し潰し。
芽吹くこと。発芽。盛り上がること。興隆。隆起。
--
倒すこと。打倒。
立てること。起こすこと。擁立。
-
倒れること。転倒。
立つこと。起きること。起立。
--

--
操作対象における、局所性。
操作対象における、普遍性。
--
操作対象における、微細性。

操作対象における、大局性。
--
操作対象における、部分性。
操作対象における、全体性や網羅性。
--
操作対象における、構造性。
--
操作対象における、再帰性。
各物質は、より小さな単位の粒子状の物質から、構成されること。
ある物質は、より低い単位の小さい粒子的物質へと、再帰的に分解されていくこと。
より大きい次元の物質が、より小さい次元の粒子状の物質へと、分解され、解体されること。
より大きい次元の物質が、より小さい次元の粒子状の物質から、合成されること。
より小さい次元の粒子状の物質が、相互に合体して、より大きい次元の物質を、新たに構築すること。
そうした粒子状物質の最小単位。それは、素粒子であること。
そうした、物質における再帰構造。
それは、量子論や分解論の、基礎であること。
それは、化合論や合成論の、基礎であること。

より低い単位の小さい粒子的物質。それは、部品物質であること。

それらの知見の応用。
それは、以下の内容である。
-
力が働く対象における、再帰性。
各々の力は、より小さな単位の粒子的な物質に働く、力から、構成されること。
ある力は、より低い単位の小さい粒子的な力へと、再帰的に分解されていくこと。
より大きい次元の力が、より小さい次元の粒子的な力へと、分解され、解体されること。
より大きい次元の力が、より小さい次元の粒子状の力から、合成されること。
より小さい次元の粒子状の力が、相互に合体して、より大きい次元の力を、新たに構築すること。
例。分子間力。電子間力。原子間力。

そうした粒子状の力の最小単位。それは、素粒子間力であること。
そうした、力における再帰構造。
それは、量子論や分解論の、基礎であること。
それは、化合論や合成論の、基礎であること。

より低い単位の小さい粒子的な力。それは、部品的な力であること。
-

-
より高い次元の概念が、より低い次元の概念へと、分解され、解体されること。
より高い次元の概念が、より低い次元の概念から、合成されること。
より低い次元の概念が、相互に合体して、より高い次元の概念を、新たに構築すること。
そうした、概念における再帰構造。
それは、還元主義の、基礎であること。
それは、構築主義の、基礎であること。
-

--
操作対象における、陽性。
操作対象における、陰性。
-
操作対象における、プラス。
操作対象における、マイナス。
-
操作対象における、加算や乗算。
操作対象における、減算や除算。
--

物質の操作。
その一環としての、生物の操作。
その一環としての、人間の操作。

物質の社会。

その一環としての、生物の社会。
その一環としての、人間の社会。

データの操作。
数値。文字列。情報。それらの操作。
それは、以下の内容である。
--
単体のデータ自身による、自己操作。
複数のデータ同士による、相互の操作。
複数のデータ同士による、相互作用。
--

それらは、以下の内容を、もたらす。
--
複数のデータ同士における、社会性。
データ社会の、生成や形成や構築。
--

それらは、以下の手段によって、もたらされる。
--
コンピューターによるプログラミング。
神経系によるプログラミング。
論理回路の設計と稼働。
神経回路の設計と稼働。
--
データ内容の、環境への刻印。
データ内容の、環境からの読み取り。
--

それらを定式化した内容。
それは、機能である。
それは、関数である。

それらの操作は、以下の内容と、同一である。
--
物質の操作。実体物の操作。

--

ある物質中における、他の物質。

ある気体の中。ある液体の中。ある固体の中。
他の気体。他の液体。他の固体。

同一。同質。同類。同種。
相違。異質。異類。異種。

混合。溶解。

両者の媒介者となる物質。
溶媒。
ある液体中に、別種の固体が、溶解して液体化すること。

ある気体中に、別種の気体が含まれている場合。
それぞれの種類の気体の体積は、それぞれの気体の分子数に、比例すること。

物質の状態。
物質の性質における、度合い。
それは、以下の内容である。
--
力量。
例。仕事量。エネルギー。稼ぎ。熱。温度。
例。保存力。重力。質量。重量。
-

--
サイズ。
例。面積。体積。
-
大きさ。長さ。厚さ。重さ。
小ささ。短さ。薄さ。軽さ。

-

--
位置。分布。例。時間。時系列。空間。
-
密度。混合度。融合度。近接度。
-
--

物質における慣性。
それは、以下の内容である。
--
物質の状態が、より低い次元において変化すること。例。速度の増加。
物質の状態が、より高い次元において変化しないこと。例。加速度の一定性。
上記の 2 つの状況が、同時に起きること。
--

物質のタイプの分類。
例。化学の、高校用参考書における、記述。

部品物質。
ある物質を構成する部品としての、副次的な物質。

--
物質における、部品物質の授受。

-
物質における、部品物質の授与。
ある物質が、他の物質に対して、ある特定の部品物質を、放出し、付与すること。
例。
酸化。ある物質が、他の物質に対して、電子あるいは水素を、放出し、付与すること。
酸。他の物質に対して、電子あるいは水素を、放出し、付与する、

物質。
例。
還元。ある物質が、他の物質に対して、酸素を付与すること。

-

--
物質における、部品物質の受領。
ある物質が、他の物質から、ある特定の部品物質を受領すること。
例。
塩基化。ある物質が、他の物質から、電子あるいは水素を、受領すること。
塩基。他の物質から、電子あるいは水素を、受領する、物質。
例。
酸化。ある物質が、他の物質から、酸素を受領すること。
-

--
-
部品物質の授与。
部品物質の受領。
-
それらは、同時に起きること。
例。酸化還元反応。
その結果、新たに生成する物質。
-
水分。
水分以外の場合。塩分。
-

--
物質における、特定の部品物質の、優位性。
例。
酸性。その物質において、酸が優位であること。
中性。その物質において、酸と塩基とが、対等であること。
塩基性。その物質において、塩基が優位であること。

--

物質における、部品物質の授受の、数量。
例。酸化数。
原子の状態を、基準とすること。
その基準において、授受した電子の数を示す、数値。
-
酸化。上記の数値が、増加したこと。その物質において、電子の受領が、電子の放出よりも、多かったこと。
還元。上記の数値が、減少したこと。その物質において、電子の受領が、電子の放出よりも、少なかったこと。
-

--
物質における、部品物質の授受の、行い易さ。

例。イオン化。
陽イオンに、成ること。

例。イオン化傾向。
陽イオンへの、成り易さや、成り難さ。

--
物質における、部品物質同士の、相互結合。
例。イオン性物質。
塩分において。
塩基における、陽イオンの部分。
酸における、陰イオンの部分。
その両者が、相互に結合した、物質。
そうした相互結合。
それは、イオン結合であること。

--
物質における、部品物質同士の、中和。
それは、以下の内容である。
-
対照的な性質の物質同士の、対等な合成。
例。酸と塩基との、中和。
酸と塩基とを、過不足無く、互いに加えること。

その結果。
塩分と水分だけが、生成されること。
-

--
物質における、部品物質の、価数。
例。価数。
ある物質が、他の物質に与える、陽イオンの、数。
ある物質が、他の物質から取得する、電子の、数。

例。酸の価数。
水素原子のうち、陽イオンとなる数。
例。塩基の価数。
水酸化イオンの数。

価数と、濃度と、体積とを、掛け算すること。
その数値。
酸における値。
塩基における値。
その両者が、同一である場合。
それは、酸と塩基との、中和であること。

--
物質における、部品物質の、分離。
例。物質における、電離。
ある物質が、別の物質の中へと溶解すること。例。水への溶解。
その溶解した物質が、陽イオンと陰イオンとに分かれること。
電離質。
ある物質が、別の物質の中へと溶解して、電離すること。例。水への溶解。
そうした性質を持つ物質。
電離度。
電離した物質量を、溶解した電離質の物質量で、除算した結果の、数値。

--
物質における、部品物質の、質量の計算。
部品物質一つ当たりの質量に、部品物質の個数を、乗算した結果の、数値。

例。原子量。
一定の原子の粒子数における、それらの原子の総質量。例。アボガドロ定数。

例。分子量。
ある分子中の、原子の原子量。

例。イオンから成る物質の場合。
イオンの中の原子の原子量。組成式量。

--
物質における、量の計算。

物質における、量の構成要素。
それは、以下の内容である。
個数。質量。体積。

例。物質量。
その物質の質量を、一定の原子数で除算した結果の、数値。例。アボガドロ定数。

--
物質における、組み合わせ。

例。物質における、ペアの形成。
電子対。ペアを形成している電子。
不対電子。ペアを形成していない電子。

--
物質における、外側と内側。
外側。外殻。
内側。内実。

例。価電子。
最外殻の電子。最も外側に位置している電子。

--
物質における、関与や共有。

例。電子対の共有の、有無。
共有している場合。共有電子対。
共有していない場合。非共有電子対。

例。電子対への関与の、有無。
関与していない場合。孤立電子対。

例。価標。
一対の共有電子対。それを、一本の線として表示したもの。
例。構造式。
分子間の原子の結び付きを、価標を用いて表した、式。
例。価標の個数。
各原子から出てくる価標の個数。
それは、以下の内容である。
電子対の数。
それは、以下の数値と同等である。
不対電子の数。
例。原子価。
各原子における、電子対の個数の、数値。
各原子における、不対電子の個数の、数値。
上記の両者は、常に、同一の値を取ること。
例。電子式。
元素記号の周囲の四方に、最外殻の電子を、点で表示した、式。
元素記号の周囲の四方に、価電子を、点で表示した、式。

--
物質における、結合。
例。共有結合。
単一結合。電子対を、一対、共有していること。
二重結合。電子対を、二対、共有していること。
三重結合。電子対を、三対、共有していること。
例。配位結合。
非共有電子対を、二つの原子が共有する、結合。
共有電子対の電子が、一方の原子からのみ提供されている、結合。
そうして生成される、特別な共有結合。
例。電気陰性度。
共有結合を形成している原子が、電子対を引き付ける強さ。その尺度。

--
物質間の結合における、極性。
極性。物質の分布において、偏りが有ること。
無極性。物質の分布において、偏りが無いこと。

例。共有結合における、極性。
結合において、電荷の偏りが有ること。
共有電子対が、電気陰性度の大きい原子の方へと、偏って存在すること。
結合した原子間における、電気陰性度の差の、大きさ。

--
物質間力。
物質の間において、働く力。
物質量が大きいほど、物質間力は大きくなること。
物質の間における極性。その極性が大きいほど、物質間力は大きくなること。
物質間力が大きいほど、物質同士を引き離すために必要なエネルギーが、高くなること。

例。分子間力。
分子の間において、働く力。
分子量が大きいほど、分子間力は大きくなること。
分子の間における極性。その極性が大きいほど、分子間力は大きくなること。
分子間力が大きいほど、融点や沸点が高くなること。

--
結晶物質。
ある物質において、１ランク低いレベルの部品物質同士が、結晶を形成すること。
ある物質において、１ランク低いレベルの部品物質同士が、規則正しく配列すること。

--
物質結晶。
多数の物質が、規則正しく配列すること。
その場合。物質間力が、弱いこと。

例。分子結晶。
多数の分子が、規則正しく配列すること。
その場合。分子間力が、弱いこと。融点や沸点が、低いこと。

--
仲介物質。
物質間の結合における、仲介者としての物質。
例。水素結合。
水素原子を仲介して形成される、分子間の結合。
その分子間力が、異様に、とても大きいこと。

--
物質間における、結合の強度。
例。
一番強い結合。共有結合。
次に強い結合。仲介結合。例。水素結合。
一番弱い結合。無極性物質の間に働く、物質間力。例。無極性分子の間に働く、分子間力。

--
物質の硬さ。
その大きさの数値は、物質間力に、比例すること。
その大きさの数値は、物質量に、比例すること。
その大きさの数値は、物質における構築性の大きさに、比例すること。
物質量が大きいほど、物質間力の総量が、多くなること。
その結果。
物質量が大きいほど、その物質における、分解に要するエネルギーが、高くなること。
物質が巨大構築物化するほど、その物質における、分解に要するエネルギーが、高くなること。

例。融点や沸点。
その高さは、分子量と分子間力とに、比例すること。

分子量が大きいほど、分子間力の総量が、多くなること。

その結果。
分子量が大きいほど、融点や沸点が、高くなること。

物質の硬さ。
その大きさの数値は、以下の値に、比例すること。
部品物質による内部移動の、困難さの度合いの、数値。
物質の柔らかさ。
その大きさの数値は、以下の値に、比例すること。
部品物質による内部移動の、容易さの度合いの、数値。

例。共有結合の結晶の場合。
-
柔らかい固体結晶。例。黒鉛。
電気を通すこと。
電子が、内部移動可能であること。
-
硬い固体結晶。例。ダイヤモンド。
電気を通さないこと。
電子が、内部移動不能であること。
-

物質の硬さ。
その大きさの数値は、以下の値に、比例すること。
部品物質の移動が発生すること。その発生の、困難さの度合いの、数値。
部品物質の配列のズレが発生すること。その発生の、困難さの度合いの、数値。
部品物質同士の結合が切れること。その発生の、困難さの度合いの、数値。

--
共有結合の結晶。その性質。
例。分子の場合。
巨大分子を形成すること。
小さな分子やイオンへと分かれないこと。溶解しにくいこと。
硬いこと。融点が高いこと。
原子の配列が、ズレにくいこと。
原子間の結合が、切れにくいこと。

電子が移動しにくいこと。電気を通しにくいこと。

--
物質における、比熱。
一定質量の物質の温度を、一定量上昇させるために必要な、熱エネルギー量。
一定質量の物質の分子間力を、一定程度弱めるために必要な、エネルギー量。
それは、結局、以下の内容である。
一定質量の物質の物質間力を、一定程度弱めるために必要な、エネルギー量。
物質の間における結合。
その結合を形成するために、一定量のエネルギーを蓄積すること。
その結合を解消するために、一定量のエネルギーを消費すること。

例。水。
それは、水素結合であること。
それは、分子の間において、大きな隙間が存在すること。
その水素結合は、液体の状態においても、存続すること。

例。水素結合。
それは、比熱が大きいこと。
水素結合を切るために、多大な熱エネルギーを、余計に消費すること。
水素結合を形成するために、多大な熱エネルギーを、蓄積すること。

--
物質における、溶解。
ある物質における、部品物質の極性が、より強いこと。
それは、他の物質の部品物質同士の結合を、より弱めること。
その結果。
その物質は、他の物質を、より良く溶解させること。
例。水。
水における、分子の極性が、とても強いこと。
それは、他の分子のイオン結合を、弱めること。

その結果。
水は、他の物質を、より良く溶解させること。
それは、水溶液であること。

--
物質における、部品物質の個数。
例。分子の種類の、分類。
単原子分子。一個の原子から成る、分子。
二原子分子。二個の原子から成る、分子。
三原子分子。三個の原子から成る、分子。

物質における、部品物質の個数。
その個数が少ない物質。
そうした物質は、物質間力が小さいこと。
そうした物質は、分解に要するエネルギーが少ないこと。
例。
単原子分子。それらから構成される物質。
その物質は、分子間力がゼロであること。その物質は、常温において、気体であること。
二原子分子。それらから構成される物質。
その物質は、多くの場合、分子間力が小さいこと。それらの物質は、常温において、気体であること。
その物質は、分子量が多い場合、液体や固体であること。
多原子分子。それらは、固体であること。
共有結合の結晶。それらは、固体であること。

その個数が多い物質。
そうした物質は、物質間力が大きいこと。
そうした物質は、分解に要するエネルギーが大きいこと。

その個数が、極めて多い物質。
例。高分子化合物。
数千個以上の原子から形成される、大きな分子。
そうした大きな分子から形成される、化合物。
それは、ほとんどの場合、有機化合物であること。
有機化合物。
その分子数は、１万個以上であること。
それは、炭素を含むこと。

それは、生物の活動を維持するための、主要な物質であること。
例。糖質。タンパク質。脂質。

重合。
より小さな部品物質同士が、鎖のように、多数結合すること。
その結果。
部品物質の数が極めて多い、物質。そうした物質が、新たに形成されること。
巨大な構築物質が、形成されること。
例。高分子化合物。
小さな分子が、鎖のように、多数結合すること。
その結果。
高分子化合物が形成されること。

付加重合。
二重結合において、片方の結合が、切れること。
それを、隣の部品物質との結合へと組み替えること。
そうして、部品物質同士が、新たに、互いに連結していくこと。
例。分子の場合。
二重結合において、片方の結合が、切れること。
それを、隣の分子との結合へと組み替えること。
そうして、分子同士が、新たに、互いに連結していくこと。

--
物質における、特定の部品物質の、除外。

例。縮合結合。
-
小さな部品物質が、結合から除外されること。
残りの大きな部品物質同士のみが、新たに結合すること。
例。分子の場合。
小さな分子が、結合から除外されること。
残りの大きな分子同士のみが、新たに結合すること。
-

--
物質における、部品物質の、内部移動しやすさ。
例。電気伝導性。
ある物質における、電気の通しやすさ。
その物質の分子における、電子の移動しやすさ。

例。金属結晶における、自由電子。
電子が、その結晶内部において、自由移動が可能であること。

--
物質における、金属結晶。その性質。
それは、以下の内容である。

例。金属。
分子レベルでは、常温で、固体であること。
電子レベルでは、自由に移動可能であること。自由電子。
電子レベルでは、気体に近いこと。
自由電子同士が、互いに反発し合っていること。
電子間力が、小さいこと。
その原子は、単位格子が、上下左右方向に、配列されていること。
その配列は、特定の方向性を持たないこと。
その配列は、最密構造であること。
-
最密構造。
同じ大きさの球を、一定の容器の箱の中に、出来るだけ多数、詰め込んで配列すること。
そのことで、球の分布が、最も密になるようにすること。
-

柔らかいこと。
電子が、自由に移動可能であること。
その結果。
電気を、容易に通すこと。
熱を、容易に通すこと。

そうした自由電子が、絶えず移動しながら、原子同士を結びつけていること。
原子同士の結合が、全ての方向へと、一様に働くこと。
その結果。
展性と延性を、持つこと。

-
展性。
叩いた場合。割れずに、薄く広がること。
-
延性。
引っ張った場合。長く延びること。
-

--
ノーマルな物質。
存在する数が多い、物質。多数派の物質。
空間的に、どこでも普通に存在する、物質。
空間的に、高密度で存在する、物質。
時間的に、何時でも存在する、物質。
時系列的に、高密度で存在する、物質。

--
レアな物質。
存在する数が少ない、物質。少数派の物質。
空間的に、特定の場所にのみ存在する、物質。
空間的に、低密度で存在する、物質。
時間的に、特定の時間帯や時刻にのみ存在する、物質。
時系列的に、低密度で存在する、物質。

--
基本的な物質。基盤的な物質。
ある物質を生成する際において、基盤となる、何らかの物質。
応用的な物質の、下位概念。

--
応用的な物質。
基本的で基盤的な物質に基づいて、新たに生成される、何らかの物質。
基本的で基盤的な物質の、上位概念として、初めて成立する、何らかの物質。

システム的な物質。統合的な物質。
--
ある物質において、内外の区別が有ること。
その物質の内部において、分化が発生していること。
--
その物質内部における、各々の分化部分同士が、相互に依存し合っていること。
その物質内部における、各々の分化部分において、分業が発生していること。
その物質内部における、各々の分化部分が、総体として、統合されていること。
--
その物質の内部において、状態の維持が、発生していること。
その物質の内部において、恒常性が、発生していること。
例。一定性。慣性。全自動性。
-

構築的な物質。

--
ある物質において、骨組みが有ること。
ある物質において、構成が有ること。
ある物質において、部品が有ること。

--
その骨組みや構成。
それらが、軟質である場合。例。皮膜。
それらが、硬質である場合。例。骨。

総合的な物質。全体的な物質。
--
ある物質が、部品的な物質の集積によって、全体として、新たに生成されること。

--
部品的な物質の集積方法。
-

取り付け。組み立て。
順列。組み合わせ。
-

有機的な物質。
例。有機化合物。生物。

それは、以下の内容である。
--
システム的な物質。

例。不変性。一定性。慣性。全自動性。恒常性。
例。内外の区別性。内部における、分業性。全体としての、統合性。
-
構築的な物質。
-
総合的な物質。全体的な物質。
--
上記の性質を、同時に兼ね備えている、物質。

無機的な物質。

それは、以下の内容である。
--
非システム的な物質。
例。変容性。不定性。非慣性。非自動性。
例。内外の非区別性。内部における、一様性。全体としての、非統合性。
-
非構築的な物質。
-
非総合的な物質。部品的な物質。
--
上記の性質を、同時に兼ね備えている、物質。

生物。

物質における、生物性。
それは、以下の内容である。
--
エネルギー消費性。資源消費性。
例。
資源の吸入。
資源消費に伴う、残滓や残骸やゴミの、生成と排出。
-
有機性。
--
上記の性質を、同時に兼ね備えている、物質。

--
有機的な物質は、無機的な物質へと、分解されること。
有機的な物質は、無機的な物質より、構成され、構築され、合成されること。

生物は、そうした有機的な物質の一種として、存在すること。
人間は、そうした生物の一種として、存在すること。

生物は、無機的な物質へと、分解されること。
生物は、無機的な物質より、構成され、構築され、合成されること。

人間は、無機的な物質へと、分解されること。
人間は、無機的な物質より、構成され、構築され、合成されること。

--
物質における、予測可能性。

-
前例踏襲性。慣性。安定性。不動性。等速性。定住性。
静止性。凪。
-
複製エラーの非発生性。
複製における、精細性や正確性。
-

--
物質における、予測不能性。
-
意外性。新規性。革新性。
乱れ。波乱性。変動性。不安定性。
-
複製エラーの発生性。
複製における、粗雑性や、いい加減さ。
-

物質における、動作。

それは、以下の内容である。
--
物質の状態。
それが、力学的な作用の発現を、含んでいること。
--

物質における、組み換え。

それは、以下の内容である。
--
構成部品への分解。
構成部品の置換。
構成部品の合成や組み立て。それらの順序の、置換。
--

物質における、構築。
例。
気体。
その温度が、下降して、沸点に達すること。
その物質が、気化熱を、外部に対して、付与すること。
その物質は、液体化すること。
液体。
その温度が、下降して、融点に達すること。
それが、融解熱を、外部に対して、付与すること。
その物質は、固体化すること。

物質における、分解。
例。
固体。
その温度が、上昇して、融点に達すること。
その物質が、融解熱を、外部から、吸収すること。
その物質は、液体化すること。
液体。
その温度が、上昇して、沸点に達すること。
その物質が、気化熱を、外部から、吸収すること。
その物質は、気体化すること。

物質間における、上下関係。
物質間における、力関係。
物質間における、支配と従属と独立の、関係。

上位物質。下位物質。
強い物質。弱い物質。
支配物質。従属物質。独立物質。

それらの関係は、生物と無生物とで、共通であること。
それらの関係は、有機物質と無機物質とで、共通であること。

(1)
物質における、上位性。
物質における、強さ。

それは、以下の内容である。

-
物質Aにおける、物質Bに対する強制力の、所有。
物質Aにおける、物質Bに対する強制力の、保持。
-

それは、詳細としては、以下の内容である。
-
物質Aにおける、支配性。
物質Aが、物質Bに対して、任意の状態や動作を、強制すること。
物質Aが、物質Bに対して、任意の状態や動作を、強制出来ること。
強制可能性。制御可能性。統制可能性。操作可能性。
-
物質Aにおける、制止性や防御性や防衛性や閉門性。
物質Bが、物質Aに対して、任意の状態や動作を、強制出来ないこと。
物質Aが、物質Bからの、任意の状態や動作の強制を、跳ね返すことが出来ること。
物質Aが、物質Bを、その場から締め出すことが出来ること。
強制不能性。制御不能性。統制不能性。操作不能性。閉鎖性。排他性。
-
物質Aにおける、回復性。
物質Bが、物質Aに対して、任意の状態や動作の維持を、強制出来ないこと。
物質Aは、物質Bから何をされても、元の状態へと、程無く復帰出来ること。
物質Aは、物質Bから何をされても、後へと影響を残さずに済むこと。
物質Aが、物質Bによる働きかけを、無効化すること。
原状復帰性。緩衝性。治癒性。
-
物質Aにおける、自立性。
物質Aが、任意の状態や動作を、取ることが出来ること。
物質Aが、任意の状態や動作を、維持出来ること。
-
物質Aにおける、包含性。
物質Aが、物質Bを、包含すること。
物質Aが、物質Bを、併合すること。

物質Aが、物質Bを、丸呑みすること。
-
物質Aにおける、独立性。
物質Bが、物質Aを、包含出来ないこと。
物質Bが、物質Aを、丸呑み出来ないこと。
-
物質Aにおける、有能性。
物質Aが、力を行使するための能力を、有していること。
-
物質Aにおける、所有性。
物質Aが、力を行使するための資源を、所有出来ること。
物質Aが、力を行使するための資源を、既に、十分に所有していること。
物質Aが、力を行使するための資源を、奪われないこと。
既得権益。奪取不能性。
-

(2)
物質における、下位性。
物質における、弱さ。
それは、以下の内容である。
-
物質Aにおける、従属性。
物質Aが、物質Bから、任意の状態や動作を、強制されること。
-
物質Aにおける、制止不能性。
物質Aが、物質Bからの任意の働きかけを、制止できないこと。
-
物質Aにおける、自己崩壊性。
物質Aが、任意の状態や動作を、取ることが出来ないこと。
物質Aが、任意の状態や動作を、維持出来ないこと。
-
物質Aにおける、依存性。
物質Aが、任意の状態や動作を取るために、物質Bへと、依存すること。
物質Aが、任意の状態や動作を維持するために、物質Bへと、依存すること。
-
物質Aにおける、非独立性。

物質Aが、物質Bから、独立出来ないこと。
-
物質Aにおける、被包含性。
物質Aが、物質Bによって、包含されること。
物質Aが、物質Bによって、丸呑みされること。
-
物質Aにおける、無能性。
物質Aが、力を行使するための能力を、有していないこと。
-
物質Aにおける、欠如性や借用性。
物質Aが、力を行使するための資源を、所有出来ていないこと。
物質Aが、力を行使するための資源を、物質Bから、借りる必要があること。
物質Aが、力を行使するための資源を、物質Bによって、奪われること。
既得権益の欠如。被奪取性。
-

物質における、強制。
それは、総括的には、以下の内容である。

(1)
-
物質Aが、物質Bに対して、力を行使すること。
物質Aが、そのための資源やエネルギーを、有していること。
-
物質Aが、物質Bの力を、止めること。
物質Aが、物質Bから、力を奪うこと。
物質Aが、そのための資源やエネルギーを、有していること。
-

(2)
-
物質Aが、物質Bを、動かすこと。
-
物質Aが、物質Bを、止めること。
-

(3-1)
物質Aが、物質Bに対して、以下の動作を取ること。
-
制御。統制。操縦。
-
開発。
-

(3-2)
物質Aが、物質Bに対して、以下の状態を取ること。
-
制御不能。統制不能。操縦不能。
-
開発不能。
-

(4)
物質Aが、物質Bに対して、以下の動作を取らせること。
-
物質A自身を、無限に制御させること。
物質A自身を、無限に操縦させること。
物質A自身を、無限に開発させること。
-
その結果。
物質Aが、物質Bの力を、枯渇させること。
物質Aが、物質Bを、無力化すること。

(5)
物質Aが、物質Bに対して、以下の状態を取ること。
-
物質Aが、物質Bから、必要とされること。
物質Aが、物質Bを、必要としないこと。
-

--
物質における、強制。
それは、具体的には、以下の内容である。

(1)
物質Aが、物質Bに対して、以下の操作を行うこと。
-
変形。歪曲。
-
劣化。改変。変性。変質。病変。
-
奪取。略奪。
-
突くこと。衝突。突入。
-
穿つこと。穿通。
-
粉砕。破壊。分解。貫通。掘削。
-
移動。どかすこと。
-
散佚。逃散。
-
制御。統制。操縦。
-
開発。
-
それらは、凸性であること。
それらは、気体性であること。
それらは、男性性であること。

(2)
物質Aが、物質Bに対して、以下の操作を行うこと。
-
溶解。解消。消失。消滅。吸収。回収。消化。
-
無効化。無力化。無害化。無毒化。
-
包含。併合。丸呑み。
-
それらは、凹性であること。
それらは、液体性であること。
それらは、女性性であること。

物質における、強制の回避。
それは、以下の内容である。

(1)
物質Aが、物質Bに対して、以下の反応を取ること。
-
独立。自立。
-
それらは、凸性であること。
それらは、気体性であること。
それらは、男性性であること。

(2)
物質Aが、物質Bに対して、以下の反応を取ること。
-
不変。慣性。現状維持。健康維持。
-
保持。防御。防衛。
-
緩衝。制止。跳ね返し。
-
回復。原状復帰。治癒。
-
不動。定住。
-
集団維持。
-
それらは、凹性であること。
それらは、液体性であること。
それらは、女性性であること。

物質における、強制力の根源。
物質における、力の根源。

それは、資源であること。
それは、エネルギーであること。
それは、保存であること。

物質間における、移転。

--
物質Aにおける、強化。
物質Aにおける、利益。
-
物質Bにおける、弱化。
物質Bにおける、損失。
--

それらは、以下の内容である。
--
物質Aによる、物質Bからの、資源やエネルギーの、取得。
物質Bから、物質Aへの、資源やエネルギーの、移転。
物質Aによる、それらの資源やエネルギーの、所有や保持。
物質Aによる、それらの資源やエネルギーの、防衛。
--

そうした、物質間における、移転や出入りにおいて。
-
資源やエネルギーは、物質間において、保存されること。
-
資源やエネルギーの、収支は、物質間において、相殺されること。
-
例。エネルギー保存則。

物質における、権益。

--
物質Aにおける、力の、保有。
物質Aにおける、資源やエネルギーの、保有。
それらにおける、以下の性質の実現。
-
豊潤性。富裕性。余裕性。剰余性。
-

それは、以下の内容である。
-
物質Aにおける、力。
物質Aにおける、資源やエネルギー。
物質Aが、それらを、物質Bに、与えること。
物質Aが、それらを、物質Bに、恵むこと。
物質Aが、それらを行う余力を、有すること。
-
それらは、物質Aにおける、余力であること。
それらは、物質Aにおける、富であること。
それらは、物質Aにおける、権益であること。
それらは、物質Aにおける、強大性の象徴であること。
それらは、物質Aにおける、上位性の象徴であること。

--
-
物質Aにおける、力の、有効な保持量。
物質Aにおける、資源やエネルギーの、有効な保持量。
-
それらは、物質Aにおける、既得権益であること。

物質における、有能性。

-
物質Aにおける、力の、稼働効率。
物質Aにおける、資源やエネルギーの、利用効率。
-

物質Aにおける、力の、稼働における有効性。
物質Aにおける、資源やエネルギーの、利用における有効性。
-
物質Aにおける、力の、品質の高さ。
物質Aにおける、資源やエネルギーの、品質の高さ。
-
それらは、物質Aにおける、有能性であること。

全能物質。万能物質。絶対的物質。

物質における、全能性や万能性や絶対性。
それは、以下の内容である。
-
その物質が、何でも、出来ること。
その物質が、何にでも、なれること。
その物質における、そうした能力が、最大化すること。
その物質における、そうした能力が、永続すること。
-

物質における、気体性。
その一環として。
物質における、男性性。
それらは、以下の内容である。
--
動く力が強いこと。
動かす力が強いこと。
-
エネルギーが強いこと。
仕事する力が強いこと。
稼ぐ力が強いこと。
移動する力が強いこと。
-
跳ね返す力が強いこと。

--

物質における、液体性。
その一環として。
物質における、女性性。
それらは、以下の内容である。
--
保存力が強いこと。
止まる力が強いこと。
止める力が強いこと。
定住する力が強いこと。
--
包含力が強いこと。
受容する力が強いこと。
呑み込む力が強いこと。
貯め込む力が強いこと。
蓄積する力が強いこと。
-
受け止める力が強いこと。
--

物質における、固体性。
それらは、以下の内容である。
--
保存力が強いこと。
止まる力が強いこと。
止める力が強いこと。
定住する力が強いこと。
--
跳ね返す力が強いこと。
--

物質と、同化や異化。

物質と、同化。

空間的な同居。
時間的な同期。
波における同調。
質的な同質化や調和。

ある物質が、別の物質を同化すること。そのプロセス。
それは、以下の内容である。

ある物質が、別の物質に対して、以下のような働きかけを行うこと。

--
第一段階。
包囲すること。
取り囲むこと。
囲い込むこと。
覆うこと。

--
第二段階。
包含すること。
呑み込むこと。
包み込むこと。
取り込むこと。
埋め込むこと。
埋没させること。

--
第三段階。
逃避不能にすること。
閉じ込めること。
密閉すること。
封印すること。
密封すること。

--
第四段階。
融合すること。
融解すること。
溶解すること。
分解すること。
消化すること。
吸収すること。

--
第五段階。
残り滓を、外部へと排出すること。

物質と、異化。

空間的な別居。
時間的な非同期。
波における非同調。
質的な異質化や非調和。

ある物質が、別の物質を異化すること。そのプロセス。
それは、以下の内容である。

ある物質が、別の物質に対して、以下のような働きかけを行うこと。

--
第一段階。
析出すること。
凝縮すること。
凝固させること。

--
第二段階。
分離すること。
剥離すること。
乖離すること。

--

第三段階。
包囲を解除すること。

--
第四段階。
追放すること。
追い出すこと。
追い落とすこと。

--
第五段階。
門戸を閉ざすこと。

物質と、混合や差別。

物質における、混合。
それは、以下の内容である。
異なる物質間における、混在と同居と併存。
異なる物質間における、接着と癒着。
異なる物質間における、接合と融合。
異なる物質間における、協和や平和。

物質における、差別。
それは、以下の内容である。
異なる物質間における、分離と別居と相互攻撃。
異なる物質間における、剥離や乖離。
異なる物質間における、反発や対立。

物質と、変化や保存。
それらは、物質における、以下のような力の、反映であること。
--
変化の力。
物質における、変化を促進する力。

物質における、変わる力。
物質における、変える力。
--
不変の力。
保存の力。
恒常の力。
物質における、保つ力。
物質における、変化を抑制する力。
物質における、変化を禁止する力。

物質間における、上下関係との関連。
物質間における、支配従属関係との関連。
--
物質Aは、物質Bを、支配すること。
それは、以下の内容である。
-
物質Aが、物質Bを、変えることが出来ること。
物質Bが、物質Aを、変えることが出来ないこと。
-

物質における、分解と合成。
--
分解。
ある物質を、より小さい単位の粒子物質へと、解いて分けること。

--
合成。
ある物質を、より大きい単位の粒子物質へと、相互に融合させること。
ある物質を、より大きい単位の粒子物質へと、相互に組み合わせて、構築すること。

--
液体における、溶解。
ある物質が、他の液体物質の内部に入って、溶融すること。

-
液体における、溶媒。
他の物質を溶かす、液体物質。

--
溶媒和。
例。水の場合。水和。
それは、以下の内容である。

(1)
溶媒の液体分子。
(2)
溶媒の液体中に入った他の物質の分子。

上記の(1)が、上記の(2)の周囲を、完全に取り囲んで覆うこと。
その結果。
上記の(2)が、表面的に、上記の(1)と同様に振る舞うこと。
上記の(2)が、表面的に、上記の(1)へと、同化し和合すること。

物理化学の本質。

---
(1)
それは、粒子論であること。
それは、分析主義であること。
それは、還元主義であること。
それは、粒子の社会学であること。
化学物質は、粒子の社会であること。

物質の振る舞いを、粒子の単位で、分析すること。
粒子間の相互作用を、分析すること。
物質を、個別化すること。
例。素粒子物理学。

それらは、気体的思想であること。
それらは、男性的思想であること。

---
(2)
それは、集合論であること。
それは、統合論であること。
それは、構築主義であること。
それは、全体主義であること。

物質を、大きなまとまりとして、分析すること。
物質を、統一体として、分析すること。
例。流体力学。

物質を、構築物として、分析すること。
例。高分子化合物の研究。

それらは、液体的思想であること。
それらは、女性的思想であること。

そうした、気体的思想と液体的思想との、統合。
それは、以下の内容である。
分析と統合との、両立。
詳細化と要約との、両立。

例。
内部分業と、全体的統一との、両立。
システム理論。
生物学。
人間社会の研究。

物質における、反応と無反応とフィードバック。

物質における、反応。
物質Aが、物質Bに対して、働きかけを行うこと。
物質Aが、物質Bに対して、攻撃を行うこと。
その結果。
-

物質Bが、変化すること。
物質Bが、変質すること。
-
それらは、以下の内容である。
物質Aによる、物質Bに対する、侵略や侵攻。

物質における、無反応。
物質Aが、物質Bに対して、働きかけを行うこと。
物質Aが、物質Bに対して、攻撃を行うこと。
その結果。
-
物質Bが、変化しないこと。
物質Bが、変質しないこと。
-
それらは、以下の内容である。
物質Bにおける、物質Aに対する、防御や防衛。

物質における、フィードバック。
物質Bにおける、反応の有無。
その結果が、物質Aへと、伝わること。

物質における、振動と波動。

物質の振動。
その振動が、周囲の他の物質へと、伝わること。
それは、波動であること。

波動。
それは、粒子状の物質における、周期的な動きであること。
-
例。音波の場合。
それは、気体分子の、周期的な動きであること。
-
例。光波の場合。
それは、気体分子とは別の物質による、周期的な動きであること。
その物質は、電子であること。

-

物質の進行方向への、伸縮運動。
その振動が、周囲の他の物質へと、伝わること。
それは、横波であること。
例。光波。電磁波。

物質の進行方向以外への、上下運動。
その振動が、周囲の他の物質へと、伝わること。
それは、縦波であること。
例。音波。

それらの振動が伝わる、周囲の他の物質。
-
気体中を伝わること。
液体中を伝わること。
固体中を伝わること。
-

それらの振動が伝わる、次元数。
-
二次元の場合。平面波。
三次元の場合。球面波。
-

振動や波動における、分析項目。
-
振動の幅の長さ。振幅。
振動の回数。振動数。
振動の密度。時間的な密度。空間的密度。
振動の周期。周波数。
振動が一周した場合における、その波動の伝達距離。波長。
振動の伝播における、速度。
振動が伝播する、媒体としての物質。媒質。
-

波動における、様々な特質。
-
波動の伝播は、物質毎に独立していること。
-

複数の物質の波動において、加算と減算が、成立すること。
-
波動は、常に、最短距離で進むこと。
-
波動の速度と、振動数とは、比例すること。
波動の速度と、波長とは、比例すること。
-
波動の速度。
例。光の場合。
それは、真空中において、最も速いこと。
-
波動が与える、高さについての感覚。
例。音の高さ。
それは、振動数がより多くなるほど、より高く感じられること。
それは、振動数に比例すること。
-

波動における、屈折。
波動が、異なる媒質の境界面へと達した場合。
波動の進行方向が、向きを変えて屈折して、第二の媒質の中を進むこと。

そうした、波動の屈折時において。
波動の振動数は、変化しないこと。

--
波動における、屈折率。
物質1に対する、物質2の屈折率。

ある波動において。
物質1が、媒質1であること。
物質2が、媒質2であること。

(1)
媒質1から、媒質2への、入射角。その正弦。
(2)
屈折後の、媒質2における屈折角。その正弦。

上記の(1)の値と、上記の(2)の値との、比。

その値は、一定であること。
その値は、以下の値に等しいこと。
-
(A-1)
波動が媒質1を進む、速度。
(A-2)
波動が媒質2を進む、速度。
上記の(A-1)の値と、上記の(A-2)の値との、比。
-
(B-1)
波動が媒質1を進む、波長。
(B-2)
波動が媒質2を進む、波長。
上記の(B-1)の値と、上記の(B-2)の値との、比。
-

媒質1の密度が、疎である場合。媒質2の密度が、密である場合。
上記の(1)の値は、上記の(2)の値よりも、大きいこと。

--
波動における、物質Aの絶対屈折率。
真空に対する、物質Aの屈折率。

(1)
媒質1から、媒質2への、入射角。
(2)
屈折後の角度。

上記において。
媒質1が、真空である場合。媒質2が、物質Aである場合。

波動における、反射。
入射角と反射角が、等しいこと。

波動における、強弱。
それは、波のエネルギーに、比例すること。
波のエネルギー。

それは、媒質の周期運動による、力学的エネルギーであること。

密度が大きい媒質ほど、その波は強くなること。
湿度が大きい媒質ほど、その波は強くなること。
例。波の強さと媒質の種類との関係。
-
媒質が、固体の場合。その波は、一番強いこと。
媒質が、液体の場合。その波は、二番目に強いこと。
媒質が、気体の場合。その波は、三番目に強いこと。その波は、一番弱いこと。
-
振幅が大きいほど、その波は強くなること。
振動数が大きいほど、その波は強くなること。
速度が速くなるほど、その波は強くなること。

波動における、速度。
それは、媒質の種類のみによって、決まること。
それは、媒質の温度が、より上がった場合、より速くなること。
それは、媒質の密度が、より上がった場合、より速くなること。

波動における、共振。

振動体。
それは、振動する物質であること。

固有振動。
振動体を自由に振動させた時の、振動。

固有振動数。
固有振動における、振動数。

-
振動体に対して、その固有振動の周期に合わせて、周期的に変化する外力を、与えた場合。
その振動体は、小さな外力のみで、振動を開始すること。
そうした振動の、開始の発生。

それは、共振であること。
音の場合。それは、共鳴であること。
電気的振動の場合。それは、同調であること。

-
ある振動体Aが振動すること。
そのことで、振動の波が発生すること。
その波が、別の振動体Bへと、達すること。
振動体Aと、振動体Bとが、同一の固有振動数を持っている場合。
その振動体Bが、新たに振動すること。
そうした振動の、開始の発生。
それは、共振であること。
音の場合。それは、共鳴であること。
電気的振動の場合。それは、同調であること。

物質における、強制。
プラスの強制と、マイナスの強制。

--
物質Aが、物質Bに対して、物質Bが状態Pを取ることを、強制することが出来ること。
それは、プラスの強制であること。
--
物質Aが、物質Bに対して、物質Bが状態Pを取ることを、不許可にすることが出来ること。
物質Aが、物質Bに対して、物質Bが状態Pを取ることを、禁止することが出来ること。
それは、マイナスの強制であること。
--

物質A。それは、働きかけを行う物質であること。
物質B。それは、働きかけを受ける物質であること。
状態Pを取ることが出来ること。状態Pを取ることが出来ないこと。
それらは、物質における、働きかけの意図や結果であること。

--

物質Aが、物質Bに対して、物質Aに状態Qを取らせることを、不許可にすることが出来ること。
物質Aが、物質Bに対して、物質Aに状態Qを取らせることを、禁止することが出来ること。
それは、マイナスの強制であること。

物質A。それは、以下のような働きかけを行う物質であること。それ自身に対する働きかけの、無効化。
物質B。それは、以下のような働きかけを受ける物質であること。相手物質に対する働きかけの、無効化。
状態Qを取らせることが出来ること。状態Qを取らせることが出来ないこと。それらは、物質における、働きかけの意図や結果であること。
--

プラスの強制。
それは、働きかけの有効化の強制であること。
マイナスの強制。
それは、働きかけの無効化の強制であること。

物質一般は、意図を持つこと。
意図を持つ物質。それは、生物に限定されないこと。
物質における、意図。
例。
物質は、重力に従って落下しようとすること。
酸は、相手物質を酸化させようとすること。

物質Aが、物質Bに対して、物質Bが変化することを、強制することが出来ていること。
例。
塩酸が、鉄を、必ず酸化させることが出来ること。
塩酸が、鉄に対して、酸化を強制することが出来ていること。

-
それは、物質Aによる、物質Bに対する、絶対的な攻撃であること。
それは、物質Aにおける、高いエネルギー性であること。
例。気体性。男性性。

-
それは、物質Aによる、物質Bに対する、絶対的な支配であること。
それは、物質Aにおける、物質Bに対する、絶対的な上位性であること。
物質Aは上位者であり、物質Bは下位者であること。
例。塩酸は上位者であり、鉄は下位者であること。

--
物質Aは、あらゆる物質を、絶対に変化させることが出来ること。
それは、物質Aにおける、絶対的な攻撃能力であること。
物質Aは、絶対者であること。

-
物質Aが、物質Bに対して、物質Aを変化させることを、禁止することが出来ること。
物質Aは、物質Bの働きかけによって、絶対に変化しないこと。
例。
白金は、塩酸によって、決して酸化されないこと。
白金は、塩酸に対して、白金それ自身の酸化を禁止させることが出来ていること。
例。
巨大な岩石は、強風が吹いても、決して移動しないこと。
巨大な岩石は、強風によって、決して動かされないこと。
巨大な岩石が、強風に対して、岩石それ自身の移動を禁止させることが出来ていること。
例。
鉄は、決して、光を通さないこと。
鉄は、光に対して、鉄それ自身に対する光波の通過を、禁止させることが出来ていること。
-

-
それは、物質Aによる、物質Bに対する、絶対的な防御や防衛であること。
それは、物質Aにおける、高い保存性であること。
例。液体性。女性性。
-

-
それは、物質Aによる、物質Bに対する、絶対的な支配であること。
それは、物質Aにおける、物質Bに対する、絶対的な上位性であること。
物質Aは上位者であり、物質Bは下位者であること。
例。白金は上位者であり、塩酸は下位者であること。
例。巨大な岩石は上位者であり、強風は下位者であること。
例。鉄は上位者であり、光は下位者であること。
-

--
物質Aが、絶対に変化しないこと。
それは、物質Aにおける、絶対的な防御能力や防衛能力であること。
それは、物質Aにおける、絶対的な保存能力であること。
物質Aは、絶対者であること。
例。白金は、絶対者であること。

物質Aが、それ自身を改変すること。
物質Aが、物質Bを改変すること。
それらは、物質Aにおける、改変力の行使であること。
それらは、物質Aにおける、働きかけの有効化であること。

--
改変力の行使において。
-
改変すること。物質Aが、何かを為すこと。
改変しないこと。物質Aが、何も為さないこと。
-
改変することが出来ること。それは、物質Aにおける有能性であること。
改変することが出来ないこと。それは、物質Aにおける無能性であること。
-

-
改変することが出来ること。それは、物質Aにおける支配性である

こと。
改変することが出来ないこと。それは、物質Aにおける従属性であること。
-
改変することが出来ること。それは、物質Aにおける上位性であること。
改変することが出来ないこと。それは、物質Aにおける下位性であること。
-

-
物質Aが、それ自身を保存すること。
物質Aが、物質Bを保存すること。
-

それらは、以下のように、言い換え可能であること。
-
物質Aが、それ自身の改変を禁止すること。
物質Aが、物質Bの改変を禁止すること。
-
それらは、物質Aにおける、保存力の行使であること。
それらは、物質Aに対する働きかけの、無効化であること。
-

--
保存力の行使において。
-
保存すること。物質Aが、何かを為すこと。
保存しないこと。物質Aが、何も為さないこと。
-

それらは、以下のように、言い換え可能であること。
-
改変を禁止すること。物質Aが、何かを為すこと。
改変を禁止しないこと。物質Aが、何も為さないこと。
-

-
保存することが出来ること。それは、物質Aにおける有能性である

こと。
保存することが出来ないこと。それは、物質Aにおける無能性であること。
-
保存することが出来ること。それは、物質Aにおける支配性であること。
保存することが出来ないこと。それは、物質Aにおける従属性であること。
-
保存することが出来ること。それは、物質Aにおける上位性であること。
保存することが出来ないこと。それは、物質Aにおける下位性であること。
-

それらは、以下のように、言い換え可能であること。
-
改変を禁止することが出来ること。それは、物質Aにおける有能性であること。
改変を禁止することが出来ないこと。それは、物質Aにおける無能性であること。
-
改変を禁止することが出来ること。それは、物質Aにおける支配性であること。
改変を禁止することが出来ないこと。それは、物質Aにおける従属性であること。
-
改変を禁止することが出来ること。それは、物質Aにおける上位性であること。
改変を禁止することが出来ないこと。それは、物質Aにおける下位性であること。
-

物質における、強制力と禁止力。

--
強制力。
それは、プラスの強制力であること。

それは、気体的な力であること。それは、男性的な力であること。
--
禁止力。
それは、マイナスの強制力であること。
それは、液体的な力であること。それは、女性的な力であること。
--

生物の、物質的な定義。

-
物質Aが、それ自身を保存すること。
例。白金。
-
物質Aが、活動すること。
例。活火山。
-

それらの性質を併せ持つ物質A。
それらの性質を持続させる物質A。

それらを実現するために、資源を継続的に消費する、物質A。

物質Aは、生物であること。

資源の、物質的な定義。

物質Bが、それ自身を保存すること。
物質Bが、活動すること。

物質Aが、物質Bに対して、そうした生物としての性質を、持続させること。
そうした、物質A。

物質Aは、物質Bにとっての資源であること。

追加内容。2023年2月中旬初出。エネルギー性物質と保存性物質。粒子間における引力との関連。

エネルギー性物質と、保存性物質。

エネルギー性物質。
それは、以下の内容である。
--
エネルギーを行使する物質。
動く物質。動かす物質。
仕事をする物質。
稼ぐ物質。
現状を変更する物質。
手術を行う物質。
自己捨て身を行う物質。
資源や栄養を、使用し消費する、物質。
発射する物質。発信する物質。
例。
気体。
例。
気体性の生物。男性。
--

保存性物質。
それは、以下の内容である。
--
保存力を行使する物質。
不動の物質。止める物質。
自己保身を行う物質。
原状復帰する物質。
現状を維持する物質。
治癒を行う物質。

資源や栄養を、付与する物質。養う物質。
受け止める物質。受容する物質。受信する物質。
例。
液体。
例。
液体性の生物。女性。
--

エネルギー性物質。その欠点。
それは、保存の能力に欠けること。
それは、原状復帰の能力に欠けること。
それは、現状維持の能力に欠けること。
それは、治癒を行う能力に欠けること。
それは、消耗すること。
それは、自己捨て身で、リスクに直面しながら動くこと。

保存性物質。その欠点。
それは、仕事する能力に欠けること。
それは、稼ぐ能力に欠けること。
それは、リスクを回避して、安全第一で動くこと。
それは、新領域開拓の能力に欠けること。

エネルギー性の行為。
それは、気体的行為であること。
それは、男性的行為であること。

保存性の行為。
それは、液体的行為であること。
それは、女性的行為であること。

エネルギー性の思想。
それは、気体的思想であること。
それは、男性優位社会の思想であること。

保存性の思想。
それは、液体的思想であること。
それは、女性優位社会の思想であること。

物質における、引力と保存力との関連。

粒子状の物質において。
以下の内容が、成立すること。

--
引力。
それは、以下の内容である。
ある粒子において。
それ自身へと、他の粒子を接近させる力。
それ自身へと、他の粒子を誘引する力。
それ自身へと、他の粒子を惹き付ける力。
それ自身へと、他の粒子を引き込む力。
それ自身へと、他の粒子を一体融合化させる力。
それ自身へと、他の粒子を呑み込む力。
それ自身へと、他の粒子を包含する力。
例。女性における、男性に対する、性的誘引力の行使。

--
引き込む側の粒子。
それは、動かないこと。
それは、定住者であること。
例。固体。液体。液体性の生物。細胞。卵子。卵細胞。女性。

--
引き込まれる側の粒子。
それは、動くこと。
それは、移動者であること。
例。気体。気体性の生物。ウィルス。精子。精細胞。男性。

--
万有引力。
それは、以下の内容である。
全ての粒子物質は、引力を備えていること。

--

万有引力。
それは、保存力であること。

--
引力。保存力。それらの大きさは、互いに比例すること。

--
引力が強い粒子。その質量は大きいこと。それは、重いこと。
例。固体分子。液体分子。液体性の生物。細胞。卵子。女性。

--
引力が弱い粒子。その質量は小さいこと。それは、軽いこと。
例。気体分子。気体性の生物。ウィルス。精子。精細胞。男性。

例。
人間の女性が、彼女自身の体重を、盛んに気にすること。
その理由。
彼女は、そもそも重い存在であるから。

--
引力が強い粒子。それは、保存力が強い粒子であること。
例。固体分子。液体分子。液体性の生物。細胞。卵子。女性。

--
引力が弱い粒子。それは、保存力が弱い粒子であること。
例。気体分子。気体性の生物。ウィルス。精子。精細胞。男性。

--
他の粒子による引力を振り切らない、別の粒子。
他の粒子と相互に引き合う、別の粒子。
他の粒子と相互に足を引っ張り合う、別の粒子。
他の粒子と一体融合化して動く、別の粒子。
他の粒子と同調して動く、別の粒子。
それは、保存力が強い粒子であること。
例。固体分子。液体分子。液体性の生物。細胞。卵子。女性。

--
他の粒子による引力を振り切って、自由に飛翔する、別の粒子。
他の粒子とは独自に、個別に自由に動く、別の粒子。
それは、保存力が弱い粒子であること。

例。気体分子。気体性の生物。ウィルス。精子。精細胞。男性。

--
ある粒子における、他の粒子からの引力を振り切る力。
その力の源。
それは、運動エネルギーであること。

--
運動エネルギーが大きい粒子。
仕事をする粒子。稼ぐ粒子。
現状を変更する粒子。
それは、保存力が弱い粒子であること。
それは、引力が弱い粒子であること。
例。気体分子。気体性の生物。ウィルス。精子。精細胞。男性。

--
運動エネルギーが小さい粒子。
仕事をしない粒子。稼がない粒子。
現状を維持する粒子。
それは、保存力が強い粒子であること。
それは、引力が強い粒子であること。
例。固体分子。液体分子。液体性の生物。細胞。卵子。女性。

--
ある粒子における、位置エネルギー。
それは、その粒子の位置の高さの表れであること。
それは、その粒子の重力の大きさの表れであること。
それは、その粒子の保存力の大きさの表れであること。

その粒子の土台が撤去されない限り。
それは、運動エネルギーに転化することは、決して無いこと。

それは、以下のような物質において、大きいこと。
例。固体。液体。液体性の生物。細胞。卵子。女性。

--
引力が強い粒子同士は、互いに一体融合化して、ひとまとまりになること。
そうした、粒子群のまとまりにおいて。

表面張力が働くこと。それは、表面積を最小にしようとする力であること。
対外的に、閉鎖性や排他性が、生じること。
その内部において、機密性が生じること。
その内部において、調和が生じること。

その内部において、調和を乱す粒子が発生した場合。
そうした粒子は、追放されること。
そうした粒子は、その存在自体を、抹消されること。

例。液体における、液体分子同士。液状の水における、水分子同士。
例。女性専用社会における、女性同士。
例。女性優位社会における、生物同士。例。ロシア社会や中国社会や韓国社会や日本社会における、人間同士。

--
引力が弱い粒子同士は、互いにバラバラで、ひとまとまりにならないこと。
例。気体における、気体分子同士。空気における、酸素分子同士。
例。男性専用社会における、男性同士。
例。男性優位社会における、生物同士。例。欧米社会や中東社会における、人間同士。

--
ある粒子において。
質量。万有引力。保存力。それらの大きさは、互いに比例すること。

--
ある粒子における、引力。その発生源。
それは、その粒子における保存力であること。

--
ある粒子における、保存力。その発生源。
それは、その粒子そのものを成立させる力であること。
それは、その粒子そのものを維持する力であること。
それは、その粒子そのものを保つ力であること。
それは、その粒子そのものに、内蔵され、内包されていること。

それは、その粒子そのものの根源であること。
それは、その粒子そのものと不可分であること。

保存力。その探求。
それは、以下の内容である。
物質の根源そのもの。その探求。

追加内容。2023年3月下旬初出。従来の物理学における保存力の概念とその限界。保存力の概念の根本的な革新の必要性。保存性の概念の、既存物理学への新規導入の必要性。観察物理学の新規提唱。質子の概念の新規提唱。

従来の物理学における、保存の概念。それらの限界。

従来の物理学における、保存則。
それは、以下の内容である。
--
エネルギー保存の法則。
孤立系において、エネルギーの総量ないし総和は、変化しないこと。
--
運動量保存の法則。
閉鎖的で外力が働かない系において。
その系の運動量の総和は、不変であること。
その系の個々の物体の運動量が変化した場合において。

それらの運動量の総和は、変化しないこと。
--
角運動量保存の法則。
ある軸に対して回転運動を行っている物体において。
角運動量。回転の勢いを表す量。
物体に働く合力が中心力である場合。角運動量は、時間によらず一定であること。
--
電荷の保存則。電気量の保存則。
孤立系において、電気量の総量は、恒久的に変化しないこと。
--
質量保存の法則。
化学反応の前後において。
物質の総質量は、変化しないこと。
--

上記の各々の法則における、共通内容の要約。
それは、以下の内容である。
--
物質的変化。化学的変化。
そうした変化の前後において。
物理量の総和の値が、変化しないこと。
物質間における結合の総量の値が、変化しないこと。
--
物理現象。その時間的変化。その段階的変化。
そうした変化において。
孤立系の内部において。
ある物理量の総和の値が、変化しないこと。
--

物理学における、従来の保存に関する知見。
物理学における、従来の保存則。
それらにおける、根本的な問題点。
それは、以下の内容である。
--
それらの内容は、エネルギー系に、偏っていること。
それらの内容は、運動系に、偏っていること。
それらの内容は、動的反応に、偏っていること。
--

それらの内容は、保存力の行使や不動性についての内容を、無意識のうちに、意図的に除外し省略していること。
それらの内容において。保存力の行使や不動性についての内容が、欠如したままであること。
--

その発生原因。
それは、以下の内容である。
--
そうした知見が、専ら、気体性社会の産物だったから。
そうした知見が、専ら、気体的思想の産物だったから。
気体は、高いエネルギー性の物質であること。
気体は、高い運動性の物質であること。
その結果。気体的思想は、エネルギーや運動や動的反応のみを重視すること。
そうした気体的思想で動く気体性社会。例。欧米諸国。
そうした社会は、エネルギーや運動や動的反応に関する知見のみを、科学的知見として重視すること。
そうした社会は、保存力に関する知見を、科学的知見としては軽視すること。
一方。
液体的思想で動く液体性社会。
そうした社会は、本来は、保存力に関する新たな知見を、生み出すべきであったこと。
しかし。
そうした社会は、新たな未知の知見をもたらす能力が、根本的に欠如していること。
--

それらの結果。
保存力に関する新たな知見が、今なお、十分には、もたらされていないこと。

私は、液体的思想に基づいて、物質保存則についての新たな知見を、追加して行きたい。
それらは、以下の内容である。

物質の保存。
それは、物質に対する、保存力の行使であること。

物質の保存。
その有効な方法。
それは、以下の内容である。

孤立系の内部と外部とを、区別すること。
物質における保存力は、孤立系の内部に限定される形で、行使されること。

孤立系の内部。
それは、保存系と呼ぶことが出来ること。

孤立系における孤立性を、完全に保持すること。
孤立系において。漏れや隙間が、完全に無いこと。
孤立系において。その包装やパッケージが、完全であること。
例。真空パックされた、レトルト食品。
例。テトラパックで提供された、乳飲料。

その物質そのものが、以下の性質を持っていること。
その物質そのものが、以下の力を持っていること。
--
外部影響を、シャットアウトする力。
完全な包含性。
完全な内包性。
完全な覆面性。
完全なシール性。
完全な対外隔離性。
完全な対外閉鎖性。
完全な対外遮断性。
完全な排他性。
外部物質の侵入を、完全に禁止する力。
外部物質を、その内部から、完全に締め出す力。
外部物質を、その内部から、完全に締め切る力。
完全な対外防御性。
完全な防御武装性。

完全な護衛性。
表面を最小化すること。液体における、表面張力。
例。真空パック容器。外気のシャットアウト。
例。魔法瓶。冷蔵庫。二重窓。衣類。その外部における温度変化の、シャットアウト。
例。サージカルマスク。その外部における菌やウィルスの、シャットアウト。

--
その内部における、完全な調和性。
その内部における、完全な平和性。
例。温室生活。
--
その内部における、完全な機密性。
内部物質を、外部に、一切出さない力。
内部物質を、内部のみに、閉じ込める力。
内部物質を、密閉する力。
内部物質を、密封する力。
内部物質の漏洩を、完全に禁止する力。
その内部と外部とを繋ぐ通路の存在を、完全に禁止する力。
その内部の存在自体を、外部に知られないようにする力。
その内部の存在自体を、最初から無かったことにする力。

その物質が、以下の性質を持っていること。
完全な不動性。
完全な不変性。
完全な不活性。

その物質が、以下の性質を持っていること。
--
仮にそれ自身が傷付いた場合。その傷を、自力で、独力で、直ぐに治す力。
完全な原状復帰性。
完全な原状回復性。
完全な治癒性。
完全な予防性。
--
いったんその内部へと侵入した、外部からの影響を、再びシャット

アウトする力。
いったんその内部へと侵入した外部物質を、その外部へと、再び追い出す力。
例。空気清浄機。侵入したウィルスのシャットアウト。
--

物質における、外部からの影響。その分類。
それらは、以下の内容である。
--
気体性の影響。外部気体の侵入。有害ガスの侵入。
液体性の影響。外部液体の侵入。津波の流入。有害溶剤の流入。
固体性の影響。外部固体の侵入。土砂の流入。
--

物質における、防御。
物質における、外部からの影響の防止。
シールド。プロテクト。
それらの分類。
それらは、以下の内容である。

粒子の有無の影響。
真空性の維持に対する妨害の、防止。例。真空パック容器の、万能化。
粒子の存在維持に対する妨害の、防止。例。宇宙船内部における、酸素や水の維持。

気体性の影響。
外部気体の侵入に対する、防止。気密性の確保。例。寒冷地における、冷気流入防止のための、二重窓の万能化。
内部気体の漏出に対する、防止。気密性の確保。例。寒冷地における、暖気流出防止のための、二重窓の万能化。
--
液体性の影響。
外部液体の侵入に対する、防止。濡れの防止。例。台所の水仕事に

おける、水濡れ防止のための、絆創膏の万能化。
内部液体の漏出に対する、防止。液漏れの防止。例。浴室におけ
る、水漏れ防止シールドの万能化。

--

固体性の影響。
外部固体の侵入に対する、防止。
外部の岩石や土砂の、流入の防止。例。砂防ダムの完全化。
外部の粉塵の流入の防止。例。飛翔する有害昆虫の侵入を防止す
る、網戸の完全化。
内部固体の漏出に対する、防止。
内部の岩石や土砂の、流出の防止。例。コンクリート擁壁の完全
化。
内部の粉塵の流出の防止。例。小麦粉のパッケージの完全化。

--

外部温度影響の防止。低温や高温に対する防御。
外部湿度影響の防止。乾燥や湿潤に対する防御。
外部圧力影響の防止。低圧や高圧に対する防御。崩落の防止。

傷に対する防御。
その外部は、傷付くが、その内部は、傷付かず、不変であること。
変形に対する防御。
その外部は、変形するが、その内部は、変形せず、不変であるこ
と。
切断に対する防御。
その、外部も内部も、切断されず、不変であること。
反応に対する防御。
その外部は、化学反応して変質するが、その内部は、変質せず、不
変であること。

不活性の物質。

--

不活性。
外部からの働きかけに対して、反応しないこと。
例。化学反応しないこと。

-
外部からの働きかけに対して。
とても微弱に反応すること。
とてもゆっくり反応すること。
とても鈍く反応すること。
例。金地金。白金の地金。極めて、化学反応しにくいこと。
例。窒素。電子を必要としないこと。電子を外部から獲得しないこと。内部の電子を喪失しないこと。不活性ガス。
-

--
反応。
物質内部における、リンクや結合の、切除や置換。
--
不反応。
物質内部における、リンクや結合の、保持や維持。
--
活性。
反応すること。
--
不活性。
反応しないこと。不反応であること。
--

保全。
孤立系の、保持や維持。
孤立系の、保存や存続。
例。環境保全活動。環境を、系として捉えること。

存続。
現状維持。そのためのケア。現状変化に対する予防。それらの行為を、自力で行うこと。セルフケア。
例。健康維持。病気予防。
現状変化後の、原状復帰や原状回帰や原状修復や、源への回帰や、根本への回帰。そのための治癒行為。それらの行為を、自力で行うこと。自己修復。

例。傷や変形や捲れの、治癒や修復。傷付いた部分における、かさぶたの生成。離反部分の、縫い合わせや接着。
例。液体表面を斬っても、直ぐに元に戻ること。

物質における、不変性。
例。
物質における、不動性や定住性。物質の所在位置における、空間的な、時間的な、不変性。

物質における、永遠性。物質の不変性において、空間的な限界が存在しないこと。
物質における、永久性。物質の不変性において、時間的な限界が存在しないこと。

それらの対立概念。
仏教における、万物流転の概念。

不変性。
物質を構成する粒子間の、組み合わせやリンクは変化すること。
しかし、粒子それ自体の性質は、変化しないこと。
--
物質を構成する粒子間の、組み合わせやリンクが、変化しないこと。
物質を構成する最小単位の素粒子それ自体の性質が、変化しないこと。
物質を構成する粒子が形成する社会のトポロジーが、変化しないこと。
--
物質を構成する粒子間の、組み合わせやリンクが、保持され続けること。
物質を構成する最小単位の素粒子それ自体の性質が、保持され続けること。
物質を構成する粒子が形成する社会のトポロジーが、保持され続けること。
--

物質における、不変性。
それは、以下の内容である。
物質を構成する粒子において。
そうした粒子社会のトポロジーにおける不変性。
そうした粒子社会のトポロジーにおける恒常性。

反応。
物質を構成する粒子間の、順列や組み合わせやリンクが、変動すること。変質。変量。
粒子それ自体の性質が、変動すること。変質。変量。
粒子の社会のトポロジーが、変動すること。変質。変量。
例。
合成。下位レベルの粒子群から、上位レベルの粒子を、合成すること。
分解。上位レベルの粒子群を、下位レベルの粒子へと、分解すること。

物質。
それは、以下の内容である。

根本粒子。素粒子。
粒子同士の、順列や組み合わせや、リンクや連結や接続や、相互作用。それらの有無。
粒子の社会。

保存性の物質。その本質。
例。液体。生物一般。液体性生物。女性。女性優位社会の人々。
例。中国。ロシア。日本。韓国。
--
その物質は、自己保存を最優先すること。
その物質は、自己保身性で動くこと。
その物質は、他の物質を犠牲にしてでも、それ自身は存続しようとすること。

--
その物質は、内部で調和すること。
--
その物質は、外的存在に対して、その内部への侵入を拒むこと。
その物質は、外的存在に対して、その表面を最小化すること。その物質は、表面張力を保持すること。
その物質は、その内部が、温室的で、快適であること。
その物質は、その内部からの脱出が、困難であること。
その物質は、専制支配的であること。
-
そうした外的存在が、その物質よりも、強力であった場合。
その物質は、そうした外的存在からの働きかけに対して、盲目的な丸呑みを行うこと。
例。女性が、強権者の主張内容の丸暗記を、得意とすること。女性が、学校の教科書の丸暗記を、得意とすること。
その物質は、そうした外的存在に対して、媚び、迎合し、忖度すること。
例。女性が、強権者に対して、媚び、迎合し、忖度することを、得意とすること。日本人が、アメリカに対して、媚び、迎合し、忖度することを、得意とすること。
その物質による、そうした動作は、そうした外的存在が居る限り、無限に続くこと。
その物質は、そうした外的存在が去った瞬間に、そうした盲目的な丸呑みを、直ちに停止すること。
その物質は、そうして、程無く、原状復帰すること。
その物質は、そうして、程無く、自主的に自己治癒すること。
-

--
その物質は、自己保身性を、より高めようとすること。
その物質は、それ自身を、より守りやすくしようとすること。
その物質は、それ自身を、より防御しやすくしようとすること。
--
その物質は、自分からは、動かないこと。
その物質は、自分からは、判断しないこと。
その物質は、動作を、他の物質へと、丸投げすること。
その物質は、作業や仕事を、他の物質へと、丸投げすること。
その物質は、判断を、他の物質へと、丸投げすること。
その物質は、他の物質が動くことで、初めて、それ自身も動くこと。

その物質は、外部からエネルギーが流入することで、初めて、それ自身も動くこと。
その物質は、他の物質による働きかけがあることで、初めて、それ自身も動くこと。
その物質は、他の物質による働きかけが終了することで、直ちに、不動化すること。
その物質は、エネルギー性物質による稼ぎを、必要とすること。
--
その物質は、リスクを回避すること。
その物質は、リスクを、他の物質へと、転嫁すること。
その物質は、責任を回避すること。
その物質は、責任を、他の物質へと、転嫁すること。
その物質は、チャレンジを回避すること。
その物質は、チャレンジを、他の物質へと、転嫁すること。
その物質は、新たな未知の領域への自主的な進出を、回避すること。
その物質は、新たな未知の領域への自主的な進出を、他の物質へと、転嫁すること。
その物質は、何時までも、後進的であること。
--
その物質は、互いに、他の物質の助けを得やすくしようとすること。
その物質は、護送船団方式で、動くこと。
その物質は、集団主義で、動くこと。
その物質は、同調主義で、動くこと。
--
その物質の動作する環境は、恵まれていて、安全で、安定していること。
--

例。水滴。水溜り。湖。海。
それは、一箇所に留まって、動かないこと。
それは、体積一定であること。
それは、表面張力が働いていて、形状が丸いこと。
それは、軽い外部物質を、排除すること。例。極く小さな昆虫が、水面の上に浮くこと。
それは、重い外部物質を、盲目的に丸呑みすること。例。投石が、一発で、水面下へと沈むこと。
それは、一度、内部に入った外部物質を、外に出そうとしないこ

と。例。水滴の中に入った蟻が、その外に出られなくなり、陸上に居ながらにして、その水滴の内部で溺れること。
それは、他の物質が動くことで、初めて、それ自身も動くこと。
例。風による、水面の波の発生。地殻変動による、津波の発生。
それは、外部からエネルギーが流入することで、初めて、それ自身も動くこと。例。太陽熱による、水の高温化と、内部対流の発生。
それは、他の物質による働きかけがあることで、初めて、それ自身も動くこと。例。気流で動く雲。大気の寒冷化による降雨の発生。
山岳勾配の発生による、河川の発生。
それは、他の物質による働きかけが終了することで、直ちに、不動化すること。例。風が終息すると、直ちに、水面が動かなくなること。
それは、その内部が、温室的で、快適であること。例。水中や海中は、生物にとって、より生きやすい環境であること。

エネルギー性の物質。その本質。
例。気体。気体性生物。男性。男性優位社会の人々。例。欧米諸国。中東諸国。

--
その物質は、自己拡大を最優先すること。
--
その物質は、高速運動を好むこと。
その物質は、エネルギッシュな活動を好むこと。
その物質は、仕事を好むこと。
その物質は、稼ぎ事を好むこと。
--
その物質は、他の物質の破壊を、好むこと。
その物質は、他の物質への体当たりを、好むこと。
その物質は、他の物質への突撃を、好むこと。
その物質は、他の物質への直撃を、好むこと。
その物質は、他の物質への、掘削や穿孔を、好むこと。
その物質は、暴力支配的であること。
それらの結果。
その物質は、それ自身が傷付きやすいこと。
その物質は、自己消耗しやすいこと。
その物質は、自己破壊しやすいこと。
その物質は、自己保身しないこと。

その物質は、保存性物質による治癒行為の実行を、必要とすること。
--
その物質の動作する環境は、苛酷で、危険で、不安定であること。
--
その物質は、新たな未知の領域への自主的な進出を、好むこと。
その物質は、何時までも、先進的であること。
--

保存力についての記述に関する、補足。

上記内容において。
私による、保存力の定義。
それは、従来の伝統的な物理学における定義とは、大きく違っていること。

保存力。
それについての、従来の伝統的な物理学における定義。
それは、以下の内容である。
ある物質が、新たに運動を起こすための、潜在的なエネルギーの、それ自身への、貯蓄や保存。例。固体における、位置エネルギー。

保存力。
それについての、私の定義。
それは、以下の内容である。
ある物質における、それ自身を保存し保持する、力。

保存力に関して。
従来の定説とは、別の種類の力が、別途存在すること。
私は、そのことに、液体の動きを観察していて、初めて気付いた。
私は、その力の具体的内容を、上記において、明記した。

観察物理学の提唱。

私は、以下のような内容の物理学を、新たに提唱する。

それは、従来の、数式運用主体の物理学とは、異なるものである。
それは、以下の内容である。
物質の現物の動作の、実験心理学的手法に基づく、観察。
物質の、コンピュータシミュレーションに基づく動作の、実験心理学的手法に基づく、観察。
そうした観察に基づく分析を、主要な内容とする、物理学。観察物理学。

例。
液体分子運動の視覚的なシミュレーション結果の、観察。
現物の水滴の動きの、現場観察。
そのような、液体の動作や性質の、観察と分析。

それらの物質についての、視聴覚を活用した、観察。
それらの物質の性質の、感覚心理学的で、官能検査的な、分析。

物質と社会との関連についての分析。男女の性差との関連。それらについての、ここまでの内容の、要約。

私は、私自身が得た最終的で根源的な結論から、今までとは逆方向の内容の展開を、新たに行った。
それらは、生物や人間についての内容を一括したものを、含むこと。
それらは、男女の性差の根源についての内容を一括したものを、含むこと。
私は、それらの内容の要約を、以下において、記述する。

物質には、以下のような 2 種類の力が、存在すること。
エネルギー性の力。作動する力。移動する力。仕事する力。
保存性の力。制止する力。定住する力。不動の力。

そのことに対応して。
物質には、以下のような 2 種類が、存在すること。
エネルギー性の物質。動き回る物質。変動する物質。作動する物質。移動する物質。
保存性の物質。動かない物質。現状維持する物質。原状回復する物質。制止する物質。不動の物質。定住する物質。

気体。それは、相対的に、エネルギー性の物質であること。
液体。固体。それらは、相対的に、保存性の物質であること。

生物一般。人間一般。それらは、液体であること。それらは、保存性の物質であること。
細胞。卵子。女性。それらは、液体的生物であること。それらは、生物における、基盤や中心や本体に、当たること。
ウィルス。精子。男性。それらは、気体的生物であること。それらは、生物における、外的展開物や、周辺部や外縁部への展開物や、付随物や、使い捨ての試行物に、当たること。

物質における、思想やポリシー。
エネルギー的な思想。作動的な思想。気体的思想。
保存的な思想。制止的な思想。液体的思想。固体的思想。

物質は、固体から液体へ、液体から気体へと、変化すること。
物質は、気体から液体へ、液体から固体へと、変化すること。
固体と気体は、そうした変化における、両端に位置すること。
液体は、そうした変化における、中間に位置すること。
その結果。以下の関係が成立すること。
固体的思想。ターミナル的思想。極論。
液体的思想。中間的思想。中心的思想。中庸論。
気体的思想。ターミナル的思想。極論。普遍的思想。

物質には、以下のような 2 種類が、存在すること。

粉砕性の物質。
粉末化する固体。例。ビスケット。それらは、粉砕や破壊が、可能であること。
気体。粉末性の固体。例。小麦粉。砂粒。それらは、最初から、粉砕された状態であること。
それらは、以下のような性質を持っていること。
飛散性。離散性。分離性。分断性。分散性。分別可能性。分析可能性。デジタル性。客観性。
乾燥性。

まとまる性質の物質。くっ付く性質の物質。

固体。例。金属。
液体。
それらは、粉砕や破壊が、不可能であること。
それらは、外的な力により、変形可能であるが、その後も、まとまり続けること。
それらは、外的な力により、スプレー可能であるが、程無く、再びまとまること。
それらは、以下のような性質を持っていること。
連続性。アナログ性。
柔軟性。
自己保存性。自己保身性。
現状維持性。慣性。
順応性。
原状復帰性。自己治癒性。自己回復性。自己修復性。
分断の拒否。分析の拒否。客観視の拒否。
湿潤性。

物質には、以下のような２種類が、存在すること。
撓むことが不可能な物質。頑固な物質。変化不可能な物質。固体。
撓むことが可能な物質。柔軟な物質。変化可能な物質。液体。気体。

物質。
それは、以下の内容である。
粒子の社会。

その構成要素。
それは、以下の内容である。
粒子そのもの。
粒子間における、静的な結合。
粒子間における、動的な相互作用。
それらの有無。
それらの可能性や不可能性。
それらの、時間的な、空間的な、存在のあり方。
それらの量。強弱。大小。多少。長短。
それらの質。その内容は、感覚形容詞によって表現されること。

例。美しさ。

粒子間における、静的な結合。
その結合が強いこと。それは、物質に対して、以下のような性質をもたらすこと。
固さ。
それは、以下のように分類されること。
硬さ。その物質は、撓まないこと。
剛性。その物質は、撓むこと。

その結合が弱いこと。それは、物質に対して、以下のような性質をもたらすこと。
柔らかさ。その物質は、変形すること。
軟らかさ。その物質は、凹むこと。

粒子間における、静的な結合。
その結合が切れること。それは、物質に対して、以下のような性質をもたらすこと。
粉砕性。切断性。離散性。拡散性。

その結合が切れないこと。それは、物質に対して、以下のような性質をもたらすこと。
まとまり。癒着性。接着性。粘着性。自己治癒性。

粒子間における、動的な相互作用。
粒子同士が、相互の独立を保ちつつ、一時的に結合すること。
相互の衝突。一時的な結合と、その後の、再度の相互分離。
連絡。付き合い。やり取り。交流。交信。物流。
それらの強度の高さ。それは、気体では高く、液体では低い。
それらの頻度の高さ。それは、気体では低く、液体では高い。

それらの作用が強いこと。
それらの作用が切れないこと。
それは、物質に対して、以下のような性質をもたらすこと。
相互依存。同調。分業。システム化。煩わしさ。しつこさ。嫉妬。
相互関係における、厚さや、底の深さ。
それらは、気体でも液体でも、起きること。

それらの作用が弱いこと。
それらの作用が切れること。
それは、物質に対して、以下のような性質をもたらすこと。
孤立。独立。自立。自閉。寂しさ。淡白さ。相互関係における、薄さや、底の浅さ。
それらは、気体でも液体でも、起きること。

粒子間における、まとまり。
液体。固体金属。
それは、物質において、以下の性質を生み出すこと。
粒子間における、内部と外部との、区別。
粒子群が、それらの外部を切り捨てて、それらの内部のみでまとまること。
それらの外部に対する、閉鎖性や排他性の、発現。
それらの内部における、調和や温室性や統制の、発現。

粒子間における、結合やまとまりが、切れること。
その、結合やまとまりに、傷が付くこと。
それが、切れたままになること。
その傷が、付いたままになること。
例。切断された鉄骨。

それが、再びまとまること。
それが、再び、接着し癒着すること。
その傷が、自主的に修復されること。
それらは、以下の内容である。
原状復帰。原状回復。自己治癒。
例。
液体の水滴を斬ると、直ぐに、切れ目が消えて、元通りになること。
生物の皮膚の傷が、自然に治ること。

粒子間における、結合やまとまりが、切れないこと。
それらの、結合やまとまりの、度合いが、強過ぎること。
その結合が強固過ぎて、硬過ぎて、切ることが出来ないこと。
その接着や癒着や融合の度合いが強過ぎて、切ることが出来ないこと。

--
粒子間における、レベルの高低の存在。
低レベルの粒子。例。素粒子。
高レベルの粒子。例。高分子化合物。生物。人間。
低レベルの粒子群から、高レベルの粒子が、合成されること。
高レベルの粒子が、低レベルの粒子群へと、分解されること。

物質における、そうした粒子構造の、デジタル文字列情報による表現。
その実現が、物質の社会学の発展において、重要であること。

生物には、以下のような 2 種類が、存在すること。

エネルギー性の生物。
それは、以下の内容である。
気体性の生物。ウィルス。精子。男性。

保存性の生物。
それは、以下の内容である。
液体性の生物。細胞。卵子。女性。
固体性の生物。武装性の生物。硬質で剛性の外装を、身に着けた生物。鎧で武装した生物。甲虫。甲冑を身に着けた武者。

物質には、以下のような 2 種類が、存在すること。
ターミナル的な物質。気体。固体。
中間的な物質。調和的な物質。液体。

生物には、以下のような 2 種類が、存在すること。
ターミナル的で極端な、生物。ウィルス。精子。男性。
中間的で中庸的で穏健な、生物。細胞。卵子。女性。

物質には、以下のような 2 種類が、存在すること。

-
キツい物質。
高圧が掛かる物質。高圧を掛ける物質。

キツさ。
それは、以下の内容である。
高いレベルのエネルギーが掛かること。高いレベルの攻撃を受けること。高いレベルの暴力支配を受けること。
高いレベルの保存力が掛かること。高いレベルの束縛を受けること。高いレベルの専制支配を受けること。
高いレベルの刺激を受けること。過激性。
ターミナル性。極端性。
生物や人間の場合。左翼。右翼。

-
緩い物質。
低圧が掛かる物質。低圧を掛ける物質。

緩さ。
それは、以下の内容である。
低いレベルのエネルギーが掛かること。低いレベルの攻撃を受けること。低いレベルの暴力支配を受けること。
低いレベルの保存力が掛かること。低いレベルの束縛を受けること。低いレベルの専制支配を受けること。
低いレベルの刺激を受けること。マイルド性。
中間性。中庸性。穏健性。
生物や人間の場合。中道。
-

物質には、以下のような 2 種類が、存在すること。

-
量において。
多量の物質。

少量の物質。
-
質において。
高品質の物質。良質な物質。
低品質の物質。悪質な物質。
-

物質には、その分析の視点に応じて、以下のような種類が、存在すること。

--
湿度において。
乾いた物質。個人主義の物質。バラバラな物質。粉末状の物質。分離独立する物質。自律的な物質。自立的な物質。湿度が低い物質。
湿った物質。集団主義の物質。まとまる物質。一体化する物質。融合する物質。合体する物質。同調する物質。他律的な物質。相互依存的な物質。湿度が高い物質。

--
明度において。
-
明るい物質。
光量が多い物質。光線が当たる物質。
透明な物質。清らかな物質。光を通す物質。
-
暗い物質。
光量が少ない物質。光線が当たらない物質。
不透明な物質。濁った物質。光を通さない物質。
-

--
純度において。
純粋な物質。純血の生物。純度が高い物質。
混ざった物質。混合。混成。混交。交雑。混血の生物。雑種の生物。純度が低い物質。

--
温度において。
熱い物質。暑い物質。高い熱エネルギー量の物質。

温かい物質。暖かい物質。中庸な熱エネルギー量の物質。
冷たい物質。涼しい物質。寒い物質。低い熱エネルギー量の物質。

--
高度において。
高い物質。上方の物質。高い位置エネルギー量の物質。
低い物質。下方の物質。低い位置エネルギー量の物質。

物質における粒子。量子論と質子論。

粒子の種類。
それは、以下の内容である。
--
光子。
電子。
分子。原子。素粒子。

--
物質。
その分解の結果。原子。
-
原子。
その分解の結果。原子核。電子。
-
原子核。
その分解の結果。陽子。中性子。
-
陽子。
その分解の結果。素粒子。例。クォーク。レプトン。
-
その他。
光子。
-

量子。
物理量の最小単位。

物質における最小レベルの粒子の、数量。

私は、以下の存在を、新たに主張する。

質子。
物質の、本体や根本や本質の、最小単位。
物質における、品質や性質の、最小単位。

それらは、以下の内容である。
物質における最小レベルの粒子の社会における、トポロジー。

それは、以下のように分類されること。
保存力に基づくトポロジー。静的なトポロジー。最小レベルの粒子同士の、静的な、結合や構築や組み立て。それらのトポロジー。
例。生物的神経系における、固定回路。
エネルギーに基づくトポロジー。動的なトポロジー。最小レベルの粒子同士の、動的な相互作用。それらのトポロジー。例。生物的神経系における、神経細胞間の発火の伝達。生物的神経系における、可変回路。

上記の両者を併合した内容。
それは、以下の内容である。
生物や人間の社会におけるトポロジー。例。G.Simmelの形式社会学や、L. Von Wieseの関係学。

物質における、品質や性質の、研究。
物質の粒子の社会における、トポロジーの研究。
それらは、結局は、物質の社会学であること。

物質の社会学。例。生物や人間の、社会学。
そうした社会学は、いずれも、トポロジーの一種であること。

トポロジー。
それは、以下の内容である。

--

存在物における、形状や形式。
それらの間における、相同性や相似性や互換性や置換可能性の、チェック。

互いに異なる形状や形式について。
それらの数え上げ。
それらの分類。

そうした形状や形式についての、分析項目や分類基準。
それらの策定。
--

追加内容。2023年4月上旬初出。エネルギー性物質と保存性物質との、対比。エネルギー的思想と保存的思想との、対比。

エネルギー性の物質。保存性の物質。それらの性質における、対比。

--
凡例。
[E] エネルギー性の物質。
[C] 保存性の物質。
--

-
実例。
[E] 気体。気体性の生物。ウィルス。精子。精細胞。男性。
[C] 液体。生物一般。液体性の生物。細胞。卵子。卵細胞。女性。
-

[E] 自分からは保存行為をしない存在。
[C] 自分からは仕事をしない存在。

[E] 能動的にしか仕事することが出来ない存在。
[C] 受動的にしか仕事することか出来ない存在。仕事を、エネルギー性物質に押し付ける存在。

[E] 受動的にしか保存行為が出来ない存在。保存行為を、保存性物質に押し付ける存在。
[C] 能動的にしか保存行為が出来ない存在。

[E] 現状変更や現状破壊しか出来ない存在。
[C] 現状維持や原状回復しか出来ない存在。

[E] 動かすことしか出来ない存在。
[C] 止めることしか出来ない存在。

[E] 破壊しか出来ない存在。
[C] 保全しか出来ない存在。

[E] 消耗することしか出来ない存在。
[C] 補給することしか出来ない存在。

[E] 現状変更しか出来ない存在。
[C] 現状維持しか出来ない存在。

[E] 危険なことしか出来ない存在。
[C] 安全なことしか出来ない存在。

[E] アクセルを踏むことしか出来ない存在。
[C] ブレーキを踏むことしか出来ない存在。

[E] 変えることしか出来ない存在。
[C] 変えないことしか出来ない存在。

[E] チャレンジすることしか出来ない存在。
[C] 禁止することしか出来ない存在。

[E] 動き回ることしか出来ない存在。
[C] 動かないことしか出来ない存在。

[E] 新機軸のことしか出来ない存在。
[C] 前例踏襲しか出来ない存在。

[E] 体積膨張しか出来ない存在。
[C] 体積一定化しか出来ない存在。

[E] 既踏領域に滞留していることが出来ない存在。
[C] 未踏領域に進出することが出来ない存在。

[E] 先進的でいることしか出来ない存在。
[C] 後進的でいることしか出来ない存在。

[E] 開放することしか出来ない存在。
[C] 閉鎖し隔離することしか出来ない存在。

[E] 内部を公開することしか出来ない存在。
[C] 内部を機密化することしか出来ない存在。

[E] 自由化することしか出来ない存在。
[C] 閉じ込めて束縛することしか出来ない存在。

[E] 個別に動くことしか出来ない存在。
[C] 護送船団方式で動くことしか出来ない存在。

[E] 楽観的で居ることしか出来ない存在。
[C] 悲観的で居ることしか出来ない存在。

[E] 積極的で居ることしか出来ない存在。
[C] 消極的で居ることしか出来ない存在。

[E] 反転することしか出来ない存在。
[C] 順応することしか出来ない存在。

[E] 批判し反抗することしか出来ない存在。
[C] 調和し仲良くすることしか出来ない存在。

[E] 離散することしか出来ない存在。
[C] 融合することしか出来ない存在。

[E] 衝突して傷付くことしか出来ない存在。
[C] 治癒することしか出来ない存在。

[E] 相手を殺傷することしか出来ない存在。
[C] 相手を救済することしか出来ない存在。

[E] 温室の外部で生活することしか出来ない存在。
[C] 温室生活することしか出来ない存在。

[E] 相手を攻撃することしか出来ない存在。
[C] 相手を締め出すことしか出来ない存在。

[E] 相手を暴力支配することしか出来ない存在。
[C] 相手を専制支配することしか出来ない存在。

エネルギー的思想と、保存的思想。

エネルギー性の物質が持つ、その振る舞いにおける、ポリシー。
それは、以下の内容である。
エネルギー的思想。
例。
気体的思想。
男性的思想。
移動生活様式の思想。
実例。
欧米諸国の思想。中東諸国の思想。

保存性の物質が持つ、その振る舞いにおける、ポリシー。
それは、以下の内容である。
保存的思想。
例。
液体的思想。
生物的思想。
女性的思想。
定住生活様式の思想。

実例。
中華思想。ロシアの思想。日本の思想。韓国の思想。

物質における、別の物質への対応。

保存性物質における、相手の物質への対応。
例。液体。生物一般。液体性生物。細胞。卵子。女性。
その物質は、自分からは、動かないこと。
その結果。
その物質の表面は、平和であり続けること。
その物質の内部は、調和し続けること。
その物質の内部においては、複数の構成粒子が、微動し、互いに牽制し合っていること。その物質の内部においては、粒子間の専制支配が行われていること。
その物質は、体積が一定であり、膨張しないこと。
その物質は、それ自身の表面において、その表面を最小限にする力が、常時、働いていること。それは、表面張力であること。
その結果。
その物質は、他の物質を、その内部から、締め出すこと。
その物質は、他の物質を、撃退すること。
その物質は、他の物質から、それ自身を防御すること。
他の物質は、そのままでは、それ自身の内部に入ることが出来ないこと。

相手の物質が、その物質の表面張力よりも、力学的に、より劣位で下位である場合。
相手の物質が、軽い場合。
例。水面における、小さい昆虫。
その物質の表面は、少し凹むだけであること。
相手の物質は、その物質への加入審査において、不合格となること。
相手の物質は、その物質への加入を一方的に拒否されること。
相手の物質は、その物質の表面に浮いたままとなること。
相手の物質は、免疫的に、その物質から撃退されること。

相手の物質が、その物質の表面張力よりも、力学的に、より優位で上位である場合。

相手の物質が、重い場合。
例。水面に投入される、大きくて重い石。
その物質の表面が、凹むこと。
相手の物質は、その物質への加入審査において、合格となること。
相手の物質は、その物質への加入を、瞬間的に拒絶された後、次の瞬間には許可されること。その瞬間、その物質の表面に、しぶきが上がること。
相手の物質は、その物質の表面を突破して、その物質の内部へと加入すること。
相手の物質は、免疫的に、その物質へと感染すること。
その物質は、相手の物質を、丸呑みすること。
その物質は、相手の物質に対して、迎合すること。
その物質は、相手の物質と、合体し、癒着すること。
その物質は、相手の物質を、包含すること。
相手の物質は、その物質の内部に一度加入すると、濡れること。
その結果。相手の物質は、その物質から独立した状態では、再び外出することが、二度と出来なくなること。

エネルギー性物質における、相手の物質への対応。
例。気体。気体性生物。ウィルス。精子。男性。
その物質は、自分から動くこと。その物質は、臨機応変に、位置的に、前進と後退とを、繰り返すこと。
その物質の表面は、存在しないこと。その物質において、内部と外部との区別は、存在しないこと。
その物質は、体積が不定であること。その物質の体積は、そのままでは、膨張し続けること。
その物質は、周囲の物質を、常時、攻撃し続けること。その結果、その物質が、周囲に対してもたらす圧力。気体の場合。それは、気圧であること。
その結果。
その物質は、他の物質による、その物質自身の領域への加入を、問題無く受け入れること。その物質の存在領域は、他の物質に対して、開かれていること。
その物質の複数の粒子は、他の物質を、暴力的に、個別に攻撃し続けること。それらの粒子は、粗暴であること。それらの粒子は、暴力による支配を行うこと。
その物質が、他の物質に対して、力学的に、優位で上位である場合。
その物質の体積は、そのまま、いつまでも増加し続けること。

例。海水面近くを立ち昇る、火山ガスの大きな気泡。
その物質が、他の物質に対して、力学的に、劣位で下位である場合。
その物質の体積は、増加が停止し、圧縮され、収縮すること。
例。深海中の極小の気泡。

物質同士における、混合と乖離。
共通性を持つ物質同士。
共通部分を持つ物質同士。
同種の物質同士。
互いに握手可能な物質同士。
そうした物質同士は、互いに混合すること。
例。リンゴ果汁とオレンジ果汁。

共通性を持たない物質同士。
共通部分を持たない物質同士。
異種の物質同士。
互いに握手不可能な物質同士。
そうした物質同士は、互いに乖離すること。
例。水と油。

仲介物質。
二つの異なる物質の両方に対して、共通部分を持っている物質。
二つの異なる物質の両方に対して、握手が可能である物質。
そうした仲介物質が新たに混ざることにより、乖離していた二種の異なる物質同士が、新たに混合可能になること。
例。互いに乖離していた水と油とに、新たに、石鹸液を混ぜること。そのことで、水と油とが、新たに混合すること。

エネルギー性物質と、保存性物質との、相互依存。生物の場合。

エネルギー性物質の一種としての、エネルギー性の生物。
エネルギー性の生物としての、ウィルスや精子や男性。その応用として。移動生活様式社会の生物。男性優位社会の生物。

保存性物質の一種としての、保存性の生物。

保存性の生物としての、細胞や卵子や女性。その応用として。定住生活様式社会の生物。女性優位社会の生物。

彼らは、以下のように、相互依存していること。
エネルギー性の生物が、仕事をして、稼いで、その過程において、消耗し、傷付くこと。
そうしたエネルギー性の生物に対して、保存性の生物が、治癒を施し、養分補給を行うこと。
そのことで、保存性の生物が、エネルギー性の生物の生存を保つこと。
その一方で。
保存性の生物は、自力では、仕事や稼ぎを行うことが不得手であること。
その結果。
保存性の生物は、エネルギー性の生物に対して、仕事をさせて、稼がせること。
その結果。
保存性の生物は、エネルギー性の生物経由で、彼らの生存に必要な資源を得ることが出来ること。

--
有性生殖を行う生物の場合。

-
保存性の生物による、エネルギー性の生物に対する、引き寄せや繋ぎ止めが、実行されること。
女性による、男性に対する、引き寄せや繋ぎ止めが、実行されること。
女性が男性を引き寄せる力。女性が男性を繋ぎ止める力。性的誘引力。
エネルギー性の生物にとっての、保存性の生物に対する、配偶者としての適格性の審査内容。
男性にとっての、女性に対する、配偶者としての適格性の審査内容。
それは、以下の内容である。
保存力の強さ。
相手の傷や疲れを、治癒する力。相手と一体融合化して寄り添う力。相手を看護する力。
彼らの子孫を生成する力。彼らの子孫の保育を行う力。
相手に対して、養分補給を行う力。相手に対して、食事を用意する

力。
物事の原状復帰を行う力。物事を元通りにする力。汚れた部屋を、元通りに綺麗にする力。汚れた衣類を、元通りに綺麗にする力。
定住する力。動じずに、どっしり構える力。相手を受け止める力。

-
エネルギー性の生物による、保存性の生物に対する、引き寄せや繋ぎ止めが、実行されること。
男性による、女性に対する、引き寄せや繋ぎ止めが、実行されること。
男性が女性を引き寄せる力。男性が女性を繋ぎ止める力。性的誘引力。
保存性の生物にとっての、エネルギー性の生物に対する、配偶者としての適格性の審査内容。
女性にとっての、男性に対する、配偶者としての適格性の審査内容。
それは、以下の内容である。
エネルギーの強さ。運動能力の高さ。稼働能力の高さ。
仕事をする力。稼ぐ力。
物事を突破する力。物事を貫通する力。押しの強さ。チャレンジ精神の強さ。
仕事に伴う摩耗や消耗や致傷に対する、耐性の強さ。
相手に対して、自己保身しやすさを提供する力。相手に対して、安全で快適で楽な、温室生活を提供する力。相手を護衛する力。相手にとっての敵や脅威を、攻撃し殲滅する、力。
移動する力。自力で自発的に能動的に動き回る力。

--
エネルギー性の生物と保存性の生物との双方にとって。
そうした引き寄せや繋ぎ止めが、相互に必要な理由。

-
保存性の生物において。
彼ら自身の生存維持のための資源の獲得。
そうした資源を獲得するために必要な、稼ぎや仕事。
そうした稼ぎや仕事を、本来は、彼ら自身で、一通り遂行する必要があること。
しかし。彼ら自身において、そうした稼ぎや仕事を十全に行う能力が、不足していること。
そのため。

そうした稼ぎや仕事を行う、エネルギー性の生物が、生活上のパートナーとして、必須であること。

-
エネルギー性の生物において。
彼ら自身が、仕事や稼ぎの実行中において、とかく、傷付き、消耗し、疲れやすいこと。
それらに対応するための、治癒や、養分補給や、疲労回復。すなわち。自己保存行為。
そうした自己保存行為を、自前で、一通り遂行すること。
しかし。彼ら自身において、そうした自己保存行為を十全に行う能力が、不足していること。
そのため。
そうした保存力行使を行う、保存性の生物が、生活上のパートナーとして、必須であること。

有毒物質と無毒物質と治癒物質。

有毒物質。
ある保存性物質における保存力を、無効化する、別の物質。
元の物質における、様々な静的結合や動的相互作用。
それらの結合や相互作用を、一通り、除去し抹消する、別の物質。
分解を行う物質。解体を行う物質。
それらの結合や相互作用を、一通り、置換し組み換える、別の物質。変質を行う物質。変性を行う物質。
例。生物にとっての、病原菌。

無毒物質。
ある保存性物質における保存力を、無効化しない、別の物質。
元の物質における、様々な静的結合や動的相互作用。
それらの結合や相互作用を、一通り、現状維持する、別の物質。
例。生物にとっての、無菌の食事皿。

治癒物質。治療薬としての物質。
ある保存性物質における保存力を、向上させる、別の物質。
元の物質における、様々な静的結合や動的相互作用。
それらの結合や相互作用を、一通り、原状回復する、別の物質。

例。生物にとっての、食中毒の治療薬。

保存性の物質における、免疫。

他の物質による、その物質内部への侵入について。

--
事前の対策。
相手の物質による侵入の、事前の阻止。
-
相手の物質に対する、反撃や撃退。
相手の物質に対する、防御や阻止。
-

--
事後の対策。
相手の物質による侵入を許した後。
相手の物質そのものの、無毒化や解毒。
相手の物質による、変性力や変質力の行使を、阻止すること。
相手の物質による、分解力や解体力の行使を、阻止すること。

物質と、持ち物。

-
エネルギー性の物質の場合。
エネルギー性の生物の場合。例。男性。
例。移動生活様式の社会の人間の場合。
彼ら自身の持ち物を、積極的に、手放し、捨て去り、身から離し、放流すること。
彼ら自身の持ち物に対して、執着しないこと。彼ら自身の土地に対して、執着しないこと。例。既得権益の喜捨。
そのことで。彼ら自身が、より身軽になること。
そのことで。彼ら自身が、より動き回りやすくなること。
そのことで。彼ら自身の速度や加速度が、より高速化しやすくなる

こと。
そのことで。彼ら自身における、動かす力を、より発揮しやすくなること。
そのことで。彼ら自身のエネルギー性を、より発揮しやすくなること。

-
保存性の物質の場合。
生物一般の場合。
保存性の生物の場合。例。女性。
例。定住生活様式の社会の人間の場合。
彼ら自身の持ち物を、積極的に、蓄え、貯めること。
彼ら自身の持ち物に対して、執着すること。彼ら自身の土地に対して、執着すること。例。既得権益の蓄積。
一度、彼ら自身の内部に入れた物質を、そのまま外部に放出すること無く、ずっと、彼ら自身の内部へと、閉じ込めたままにすること。
そのことで。彼ら自身が、より富むこと。彼ら自身が、より太ること。彼ら自身が、より肥えること。
そのことで。彼ら自身が、より身重になること。
そのことで。彼ら自身が、より、停止しやすくなること。彼ら自身が、より、不動になること。
そのことで。彼ら自身の速度や加速度が、より低速化し、速度ゼロ化しやすくなること。
そのことで。彼ら自身における、止める力を、より発揮しやすくなること。
そのことで。彼ら自身の保存性を、より発揮しやすくなること。

物質における、エネルギー性の高低。

--
高いエネルギー性。大きな質量で、高速であること。
高い保存性。大きな質量で、速度ゼロであること。

低いエネルギー性。小さな質量で、速度ゼロであること。
低い保存性。小さな質量で、高速であること。

--

低エネルギー状態の物質。固体。液体。
そうした物質が、別の物質にとっては、高エネルギーであること。
例。人間にとっての、灼熱の火山における溶岩。

高エネルギー状態の物質。気体。
そうした物質が、別の物質にとっては、低エネルギーであること。
例。人間にとっての、酷寒地域における寒風の空気流動。

物質にとっての、エネルギーと保存力。

エネルギー。
ある物質を構成する、複数の粒子において。
それらの粒子の間における、静的な結合を、破壊する力。
それらの粒子の間における、動的な相互作用を、破壊する力。
それらの粒子の間における、包含関係を、破壊する力。

保存力。
ある物質を構成する、複数の粒子において。
それらの粒子の間における、静的な結合を、保持する力。
それらの粒子の間における、動的な相互作用を、保持する力。
それらの粒子の間における、包含関係を、保持する力。

--
物質の三態との関連について。

-
固体。そのエネルギーが、より高まった場合。それは、液体化すること。
液体。そのエネルギーが、より高まった場合。それは、気体化すること。
気体。そのエネルギーが、より高まった場合。それは、更に高圧化すること。

-
気体。その保存力が、より高まった場合。それは、液体化すること。
液体。その保存力が、より高まった場合。それは、固体化するこ

と。
固体。その保存力が、より高まった場合。それは、更に固くなること。

-
固体分子。
静的な結合。静的な孤立。静的な包含関係。

液体分子。
動的な相互作用。動的な包含関係。
それらの発生が、常態化していること。

気体分子。
動的な孤立。互いに、完全に無関係に飛び回ること。
稀に、互いに衝突して、相互作用すること。
結合の無効化。包含関係の無効化。

物理学。化学。それらと、社会学や生態学との関連について。

物理学。化学。
それらは、結局は、物質の社会学であること。

物質の社会学。
それは、以下の内容である。

--
物質を構成する粒子について。
そうした粒子の間における、静的な結合。
そうした粒子の間における、動的な相互作用。
そうした粒子の間における、包含関係。
それらの研究。

--
そうした粒子の、個別の振る舞い。
高速性。低速性。不動性。
所在位置。進行方向。
それらの研究。

--
そうした粒子の、個別の属性。
質量。色彩。匂い。
それらの研究。

--
そうした粒子の、分布。
空間的分布。時間的分布。
それらの研究。

--
物理学。化学。
それらは、結局は、物質の生態学であること。

物質の生態学。
それは、以下の内容である。

物質を、仮に、以下のように捉えた場合。
-
物質一般は、結局、全て、生物であること。
様々な物質の存在は、予め、体系化されていること。
-

そうした様々な物質における、振る舞いや生態の、研究。

物質における、エネルギーと保存力の、源。

生物の場合。

養分。彼ら自身の生体維持にとって必要な、資源。
エネルギーの源。炭水化物。糖分。脂質。
保存力の源。タンパク質。脂質。

水分。
それは、液体性そのものの源であること。
それは、保存力そのものの源であること。

物質における、最小単位。

物質における、最小単位。
それは、以下の 2 種類から成る。

--
クオンタム。 Quantum. 物質の量における、最小単位。
その源の概念。物質の量。Quantity.
--
クオラム。Qualum. 物質の性質や品質における、最小単位。
その源の概念。物質の性質や品質。Quality.
--

クオラム。Qualum.
その構成要素は、以下の内容である。
-
静的な結合。
動的な相互作用。
包含関係。入れ子関係。
-

参考。クオラム。Qualum.
そのラテン語における原義。
それは、以下の内容である。
-
しなやかな結合。wicker. コンテナ。basket.
大きなコンテナ。hamper.
-

従来の物理学では、クオンタムのみが取り上げられ、クオラムは、
無視されて来たこと。
私は、クオラムを、新たに、物理学の表舞台に送り出したい。
私は、そのために、この文章を、書いている。

クオラム。Qualum.

それは、結局、社会学の研究対象における、最小単位であること。
そのことは、物質の社会学でも、生物の社会学でも、人間の社会学でも、共通であること。

追加内容。2023年4月下旬初出。物質の化合物を操作するコンピューターシミュレーションの、マルチプロセスのモジュール化による、実現。

物質の化合物を操作するシミュレーション。その実装。

--
複数粒子間の、静的結合。
複数粒子間の、動的相互作用。
それらのモジュール化。
--

それらは、以下の内容である。
--
マルチプロセスのモジュール化。
マルチプロセスと、それらに付随する複数キューの、グループ化とモジュール化。
--

それらは、例えば、以下の内容である。
--
マルチプロセスの、配列化。
マルチプロセスと、それらに付随する複数キューの、多重配列化や、多次元配列化。
--

物質構成の、配列による表現。
例。分子式の、配列による表現。

それは、以下の内容である。
--
物質を構成する、複数粒子。
例。分子を構成する、複数粒子。
例。原子を構成する、複数粒子。
そうした複数粒子間の、静的結合。
そうした複数粒子間の、動的相互作用。
それらのモジュール化。
--
それらの、配列による表現。

例。水分子の内部構成の、配列による表現。
H2O.
H-O-H.

分子を構成する粒子の種類。['H','H','O']
それらの項目番号。[0, 1, 2]
粒子同士の組み合わせ。それらの項目番号を利用すること。[[0, 2], [1, 2]]
それらの組み合わせの種類。静的な結合。動的な相互作用。['静的な結合','静的な結合']
それらの組み合わせにおける、有効性の度合いの数値。[1.0, 1.0]
それらの組み合わせにおける、安定性の度合いの数値。[1.0, 1.0]
それらの組み合わせの保持確率の度合いの数値。[1.0, 1.0]
それらの組み合わせの保持強度の数値。[1.0, 1.0]

物質構成を操作するシミュレーション。その実装。
神経回路を操作するシミュレーション。その実装。

それらは、以下の内容である。

物質構成の、配列による、モジュール表現。それらの配列の操作。
神経回路構成の、配列による、モジュール表現。それらの配列の操作。

--
マスタ配列。
粒子を、独立したプロセスと見なすこと。
粒子の名前。粒子グループの名前。グループそのものを、粒子の一種と見なすこと。['Azusa','Kozue','Tarou']
粒子の種類。粒子グループの種類。['女性','女性','男性']
粒子同士の組み合わせ。[[1, 2], [0, 2], [1, 3], [0, 3]]
それらの組み合わせにおける、属性。
--
['静的な結合', '動的な相互作用', '動的な相互作用', '動的な相互作用']
['双方向', '左から右のみ', '右から左のみ', '右から左のみ']
--
['強い', '弱い', '強い', '弱い']
それらの副次的な属性。
-
['可変', '不変', '不変', '可変']
['安定', '不安定', '不安定', '安定']
['無効', '有効', '有効', '無効']
--
['プラス', 'マイナス', 'プラス', 'マイナス']
それらの副次的な属性。
-
['可変', '不変', '可変', '可変']
['不安定', '不安定', '不安定', '安定']
['有効', '有効', '有効', '無効']
--

粒子グループを、プロセスの多次元配列と見なすこと。
神経回路を、プロセスの多次元配列と見なすこと。
例。Azusaの5番目の中の3番目と、Kozueの2番目の中の4番目との、結合や相互作用。
項目番号は、1を起点とした場合であること。
[['Azusa'][5][3],['Kozue'][2][4]]

物質における保存力。その根源。

それは、粒子間力であること。
それは、以下の内容である。
粒子間において働く、互いに引き付け合う力。
粒子間において働く、互いにくっ付く力。

それは、静的な結合力であること。
例。接着力。癒着力。融着力。
例。固体。

それは、動的な相互作用の力であること。
それは、微細で、非破壊性であること。
例。融合力。まとまる力。一体化する力。互助力。互酬力。相互扶助の力。調和の力。平和の力。
例。液体。

追加内容。2023年5月下旬初出。複数物質における、機能分化の発生。それらのプロセスの、コンピューターシミュレーション。弁証法的物質としての生物。生物における、互いに相反する、エネルギー性と保存性との、共存と合一化。

物質一般において。
複数の存在の間における、機能分化の発生。
そのプロセス。
それは、以下の内容である。

ある存在における、補完や補給や補充の、必要性。それらの発現。
その条件。
それは、その存在における、欠損や無効化の、発生であること。
それは、その存在における、完全性の喪失の、発生であること。

欠損や無効化。完全性の喪失。
それらは、以下の内容である。

例。
完全なセット。例。"AAA"
欠損したセット。例。"A-A"
本来、Aが三つ必要であるにも関わらず、二つしか無いこと。

例。
完全なセット。例。"ABC"
欠損したセット。例。"A-C"
本来、Bが必要であるにも関わらず、それが無いこと。

欠損や無効化。完全性の喪失。
ある存在において、それらが発生していること。
そうした状況下において、以下のような存在が、新たに出現すること。
上記の欠損や無効性を、補完し補給し補充する、他の存在。

例。
完全なセット。例。"AAA"
欠損したセット。例。"A-A"
それを補完するセット。例。"-A-"

例。
完全なセット。例。"ABC"
欠損したセット。例。"A-C"
それを補完するセット。例。"-B-"

そうした状況下において、以下のような状況が、新たに出現するこ

と。
上記の二つの存在が、相互作用を、開始し維持すること。
上記の二つの存在が、相互に関係を持つこと。

その結果。
上記の二つの存在が、相補関係へと、新たに入ること。
上記の二つの存在が、社会的分業関係へと、新たに入ること。

その結果。
上記の二つの存在において、機能分化が、新たに実現すること。
上記の二つの存在において、社会システム化が、新たに実現すること。

複数の存在の間における、機能分化。その自動化。
それは、以下の内容である。

大元の存在。例。"ABC"

その存在が、順に、以下の三つの存在に分かれること。

No.1. "A--"
No.2. "-B-"
No.3. "--C"

それらの自動化。

それらの三つの存在が、相互作用すること。

"A--" -> "-B-"
"A--" -> "--C"
"-B-" -> "A--"
"-B-" -> "--C"
"--C" -> "A--"
"--C" -> "-B-"

それらの自動化。

複数の存在の間における、機能分化。その自動化。
それらの実現。そのためのアルゴリズム。
それは、以下の内容である。

大元の存在を、機能項目の数だけ、自動的に、自己複製すること。

新たに複製した各々の存在の、各々の結果内容について。
大元の内容から、残す項目を、自動的に、１項目ずつピックアップを行うこと。
それと同時に、他の項目を、全て欠損させるか、全て無効化すること。

その状況下において。
各々の新たな存在同士を、各々の欠損を相互に補完する形で、相互作用させること。
そのためのプロセス。
それは、以下の内容である。

--
各々の存在が、それ自身の欠損内容を、自覚し明記すること。
各々の存在が、以下のような存在を、自発的に探索すること。
-
彼自身の欠損内容を補完してくれる、他者。
-

--
その結果。
各々の存在が、そうした他者と、偶然に、相互作用すること。
各々の存在が、そうした他者と、偶然に、結合すること。

その結果。
各々の存在が、各々の欠損を、新たに補うことが出来ること。

その結果。

各々の存在が、そうした他者と、相補関係へと、新たに入ること。

その結果。
各々の存在が、そうした他者と、そうした相補関係を維持しようとすること。
そのために。
各々の存在が、そうした他者と、相互作用を持続させること。
各々の存在が、そうした他者と、結合を持続させること。
--

物質における機能分化のプロセス。
それは、以下の内容である。

プロセスとしての物質。
そのプロセスに、欠損を、自動的に発生させること。あるいは。そのプロセスに、欠損を、予め発生させておくこと。
そのプロセスに、その欠損を補填する動作を、自動的に実行させること。
そのプロセスに、その欠損を補填する他の物質を、自動的に発見させること。
そのプロセスに、その物質との間で、相互作用を、自動的に生成させること。
そのプロセスに、その物質との間で、相補関係を、自動的に成立させること。
それらは、結局、以下の内容である。
複数物質のシステム化。
複数物質の自己組織化。

プロセスとしての物質。
そのプロセスにおける所有や保有や保持。その表記。それは、プラス記号であること。
そのプロセスにおける欠損。その表記。それは、マイナス記号であること。
例。化学物質における、プラスイオンとマイナスイオン。

例。生物における、ある遺伝情報の、保持と欠損。

そのプロセスにおける所有内容。その表記。それは、例えば、文字列であること。
例。化学物質における、化学式。
例。生物における、遺伝情報。

--
そのプロセスにおける保有と欠損。
それらは、以下のように、配列として、表現可能であること。
[[内容1,保有か欠損], [内容2,保有か欠損], ...]
[[内容1,プラスかマイナス], [内容2,プラスかマイナス], ...]

例。
ある物質が、A1を保有しつつ、A2を欠損していること。
[['A1','＋'], ['A2','-']]

複数物質の間において。
そうしたプラスとマイナスとが、互いに惹きつけ合うこと。
例。
ある物質が、A1を欠損していること。
[['A1','-']]
それとは別の物質が、A1を保有していること。
[['A1','＋']]
それらの二つの物質は、互いに惹きつけ合うこと。

--
プラスの物質が、マイナスの物質に対して、一方的に、その欠損を、補填し補充すること。
マイナスの物質は、プラスの物質にとって、そのままでは、一方的な剥奪者となること。

--
複数物質が、互いに、プラスとマイナスの部分を持っている場合。
例。
あるエネルギー性物質が、A1を保有しつつ、A2を欠損していること。
[['A1','＋'], ['A2','-']]
それとは別のエネルギー性物質が、A1を欠損しつつ、A2を保有していること。

[['A1','-'], ['A2','+']]
それらの物質は、それらを、互いに、相互交換すること。
それは、以下の内容である。
物質における、市場の生成。

--
複数物質が、互いに、相手物質において欠損している内容を、持っている場合。
例。
ある保存性物質が、A1を保有しつつ、A2を欠損していること。
[['A1','+'], ['A2','-']]
それとは別の保存性物質が、A1を欠損しつつ、A2を保有していること。
[['A1','-'], ['A2','+']]
それらの物質は、互いに、相補関係に入ること。
それらの物質は、互いに、相互扶助関係に入ること。
それは、以下の内容である。
物質における、社会的分業の生成。
物質における、機能分化。
物質における、システム化。
物質における、共生化。

物質の粒子を、プロセスと見なすこと。
そうした各プロセスが、常時、相互に独立して動くこと。
例。
液体分子。気体分子。
そうした個別の分子を、それぞれ粒子として捉えること。
そうした個別の分子を、それぞれ独立したプロセスとして動かすこと。
例。
生物における、細胞やウィルス。
そうした個別の個体を、それぞれ粒子として捉えること。
そうした個別の個体を、それぞれ独立したプロセスとして動かすこと。

物質の粒子を、プロセスと見なすこと。
そうした粒子プロセスが、個別に内包する、物理的内容。

それは、以下の内容である。

-
位置。
-
速度ベクトル。
加速度ベクトル。
-
質量。
体積。半径。
-
中核となる情報内容。
例。化学物質における、化学式。
例。生物における、遺伝情報。
そうした情報内容の、保有か欠損。
保有。プラス記号。
欠損。マイナス記号。
-

そうした粒子プロセス同士の相互作用。
それは、以下の内容である。
物理的衝突。あるいは。化学反応。
物理的結合。物理的に引き付け合うこと。
物理的離反。物理的に反発し合うこと。

そうした粒子プロセス同士の相互作用。
それらの発生のトリガー。
それは、以下の内容である。
複数の粒子プロセスの位置情報が、互いに、同一化するか近接化すること。

複数の粒子プロセスの間における、衝突。
それは、以下の内容である。
複数の粒子プロセスが、互いに、物理的に位置が重なり合うこと。
複数の粒子プロセスが、互いに、物理的に位置がくっ付くこと。

--

複数の粒子プロセスの間における、衝突判定。
複数の粒子プロセスにおける、位置情報の同一性や近接性を利用すること。
そのために、それぞれの粒子プロセスの外部において、位置情報の管理機構が、別途必要であること。
そうした機構は、複数の粒子プロセス間における、位置の重ね合わせを、自動的に検知すること。
そうした機構は、複数の粒子プロセスに対して、そうした検知結果を、キューとして、各粒子プロセスへと、リアルタイムで通知すること。
そうした機構は、複数の粒子プロセスにとって、第三者の視点であり、世界の創造者の視点であること。例。飛行中の複数の航空機に対する、航空管制室の視点。
そうした視点は、以下の二種類へと分別されること。
-
大局的な把握。双方の粒子プロセス同士が、大きく離れている場合。双方の粒子プロセス同士は、衝突しそうに無いこと。
局所的な把握。双方の粒子プロセス同士が、至近距離で接近している場合。双方の粒子プロセス同士が、今にも衝突しそうなこと。
-
それぞれの粒子プロセスが、そうした機構を経ずに、自主的に、衝突判定を行うこと。その実現は、コンピュータシミュレーションとしては、そのままでは困難であること。

--
複数の粒子プロセスの間における、衝突処理。
それぞれの粒子プロセスが、他の粒子プロセスに対して、キューを用いて、相互に影響力を、リアルタイムで送り合うこと。
そうした影響力。
それは、粒子間に働くエネルギーや保存力によって、計算されること。
例。
エネルギー。速度ベクトル。加速度ベクトル。
保存力。引力。粒子間力。
それぞれの粒子プロセスは、他の粒子プロセスから受信した影響力の内容を、リアルタイムで集計すること。
それぞれの粒子プロセスは、その集計結果に基づいて、それ自身の振る舞いを、リアルタイムで計算すること。

それぞれの粒子プロセスの内部において。

そうした集計や計算のイベントを、リアルタイムで、無限ループで、なるべく短い時間間隔で、自動的に発生し続けること。

それぞれの粒子プロセスが決定する振る舞い。
それは、以下の内容である。
複数の粒子プロセスの間における、相互作用。
例。結合。離反。結合の破壊。交渉の持続。交渉の打ち切り。

--
複数の粒子プロセスの間における、衝突や結合や相互作用。
例。
気体分子運動。液体分子運動。固体分子運動。
生物における、細胞やウィルスの、振る舞い。

例。
粒子プロセスの存在する空間を限定すること。
そのために、それらの周囲に、壁を、予め設けること。

複数の粒子プロセス間における、通信。その実現。

複数の粒子プロセスの間における、相互作用。
例。結合。離反。結合の破壊。交渉の持続。交渉の打ち切り。
それらを、物理的衝突判定無しに、実現すること。
それは、以下の内容である。
物理的衝突を伴わない、複数の粒子プロセスの間における、相互作用。それらの実現。
通信を利用した、複数の粒子プロセスの間における、相互作用。それらの実現。
そうした相互作用。
それらは、以下の内容である。
物理的衝突を伴わない、複数の粒子プロセスの間における、保有品や欠損品の、相互交換。それらの実現。
そうした保有品や欠損品を、文字列情報として、表現すること。
複数の粒子プロセスの間において、そうした文字列情報を、相互に送信し合うこと。
それは、以下の内容である。
複数の粒子プロセス間における、通信。

それらの通信における、そうした文字列情報。それらの内容。
例。
生物における、遺伝情報。
それらの遺伝情報の、自動的なセグメント化。
それらの遺伝情報の、自動的な、オンとオフ。
生物における、複数細胞や複数ウィルスの間における、そうした遺伝情報の、交信。
複数生物の間における、そうした遺伝情報の、交信。
そうした交信動作それ自体を、その生物にとっての遺伝情報化すること。
そうした交信動作それ自体を、文字列情報化すること。
その実現が、プログラムの基盤となる関数群において、予め必要であること。

複数の粒子プロセスの間における、通信による相互作用。
例。化学物質における、プラスイオンとマイナスイオンとの、交信。
例。生物の複数細胞の間における、特定の遺伝情報の保有の有無についての、交信。
それは、神経回路における、思考細胞同士の、神経伝達物質の交信と、同様であること。
それは、以下の内容である。
--
ある粒子プロセスが、任意の他の粒子プロセスを、ランダムに選択し接続すること。
その粒子プロセスが、相手の粒子プロセスに対して、キューを用いて、それ自身における保有品や欠損品についての情報を、送信すること。
その粒子プロセスが、相手の粒子プロセスから、キュー経由で、返答情報を、受信すること。
その返答情報の内容。それらは、以下のように分別される。
-
私は、あなたの欠損品を、十分に保有している。私は、あなたに対して、補填や補充の行為が、可能である。
私は、あなたの欠損品を、十分に保有していない。私は、あなたに対して、補填や補充の行為が、不可能である。
私は、あなたの保有品を、欠損している。私は、あなたに対して、

補填や補充の行為を、要求する。
私は、あなたの保有品を、特に欠損していない。私は、あなたに対して、補填や補充の行為を、特に要求しない。
-

複数の粒子プロセスの間において。欠損品の、相互補填や相互補充が、可能であること。そのことが判明した場合。
双方の粒子プロセスあるいはどちらか一方の粒子プロセスが、追加で、相手の粒子プロセスに対して、相補関係に入る合図を送ること。
その結果。
双方の粒子プロセスの間において、相補関係が、新たに成立すること。
双方の粒子プロセスが、新たに、システム化し、そのシステム内部において機能分化すること。
双方の粒子プロセスが、新たに、社会的分業を実現すること。
双方の粒子プロセスの間において、保有品の市場が、新たに実現すること。
--

保有者としての物質。
欠損者としての物質。

保有者としての物質は、その保有内容の防衛や防御が、必要であること。
その理由は、以下の内容である。
その保有内容の補填を、欠損者としての物質から強制されないため。
例。生物における、既得権益の防衛や防御の、必要性。

物質のプロセス化。
そうした複数のプロセスにおける、機能分化。そのシミュレーション。
その手順は、以下の内容である。

プロセスの自己複製。その実装。
プロセスが内蔵する情報内容の自己複製。その実装。
その情報内容のデータセット。
[['A1','＋'], ['A2','＋'], ['A3','＋']]

プロセスが内蔵する情報内容の、自動的な分節化。その実装。
その情報内容のデータセット。
分節化以前。
[['A1','＋'], ['A2','＋'], ['A3','＋']]
分節化以後。
[[['A1','A2'],'＋'], ['A3','＋']]

プロセスが内蔵する、分節化された情報内容。それらの、部分的な欠損化や無効化。それらの自動化。その実装。
欠損化以前。無効化以前。
[[['A1','A2'],'＋'], ['A3','＋']]
欠損化以後。無効化以後。
[[['A1','A2'],'-'], ['A3','＋']]

そのプロセスの情報内容の欠損を補填する、他のプロセス。そのプロセスによる、そうした他プロセスの探索。その自動化。
そのプロセスがランダムに見つけた、他のプロセスへの働きかけと反応の取得。
そのプロセスの情報内容。
[[['A1','A2'],'-'], ['A3','＋']]
相手の他プロセスの情報内容。
[[['A1','A2'],'＋'], ['A3','-']]

ある情報項目を保有するプロセスによる、その項目を欠損しているプロセスに対する、補填の実行。その仕組みの構築。
その補填の方法。
それは、以下の内容である。

--
欠損している物品そのものの補填。例。生物にとっての、水分や酸

素。
欠損している情報項目そのものの補填。例。生物の遺伝情報そのもの。
欠損している情報内容によって生み出される、二次的な生成物や生産物の、補填。例。生物細胞の体内で生産される、有機化合物。消化物としての栄養素。ホルモン。フェロモン。酵素。
--

それぞれの補填方法について、その仕組みを、予め個別に構築すること。

補填以前。
そのプロセスの情報内容。
[[['A1','A2'],'-'], ['A3','＋']]
相手の他プロセスの情報内容。
[[['A1','A2'],'＋'], ['A3','-']]

補填された情報項目。
相手の他プロセスから、そのプロセスへの補填。['A1','A2']
そのプロセスから、相手の他プロセスへの補填。['A3']

補填以後。
そのプロセスの情報内容。
[[['A1','A2'],'＋'], ['A3','＋']]
相手の他プロセスの情報内容。
[[['A1','A2'],'＋'], ['A3','＋']]

そうした補填の授受において。
双方のデータセットのタイプが、合うか合わないかを、予め、自動的に判定すること。
その結果。双方のデータセットのタイプが合致した場合のみ、補填の授受を実行すること。

例。
双方のデータセットのタイプが合致している場合。
そのプロセスの情報内容。
[[['A1','A2'],'-'], ['A3','＋']]
相手の他プロセスの情報内容。
[[['A1','A2'],'＋'], ['A3','-']]

例。
双方のデータセットのタイプが合致していない場合。
そのプロセスの情報内容。
[[['A1','A2'],'-'], ['A3','＋']]
相手の他プロセスの情報内容。その複数例。
[[['A1','A2'],'＋'], ['A4','-']]
[[['A1','A5'],'＋'], ['A3','-']]
[['A1','＋'], ['A3','-']]

複数のプロセス同士が、そうした補填を、相互に行う仕組み。その実装。
複数のプロセス同士が、そうした相互補填を通じて、相補関係に入る仕組み。その実装。
それらは、以下の内容である。
--
そうした相互補填。それらが、自動的であること。それらが、同期的であること。
そうした相互補填の必要性の発生。その発生が、定期的で同期的であること。
双方のプロセスにおいて、そうした相互補填を必要とする欠損状態が、定期的に、同期的に、発生すること。
--

それらの実装において。
予め、とてもシンプルな作りの多細胞生物の仕組みを、把握しておくこと。

欠損している情報項目。補填の対象となる情報項目。それぞれの明確化を、予め行うこと。

物質における、欠損や保有の発生と、それらによる、機能の概念の生成。
そうした機能の分類が、必要であること。

例。生物の場合。
機能とは、生きやすさをもたらす働きであること。
生物にとっての、それらの機能の内容。
それらの内容の詳細については、私が執筆した、生物一般の行動と社会についての電子書籍の内容を、参照して下さい。

例。物質一般の場合。その物質を構成する粒子の場合。
機能とは。
それらは、以下の内容である。

エネルギーの源。動かす力。その源。
その粒子の内部に蓄えられた、仕事を為し得る能力。
その粒子が持つ、移動力。その粒子が持つ、仕事力や稼ぐ力。その粒子が持つ、改変力や破壊力。
その粒子が持つ、質量。その粒子が持つ、速度や加速度。それらを掛け合わせた値。それらの値を上げる、要因。

--
保存力の源。止める力。その源。
静止状態。微動状態。
そうした状態の複数の粒子同士が、極く近接していること。
そうした状態の複数の粒子同士が、互いに、頻繁に接触したり、接着したり、結合していること。
そうした状態における、粒子間力。それらの強さ。それらの値を上げる、要因。
従来の静力学において。ある物体が、その物体に対して働く諸力の釣り合いにより、静止すること。そうした均衡状態を、実現し維持する、要因。

保存力。制止力。禁止力。閉じ込める力。締め上げる力。破壊を防止する力。
静力学において、それらの力が生み出される条件の洗い出しが、必要であること。
例。材料強度学。工業材料。建築材料。それらの材料における、亀裂や損傷の、発生。それらの進展がもたらす、その材料の破壊のプロセス。それらの発生を防止する、条件や要因。それらの洗い出し。

静力学において。
止める力。相手の物体のエネルギーをゼロにする力。相手の物体の

活力や精力を、ゼロにする力。
止める力が生み出される、条件。
それらは、以下の内容である。
-
その質量が、相手の物体に比べて、より、十分に、大きいこと。
その結果。そのまま、相手の物体を、跳ね返すことが出来ること。
その状態において。
クッション性が有ること。受け止める力が有ること。
それは、以下の内容である。
柔軟性。変形可能性。非反発性。
ストッパーとしての性質。非貫通性。遮蔽性。遮断性。
それらは、結局、以下の力を生み出すこと。
鎮める力。鎮静力。
包容力。包含力。相手の物体を丸呑みする力。そうした相手の物体を、そのまま内部に閉じ込めて、その外部に出られなくする力。
-

上記の内容の要約。
相手を跳ね返さずに、そのまま柔軟に受け止める力。
相手を跳ね返さずに、そのまま丸呑みして閉じ込める力。
それらの力が、十分に強いこと。

それらの力を生み出す要因。それらが、保存力の源であること。

それらの力が十分に強い、物質。
例。
液体。ゼリー。粘液。
柔軟な固体。布団や枕やクッション。
柔軟な固体によって袋詰めされた、気体。エアバッグ。
柔軟な固体によって袋詰めされた、液体。水枕。
ドッジボールの球を受け止める競技者。
男性の精力を奪って、その男性をインポテンツにさせる、女性。

保存性の物質における、保存行為。保存力の、もう一つの源。

保存力の源。止める力。その源。
上記の静力学とは別の視点。
それは、以下の内容である。

医学の視点。建築学の視点。歴史学の視点。

ある物質における、その保存状態が悪化すること。
例。致傷。破壊。病気。劣化。
すると。
その物質は、その保存状態の悪化を、自力で、阻止し停止し食い止めること。
その物質は、その保存状態を、元の良好な状態へと、自力で再修復すること。
その結果。その物質は、原状回復すること。
それらは、以下の内容である。保存行為。

保存行為。
それは、具体的には、以下の内容である。
-
保存状態を悪化させる要因。
それらへの予防。それらへの、防御や防衛。
それらへの免疫の獲得。それらの切除。それらの消去。それらの濃度を薄めること。それらの無効化。
-
保存状態が悪化した箇所。
それらの修復。それらの修繕。それらの治療や治癒。
-

ある物質において。
それ自身の原状回復。それ自身の原状復帰。それ自身の復古。それ自身の帰還。
それらを実現する力が、十分に強いこと。

それらの力を生み出す要因。それらが、保存力の源であること。

それらの力が十分に強い、物質。
-
例。
液体。ゼリー。粘液。
それらは、切断されても、瞬時に再癒着すること。
-
例。
柔軟な固体。布団や枕やクッション。
柔軟な固体によって袋詰めされた、気体。空気枕。
柔軟な固体によって袋詰めされた、液体。水枕。
それらは、加圧により変形させられても、加圧を中断すると、瞬時に元の形に戻ること。
-
例。
生物。彼らは、液体の一種であること。
彼らは、致傷し発病しても、次第に治癒し、回復すること。
彼らは、侵入を受けても、次第に元通りに押し返すこと。
彼らは、彼ら自身の所有物を壊されても、次第に修繕し、原状回復させること。
彼らは、彼ら自身が築き上げた社会を、戦争や革命によって壊されても、次第に復古し、原状回復させること。
彼らは、致傷し発病した仲間を、治療し看護し、次第に治癒させること。

そうした生物には、人間も含まれること。
-

保存性物質において。
それ自身の原状回復。それ自身の治癒。それ自身の復旧。
そうした保存力。それらを実現する力。
それらの発生原理。
それは、以下の内容である。
--
複数の粒子同士が、互いに、極く近接していること。その場合。複数の粒子同士の間に、ある程度の空間的な隙間が開いていること。
複数の粒子同士が、互いに固着せず、互いに緩く結合しつつ、ある程度の可動性を残していること。あるいは。複数の粒子同士が、互

いに結合せず、微動状態で、相互接触と相互分離とを、絶えず繰り返していること。
複数の粒子同士の間に、粒子間力が働いていること。そうした粒子間力が、各々の粒子の間が空間的に少し隔たった状態においても、有効に働き続けていること。
そうした複数の粒子に対して、硬い固体などを押し付けて加圧しても、それらの粒子の間において、粒子間の結合が、延伸し撓みながら問題無く維持されること。その後。外部からの加圧を止めると、粒子間の結合状態が、程無く、原状復帰すること。 あるいは。 そうした複数の粒子の間を、硬い固体の刃で切断しても、それらの粒子の間において、粒子間力が、引き続き有効に働き続けること。その結果。粒子同士の緩い結合や微動的相互作用が、程無く、問題無く、復活すること。
--

弁証法的物質。
それらは、弁証法的存在である物質であること。
それらの物質は、二律背反性や自己矛盾性を内包していること。
それらの双方の性質が、単一の物質の中において、共存し、合一化していること。

例。生物。
それらは、自動的に、自己保存をしようとすること。
それらは、自己保存状態の、実現や維持のために、エネルギーを必要とすること。
それらは、そうしたエネルギーを獲得するために、周囲の環境を破壊する行動に出る必要があること。
そうした行動は、エネルギー性であること。
そうした行動は、仕事をすることや、稼ぐことであること。
それらは、保存性と破壊性との両方を、同時に内包していること。
それらは、保存性物質であると共に、エネルギー性の物質であること。
それらの双方は、互いに二律背反の関係にあること。
それらの双方は、互いに自己矛盾の関係にあること。
それらの双方が、単一の物質の中において、共存し、合一化していること。
その結果。
生物は、弁証法的存在であること。

生物は、弁証法的物質の一種であること。

生物は、保存性物質であると共に、エネルギー性の物質であること。
生物における、保存性物質としての側面。それが、女性へと、新たに機能分化したこと。
生物における、エネルギー性物質としての側面。それが、男性へと、新たに機能分化したこと。
そうした機能分化。すなわち。生物における、性差の発生。
それは、生物における、二律背反性や自己矛盾性の度合いを、より軽減していること。
それは、生物における、弁証法的存在としての度合いを、より軽減していること。

追加内容。2024年1月中旬。ダークマター。ブラックホール。それらは、保存性の物質であること。それらの一種が、生物一般や女性であること。ある物質における暗黒性は、その物質における保存性に由来すること。

ダークマター。ブラックホール。彼らの物質としての性質。
それは、以下の内容である。
彼ら自身の存在を、対外的に、極限まで隠蔽し見えなくすること。
外部物質を、内向きに取り込み、吸収し尽すこと。その結果、彼ら自身の重力が、最大化すること。

外部物質を、最大限に受け止め、動きを停止させること。外部物質の活動を、禁止し封じること。
相互に一体融合化すること。
そうした性質の度合いが最大限になっている物質。
それは、保存性の極限であり極致であること。
そうした保存性物質の塊。
それは、マイナスの存在の極致であること。

恒星。彼らの物質としての性質。
それは、以下の内容である。
彼ら自身の存在を、対外的に、極限まで主張しアピールすること。
外部物質に対して、積極的に自己放射し、対外的に攻撃をすること。
外部物質を、最大限に変動させ破壊すること。
外部物質の活動を、積極的に促進すること。
相互にバラバラに飛散し暴れ回りぶつかり合うこと。
そうした性質の度合いが最大限になっている物質。
それは、エネルギー性の極限であり極致であること。
そうしたエネルギー性物質の塊。
それは、プラスの存在の極致であること。

エネルギー性。
それは光明性であること。
それは、積極性やチャレンジ性であり、プラス性であること。
エネルギー性の物質。それは、プラスの存在であること。それは、恒星であること。

保存性。
それは暗闇性であること。
それは、消極性や退嬰性であり、マイナス性であること。
保存性の物質。それは、マイナスの存在であること。それは、ダークマターであること。

中国の伝統的思想としての、陰と陽との区別。
それは、マイナス性とプラス性との区別であること。
それは、保存性とエネルギー性との区別であること。

生物。
彼ら自身の自己保存状態を絶えず持続するために、エネルギー性や光明性を常に必要とする、保存性の暗黒性の物質。
それは、ダークマターやブラックホールの一種であること。

保存性の物質。液体。生物一般。体細胞。卵子。女性。定住生活者。それらの性質。
それは、以下の内容である。
ダーク性。暗黒性。彼ら自身の存在を外部から見えなくする性質。
全体主義。集団主義。統制主義。禁止と束縛や緊縛を主眼として、作動すること。相互の牽制と潰し合いで、作動し続けること。調和性。
不動性。定着性や接着性や癒着性。定住生活を送ること。
他の物質を、彼ら自身の内部へと、一方的にひたすら取り込み吸収し貯蔵する性質。その結果、彼ら自身の内部留保が最大化すること。その結果、彼ら自身の質量が、最大化すること。
彼ら自身の内部情報を、彼ら自身の外部に対して、決して出そうとしない性質。彼ら自身の内部と外部とを、区別すること。表面を持つこと。表面張力が強いこと。対外防衛と、対外隠蔽と、内部への閉じ込めを徹底すること。監獄性。内部告発を厳禁すること。閉鎖性と排他性。
対外的な主張を避ける性質。消極性。退嬰性。抑圧性。他の物質を、抑え込み、潰すこと。局所限定化を指向すること。
彼ら自身の内部における一体融合性や同質性や調和の確保を、最優先すること。彼ら自身の内部における異分子の排除を徹底すること。
治癒性。原状回復性。原状復帰性。復古性。前例踏襲性。順応性。受容性。
マイナス性。陰気であること。暗いこと。湿潤性。
そうしたマイナス性における自己優位性や自己優越性を、他の物質に対して、指向すること。

エネルギー性の物質。気体。ウィルス。精子。男性。移動生活者。それらの性質。
それは、以下の内容である。

光明性。彼ら自身の存在を、対外的に積極的に可視化する性質。彼ら自身の存在を、対外的に積極的に主張しアピールする性質。
個人主義。自由主義。容認と解放を主眼として、作動し続けること。不調和性。自由行動性。
活動性。浮動性。浮遊性。移動生活を送ること。
他の物質に対して、彼ら自身を、外部に向けて、一方的にひたすら放射しまくる性質。その結果、彼ら自身の消耗が、最大化すること。その結果、彼ら自身の質量が、最小化し矮小化すること。
彼ら自身の内部情報を、彼ら自身の外部に対して、積極的に開放する性質。彼ら自身の内部と外部とを、区別しないこと。表面の存在を、根本的に欠如していること。
対外的な主張やアピールを最大化する性質。積極性。攻撃性やチャレンジ性。彼ら自身が、周囲の他物質に対して、衝突し、暴れ回ること。
拡散性。布教をすること。普遍化やグローバル化を指向すること。対外拡張性。膨張性。
異種混合や多様性の確保を、積極的に推進すること。
破壊性。新規性。独創性。反抗性。逆転性や反転性。
プラス性。陽気であること。明るいこと。乾燥性。
そうしたプラス性における自己優位性や自己優越性を、他の物質に対して、指向すること。

追加内容。2024年2月上旬。エネルギー性。保存性。それらの性質についての、新たなまとめの表。

エネルギー性。保存性。それらの性質についての、新たなまとめの表。

エネルギー性。	保存性。
高速性。	低速性。速度ゼロであること。
移動性。変動性。動作性。	不動性。微動性。定住性。停止性。
流動性。	滞留性。停留性。停滞性。

不安定性。揺らぎ。中断性。断続性。	安定性。恒常性。持続性。連続性。永続性。
不確実性。不確定性。	確実性。確定性。
飛翔性。浮遊性。浮動性。遊牧性。	定着性。根を下ろすこと。
破壊性。革命性。	保全性。現状を維持すること。
攻撃性。	防御性。締め出すこと。受容すること。丸呑みすること。包含すること。受け止めること。無効化すること。消化吸収すること。
奪取すること。	恵んであげること。
危険性。	安全性。
捨て身であること。	自己保身性。
革新性。	守旧性。復旧性。保守性。
鋭敏性。	鈍重性。
極端性。過激性。異常性。偏っていること。辺境性。周辺性。少数性。孤立性。	中間性。中道性。中庸性。通常性。普通であること。穏健性。偏りが無いこと。満遍無いこと。中心性。多数性。派閥性。
先進性。先端性。	後進性。遅滞性。
鋭角性。尖っていること。突き刺すこと。穿孔すること。傷付けること。	円満性。穴埋めすること。傷を消すこと。治癒すること。
角を立てること。不穏にすること。	角を立てないこと。穏便に済ませること。
有事性。事件を引き起こすこと。	無事性。最初から無かったことにすること。
反抗性。批判性。不忠であること。反対すること。反転すること。逆転すること。変更すること。風を吹かせること。何かをすること。	従順性。順応性。忠誠性。隷従性。賛成すること。そのままにすること。慣性。無風であること。何もしないこと。様子見をすること。
競争性を明示すること。闘争性を明示すること。	表面的には、互いに、競争も闘争も一切しない、一体感に包まれた仲良しであるかのように、対外的に見せかけること。内部において、相互に、中心位置の獲得を巡って、陰湿で苛烈な内部抗争を、ひたすら繰り広げること。
敵であること。ライバルであるこ	仲間であること。同士であるこ

と。	と。
自立すること。自助努力すること。頼らないこと。救いや助けを求めないこと。自己防衛すること。自己責任を強調すること。	助け合うこと。頼ること。救いや助けを求めること。依存すること。護送船団方式を採用すること。責任転嫁すること。
変化性。	現状維持性。慣性。安定性。一定性。不変性。
斬新性。新機軸性。創造性。非常識であること。革命性。改革性。	伝統性。古いこと。常識的であること。復古性。
パラダイム転換すること。	小改良すること。改善すること。
未踏性。	既存性。既知性。
加速性。	減速性。制止性。
急速性。	緩慢性。
多動性。	静止性。
積極性。チャレンジ精神。	消極性。退嬰性。事なかれ主義。
表面が無いこと。表裏が無いこと。表面張力が無いこと。内部と外部との区別が無いこと。	表面が有ること。表裏が有ること。表面張力が強いこと。内部と外部との区別が有ること。
外部に存在すること。外部に対して、代表者として直接露出すること。	内部に存在すること。内部の奥の部分において、大切に守られるべき本体部分として鎮座し続けること。
開放性。通風性。換気性。入れ替えが有ること。	密閉性。閉鎖性。排他性。密封性。入れ替えが無いこと。
公開性。移住を容認すること。	非公開性。隠蔽性。機密性。入試を実施すること。締め出すこと。追放すること。
明示性。明瞭性。	非明示性。曖昧性。内部における暗黙の了解に従って動くこと。
解放性。	牢獄性。閉じ込めること。外出出来なくすること。
自律性。別々になること。別々にすること。離れること。傍観すること。俯瞰すること。	他律性。一緒になること。一緒にすること。連帯すること。巻き込むこと。
自由性。	統制性。検閲性。管理性。相互牽制性。相互抑圧性。相互に足を引っ張り合うこと。嫉妬深いこと。
可能性。容認性。有能化すること。	不可能性。禁止性。許可が必要であること。

保存性の能力を、抑圧し不能化すること。	エネルギー性の能力を、抑圧し不能化すること。
打開性。打破性。	閉塞性。体制を保持すること。
いい加減であること。粗雑であること。粗暴であること。低品質性。最終完成度が低いこと。	厳格性。緻密であること。高品質性。最終完成度が高いこと。
暴力支配性。	専制支配性。
軽量性。	重量性。
浮上性。昇天性。天空性。	沈降性。沈殿性。
矮小性。	巨大性。
消耗性。	補給性。
消費性。不足性。	生産性。多産性。充足性。満足性。貯蓄性。
切り捨てを行うこと。	蓄積すること。貯蔵すること。
淘汰性。	増殖性。
貧困性。欠乏性。	富裕性。豊潤性。
粗末性。	華麗性。
取り替え可能な非貴重な存在であること。	取り替え不能な、大切で貴重な存在であること。
非所有性。無所有性。借用すること。寄宿すること。所有者や宿主としての保存性物質に対して、利用料金を一方的に支払うこと。	所有性。占有性。貸与すること。宿主となること。借用者や寄宿者としてのエネルギー性物質から、利用料金を一方的に徴収すること。
企業者であること。稼ぐこと。投資者としての保存性物質に対して、彼自身が得た利益を一方的に差し出すこと。	投資者であること。企業者としてのエネルギー性物質から、彼らの稼ぎの上前を撥ねること。企業性の物質から、投資によって得られた利益を一方的に回収すること。
道具であること。	道具の使い手であること。道具をメンテナンスすること。道具の世話をすること。
実際の作業者であること。作業の納品者であること。	エネルギー性物質に対しての、作業の発注者であること。エネルギー性物質による作業結果の、検収者であること。
光明性。可視性。光を当てること。	暗黒性。不可視性。盲目性。闇のままとすること。
明瞭性。透明性。	不明瞭性。不透明性。
解明すること。	不明とすること。そのまま幕引き

	すること。遮蔽すること。
陽性。プラスであること。	陰性。マイナスであること。
肯定性。楽観性。陽気であること。	否定性。悲観性。不安性。陰気であること。
極端であること。偏っていること。	中庸であること。
酷寒性。冷涼性。酷暑性。高熱性。	温室性。生温かいこと。中熱性。
不快性。	快適性。
苦しいこと。難しいこと。生き辛いこと。	楽であること。生きやすいこと。
超低湿性。乾燥性。	適度に涼しく温かい湿度性。湿潤性。濡れていること。
切断性。破断性。傷付けること。	接着性。癒着性。
断裂性。分断性。分離性。断片性。絆が弱いこと。	接合性。縫い合わせること。統合性。融合性。融解性。繋ぎ合わせること。絆が強いこと。粘着性。
離散性。	連続性。同調性。
分けること。差を付けること。分析性。	分けないこと。差を付けないこと。分析を拒絶すること。一括性。一体性。丸ごとで扱うこと。
よそよそしいこと。	親密であること。
非結合性。相互作用しないこと。引力が無いこと。引力を行使しないこと。疎遠性。独自性。孤独性。個性が強いこと。非社会性。	結合性。相互作用が有ること。相互作用が頻繁であること。引力が有ること。引力が強いこと。協調性。連帯性。社会性。没個性。周囲の色に染まること。
関係を持たないこと。自閉性。音信不通であること。	関係を持ちたがること。通信したがること。
低圧性。	高圧性。
空きが有ること。隙が有ること。隙間を空けること。余裕が有ること。	空きが無いこと。隙間が無いこと。緻密性。過密性。隙間を埋めること。詰め込むこと。余裕が無いこと。
仮想性。存在しないこと。真空性。	実体性。実在性。存在すること。
専門性。契約性。	総括性。総合性。何でも引き受けること。
切り分けること。	一括して丸呑みすること。
傷付けること。	治癒すること。

殺すこと。	再生すること。
緩いこと。適当であること。いい加減であること。ルールを守らないこと。違反すること。	緊縛すること。きちんとすること。ルールを守ること。遵守すること。
個別性。単独性。	集団性。全体性。一体融合性。
粉粒性。バラバラであること。まとまりが無いこと。	団体性。まとまること。群れること。つるむこと。
多様性。不調和性。	画一性。調和性。
異質性。	同質性。
拡散性。	集中性。
普遍性。	自己中心性。
非限定性。	限定性。
大局的であること。グローバルであること。	局所性。
低密度性。空疎性。真空性。	高密度性。凝縮性。実体性。
独立性。	相互依存性。
剛性。硬いこと。固いこと。ハードであること。融通が利かないこと。	柔軟性。ソフトであること。融通が利くこと。クッション性。
個体間力が無いこと。個体間力が弱いこと。	個体間力が有ること。個体間力が強いこと。
エネルギー性のサブクラス。	保存性のサブクラス。
気体。	液体。
粉状の固体。	金属固体。
ウィルス。	生物一般。細胞。
精子。	卵子。
男性。	女性。

追加内容。2024年9月中旬。保存性優位社会における、社会的中心性実現の重要性。エネルギー性優位社会における、社会的普遍性実現の重要性。保存性優位社会にお

ける、社会的な排除や排泄や排出や排斥。保存性優位社会における、社会的中心性と専制支配力との相関。そうした相関の、コンピュータシミュレーションによる測定の、必要性。

保存性が優位の社会。
例。保存性物質の社会。液体分子群の社会。生物一般の社会。女性優位社会。
そうした社会において。

ある個体において。
相手の個体を彼女自身のもとへと引き寄せる力。引力。
相手の個体が彼女自身のもとから去ることを出来なくする力。求心力。
相手の個体が彼女自身に対して反対し反抗することを出来なくする力。専制支配力。
相手の個体が彼女自身を現在の位置からどかそうとして衝突して来た場合。彼女自身が、問題無く不動状態や定住状態を保ったまま、相手を締め出したり懐柔して無力化することが出来る力。不動力。定住力。

保存性優位社会において。
そうした力が大きいほど、その個体は、自己保身の実現において、より有利になることが出来ること。
そうした力が大きいほど、その個体は、現状維持や原状回復や治癒や原状復帰の実現において、より有利になることが出来ること。
そうした力が大きいほど、その個体は、社会的優位者や社会的上位者となることが出来ること。

そうした力が一番大きい個体が、その社会における中心者となること。
社会的中心性。それは、保存性優位の社会における、究極の、自己保身実現可能性であること。
社会的中心性。それは、保存性優位の社会における、究極の、社会的上位性であること。

そうした社会的中心性を実現する力が大きい者。それは、以下の内容である。
質量の大きい者。比重の大きい者。重い者。内的な貯蔵や貯蓄の質量が多い者。

保存性優位社会における唯一の絶対者。それは、社会的中心者であること。
社会的中心者。それは、社会の中心に君臨する者であること。それは、社会の中心から、周囲の他者の動きを、意のままに統制する者であること。
保存性優位社会における、自己保身性の権化。それは社会的中心者であること。

エネルギー性が優位の社会。
例。エネルギー性物質の社会。気体分子群の社会。男性優位社会。
そうした社会において。

ある個体において。
彼自身を高速で移動させ得る、力。

ある個体において。
相手個体の既得領域を侵略して、そこから相手個体を弾き飛ばして追い出す力。
そのことで、その領域を、新たに彼自身の既得領域へと変える力。
そのことで、その領域に存在する資源を、新たに彼自身の既得権益へと変える力。
そのことで、彼自身が新たな稼ぎを得る力。
そうした、彼自身が新たな仕事をする力。

ある個体において。

相手個体を弾き飛ばして大きく移動させる力。
相手個体を破壊する力。
相手個体を突破し貫通する力。
相手個体を変形させる力。

そうした力が大きいほど、その個体は、自己拡大の実現において、より有利になることが出来ること。
そうした力が大きいほど、その個体は、仕事や稼ぎの実現において、より有利になることが出来ること。
そうした力が大きいほど、その個体は、社会的優位者や社会的上位者となることが出来ること。
そうした力が一番大きい個体が、その社会における普遍者となること。
社会的普遍者。それは、社会の隅々まで満遍無く高速で飛び回る者であること。それは、彼自身の存在を社会の隅々まで満遍無く拡散させ拡大させ得る者であること。

エネルギー性優位社会における唯一の絶対者。それは、社会的普遍者であること。
エネルギー性優位社会における、自己拡大性の権化。それは社会的普遍者であること。

排除。排泄。排出。排斥。そうした行為。
生物一般における、体内の不要物や有害物を排泄する行為。例。動物における、糞尿の排泄。

保存性優位社会の内部において。

無用な者。
役立たずの者。不要な者。役目を終えた残りかすに相当する者。社会的中心者における、彼女自身の社会的中心性の更なる増進に、何ら貢献しない者。

有害な者。
社会的中心者の自己保身を脅かす者。社会的中心者に対して、反対し反抗する者。社会的中心者に対して、攻撃を行い危害を加えようとする者。

社会的中心者が既に設定した内部調和を乱す者。保存性よりもエネルギー性で動作する者。多動者。単独行動者。周囲との交信を拒絶する者。自閉者。異質な者。
社会的中心者による、彼女自身の既得権益を社会内部へと貯蔵し続ける行為。そうした行為を妨げる者。
社会内部に蓄積し続ける、使用済みのゴミや残滓の山。それらは、社会内部における貯蔵スペースを、無駄にどんどん占拠し続けること。それらに相当する者。例。無能者。障害者。要介護の高齢者。

その社会の内部における、無用な者や有害な者。そうした者を、その社会の内部から、排除し追放すること。
そうした力。それは、以下の内容である。
絞る力。絞り出す力。
締め上げる力。締め付ける力。
それらを組み合わせることで、以下の内容の力を実現すること。
締め出す力。追い出す力。
そうした力を行使することで、以下の内容を実現すること。
社会的中心者にとって、邪魔や負担や脅威となる者。その、社会内部からの、排除や排泄や排出や排斥。
そうした排除や排泄の行為は、社会的中心者と周囲の者が一体となって協力する形で、その社会全体で一斉に実行されること。それは、全体主義的行為であること。

保存性優位社会の内部において。
各個体は、以下のように行動すること。

外部有用者の内容物を、搾り出して、その内部へと導入すること。
例。女性が彼女自身の体内に男性の精子を導入すること。
外部有用者の、内部への招聘と、高い地位の付与。
外部有用物の吸収や消化や同化。

内部無用者の存在自体を絞り出して、その外部へと放出すること。
内部無用者の解雇や追放。
内部無用物の排泄や排出や異化。例。動物における、彼ら自身の糞尿を体外へ排泄する行為。

そうした各個体にとって、周囲の他者は、以下のように分類されること。
有用者。彼女自身の自己保身の水準を上げる他者。彼女自身の社会的中心性を上げる他者。

無用者。彼女自身の自己保身の水準を上げない他者。彼女自身の社会的中心性を上げない他者。
有害者。脅威。ライバル。彼女自身の自己保身の水準を下げる他者。彼女自身の社会的中心性を下げる他者。

保存性の個体は、自己保身の水準を上げる他者を内部へと起用し厚遇し、そうで無い他者を冷遇し解雇し追放すること。
保存性の個体は、彼女自身の社会的中心性を上げる他者を内部へと起用し厚遇し、そうで無い他者を冷遇し解雇し追放すること。
そうした冷遇や解雇や追放の行為。それは、社会的な排除や排泄や排出や排斥の行為であること。

保存性優位社会において。
その社会は、表面張力によって、内部と外部とに常時峻別されること。

保存性優位社会の内部において。

各個体は、社会内部の、より上位の者に対して、常時100%隷従すること。より上位の者とは、その社会内部において、より中心に位置する者であること。
各個体は、社会内部の、より下位の者に対して、彼自身に対して100%隷従するように、常時強制すること。より下位の者とは、その社会内部において、より周辺や周縁に位置する者であること。
ある個体において。周囲の各個体の動きを統制し制止する力。周囲の各個体の動きを、恣意的に一方的に決定する力。そうした専制支配力。その力の強さは、その個体の社会的中心性の高さに比例すること。

保存性優位社会の内部において。

各個体は、社会外部の、より強大な者からの圧力を、常時100%盲目的に無条件に丸呑みすること。それは、社会外部からの圧力が、その社会の表面張力を上回った場合に起きること。
各個体は、社会外部の、より弱小な者からの圧力を、常時100%完全無視して一切動じず締め出し続けること。それは、社会外部からの圧力が、その社会の表面張力を下回った場合に起きること。

社会の中心者としての地位。究極の自己中心性を実現し得る地位。
そうした地位の、新規獲得や死守や奪還。
各個体は、その実現を目指して、外部からは一切見えない形で、凄絶な内部抗争を、永続的に繰り広げること。

そうした動作の、コンピュータシミュレーションによる再現。
例。液体分子運動シミュレーションによる再現。
液滴の中心に位置する分子が、周囲の各分子の動きを、恣意的に一方的に、統制し決定し制止していること。
その事実を、各分子間に働く分子間力の、強さと社会的方向性とを、各分子毎に算出することによって、実証すること。

個体間力の社会的方向性。
二つの個体の間に働く、個体間力において。
その力は、二者間の、どちら側からどちら側へと向いているか？
その力は、二者間の、どちら側からどちら側へと一方的に行使されているか？
その力は、中心者から周辺者へと向いているか？その力は、周辺者から中心者へと向いているか？
その力は、どの程度強大か？

それらの測定が必要であること。

追加内容。2024年9月下旬。物質一般の社会について。引力や斥力と、保存性やエネルギー性との対応関係。引力や斥力と、専制支配や暴力支配との対応関係。物質一般における引力の存在と、資本主

義の根源との関連。それらの知見の、生物一般の社会や人間社会への適用。

引力。
ある個体Aにおいて。
周囲の他の個体Bを、個体A自身の元へ、引き寄せ、惹き付け、接着させる、力。周囲の他の個体Bの足を引っ張る力。周囲の他の個体Bの動きを、牽制し邪魔し制御する、力。
それは、すべての個体が、共通に所有する力であること。万有引力。
それは、地上においては、重力であること。それは、地球が所有する引力であること。
そうした重力。それは、地球付近の個体を、全て強制的に地上へと落下させること。
それは、地球付近の個体に対して漏れなく働く、専制支配力であること。
そうした引力における、専制支配力。それは、内的な保存や引き締めの力と、表裏一体であること。それは、対外的な拘束力や統制力と、表裏一体であること。
そうした引力。
その力の強さは、その個体Aの質量の大きさに、比例すること。
その力の行使は、その個体Aの周囲の、他の個体Bに向けて、影響力や説得力やオーラの形で、遠隔的に、常に働いていること。
ある個体Aが、周囲の他の個体Bに向けて、引力を行使すること。
ある個体Aが、周囲の他の個体Bからの引力を、被ること。
ある個体Aにおける、そうした引力の影響が有効な範囲。それは、以下のように呼称することが可能であること。引力圏。
それは、台風における暴風圏や強風圏と、同様であること。
それは、勢力圏と、概念的に同等であること。
ある個体Aにおける引力圏。その圏内においては、他の個体Bに向けて、以下のような力が、常に有効な状態で行使され続けていること。
ある個体Aが、他の個体Bを、個体A自身の元へ引き寄せたまま離さないようにする、力。

ある個体Aが、他の個体Bを、個体A自身の元へ落下させ着陸させたまま動けなくさせる、力。

ある個体Aにおける、他の個体Bに向けた引力の行使。
その行使は、個体Aが質量を所有する限り、個体Aの自由意思に逆らってでも、自動的に、個体Bに対して強制的に実行されること。
その行使は、局所的であること。その行使は、複数の個体同士の局所的なやり取りのみで実現されること。そうしたやり取りにおいては、ユニバーサルな管制システムは、一切利用されないこと。

ある個体Aによる、そうした引力の行使が、他の個体Bに対してもたらす結果。それらは、以下の内容であること。
個体Bが、破壊されること。個体Bが、変形すること。
個体Bが、その存在位置を、強制的に移動させられること。個体Bが、その存在位置を、強制的に固定されること。

そうした物理的な引力のコンピュータシミュレーションにおいて。
従来採用されてきた視点。それは、以下の内容であること。航空管制室の視点。天空からの大局的な視点。普遍的でグローバルな視点。高速飛翔者の視点。エネルギー性の視点。
しかし。そうした視点は、今後、廃されるべきであること。
代わりに採用されるべき、新たな視点。それは、以下の内容であること。地上からの、局所的で限定的な視点。保存性の視点。
その理由。引力は、元来、エネルギー性では無く、保存性に基づく力であるから。

引力。それは、保存力であること。
それは、以下の内容であること。
ある個体Aにおける、周囲の他の個体Bとの間において。
相互に、自他を、引き寄せ、結合させ、一体化させ、くっつけて離さない、力。
相互の、結合や連結の関係を、そのまま現状維持するか、更に強化する、力。
相互の、結合や連結の関係を、そのまま保存する、力。
相互の、結合や連結の関係を、絶えず生成し有効化する、力。
相互の位置関係を、そのまま不動にする、力。
相互の結合や連結の関係に生じた傷を、治癒して解消させる、力。

相互の結合や連結の関係に生じた断絶を、再び元通りに回復して原状復帰させる、力。

それは、正反対の性質を持つ個体や物体同士の間で働くこと。
例。
磁石のN極とS極との間に働く、相互に引き合って結合する、力。
電子の陽イオンと陰イオンとの間に働く、相互に引き合って結合する、力。
生物の男女の間に働く、生殖時に、相互に引き合って結合する、力。

それは、共通の性質を持つ個体や物体同士の間で働くこと。
例。
液体分子の間に働く、相互に引き合って作用し合う、分子間力。
複数の生物一般の間に働く、彼ら自身の生存力向上のために、仲間や社会を形成する力。

斥力。それは、エネルギーであること。
それは、以下の内容であること。

ある個体Aにおける、周囲の他の個体Bとの間において。
相互に、自他を、引き離し、離反させ、分離させる、力。
相互に、自他の結合を、絶えず拒絶する、力。
相互に、自他の結合を、絶えず破壊し無効化する、力。
相互の位置関係を、絶えず変化させ変動させる、力。

それは、共通の性質を持つ個体や物体同士の間で働くこと。
例。
磁石のN極とN極との間に働く、相互に離反してくっつかない、力。
磁石のS極とS極との間に働く、相互に離反してくっつかない、力。
電子の陽イオンと陽イオンとの間に働く、相互に離反してくっつかない、力。
電子の陰イオンと陰イオンとの間に働く、相互に離反してくっつかない、力。それは、電流や電力の、発生源であること。

それは、正反対の性質を持つ個体や物体同士の間で働くこと。

例。
生物の間に働く、異なる種類の生物同士が、生殖時に、相互に離反してくっつかない、力。
生物としての人間の間に働く、異なる人種の人間同士が、相互に離反してくっつかない、力。

斥力。
それは、以下の内容であること。
ある個体Aにおける、周囲の他の個体Bとの間において、隙間を生成する力。
隙間。それは、以下の内容であること。
明かり窓。暗闇に向けて、光が差し込む箇所。外界に向けて、公開された箇所。外界に対して、セキュリティホールとなる箇所。
それゆえ。斥力とは、以下の内容であること。
明かり窓を生成する力。暗闇の空間に対して、外部から光明をもたらす力。
公開窓を生成する力。閉鎖的な空間に対して、外部から開放性をもたらす力。閉鎖的な空間から、外部へと、内部機密情報の漏洩をもたらす力。防御的な空間に対して、外界からの有効な攻撃を新たに可能にする力。

斥力。
それは、以下の内容であること。
ある個体Aにおける、周囲の他の個体Bとの間において。
相互の結合や連結を、切断し破壊し無効化する力。
相互関係上の、切れ目や裂け目や割れ目を生成する力。

周囲の他の個体Bに対して、関係上の傷を生成する力。
周囲の他の個体Bに対して、暴力を振るう力。ある個体Aにおける、周囲の他の個体Bに対して、暴力支配を有効化する力。

そうした力の保有は、ある個体Aにおいて、以下の行為の実現を、新たに可能にすること。
周囲の他の個体Bから、離反すること。
周囲の他の個体Bと、動作的に逆行し逆転し対立すること。
周囲の他の個体Bと、動作的に競争し闘争すること。
周囲の他の個体Bに対して、反抗し反乱し反撃し、革命を起こすこ

と。
周囲の他の個体Bから、動作的に自主独立し自立すること。
周囲の他の個体Bによる支配から、解放され自由になること。
相互離散的に、個人主義的に、自由主義的に、振る舞うこと。
各自が、好きな時間に、好きな方向へと、高速で、空間移動すること。
周囲環境に対して、変化や変動を引き起こすこと。
閉鎖的な周囲環境に対して、抜け穴やセキュリティホールを、生成すること。

斥力。
それは、以下の内容であること。
エネルギー性の物質における、有能性の根源。
例。
気体は、温度が高いほど、その分布勢力を拡大しやすいこと。
ウィルス性の生物。生物一般における、精子や精細胞や男性。彼らは、周囲の他者への闘争や競争への意識が高いほど、ライバルとの生存競争に打ち勝って、彼ら自身の遺伝的子孫を残しやすいこと。

引力。
それは、以下の内容であること。

開いた隙間の割れ目を、相互に引き寄せて縫い合わせて、再結合して密閉する力。
一旦生成した傷を、治癒する力。

開いた隙間の明かり窓を、再び閉鎖し遮蔽する力。そうすることで、今まで光が差し込んでいた内部に、暗闇を再び取り戻す力。
開いた隙間の抜け穴を、再び閉鎖し遮蔽する力。そうすることで、今まで存在していた対外的なセキュリティホールを、再び解消する力。

一旦断絶した結合や連結を、回復し、再生成し、原状復帰する力。

そうした力の保有は、ある個体Aにおいて、以下の行為の実現を、新たに可能にすること。

周囲の他の個体Bに対して、関係上の傷を修復し、関係を元通りに回復すること。
個体A自身の元から離れていった他の個体Bに対して、強制的に、よりを戻すこと。
個体A自身の元から離れていった他の個体Bを、強制的に、個体A自身の元へと呼び戻すこと。

他の個体Bを、個体A自身の元へと、強制的に、引き寄せること。
他の個体Bを、個体A自身の元へと、強制的に、連れ戻すこと。
他の個体Bを、個体A自身の元へと、強制的に、引き止め繋ぎ止めること。
他の個体Bが個体A自身から離れること。そのことを、強制的に、不可能にすること。
他の個体Bが個体A自身の元から出ていくこと。そのことを、強制的に、不可能にすること。
他の個体Bを、個体A自身に対して、強制的に、依存させること。
他の個体Bの動作を、強制的に、束縛し統制すること。
他の個体Bが所持していた、動作上の自由や独立性を、強制的に、奪い去ること。
他の個体Bが、個体A自身の許可無しにその場に居続けること。そのことを、根本的に、不可能にすること。
他の個体Bに対して、専制支配を永続的に行うこと。
他の個体Bに対して、個体A自身からの離反や反抗を、強制的に、不可能にすること。
個体A自身が設定した牢獄に強制的に収容された、他の個体B。個体A自身が、そうした個体Bに対して、そうした牢獄からの解放を、一方的に恣意的に拒絶すること。

他の個体Bを、個体A自身に対して、強制的に、順応させること。
他の個体Bを、個体A自身に対して、強制的に、調和させること。
他の個体Bに対して、個体A自身が恣意的に望む内容を、強制的に一方的に丸呑み学習させること。
他の個体Bに対して、個体A自身との仲良し関係を、一方的に強制すること。

他の個体Bに対して、個体A自身の囚人や玩具として振る舞うことを、一方的に強制すること。

引力。
それは、以下の内容であること。
ある個体Aにおいて。
周囲の他の存在Cを、個体A自身の元へと、引き込み取り込む、力。
そのようにいったん個体A自身の元へと取り込んだ、内容物。そうした内容物を、個体A自身の元で、しっかり保有し続けて、決して手放さない、力。

そうした力の保有は、ある個体Aにおいて、以下の行為の実現を、新たに可能にすること。

周囲の他の存在Cを、個体A自身の元へと、貯め込み貯蔵し貯蓄すること。
周囲の他の存在Cを、個体A自身の元へと、所属させること。
周囲の他の存在Cを、個体A自身によって、所有すること。
個体A自身が、そうした所有物を、個体A自身の私的財産として、保有し保存し続けること。
個体A自身が、そうした行為を、エンドレスに遂行し続けること。
その結果。
個体A自身が、存在として、雪だるま式に、より肥え太り重たくなること。
個体A自身が、存在として、雪だるま式に、個体A自身の質量を、より増大させること。
その結果。個体A自身が周囲に対して行使可能な引力が、雪だるま式に、増大し続けること。
その結果。個体A自身が、周囲の他の存在Cを、個体A自身の元へと、より引き込み取り込みやすくなること。

そうした、個体A自身の元へと取り込まれ、個体A自身によって保存され保有されている、周囲の他の存在C。
それらは、結局、個体A自身の保有する引力を、より効果的に増大させるための、元手であり資本であること。

個体A自身が、周囲の他の存在Cを、個体A自身の元へと、取り込み、貯蓄し保有し続けること。
そのことで、個体A自身の質量が、増大すること。
そのことで、個体A自身の引力が、増大すること。
そのことで、個体A自身が、以下のような能力を、雪だるま式に増大させることが可能になること。

個体A自身が、周囲の他の存在Cを、個体A自身の元へと、より高い効率で、取り込み、貯蓄し保有し続ける能力。
そのことで、個体A自身が、以下の内容を新たに実現することが、十分に可能になること。
個体A自身が、物質世界における資本主義の優良な体現者となること。

例。
巨大恒星Aが、周囲の星星Bをどんどん取り込んで、恒星A自身の内部に貯め込んで行くこと。
そのことで、巨大恒星Aは、恒星A自身が巨大化する速度を、更に高めていくこと。
そうした巨大恒星Aにとって、周囲の星星Bは、恒星A自身の巨大化を更に推進するための資本として作用していること。
そうした巨大恒星Aは、宇宙空間に拡がる星星の世界における、典型的な資本主義者であること。

結局。
物質一般に内在する引力こそが、物質世界一般における資本主義の根源であること。
そうした物質世界一般における資本主義の、サブクラス。それは、例えば、以下の内容であること。
生物一般の社会。人間社会。そうした社会における、資本主義の発生と持続。
資本主義。それは、物質世界において一般的に見られる、動作のためのイデオロギーであること。

引力。
それは、以下の内容であること。
ある個体Aにおいて。
周囲の他の個体Bに対して、個体A自身との結合や連結の持続を、エンドレスに強制し続ける、力。
周囲の他の個体Bとの間に、調和関係を、エンドレスに、生成し構築し続ける、力。
周囲の他の個体Bにおいて発生する、個体A自身からの分離独立解放への、芽。そうした芽を、エンドレスに、容赦無く悉く潰し続ける、力。
周囲の他の個体Bにおいて発生する、個体A自身からの自由化への、

芽。そうした芽を、エンドレスに、容赦無く悉く潰し続ける、力。

そうした力の保有は、ある個体Aにおいて、以下の行為の実現を、新たに可能にすること。
個体A自身との調和関係を破壊しようとする、周囲の他の個体B。
例。個体A自身に対して、反抗や批判や反対の動作を行う、他の個体B。
個体A自身が、そうした個体Bに対して、より大きな引力を、容赦無く行使すること。
その結果。
個体A自身が、そうした個体Bを、個体A自身に対して、力ずくで、降伏させ屈服させること。
その結果。
個体A自身が、そうした個体Bによる反乱を強権的に鎮圧することに、問題無く成功すること。
そのことで、そうした個体Bに対して、個体A自身との調和関係を、再び強制すること。

引力。
それは、結局、以下の内容であること。
ある個体Aにおいて。
周囲の他の個体Bに対して、エンドレスに専制支配を続ける、力。

引力。
それは、以下の内容であること。
物質における保存性を、実現する力。
物質における保存力の根源。
それは、以下のような物質において、主に所有されていること。
例。液体。生物一般。細胞性生物。女性。卵子。陽イオンと陰イオンとのペア同士。磁石のN極とS極とのペア同士。

斥力。
それは、以下の内容であること。
物質におけるエネルギー性を、実現する力。
物質における破壊性や変動性を、実現する力。
物質におけるエネルギーの根源。

それは、以下のような物質において、主に所有されていること。
例。気体。ウィルス。男性。精子。陰イオンと陰イオンとのペア同士。磁石のN極とN極とのペア同士。

引力。
それは、以下の内容であること。
ある個体Aにおいて。
他の個体Bに対して、個体A自身との相互結合や相互連結の状態を維持することを強制する、力。
他の個体Bを、個体A自身の元で、拘束し束縛し続ける、力。
他の個体Bに対して。個体A自身との間で、調和や仲良しの関係を築くことを強制する、力。

他の個体Bの存在を、個体A自身の元へと所属させ、吸収合併併合する、力。
他の個体Bの存在を、個体A自身の元で内的に貯蔵貯蓄し、個体A自身が所有権を有する財産や資本へと、更に新たに転化させる、力。

他の個体Bを、個体A自身の元から動けなくさせる、力。
他の個体Bを、個体A自身の元で不動化し不自由化し固定化する、力。
他の個体Bを、個体A自身の元へと定住させる、力。
他の個体Bが個体A自身の元から移動することを、強制的に禁止する、力。
他の個体Bが個体A自身の元から分離し離反することを、強制的に禁止する、力。
他の個体Bが個体A自身の元から解放され自由化されることを、強制的に禁止する、力。

引力。
それは、物質世界一般において、定住生活様式を生成させる、根源的な力であること。
例。比較的温暖で湿潤な大地において、農耕民の定住化と、彼らの社会の女性優位化が、発生していること。
その具体例。中国。日本。韓国。ロシア南部。東南アジア諸国。それらの、稲作や麦作や畑作の社会。

ある個体Aにおいて。

そうした引力の行使。それは、実際には、他の個体Bから、個体A自身に対しても、同時に行使されていること。
そうした引力の行使。それは、相互的であること。それは、双方向性であること。その理由。引力は、質量を持つ個体一般において、普遍的に所有されているから。例。現代物理学において、万有引力という呼称が、引き続き多用されていること。

そうした引力の行使に基づく、ある個体Aにおける、他の個体Bに対する束縛。それは、結局、相互束縛であること。
例。人間社会向けの臨床心理学における相互束縛の概念。その概念の根源は、結局、物質世界一般における万有引力に由来すること。

斥力。
それは、以下の内容であること。
ある個体Aにおいて。
個体A自身を、他の個体Bの元で、自由に動けるようにする、力。
個体A自身を、他の個体Bの元から離れて、移動できるようにする、力。
個体A自身の存在を、他の個体Bの元で、可動化し流動化する、力。
個体A自身の存在を、他の個体Bの元から、解放し自由化する、力。
個体A自身が、他の個体Bに対して、反抗や批判や社会的革命を行えるようにする、力。
個体A自身が、他の個体Bからの相互結合や相互連結の要請を、一方的に拒絶出来るようにする、力。
個体A自身が、他の個体Bの元で、相互に対立し不調和のままでいられるようにする、力。

斥力。
それは、物質世界一般において、移動生活様式を生成させる、根源的な力であること。
例。金属固体内部における、電子の群れによる、絶え間無い自由流動の発生。それらが、電力エネルギーを生成していること。

引力。
それは、以下の内容であること。

ある個体Aにおいて。
周囲の他者Bの存在を、個体A自身の元へと、吸収し合併し併合する、力。
そのことで。個体A自身の存在を、より大きく重くする、力。
そうした力は、物質世界一般における、資本主義の根源となること。
そうした力の行使。それは、どこまでも無期限に無制限に、永続すること。
そうした力の行使。それは、その個体Aの内部への物質的な資本の蓄積を、生み出すこと。
それは、異なる個体の間において、内的な資本蓄積の質量における格差を、生み出すこと。

そうした資本主義の存在。それは、物質一般の世界において、元から普遍的であること。それは、人間社会に特有の話題では、全然無いこと。

例。
冬季の降雪地帯。
雪だるまは、坂道を転がると、勝手にどんどん大きく重くなること。
それは、以下の内容であること。
その雪だるまは、自主的に彼自身の資本増強を行う資本主義者であること。その雪だるまにおいては、体積や質量の増大に伴い、内的な資本蓄積が起きていること。

例。
生物としての人間。その社会において。
ある企業による、他の企業の吸収合併が、常態化していること。
そうした企業は、自主的に彼ら自身の資本増強を行う資本主義者であること。そうした企業においては、所有資金の増大に伴い、内的な資本蓄積が起きていること。

物質一般の社会を構成する２つの力。引力と斥力。

引力。
それは、以下のようなキーワードによって、構成されること。

相互結合力。相互連結力。
保存力。維持管理力。
拘束力。束縛力。定住させる力。所属させる力。閉鎖力。
一体融合化する力。内的調和力。内的協調力。内的折衝力。
治癒力。原状回復力。
内部吸収力。内部所有力。内部貯蔵力。内部蓄積力。内部資本増強力。
自己質量を重く大きくする力。自己引力増強において資本主義を通す力。

斥力。
それは、以下のようなキーワードによって、構成されること。
相互分離力。相互離反力。
エネルギー。活動力。運動力。仕事する力。稼ぐ力。
自由化する力。解放する力。独立する力。
離散力。個人主義を通す力。独自行動力。反抗力。批判力。客観視する力。
破壊力。切断力。分析力。変動生成力。高速移動力。
非所属を通す力。非保有を通す力。財産を喜捨する力。間借りする力。
自己質量を軽く小さくする力。

引力だけで無く、斥力も、物質一般の社会を構成する重要な要素であること。
例。
相互離反。反抗。自由化。

斥力が持つ性質は、反社会性では、決して無いこと。
斥力は、物質一般の社会における、もう一つの構成要素であること。

斥力の発揮は、エネルギー性の物質における、主要な特徴で長所であること。
例。
斥力の発揮は、生物一般の社会において、エネルギー性が強い男性における、主要な特徴で長所であること。

それは、生物としての人間の社会においても当てはまること。

斥力の発揮は、人間社会において、エネルギー性が強い男性における、主要な特徴で長所であること。
斥力の社会的価値は、男性優位社会において、相対的に高いこと。
例。西欧諸国における、現状の社会体制に対する批判精神の重視。

追加内容。2024年9月下旬。その2。従来の物理学における、地球の重力や位置エネルギーや保存力の概念。それらを全面的に置換する、新たな上位互換の視点の必要性。その最終目標としての、物質一般における引力や斥力の法則の解明の必要性。物質一般における物理法則の研究において新たに克服されるべき、従来の社会的価値観。

以下の内容についての、一口説明。
従来の物理学における、地球の重力や位置エネルギーや保存力の概念。それらを全面的に置換する、新たな上位互換の視点が、新たに必要であること。
そうした視点に基づいて、以下の内容を解明することが、今後の物理学における最終目標の一つとなるべきこと。物質一般における引力や斥力の法則。
そうした物質一般における物理法則の研究において、従来の物理学

者の間に保有されている既存の様々な社会的価値観の克服が、新たに必要であること。

従来の物理学における、物体運動の捉え方。それは、以下の内容であること。
地球の重力によって、地球の地上付近の高い位置に存在する物体が、地上への落下運動を引き起こすこと。そうした物体は、地上への落下の最中に、運動エネルギーを一時的に所有すること。
そうした落下物体における運動エネルギーの新たな発生。そうした現象は、従来の物理学において、位置エネルギーの蓄えの消化として捉えられてきたこと。
外部観察者側からは。そうした位置エネルギーが、その物体において、予め貯蔵され保存されていたように、見えること。
そうした現象が、従来の物理学において、以下のような呼称で、第一義的に優先して呼ばれていること。保存力。

しかし。そうした従来の物理学における物体運動の捉え方は、物体一般における引力の働きを普遍的に把握する上では、実は、不適切であること。
そうした内容把握は、今後は、以下の内容へと置き換えられるべきであること。

2つの個体AとBの間において、引っ張り合いの勝負が、予め常時生起していること。
より引力の強い個体Aは、そうした引っ張り合いの勝負に勝つことで、より引力の弱い個体Bを、個体A自身の方へと、一方的に引き寄せ続けることが出来ること。
より引力の弱い個体Bは、そうした引っ張り合いの勝負に負けることで、より引力の強い個体Aの方へと、一方的に引き寄せられ続けること。

引き寄せる側の個体Aが予め設定した、引き寄せられる側の個体Bにとっての、足場。
個体Bは、その足場に到達するまで、引き寄せる側の個体Aへと、引き寄せられ続け、移動し続けること。
個体Bは、最後には、その足場に衝突して、動作が止まること。そうした動作の停止や終了。それは、引き寄せる側の個体Aの引力行

使による効果であること。
そうした動作の停止は、その足場が再び何らかの理由で崩壊するまで、ずっと有効であること。
そうした動作の停止は、以下の条件の成立が有効である限り、ずっと有効であること。
引き寄せる側の個体Aの引力の強さが持続し続けること。引き寄せる側の個体Aの質量の大きさが持続し続けること。

従来の物理学における、重力や位置エネルギーの説明。
地球の重力によって、地球の地上付近の高い位置に存在する物体が、地上への落下運動を引き起こすこと。
そうした物体は、地上への落下の最中に、運動エネルギーを一時的に所有すること。そうした運動エネルギーの発生源を、位置エネルギーと呼称すること。
そうした内容は、以下の内容へと、書き換えられるべきであること。

物質世界一般における、引力行使や斥力行使の、法則。
より引力が強い個体Aによる、引力行使によって。そうした個体Aの付近位置に存在する、より引力が弱い個体B。そうした個体Bが、より引力が強い個体Aへと引き寄せられて移動する運動を、引き起こすこと。
そうした個体Bは、より引力が強い個体Aが設定した足場への移動の最中に、運動エネルギーを一時的に所有すること。
そうした運動エネルギーの発生は、個体Aから個体Bに対して及ぼされる引力に、由来すること。
そうした個体Bが、より引力が強い個体Aが設定した足場へと到達した時点において。その個体Bの運動エネルギーは、以下の内容へと転換され、その個体Bからは消失すること。
そうした2つの個体AやB各々の内部における、構成粒子間の結合や連結。そうした結合や連結の連鎖による、構成物。
それらは、そうした2つの個体AやB各々の内部における、構成粒子間の保存力行使の結果の産物であること。
それらを、その運動エネルギーの行使によって、破壊すること。その際に、発熱が生じること。それらの実行のために、その個体Bの運動エネルギーが消費されて、消滅すること。

上記の内容においては、引力と同時に、斥力の行使も、同時に考慮

すべきであること。
上記のように行使される引力の強さから、斥力の強さを差し引いて、数値計算などを行うべきであること。
場合によっては、以下の事象が発生する可能性も十分に存在すること。
2つの個体AとBとの間で行使される斥力の強さが、2つの個体AとBとの間で同時に行使される引力の強さを上回ること。
そのことで、2つの個体AとBとが、互いに反対方向へと、離れて移動して行くこと。
個体Bにおける、個体Aの引力由来の運動エネルギーを行使した、個体AとBの物質構造の破壊。そうしたエネルギー的活動。それは、結局は、斥力の発揮の一種であること。
そこにおいては、個体Aの引力が、個体Bの斥力へと、転換されていること。それは、結局、以下の内容であること。引力の、斥力への転換。

今後の物理学において、取るべき視点。
地球上や地球付近の物体の動きのみに囚われないこと。
地球上や地球付近の物体の動きの数理的把握と再現のみに、研究の視野を限定しないこと。

地球上や地球付近のみに限定されない、全物質世界の全ての物質個体に共通する、総括的なスーパークラスの知見。
そうした知見を得ることに集中すること。

地球上や地球付近のみに、その有効性を限定された、物理運動法則。
それらは、全ての物質個体に共通する、総括的なスーパークラスの視点からは、結局は、サブクラスの限定された視点に基づくものでしか無いこと。
そうしたサブクラスの、限定された視点からの脱却が、新たに必要であること。

その実現のために矯正されるべき、従来の物理学者が保有する社会的価値観。それは、以下の内容であること。

人間を世界の中心へと位置付ける世界観。人間を世界の頂点へと位置付ける世界観。人間の存在と、その他の存在とを、無理やり峻別

する、価値観。
例。自然物と人工物とを区別する価値観。西欧諸国や中東諸国を基盤として、全世界的に信仰されている、一神教の価値観。ユダヤ教。キリスト教。イスラム教。それらが生み出す、天動説の視点。

地球上や地球付近からの視点のみを取るように、研究の視野を一方的に限定する価値観。
例。地球上や地球付近における資源獲得競争に勝利するための、実利的視点。そうした利益獲得的な視点しか持とうとしない、投資家的な生物的価値観。

人間が居住する地球上や地球付近と、その他の宇宙空間とを、無理やり区別する視点。それは、人間世界と、その他の自然世界とを、無理やり区別する視点に基づくこと。

現状の人間の物理学者たちが、そうした世界観や価値観しか持てないこと。それは、地球上や地球付近にしか居住出来ない、現状の人間たちの能力的な限界に基づくこと。

今後の、全物質世界に共通する物理的一般法則の研究の進展において。上記のような、地球上や地球付近へと限定された狭い視点からの、新たな解放や自由化が、必須であること。

追加内容。2024年11月上旬。保存性物質における、内部発熱と内部発光の発生のメカニズム。保存性物質における、熱エネルギー内部保有のメカニズム。その物質における構成要素同士の引力行使の大きさとの関連。保存性物質内部

における、保存性とエネルギー性との共存。弁証法的物質としての保存性物質。保存性物質における、エネルギー性行為としての爆発と、その直後の再度の沈静化の、定期的な繰り返しの発生について。

保存性物質。
その内部における構成要素の粒子同士は、強力な相互引力行使によって、万遍なく集合し集結すること。
その内部における構成要素の粒子同士は、より中心的な位置の獲得を目指して、絶えず内部抗争し続けていること。
そうした内部抗争の原動力が、内部粒子相互の足の引っ張り合いであること。それは、内部粒子相互の間における、引力行使であること。
それは、塊を、万遍なく形成すること。
それは、表面を、万遍なく形成すること。それは、内部機密性を取得すること。
それは、円球の形状を、形成すること。それは、円満な外見を取ること。それは、対外的に、内部調和を演出すること。例。水滴。星。

保存性物質。
その内部における構成要素の粒子同士は、強力な相互引力行使を絶えず行っていること。
そうした引力の行使。
それは、他の粒子の運動に対して、ブレーキを掛けることに相当すること。

それは、他の粒子の運動を制圧することに相当すること。

熱。それは、粒子や個体の振動として、捉えられること。

ある個体の運動が、外的な力によって、制圧され抑圧された場合。
その運動エネルギーは、熱エネルギーへと転化すること。

ある個体の運動が、周囲の他の個体からの引力によって、制圧され抑圧された場合。
その個体の運動は、振動へと変化すること。
その運動エネルギーは、熱エネルギーへと転化すること。
その結果。その個体は、発熱すること。
その個体が高熱化した場合。その個体は、発光すること。その個体は、周囲に対して、光明性をもたらすようになること。その個体は、周囲を、明るく照らすようになること。

ある個体の運動に対する、周囲の他の個体からの引力の大きさの度合い。その度合いがより高まるほど、その個体は、より発熱し発光すること。

ある個体の運動に対する、周囲の他の個体からの引力の大きさの度合い。それは、以下の内容である。
ある個体の自由運動に対して、周囲の他の個体が足を引っ張り、邪魔をする度合い。その大きさの度合い。
ある個体の運動に対する、周囲の他の個体からのブレーキや制圧力の大きさの度合い。
そうした、周囲の他の個体からの引力の大きさ。その度合いは、保存性物質において、その中心部や中枢部に行くほど、高まること。
その結果。
保存性物質においては。
その中心部や中枢部に行くほど。
その構成要素同士相互の凝集力や凝縮力が、より高まること。
その高密度化や過密化の度合いが、より高まること。
その質量の大きさの度合いが、より高まること。
それは、より重くなること。

保存性物質においては。
その中心部や中枢部に行くほど。
その構成要素同士相互の引力の大きさの度合いが、より高まること。

その構成要素同士相互が足を引っ張り合う内部抗争の度合いが、より高まること。
その構成要素同士相互のブレーキの大きさの度合いが、より高まること。
その構成要素同士相互の制圧力の大きさの度合いが、より高まること。それは、より高圧化すること。
その構成要素同士相互の調和形成力の大きさの度合いが、より高まること。
その各構成要素の自由運動が振動へと転化する度合いが、より高まること。
その各構成要素が発熱し発光する度合いが、より高まること。それは、より高熱化すること。それは、より明るくなること。

その結果。
保存性物質は、本質的に、体温を持つこと。
その体温は、その質量が大きくなるほど、その中心部や中枢部において、より高温化すること。

保存性物質においては。
その中心部や中枢部に行くほど。
その潜熱や蓄熱の度合いが、より高まること。
その熱エネルギー蓄積の度合いが、より高まること。
その内部エネルギー蓄積の度合いが、より高まること。
そうしたエネルギー性。それは、運動エネルギーでは無く、熱エネルギーであること。

その結果。
--
引力。保存力。それらは、熱エネルギーの発生源になること。
そうした熱エネルギー。それらは、外部の他の物質に対して、運動エネルギーや斥力をもたらすこと。
しかし。そうした熱エネルギーは、保存性物質の一番奥の部分に秘匿されていること。
保存性物質における高熱エネルギーを保持している部分。
その部分は、外界との接触は、遮断され、不可能になっていること。
その熱エネルギーが、運動エネルギーや斥力へと転化すること。それは、実質的に不可能になっていること。
その熱エネルギーは、保温され蓄熱され続けること。その働きは、魔法瓶と同じであること。それは、保存性物質の温室化をもたらす

こと。
そうした保温性や蓄熱性の実現は、対外接触の遮断によってもたらされていること。
そうした高熱性。それは、その物質の奥深くに秘蔵されていること。それは、外界からは、そのままでは認識不可能であること。それは、そうした中枢部に潜入することによって、初めて認識可能となること。
例。地球内部の高熱性。それは、活火山の噴火による溶岩やマグマの外部流出によって、初めて外界からの認識が可能になること。
ただし。その保存性物質全体が、高熱化している場合。その保存性物質の表面も、高熱化している場合。
そうした高熱性。それは、外界から、十分に認識可能であること。
例。恒星が発する高熱。太陽が発する高熱。

そうした中枢部における潜熱エネルギーの蓄積。それは、その物質における内部圧力の高まりをもたらすこと。
そうした内部圧力が一定の限度を超えて高まった場合。それは、対外的な噴火や爆発や革命をもたらすこと。それは、ヒステリーの発作に相当すること。例。地球における活火山の噴火。
保存性物質における、そうした内部圧力の上昇の常態化。それは、保存性物質において、対外的な噴火や爆発や革命やヒステリーの発作を、定期的にもたらすこと。
例。地球における活火山の定期的な噴火。生物としての人間の社会における、人々の内的不満の蓄積の恒常的な高まりと、それがもたらす社会的革命の定期的な発生。女性における、感情的爆発やヒステリー発作の、定期的発生。
保存性物質における、そうした爆発的行為の発生後。そうした保存性物質は、直ぐに、保存性の本質を取り戻し、再び沈静化して落ち着くこと。
例。地球における活火山の、噴火後の沈静化。生物としての人間の社会における、革命発生後の、社会の沈静化と、落ち着きの取り戻し。

--
引力。保存力。それらは、熱エネルギーの発生源になること。
そうした熱エネルギー。それらは、その物質の高温化をもたらすこと。それらは、その物質の発光をもたらすこと。
しかし。そうした光は、保存性物質の一番奥の部分に秘匿されていること。
保存性物質における高輝度の光を保持している部分。

その部分は、外界との接触は、遮断され、不可能になっていること。
そうした発光性。それは、外界からは、そのままでは認識不可能であること。それは、そうした中枢部に潜入することによって、初めて認識可能となること。
ただし。その保存性物質が、その中枢部だけでなく、その外縁部まで、十分に高熱化して発光している場合。その保存性物質の表面も、高熱化して発光している場合。
そうした発光性。それは、外界から、十分に認識可能であること。
例。恒星が発する光や輝き。太陽が発する光や輝き。地球内部の高温マグマの、活火山爆発時の外部流出に伴う、発光。

ある物質内部における、その構成要素同士の引力行使の度合いの大きさ。それは、以下の内容である。
ある物質における保存力の大きさ。ある物質が、保存性物質として捉えられる度合いの大きさ。
その大きさは、その物質内部の凝集力や凝縮力の大きさに、比例すること。
その大きさは、その物質内部の密度の大きさに、比例すること。
その大きさは、その物質内部の質量の大きさに、比例すること。
その大きさは、その物質が内部保有する発熱性や発光性の大きさに、比例すること。
その大きさは、その物質が内部保有する熱エネルギーや光エネルギーの大きさに、比例すること。

その結果。
保存性物質の中心部や中枢部においては、保存性とエネルギー性とが、共存していること。
保存性。それは、運動の減速や制止や禁止をもたらすこと。それは、引力をもたらすこと。
エネルギー性。それは、運動の加速をもたらすこと。それは、斥力をもたらすこと。
保存性物質の中心部や中枢部においては、そうした相互に矛盾する性質が、共存していること。
保存性物質の中心部や中枢部においては、エネルギー性が、潜熱の形で保有されていること。そうしたエネルギー性の保有は、その物質本来の保存性の性質とは相反すること。

その結果。
保存性物質の中心部や中枢部は、弁証法的物質と化していること。
そうした性質が、そうした保存性物質の一類型としての生物一般へと、そのまま受け継がれていること。
そうした生物一般において。
保存性の部門を生きた細胞が担当し、エネルギー性の部門をウィルスが担当していること。
保存性の部門を女性が担当し、エネルギー性の部門を男性が担当していること。

定住生活様式の社会。女性優位社会。例。中国。ロシア。韓国。日本。東南アジア諸国。
その社会の動きや構成は、保存性物質として捉えられること。
その社会の内部においては、人々の間において、足の引っ張り合いや内部抗争の発生が、常態化していること。
その社会の内部は、保温され、温室化していること。
その社会の中枢部は、高温であること。それは、その社会における、内部秘匿されたエネルギー源であること。
その社会の中枢部としての都市や都心。それは、その周縁部の地域に比較して、より高温であり、より明るく光り輝いていること。

保存性物質においては。
その質量が大きくなるほど。
その発熱や発光の度合いが、より高まること。
例。
星の世界において。巨大恒星は、小さな地球よりも、より高温であり、より光り輝いていること。
ただし。小さな星も、少し発熱し発光していること。例。地球それ自体も、太陽光の反射以外に、自力で発熱し発光していること。

ある物質個体における、動かす力の大きさ。
ある物質個体における加速度や速度の大きさ。
ある物質個体における、運動エネルギーの大きさ。
それらは、その個体における斥力の大きさに相当すること。

ある物質個体における、止める力の大きさ。

ある物質個体における、減速ブレーキの力の大きさ。
ある物質個体における、潜熱エネルギーの大きさ。
それらは、その個体における引力の大きさに相当すること。

エネルギー性物質においては、自由運動が発生すること。
一方。
保存性物質の中核部においては、自由運動制止に伴う潜熱が発生すること。
そうした潜熱の恒常的な蓄積は、その物質の内部からの噴火や爆発や革命を、引き起こすこと。
それらは、結局、一時的で瞬発的なエネルギー性の行為となること。
それは、以下の内容である。
保存性物質は、定期的に、一時的に、エネルギー性物質として作用すること。しかし、その後、それは、保存性物質としての本質を、直ぐに取り戻すこと。その状態は、程無く沈静化すること。
保存性物質は、平常は保存性メインで平静を保ちつつ、定期的に、瞬時の爆発を引き起こし、その後直ぐに、それ自身を鎮静すること。

そうした性質は、保存性物質としての生物一般へと引き継がれていること。
そうした性質は、生物社会の一員としての人間社会へと引き継がれていること。

保存性物質一般において。それ自身の内部中枢からの、噴火や爆発や革命の行為の、定期的な生起。そうした生起は、不可避であること。
保存性物質一般におけるそうした性質の、サブクラスとしての生物一般への拡張。それは、以下の内容である。
生物一般において。彼自身の内部中枢からの、噴火や爆発や革命の行為の、定期的な生起。そうした生起は、不可避であること。
生物社会において。その社会の内部中枢からの、噴火や爆発や革命の行為の、定期的な生起。そうした生起は、不可避であること。
生物一般におけるそうした性質の、サブクラスとしての人間への拡張。それは、以下の内容である。
人間個人において。彼自身の内部中枢からの、噴火や爆発や革命の

行為の、定期的な生起。そうした生起は、不可避であること。
人間社会において。その社会の内部中枢からの、噴火や爆発や革命の行為の、定期的な生起。そうした生起は、不可避であること。

追加内容。**2024**年**12**月上旬。**Python3**のマルチプロセッシング機能を利用した、引力と斥力の両方を考慮した、汎用的な物質動作シミュレーションプログラム。その最初のスクラッチ版のソースコード。

Source Code _1

追加内容。**2025**年**1**月上旬。物質の分子や原子の構造における、陽子と電子、引力と斥力、保存性とエネルギー性、女性性と男性性との、相互関連。物質における化学反応と、保存性やエネルギー性との関連。物質個体における一般社

会理論。生物的神経系における斥力の出力の実現。相対性理論と、移動性や定住性との関連。

物質の分子や原子の構造における、陽子と電子、引力と斥力、保存性とエネルギー性、女性性と男性性との、相互関連。

物質の原子において。
陽子は、相対的に巨大であり、原子の中心部に存在して、引力を周囲に対して及ぼしていること。そうした陽子は、周囲の電子を、彼女自身へと引き寄せること。
電子は、相対的に矮小であり、原子の周縁部に存在して、互いに、斥力を行使しつつ、単独で自由に動こうとしていること。そうした電子は、近くの陽子によって、彼女自身へと引き寄せられること。
中性子は、陽子と電子との引き寄せ合いとは、無縁であり中立的であること。そうした中性子は、陽子と共に原子の質量を増大させることで、原子の所有する引力を増大させることに貢献していること。
陽子と電子とは、互いに強力に引き寄せあう存在であること。
そうした相互の引き寄せ合いは、磁石におけるN極とS極との引き寄せ合いと同様であること。
そうした相互の引き寄せ合いは、生物における女性と男性との引き寄せ合いと同様であること。

陽子は、引力を行使する存在であること。そうした陽子は、引力性の個体であること。そうした陽子は、保存力を行使する、保存性物質の一種であること。
電子は、斥力を行使する存在であること。そうした電子は、斥力性の個体であること。そうした電子は、エネルギーを行使する、エネルギー性物質の一種であること。

分子。原子同士の結合により新たに形成される、より高いレベルの構成体。そうした、より高いレベルの、個体や粒子。

引力や保存力の行使者。引力性の物質。保存性の物質。それらは、相対的に大きな質量や体積を持つこと。それらは、所有する資源や資本の貯蔵や蓄積を行うこと。それらは、富裕化し巨大化すること。それらは、相対的に低速であり不動的であり定住的であること。例。原子における陽子。分子における液体。生物における、生細胞や卵子や女性。
斥力やエネルギーの行使者。斥力性の物質。エネルギー性の物質。それらは、相対的に小さな質量や体積を持つこと。それらは、所有する資源や資本を、その都度エネルギーへと転化させることで、消費し消耗させること。それらは、清貧化し矮小化すること。それらは、相対的に高速であり能動的であり移動的であること。例。原子における電子。分子における気体。生物における、ウィルスや精子や男性。

ある原子における、電子の保有数。電子価。その値の大きさは、陽子が持つ、電子に対して行使可能な引力の大きさによって、決まること。

ある原子における、一番表層に存在する電子。
そうした電子が、他の原子によって奪取される対象となること。
そうした奪取を行うためには、奪取対象となる電子と、その所有者である陽子との間における連結を、断ち切る必要があること。
そうした奪取を行うためには、奪取対象となる電子を、その所有者である陽子から引き離す必要があること。
そうした電子の、元の陽子からの切断や引き剥がし。その実行のためには、現状を破壊するエネルギーの投入が必要であること。
新たに電子を奪取する陽子が、奪取する対象の電子に対して行使する引力。そうした引力の行使は、所有している電子を引き剥がされて奪取される側の陽子にとっては、外部からエネルギーを行使されることに、該当すること。
一方の陽子にとっての保存性の力の行使が、他方の陽子にとっては、エネルギー性の力の受容へと転化すること。それは、以下の内容である。保存力のエネルギーへの転化。
一方の陽子にとっての引力の行使が、他方の陽子にとっては、斥力の受容へと転化すること。それは、以下の内容である。引力の斥力への転化。

ある原子における、一番表層に存在する電子。
そうした電子が、他の原子との間で、共有される対象となること。
それは、以下の内容である。共有結合。
互いに所有する電子数が不足している原子同士が、相互に電子を共通に持ち合うこと。そのことで、各々の原子が、所有電子数の不足を解消して、状態的に安定化すること。

ある原子における、周囲の他の原子から、電子を奪取する能力の大きさ。
ある原子における、周囲の他の原子から、新たに電子を奪取する可能性の高さ。
ある原子における、周囲の他の原子と、電子を共有する能力の大きさ。
ある原子における、周囲の他の原子と、新たに電子を共有する可能性の高さ。
それらは、以下の内容によって、決定されること。
その原子における中心部の引力が、保有中の電子を奪取される周囲の原子よりも、より大きいこと。その原子における質量が、保有中の電子を奪取される周囲の原子よりも、より大きいこと。そうした、行使可能な引力の大きさにおける、双方の原子の間における格差の大きさ。
その原子が保有中の電子の数が、本来の所有数よりも、より不足していること。その結果。その原子における電子の保有状態が、不安定化していること。そうした、その原子における保有電子数の不測の度合いの大きさ。

ある原子における、陽子にとって。
電子は、以下のような意味合いを持つ存在であること。
保有や貯蔵の対象となる資源。
周囲の原子との間で、奪い合いや共有を行う、共通の資源。
ある原子における陽子は、電子資本主義によって、動くこと。

ある原子Aが、他の原子Bから、その電子を奪取する場合。
その他の原子Bにおける、陽子と電子の間における引き合いの常態

を破壊する必要があること。そうした破壊を行うために、ある原子Aによる、その他の原子Bへのエネルギーの投入が、必要であること。そうしたエネルギー投入は、ある原子Aにおける陽子による、その他の原子Bの電子への引力の行使によって、実施されること。
その結果。ある原子Aは、電子を新たに獲得する一方で、それ自身のエネルギーを喪失し、それ自身の温度を低下させること。その他の原子Bは、電子を新たに喪失する一方で、エネルギーを新たに獲得して、それ自身の温度を上昇させること。

保存性物質は、それ自身の周囲の時空間を、それ自身が行使する引力によって、歪ませることが出来ること。
そうした、それ自身の周囲の時空間を歪ませる力は、それ自身が行使する引力の大きさに比例すること。そうした力は、それ自身が所有する質量の大きさに比例すること。

電子の分布における、極性。
共有結合している複数原子の間において。
表層の電子の分布が、電子に対する引力がより大きい原子の方へと偏ること。
電子の分布が、その質量がより大きい原子の方へと偏ること。

電子の分布における、無極性。
共有結合している複数原子の間において。
表層の電子の分布における偏りが、存在しないこと。
電子に対する引力の大きさが、双方の原子の間において、同党であること。
双方の原子の間において、それらの質量の大きさが、同党であること。

融解。液化。
複数の個体同士が互いに固く結合している状態において。
各々の個体の運動が活発になることで、そうした固い結合が、より緩やかな相互連結や相互作用へと、変化すること。
そうした変化が新たに発生する温度。それは、以下の内容である。
融点。

沸騰。気化。
複数の個体同士が互いに緩やかに連結し相互作用している状態において。
各々の個体の運動が活発になることで、そうした緩い連結や相互作用が、一通り切断された状態へと、変化すること。
そのことで、各個体が、自由に独立に個人主義的に動き回るようになること。
そうした変化が新たに発生する温度。それは、以下の内容である。沸点。

流動的結合。緩い結合。金属結合。ある程度自由に動くことが出来ること。そうした状態を保持すること。
それらの融点や沸点の温度が、より低いこと。
それらの融解や沸騰に必要なエネルギー投入の度合いが、より小さくて済むこと。
原子が、自由に動く電子を共有していること。
電子に対する、原子からの拘束力が、より小さく弱いこと。
電子に対する、原子や陽子からの引力が、より小さく弱いこと。
原子の質量が、より小さいこと。
原子が、所有する電子を、より放出しやすいこと。
原子における、電子を占有する力が、より弱いこと。
その結果。
各々の電子は、斥力によって相互に分離独立しつつ、自由に動き回ることが出来ること。
各々の電子は、斥力に基づく流動状態を保持し続けていること。

固定的結合。きつい結合。共有結合。自由に動くことが出来ないこと。そうした状態を保持すること。
それらの融点や沸点の温度が、より高いこと。
それらの融解や沸騰に必要なエネルギー投入の度合いが、より大きいこと。

物質における流動性。
相互間の引力の緩さに基づく流動性の実現。そうした流動性を備えた物質。引力性の流動体。それは、以下の内容である。液体の流動。河川の流れ。水流。
そうした引力性の流動体において。流動体内部の各個体は、外部か

らの強制無しに、自発的に、相互連結や相互作用を継続的に生成していること。それらの個体は、本来、互いに融合し一体化して同調主義的に集団主義的に、互いに動き回りたいこと。
相互間の斥力の行使に基づく流動性の実現。そうした流動性を備えた物質。斥力性の流動体。それは、以下の内容である。電子の流動。電流。気体の流動。気流。
そうした斥力性の流動体において。流動体内部の各個体は、外部から強制されて、仕方無く、相互連結や相互作用を一時的に生成していること。それらの個体は、本来、互いに離散して自由独立的に個人主義的に、互いに動き回りたいこと。

原子の中核部の構成要素である、陽子と中性子において。
陽子そのものにおいて、電子を、磁石のように誘引して奪取する、特有の能力が、予め存在すること。
一方。中性子そのものには、陽子のように、電子を、磁石のように誘引する、特有の能力は、特に無いこと。
しかし。中性子には、以下の効果を生じさせる能力があること。それが所属する原子の質量を増大させて、その原子の引力の大きさを増大させること。そのことで、その原子における、他の原子から電子を奪取する能力を、更に高めること。そうした効果。

物質における、化学反応。
その対象物質における、既存の相互結合や相互連結を、解体して無効化すること。
その実現のために、対象物質の該当部分に対して、人為的に大量のエネルギーを加えること。
その具体例。対象物質の該当部分を、バーナーの火で焙ることで高熱化させて、融解させたり燃焼させたりすること。

そして、その代わりに、新たな別の物質との間で、新規の相互結合や相互連結を、旧来の相互結合や相互連結と置き換える形で、生成すること。

あるいは。
その場に新たにやって来た、別の物質における原子。その原子による、旧来の原子からの電子の奪取が、新たに起きること。

そのことで、複数の原子の間における、原子と電子の結合や連結における組み換えが、新たに起きること。

そうした組み換えを新たに引き起こすための条件。それらは、以下の内容である。
代わりに新たにやって来た物質における原子。その原子が所有する引力が、元の物質の原子が所有する引力よりも、大きいこと。その原子における陽子が所有する、電子に対して行使可能な引力が、より大きいこと。
そうした新たな物質における原子の質量が、元の物質の原子が所有する質量よりも、大きいこと。その質量は、その原子における、陽子と中性子の質量の合計であること。
かつ。
そうした新たな物質における原子における所有電子の数。その数が、本来の規定数よりも不足していること。そのことで、その原子の状態が、不安定化していること。
例。
引力がより大きい原子による、引力がより小さい原子からの、電子の、強制的な奪取。
引力がより大きい原子による、引力がより小さい原子との、電子の、強制的な共有。

物質における、複数の次元の間における、入れ子構造。
ある物質個体は、より小さい次元の構成要素である、別の種類の物質個体の組み合わせによって、構成されていること。
その物質個体は、更に小さい次元の構成要素である、別の種類の物質個体の組み合わせによって、更に構成されていること。
そうした事象が、更に小さい次元へと、エンドレスに繰り返されること。
例。
分子は、より小さい次元の構成要素である、原子から構成されること。
その原子は、より小さい次元の構成要素である、陽子や中性子や電子から、構成されること。

物質における、化学反応。
その物質における内部構成を、別の構成へと、変化させ変更すること。
その物質における、より副次的な構成要素の、解体と再構成。
その解体において。従来の相互結合や相互連結を切り離すために、それらに対して行使する外部エネルギーの投入が、新たに必要となること。
例。氷を水へと融解するために、外部からの加熱が、別途必要であること。その具体例。その氷を、ガスコンロの火によって、加熱して、水へと融解させること。
その再構成において。新たな相互結合や相互連結を生成する過程において発生する、新たな内部エネルギー。そうしたエネルギーの、対外放出への対応が、新たに必要となること。
例。水が氷へと凍結する過程において、それらの内部から、熱が新たに放出されること。

物質における化学反応においては、外部とのエネルギーの入出力のやり取りが、必然的に伴うこと。
その物質の構成要素同士の既存の結合や連結を、新も解体するために必要なエネルギー。そのエネルギーの、外部からの投入。
その物質の新たな構成要素同士が結合し連結する際に、副産物として生じるエネルギー。その内部エネルギーの、外部への放出。

物理的個体のための、一般的な社会理論。
物理的粒子のための、一般的な社会理論。
それらは、以下の内容である。

物理的個体。それらの分類。
引力を行使する個体。保存力を行使する個体。保存性の物質個体。
原子レベルにおける、陽子。分子レベルにおける、固体や液体。生物一般。生物における、生細胞や卵子や女性。
彼らは、そうした引力によって、周囲の時空間を、強制的に歪曲すること。
彼らは、そうした引力によって、周囲の時空間を、専制支配すること。
それらは、生物へと例えた場合、女性的個体として、捉えられること。

斥力を行使する個体。エネルギーを行使する個体。エネルギー性の物質個体。
原子レベルにおける、電子。分子レベルにおける、気体。生物における、ウィルスや精子や男性。
彼らは、そうした斥力によって、周囲の時空間を、強制的に破壊し改変すること。
彼らは、そうした引力によって、周囲の時空間を、暴力支配すること。
それらは、生物へと例えた場合、男性的個体として、捉えられること。

引力を行使する個体と、斥力を行使する個体とは、互いにプラスとマイナスとに分極して、惹き付け合い、合体すること。
保存力を行使する個体と、エネルギーを行使する個体とは、互いにプラスとマイナスとに分極して、惹き付け合い、合体すること。
例。引力を行使する陽子と、斥力を行使する電子とが、互いに引き付け合い、合体すること。陽子における陽イオンと、電子における陰イオンとの間で、惹き付け合いが、常時起きること。
そうした物質間の一般的な関係を、有性生殖の生物一般へと適用した場合。
引力や保存力を行使する生物個体としての女性と、斥力やエネルギーを行使する生物個体としての男性とが、互いに、プラスとマイナスとに分極して、常時惹き付け合い、合体すること。

プラスとマイナスの概念との関連について。
それらについては、現状では、一貫した統一的な解釈は、特になされていないこと。
例。
イオンにおけるプラスとマイナスとの関連において。
斥力やエネルギーの行使者である電子が、マイナスであること。
引力や保存力の行使者である陽子が、プラスであること。
例。
加速度におけるプラスとマイナスとの関連において。
斥力やエネルギーの行使が、アクセルやプラスの加速度をもたらすこと。
引力や保存力の行使が、ブレーキやマイナスの加速度をもたらすこと。
例。
生物的価値観におけるプラスとマイナスとの関連において。

引力や保存力をプラスとして捉える場合。その現状順応性や忠誠性や遵守性や安全指向性を、正しい良い価値として捉えること。
引力や保存力をマイナスとして捉える場合。その消極性や守旧性や不自由性や閉塞性や後進世や専制支配性を、良くない価値として捉えること。
斥力やエネルギーをプラスとして捉える場合。その積極性や自発性や自由性や革新性や先進性や現状打開性を、正しい良い価値として捉えること。
斥力やエネルギーをマイナスとして捉える場合。その攻撃性や破壊性や危険指向性や暴力支配性を、良くない価値として捉えること。

女性的な物質個体による、引力や保存力の行使。
男性的な物質個体による、斥力やエネルギーの行使。
結局。それらが、物質個体一般における、性差の根源であること。

物質における、定住と移動。
引力や保存力を行使する物質個体は、定住すること。それらは、定住生活様式に従って、動作すること。
斥力やエネルギーを行使する物質個体は、移動すること。それらは、移動生活様式に従って、動作すること。

引力を行使する巨大個体は、彼ら自身の周囲や内部に、斥力を行使する移動性の矮小個体を、強制的に定住させること。
例。引力を行使する陽子は、彼ら自身の周囲に、斥力を行使する電子を、強制的に定住させること。
例。引力を行使する女性は、彼ら自身の周囲に、斥力を行使する男性を、強制的に定住させること。
例。引力を行使する生細胞は、彼ら自身の内部に、斥力を行使するウィルスを、強制的に定住させること。
それらは、以下の内容である。
定住性の物質個体は、彼ら自身の周囲や内部に、移動性の物質個体を、強制的に定住させること。
引力や保存力を行使する定住性の物質個体は、その過程において、斥力やエネルギーを行使する移動性の物質個体から、斥力やエネルギーを行使する力を、一方的に除去し弱体化し無効化すること。

引力や保存力を行使する定住性の物質個体は、そのことで、斥力やエネルギーを行使する移動性の物質個体を、劣等的な定住性の物質個体として、飼い馴らすこと。
例。定住生活様式社会における女性は、男性を、劣等的な定住性の生物個体として、飼い馴らすこと。例。農耕民の社会。中国や韓国やロシアや日本や東南アジア諸国。

一方。移動生活様式のみが許容される生活環境において。
斥力やエネルギーを行使する移動性の物質個体は、引力や保存力を行使する定住性の物質個体を、強制的に常時同伴移動させること。
斥力やエネルギーを行使する移動性の物質個体は、その過程において、引力や保存力を行使する定住性の物質個体から、引力や保存力を行使する力を、一方的に除去し弱体化し無効化すること。
斥力やエネルギーを行使する移動性の物質個体は、そのことで、引力や保存力を行使する定住性の物質個体を、劣等的な移動性の物質個体として、飼い馴らすこと。
斥力やエネルギーを行使する男性は、引力や保存力を行使する女性を、常時、強制的に同伴移動させながら、生活すること。
例。移動生活様式社会における男性は、女性を、劣等的な移動性の生物個体として、飼い馴らすこと。例。遊牧民や牧畜民の社会。中東諸国。欧米諸国。

流動体と非流動体。
物質における、流動性と非流動性との共存。
保存性で引力性の個体の集合。
非流動体。非流動的な個体集合。一か所に定住したまま動かない、個体集合。固体の場合。岩石の塊。金属の塊。それらは、溶けて固まった固体であること。液体の場合。水滴や水溜まり。
流動体。流動的な個体集合。固体の場合。砂丘の砂。小麦粉。それらは、粉粒状の固体であること。液体の場合。水流。気体の場合。風。気流。
あるレベルにおける非流動体は、より高いレベルにおける流動体となること。例。岩石が引き起こす土石流。
非流動体は、外部からのエネルギー投入によって、溶解して、流動体へと変化すること。例。超高温へと加熱された金属の塊が、溶解して、床の上を流れること。

巨大な非流動体は、その中心部における、構成要素間の引力の高まりや、内圧の高まりによって、それ自身が自発的に高熱を発して溶解して、流動体へと変化すること。例。地球の最深部の岩石が、溶解して、マグマとなること。

エネルギー性で斥力性の個体の集合。
それらは、基本的に、全て流動体であること。
流動体。流動的な個体集合。電子の流動。電流。

生物的神経系における、斥力の出力。
それらは、以下の内容である。
外部出力細胞による、筋力の行使による、対外的なエネルギーの行使。
例。
水場を探す空間移動のために、手足を動かすこと。
生存維持に必要な資源の獲得における物理的障害物。そうした障害物の、身体動作や道具使用による破壊や撤去。
水場への通路を塞いでいる土砂や岩石の壁を、手で握ったつるはしを動かして、破壊し撤去すること。

神経回路網の内部における、神経伝達物質の分類について、再解釈を試みること。
現状では、既に発見されている神経伝達物質は、促進と抑制の 2 種類のみであること。
それらのみでは、神経細胞は、順応と禁止の動作出力は可能であるが、逆転や反転の動作出力は、不可能であること。
それらのみでは、神経細胞は、引力性の動作出力は可能であるが、斥力性の動作出力は、不可能であること。
一方では。
既存の論理学においては、逆転や反転を実現する思考出力についての内容が、既に実装済みで利用可能であること。
既存のコンピュータの論理回路においては、逆転や反転の動作出力は、既に実装済みで利用可能であること。
そうした機構を考案した存在は、結局は、生物的神経系の一周としての、人間の脳神経系であること。
それゆえ。生物的神経系一般において、斥力性の出力が当初から可能であることを、新たに想定すべきであること。

そこで。現状の神経伝達物質に関する知見についても、以下のように、解釈変更を試みること。

例。
神経伝達物質を、引力性の出力を促進し実現する物質と、斥力性の出力を促進し実現する物質とに、新たに分類し直すこと。
引力性の出力を促進する神経伝達物質の場合。引力性の出力を受け持つ神経細胞の場合。
それ自身の発火によって、順応出力と賛成出力と禁止出力と現状維持出力と原状回復出力を、行うこと。
そうした引力性の出力を促進する神経伝達物質を、次の神経細胞へと、十分な分量で送付すること。

斥力性の出力を促進する神経伝達物質の場合。斥力性の出力を受け持つ神経細胞の場合。
それ自身の発火によって、反転出力と逆転出力と現状批判的出力と現状破壊的出力と変動発生出力を、行うこと。
そうした斥力性の出力を促進する神経伝達物質を、次の神経細胞へと、十分な分量で送付すること。

引力性の出力を促進する神経伝達物質と、斥力性の出力を促進する神経伝達物質とは、同一神経細胞内部での同時混在時に、互いに相手の機能を打ち消し合うこと。
そうすることで、次の内容についての多数決を、各神経細胞内部でその都度実施して、その結果を取得すること。
引力性の神経伝達物質と、斥力性の神経伝達物質との、その神経細胞内部での神経伝達物質の総量における、多数決。
その結果。
その神経細胞は、引力性と斥力性とで、分量的により優勢だった方の内容を、次の神経細胞へと出力すること。

相対性理論と、実験対象となる物理個体における移動性や定住性との関連。
物理学の実験における、実証データの計測結果。
その結果は、研究者が、物理的事象の観察ポイントを、どの時空間に設定するかによって、色々変わってしまうこと。
物理学実験における、データ測定や観察の視点が、一つの地点や方向へと限定されること。

そのことで、他の地点や方向における、データ測定や観察の結果とは異なる知見が出てきてしまうことが、不可避であること。
実験対象の物理個体が、時空間的に、定住しているか、移動しているか、によって、データ測定や観察結果が、異なってしまうこと。
実験対象の物理個体が時空間移動をしている場合。時空間的定住を前提とした実験設備では、そのまま使える形での実験データが取れないこと。
例。
救急車のサイレン音の測定における、ドップラー効果の影響が、不可避であること。
実験対象の物理個体の所在している時空間が変化すると、そのことに連動して、違った実験結果が出てきてしまうこと。
そのことへの対策。
観察ポイントや視点の向きを、移動する物理個体に、そのまま追従させること。観察機材を、その移動する物理個体に、予め付着させること。
その対策が抱える問題点。
観察の視点が、そのことで、新たに局所化してしまい、グローバルでは無くなってしまうこと。
その観察対象の物理個体についてのグローバルな俯瞰的な視点での観察が困難になること。
観察の視点が、その観察対象の物理個体と絶えず一体化してしまうこと。
その結果。客観的な第三者的視点や、複数の相対的な視点を、取得困難になること。
そのことへの新たな対策。
観察ポイントや視点の向きを、実験予算に余裕がある範囲内で、複数用意する形へと増やすこと。
そのことで、データ観察測定視点の多様性や多面性を、最低限確保すること。
そのことで、実験結果における客観性や第三者性やグローバル性を、最低限確保すること。

追加内容。2025年1月中旬。物理

学における発光や発熱の研究についての方向修正の必要性。物質個体における、エネルギーや斥力の行使についての一般的な法則の樹立を、より優先すべきであること。サブクラスとしての光や熱には、研究の視点を置かないこと。それらのスーパークラスに該当する、エネルギーや斥力そのものへと、研究の視点を、新たに集中すべきであること。その際に、生物神経科学との社会的分業が、新たに必要であること。

物質個体における、エネルギーや斥力の行使。

物質個体の具体例。
小さな個体。原子。分子。電子。
大きな個体。それらは、小さな個体の、集積物や化合物であること。巨大恒星。惑星。岩石。海洋の水。河川の水。大気。

エネルギーや斥力の具体例。
光の放射。熱の放射。空間移動。波動。流動。衝突。

物質が光を発すること。物質が光を放射すること。
それらの事象は、その物質が、エネルギーや斥力を行使している最中であることの、動かぬ証拠となること。
物質が暗黒であること。物質が光を吸収すること。
それらの事象は、その物質が、保存力や引力を行使している最中であることの、動かぬ証拠となること。

生物Bにおける、物質Aが発する光を感知する機能や能力の、有無。
それは、生物Bの神経回路の感覚入力細胞における、光を検知する能力に、依存すること。

物質Aが、より大きなエネルギーや斥力を行使するほど、その物質Aは、より明るく発光すること。

光の正体とは。それらは、以下の 2 つの内容へと、大きく二分されること。
物質Aが行使する、エネルギーや斥力の、存在そのものや、その存在における分量の大きさ。
生物Bの神経回路における、その種のエネルギーや斥力を、検知し感知する行為そのもの。

物質Aは、エネルギーや斥力を、周囲に向けて発していること。
そうしたエネルギーや斥力の行使を、検知し感知すること。
それらは、生物Bの神経回路においては、光の検知や感知として、捉えられ、処理されること。

発光の現象。それは、以下の 2 面性を持つこと。
物質Aにおける、エネルギーや斥力の行使。
生物Bの神経回路が、そうしたエネルギーや斥力の存在を、特定の種類の入力刺激として、検知し感知すること。

結局。
物質における発光の現象において。
光子のような存在を想定しても、何の意味も無いこと。
光そのものは、本来は、物理学では無く、心理学や神経科学が扱うべきであること。
発光の現象の背後における、ある特定の物質が行使するエネルギー

や斥力の実在という事象。
物理学者は、そうした事象のみに着目すれば良いこと。
物理学者は、発光の現象を、以下のように限定して、捉え扱うべきであること。
ある物質が、エネルギーや斥力を行使していること。そのことについての動かぬ証拠。そうした証拠における、１つの典型例。

光の強さや明るさは、その物質による、エネルギーや斥力の行使の、程度の大きさに、比例すること。
光の強さや明るさは、エネルギーや斥力の大きさといったスーパークラスの、サブクラスの内容に過ぎないこと。

ある時空間において、光が存在すること。
ある時空間において、光が、ある速度である方向へと、進むこと。
それらは、以下の内容である。
その時空間に内在する、ある物質において、一定以上のエネルギーや斥力が、確実に存在していること。
そして。その物質が、その速度で、その方向へと、実際に進行していること。
その物質における、そうしたエネルギーや斥力の行使の、方向や存在位置。
そのサブクラスに該当する事象。それが、光の実在や進行方向や存在位置であること。
ある時空間における、光の実在や進行方向や存在位置。
そのスーパークラスに該当する事象。それが、その時空間内部の特定物質における、エネルギーや斥力の実在であること。

ある物質が発する光や熱は、その物質が行使するエネルギーや斥力の存在の、サブクラスであること。
ある物質が行使するエネルギーや斥力が、その物質における発光や発熱の、スーパークラスであること。

ある生物の神経回路における感覚入力細胞は、そうした一定以上の閾値の分量のエネルギーや斥力の存在を、例えば、光として検知し感知すること。
光。それは、ある生物の神経回路における感覚入力細胞にとっての、有効な感覚入力刺激の一種に過ぎないこと。
物理学における光を検知する実験観測装置。

その装置の役割は、結局は、以下の内容であること。
ターゲットの物質における、エネルギーや斥力の存在や大きさを検知するための、装置。
その装置は、結局、生物の感覚入力細胞の機能についての代用品に過ぎないこと。

光の波。
それは、物質個体群の内部で発生し進行する、エネルギーや斥力の波の、サブクラスであること。
それは、具体的には、斥力を行使するエネルギー性物質としての電子群が構成する電磁波の一種として、捉えられること。

光子。それは、一定以上のエネルギーや斥力を抱えた物質粒子の、サブクラスであること。
光の伝播。
それは、物質個体群の内部における、エネルギーや斥力の伝播の、サブクラスであること。
それは、具体的には、電磁波の空間移動や空間伝播の一種として、捉えられること。

物質個体における、エネルギーや斥力の内蔵の度合い。
エネルギーや斥力の波。エネルギーや斥力の伝播。
それらについての一般的な法則。それらについての一般的な分析手法。
それらの内容を、スーパークラスの原理や分析手法として、まず解明すること。
そうして解明された、それらの原理や分析手法を、よりサブクラスに該当する、発光中の物質個体群へと応用すること。
そうした手順を踏むことが、本来の物理学の発展において、より望ましいこと。

光は、方向性やビーム性を持っているとは、必ずしも限らないこと。
無方向性の光。無秩序な方向へと進む光。ランダムな方向へと進む光。全部の方向へと進む光。
そうした光は、以下のようなプロセスによって、発生すること。
巨大な保存力や引力を行使する保存性物質における、より中心に近

い部分が、次のようなプロセスによって、極度に高温化すること。
そうした中枢部に存在する物質粒子が本来所有する、運動エネルギー。
そうした運動エネルギーが、次のようなプロセスによって、熱エネルギーへと転換されること。
その巨大な保存性物質の中枢部が、それ自身で所有する巨大な質量に基づいて行使する、巨大な引力。
そうした巨大な引力が、その保存性物質内部の各構成粒子に対して、強力な運動の束縛や制限を、引き起こすこと。
その結果。強力な束縛や制限の対象となった、各粒子の運動エネルギーが、熱エネルギーへと、全体的に高程度に凝縮される形で、尽く転換されること。
その結果。そうした各粒子が、高程度なエネルギーや斥力を、特定方向に限定しない形で、新たに極限まで貯め込む形で内蔵するようになること。
その結果。そうした各粒子が、極めて高熱化すること。
その結果。そうした各粒子が、極めて明るく発光するようになること。
それは、結局、その巨大保存性物質に対して、全方向性の、オールマイティな、光の放射をもたらすこと。
そうした巨大保存性物質の例。それは、巨大恒星であること。
それは、地球のような、かなり大きめの保存性物質の中枢部において、超高温のマグマや溶岩の常駐化を、もたらすこと。
そうした溶岩やマグマは、活火山の噴火によって、外郭部へと吹き出すこと。そうした溶岩やマグマは、周囲に向けて、極めて明るく発光すること。
そうした、全方向性の光の放射。
それは、特定方向のみへの光の進行では無いこと。
それは、方向を選ばない、方向を特定しない、無秩序な光の進行であること。
それは、結局は、光におけるエントロピーの現れであること。

物質における保存性。それは、結局、その物質に対して、無秩序性やランダム性やエントロピーを、高程度にもたらすこと。
物質における保存性。それは、結局、その物質に対して、光に限らず、熱や運動についても、無秩序性やランダム性やエントロピーを、高程度にもたらすこと。
熱についての、具体例。活火山の付近の温泉における、高温のガスや湯の、ランダムで無秩序な噴出。

運動についての、具体例。鳥籠の中に閉じ込められたカラスが、その鳥籠の中で、無秩序に、ひたすら暴れ回ること。

エネルギーや斥力の大きさといったスーパークラスの内容の、更にサブクラスの内容。
それらは、以下の内容である。光の強さや明るさ。熱の強さや高温性。空間移動の速度や加速度の大きさ。
物理学者は、エネルギーや斥力の大きさといったスーパークラスへと、分析の視点を、より集中すべきであること。
よりサブクラスの、光や熱について。それらの検知や感知は、生物の感覚器官の性能に依存すること。
そのため、それらの分析は、神経科学者や心理学者へと、委任すべきであること。
一方。よりサブクラスの、空間移動性については、物理学における力学分野へと、該当すること。
そのため、それらの分析は、その分野の物理学者へも、従来通り、委任すべきであること。

物理学者は、光そのものでは無く、その背後に実在する、エネルギーや斥力の、進行方向や強さに、専ら着目し続けるべきであること。
光そのものは、本来は、物理学の研究対象では無く、神経科学の研究対象であること。
光の研究は、ある生物の神経回路における感覚入力細胞の、入力刺激感知能力の研究の一環として、捉えるべきであること。
光の科学は、物理学的には、エネルギー科学や斥力の科学の、発展応用の一つの形態であること。
光の科学は、物質が行使するエネルギーや斥力について、各種の測定を実現するための、測定科学分野の一つであること。
ある物質における、エネルギーや斥力の、存在の有無や、大きさや、方向性。それらの測定。

結局、光や熱そのものを、物理学のみの視点で捉えようとしても、意味が無いこと。
それらの研究は、結局は、生物の神経科学や心理学の分野の研究者と、共同で行う必要があること。

物理学者が進むべき、今後の方向性。それらは、以下の内容である。
サブクラスとしての光や熱には、今後は、研究の主要な視点を置かないこと。
それらのスーパークラスに該当する、エネルギーや斥力そのものへと、研究の主要な視点を、新たに集中すべきであること。
その際に、生物神経科学との社会的分業が、新たに必要であること。

追加内容。2025年1月下旬。巨大な保存性物質における、その中心部からのエネルギー性の対外放射。保存性物質のエネルギー性物質への転換。

ある保存性物質の質量が、巨大化すること。
その結果。その保存性物質が行使する引力が、巨大化すること。
すなわち。その保存性物質が保持する保存力の度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質の中心部において対内的に行使される、構成粒子間の相互引力が、巨大化すること。
その結果。その保存性物質の中心部における、各々の構成粒子の動きを抑圧する圧力が、巨大化すること。
その結果。その保存性物質の中心部における、各々の構成粒子の運動が、振動と発熱へと転化する度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質の中心部における、各々の構成粒子の運動エネルギーが、熱エネルギーへと転化する度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質の中心部が発熱する度合いが、巨大化すること。

その結果。その保存性物質の中心部における巨大発熱の伝播が、周辺部へと拡大する度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質の中心部のみならず全体が発熱する度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質が熱エネルギーを保有する度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質が高熱化する度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質が光り輝く度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質が光エネルギーを対外的に放射する度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質がエネルギー性物質化する度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質のエネルギー性物質への逆転的な転換の度合いが、巨大化すること。
その結果。その保存性物質からの、エネルギー性物質の生成の度合いが、巨大化すること。
その結果。その物質における、保存性から、エネルギー性への、新たな性質転換の度合いが、巨大化すること。
その結果。その物質が保持する力における、保存力から、エネルギーへの、新たな性質転換の度合いが、巨大化すること。
その結果。その物質が行使する力における、引力から、斥力への、新たな性質転換の度合いが、巨大化すること。

例。
巨大恒星の内部中心部において。
働く引力の巨大化。
働く圧力の超高圧化。
働く保存力の巨大化。
それらがもたらす、巨大恒星の内部中心部の、更なる超高熱化。
それらがもたらす、巨大恒星の内部中心部が内包するエネルギーの、巨大化。

結局。
ある保存性物質が保持する保存力の度合いが、巨大化すること。
その結果。
その保存性物質の内部の中心部が内包する熱エネルギー。その巨大化が、絶えず生起すること。
その結果。
その保存性物質の内部の中心部から外部へと放射される光エネル

ギー。その巨大化が、絶えず生起すること。
その結果。
その巨大な保存性物質は、巨大なエネルギー物質として、絶えず活動し続けるようになること。
その結果。
その巨大な保存性物質において。保存力からエネルギーへの転換が、常時大量に発生するようになること。

巨大なエネルギー性物質としての、巨大恒星。
その姿が、円球であること。
その保持する質量が、巨大であること。
その行使する引力が、巨大であること。
結局。
それは、巨大な保存性物質であること。

保存性物質から、エネルギー性物質への転換。
それは、以下の順序で、もたらされること。
大元の保存性物質における質量が、巨大化すること。
そのことで、大元の保存性物質における、対内行使される引力が巨大化すること。
そのことで、大元の保存性物質中核部における、構成粒子群の運動エネルギーが、熱エネルギーへと、強制転換されること。その度合いが巨大化すること。
そのことがもたらす、大元の保存性物質内部における熱エネルギーの巨大化。
そのことがもたらす、対内放射される光エネルギーの巨大化。

このことから、次のことが言えること。
ある同一の物質において、保存性とエネルギー性とが、問題無く同時に両立可能であること。

その成立条件。それは、以下の内容である。
その物質の質量が、十分に巨大化すること。
そのことで、その物質が対内的に行使可能な引力が、十分に巨大化すること。

追加内容。2025年2月上旬。引力

や保存力は、斥力やエネルギーの源であること。保存性物質や女性は、エネルギー性物質や男性の源であること。保存性物質や女性は、家屋であること。エネルギー性物質や男性は、その借用者であること。そのことが、男女の性差の根源であり、その差を覆すことは、誰にも出来ないこと。

引力は、斥力の源であること。
保存力は、エネルギーの源であること。

引力は、斥力の母であること。
引力を行使する者は、斥力を行使する者の母であること。

保存力は、エネルギーの母であること。
保存力を行使する者は、エネルギーを行使する者の母であること。

例。
星は、光やガスの、母であり源であること。
生物における女性は、男性の母であり源であること。

保存力を行使する者。
例。
巨大恒星そのもの。
星そのもの。天体そのもの。大地そのもの。
混沌とした動きをする、地中の高熱のマグマそのもの。

マグマ。
それは、巨大な固体の中核部分が、巨大な引力がもたらす高圧によって高熱化し、光り輝く液体となったものであること。
そうした光り輝く液体としてのマグマ。
それは、巨大な引力を行使する者の象徴であること。
その動きは、混沌としており、それゆえ、エントロピーの象徴であること。

エネルギーを行使する者。
例。
巨大恒星から飛び出す、光やガスの粒子そのもの。
明瞭で直線的な動きをする、天空を直進する、光やガスそのもの。
そうした気体としての光やガス。
それは、エネルギーを行使する者の象徴であること。
その動きは、明瞭で直進的であり、それゆえ、ネゲントロピーの象徴であること。

保存性物質におけるエネルギーは、混沌を生み出すこと。
エネルギー性物質におけるエネルギーは、明瞭さや直進性を生み出すこと。

保存性物質におけるエネルギーは、エントロピーを生み出すこと。
エネルギー性物質におけるエネルギーは、ネゲントロピーを生み出すこと。

例。
地中のドロドロしたマグマの動きは、混沌であり、エントロピーの塊であること。
天空を駆け抜ける、光やガスの動きは、明瞭であり、ネゲントロピーの粒粒であること。

大地のエネルギー。星のエネルギー。それらは、光と熱のエネルギーの源であること。
例。
恒星のエネルギー。太陽のエネルギー。それらは、日照のエネルギーの源であること。

アナログ的な情報。それは、保存性物質における、エントロピーによってもたらされること。
例。生物の神経回路に叩き込まれる、一定の身体動作を引き起こすための、トポロジー的な情報。
デジタル的な情報。それは、エネルギー性物質における、ネゲントロピーによってもたらされること。
例。符号化や記号化が可能な情報。文字や数字の情報。画像の構成要素における、色調や明るさなどの数値情報。

物質の存在における順序において。
引力が、斥力に先立って生じていること。
保存力が、エネルギーに先立って生じていること。
保存性物質が、エネルギー性物質に先立って生じていること。

物質の起源は、保存性物質であり、エネルギー性物質はその次であること。
生物の起源は、生細胞や女性であり、ウィルスや男性はその次であること。

力の起源は、引力や保存力であり、エネルギーはその次であること。

保存性物質は、エネルギー性物質の源であること。
例。
恒星のマグマは、光の粒子の源であること。
液体としての水や海は、気体としての蒸気の源であること。

保存性の生物は、エネルギー性の生物の源であること。
例。
生細胞は、ウィルスの源であること。
女性は、男性の源であること。
母性は、父性の源であること。

例。
女王は、働き者の源であること。

斥力の、生成や発生や創造の源。それは、引力であること。

エネルギーの、生成や発生や創造の源。それは、保存力であること。
エネルギー性物質の、生成や発生や創造の源。それは、保存性物質であること。

エネルギー性物質における、エネルギーの供給源。それは、保存性物質であること。
例。
光やガスにおける、エネルギーの供給源。それは、高熱の光り輝くマグマであること。
男性における、エネルギーの供給源。それは、女性であること。

斥力の起源や母胎。それは、引力であること。
エネルギーの起源や母胎。それは、保存力であること。それは、巨大な質量であること。

宇宙における膨張力の、起源や母胎。
それは、保存性物質における、巨大な凝集力であること。
それは、保存性物質における、巨大な質量であること。

宇宙の起源や母胎。それは、保存力であること。それは、質量であること。

保存性物質は母なる神であること。エネルギー性物質は父なる神であること。
例。
大地や土地。水。海。それらは、母なる神の起源であること。
天空。光。日。火。それらは、父なる神の起源であること。

例。
大地。海。それらは、保存性の生物としての女性の、象徴であること。
天馬。それは、エネルギー性の生物としての男性の、象徴であること。

例。
大地の、母である神。
天の、父である神。

保存性物質は家持ちであること。エネルギー性物質は野良であること。
例。液体は、家屋としての性格を持つこと。気体は、野良としての性格を持つこと。
例。女性は、家屋としての性格を持つこと。男性は、野良としての性格を持つこと。

保存性物質は不動産であること。エネルギー性物質は動産であること。
例。大地や土地は、不動産であること。機械を動かす原動力としての光熱は、動産であること。
例。生細胞は不動産であること。ウィルスは動産であること。
例。女性は不動産であること。男性は動産であること。

保存性物質は家屋の所有者であること。エネルギー性物質は、その家屋の借用者であること。
例。生細胞は家屋の所有者であること。ウィルスは、その家屋の借用者であること。
例。女性は家屋としての卵子や子宮の、所有者であること。男性や精子は、それらの借用者であること。

保存性物質は家屋の所有者として、その家屋を借りるエネルギー性物質から、家屋の賃貸料を、いつでも強制的に徴収出来ること。
その結果。
保存性物質は、そうした賃貸料収入によって、恒常的に、不労所得者となり、投資家となることが出来ること。
エネルギー性物質は、そうした賃貸料の借金を返すために、恒常的に、稼ぐ者となり、企業家の立場へと、甘んじること。
例。
家屋としての卵子や子宮の、所有者である女性。そうした女性は、恒常的に、不労所得者となり、投資家となることが出来ること。
家屋としての卵子や子宮の、借用者である男性。そうした男性は、恒常的に、稼ぐ者となり、企業家の立場へと、甘んじること。

結局、それらの内容が、男女の性差の、起源であり本質であること。
それらの内容を覆すことは、宇宙における何者にとっても、根本的

に不可能であること。

追加内容。2025年3月下旬。磁力と磁石と、エネルギー性物質や保存性物質との関連。プラズマと、エネルギー性物質との関連。

磁力と磁石。

エネルギー性物質としての電子が流動すると、その流れの周囲に、環状に磁力が発生すること。
そうした電子の流れには、始点と終点が存在すること。
そうした電子の流れは、始点から出て、終点へと入ること。
そうした電子の流れの始点と終点は、電子が流れる方向によって、自動的に決定されること。
そうした電子の流れの始点は、エネルギーの発生源であること。それは、エネルギーの湧き出し口であること。それは、性別としては、男性であること。
そうした電子の流れの終点は、エネルギーの吸収口であること。それは、流れて来るエネルギーの吸入機構であること。それは、生物であること。それは、性別としては、女性であること。
そうした電子の流れの始点と終点とは、互いに惹きつけ合う性質を持つこと。
それは、男性と女性が惹きつけ合うことと、関連があること。

そうした磁力の働きや向きを線状に表現したもの。それが、磁力線であること。
そうした磁力の働きや向きを空間として表現したもの。それが、磁界であること。

そうした磁力の流れには、始点と終点が存在すること。
そうした磁力線の始点がN極であること。
そうした磁力線の終点がS極であること。
そうした磁力は、N極からS極へと、流れて入ること。
そうした磁力は、エネルギーを表現する一つの形態であること。
そうした磁力線の始点であるN極と終点であるS極とは、互いに惹きつけ合う性質を持つこと。
それは、男性と女性が惹きつけ合うことと、関連があること。

そうした電子や磁力の流れにおける始点と終点とが融合したもの。
それは、円球であること。それは、円環であること。
例。恒星。地球。
それらの内部において、超高温の金属流体が存在すること。
それらの自転や回転によって、エネルギー物質としての自由電子の流れの渦が形成され続けること。
そのことで、その天体において、磁力が継続的に発生すること。

磁石。
その内部において、エネルギー性物質としての電子の流れが、常時生じている、物質。
その内部において、エネルギー性物質としての電子の束ねが、常時生じている、物質。
その結果、その内部において、磁力が、常時生じている、物質。
例。鉄の磁石。
そうした電子の流れや磁力が、長時間保持される物質。それは、永久磁石であること。
そうした電子の流れや磁力が、外部からの磁力の供給が断たれた後も、残留すること。それは、残留磁化であること。

磁石は、それ自身が、保存性物質としての固体でありながら、同時に、磁力を内包するエネルギー性物質でもあること。
磁石においては、保存性とエネルギー性とが、同居し、両立していること。

磁性体。
そうした磁石になれる素質を持っている金属物質。
そうした磁性体に対して、外部から磁力を行使すること。そのことで、その磁性体自体が、新たな磁石となること。
例。鉄。

ダイナモ効果。
エネルギー性物質としての電子が、渦を巻いて周回流動することで、磁力が発生すること。
エネルギー性物質としての磁性体や磁石が、周回移動することで、磁力が発生すること。
そうした、磁力発生の効果。

そうした電子そのものが、自転することで、磁石としての性質を持つこと。
複数の電子における、個別の電子の周回移動がもたらす、個別の磁力の発生。それらの発生が、電子同士の相互作用によって、相殺される場合。それは、非磁性体であり、非磁石であること。
複数の電子における、個別の電子の周回移動がもたらす、個別の磁力の発生。それらの発生が、電子同士の相互作用によって、相殺されない場合。それは、磁性体であり、磁石であること。

そうした電子の動きにおいて、一定の流れが生じること。
そうした電子の動きにおいて、一定の束が生じること。
そうした電子の動きにおいて、一定の方向性が生じること。
そうした流れや束が、磁力を生み出すこと。
そうした流れや束を持つ金属のみが、磁性体や磁石となること。
ある金属が、そうした流れや束を持つ可能性を秘めていること。それが、磁性であること。
ある金属に、そうした流れや束を、実際に持たせること。それが、帯磁であること。

ある金属において、そうした電子の動きが、ランダムである場合。
そのことで、そうした個々の電子の流動が、相互に相殺し合う場合。
それは、磁石では無いこと。

例。
天体の回転により、その天体の中核の超高温のマグマ部分が回転すること。
そのことで、そのマグマ部分の金属流体に含まれるエネルギー性の自由電子群が周回移動すること。

そのことで、その天体に、地磁気が発生すること。

ある天体が十分に大きいこと。そのことで、その天体の中核部に、超高圧による超高温のマグマが、常時存在し続けること。
そのことで、そのマグマ部分の金属流体に含まれるエネルギー性の自由電子群が、天体の自転によって、常時、周回移動し続けること。
そのことが、その天体において、地磁気が発生し続ける条件であること。
具体例。地球における地磁気の発生。

例。
ある星は、そのサイズがあまり大きくないこと。
その星は、その所在位置が中心の恒星から遠いこと。
そのことで、その中核部における、超高圧による超高温のマグマが、冷却されてしまうこと。
そのことで、その中核部に、金属流体が存在しなくなること。
そのことで、その中核部に、エネルギー性の自由電子群が存在しなくなること。
そのことで、その星は、いくら自転しても、地磁気を生み出さなくなること。
具体例。火星。

ある天体の内部において、磁性体や磁石が、常時存在し続けること。
そのことで、その磁性体や磁石が、常時、天体の自転によって、周回移動し続けること。
そのことが、その天体において、地磁気が発生し続ける条件であること。
具体例。地球における地磁気の発生。

例。
ある星は、その内部に、磁性体を少ししか含んでいないこと。
そのことで、その内部に、エネルギー性の自由電子群が少ししか存在しなくなること。
そのことで、その惑星は、いくら自転しても、十分な地磁気を生み出さなくなること。
具体例。火星。

プラズマ。
それは、電子と陽子そのものが、バラバラに粒子状に剥き出しになっている状態であること。
そうしたプラズマが、他の物質に体当たりすると、その体当たりされた物質が、漏れなく破壊されること。
それは、究極のエネルギー行使であること。
そうしたプラズマは、その意味において、究極のエネルギー性物質であること。
例。太陽から発せられる、太陽風。

追加内容。2025年5月中旬。保存性物質や生物における、資産肥満者や資産デブの存在。彼らの社会的な有害性を、新たに認識することが必要であること。彼らに対する社会的治療や矯正が必要であること。

保存性の物質や生物において。
彼自身が保有し貯蔵している資源の量が巨大化している者。
彼自身が保有し貯蔵している資源の量が多すぎる者。
彼自身が保有し貯蔵している資源の量の増大に、歯止めが掛からない者。
彼自身の所有資産の巨大化に、歯止めが掛からない者。
彼自身の資産所有欲に、歯止めが掛からない者。
所有資産における肥満者。
資産肥満者。資産デブ。
それらの語句は、そうした資産肥満者に対する蔑称として、社会的

な有効活用が可能であること。
例。
どこまでも膨張を続ける、超巨大な恒星。
体重が大きく体脂肪率が高い、食欲が止まらない、どこまでも太り続ける生物や女性。
土地や設備や金融資産や人脈を、無闇に、沢山保有し、その保有量をどこまでも際限無く増大させる、超富裕層の人々。資産所有欲が無限化している、グローバルな超富裕層の人々。

そうした、資産肥満者や資産デブ。
彼らは、より保存性が強いこと。彼らは、より女性的であること。
一方。エネルギー性の物質や男性は、喜捨の精神で動くため、資産肥満者や資産デブには、よりなりにくいこと。
彼らは、保存性の物質や生物において、普遍的な存在であること。
保存性の物質や生物は、皆、彼らのようになってしまう素質を、予め持っていること。

保存性の物質において。生物において。
彼自身の所有資産の巨大化に、歯止めが掛からないこと。
彼自身の富裕化の進行における、暴走。
それは、病的であること。
それは、是正や治療が必要であること。
それは、社会的害悪であること。

彼自身の所有資産の巨大化に、歯止めが掛からない者。
彼自身の所有資産の肥満化に、歯止めが掛からない者。
彼自身の所有資産の量の適切なコントロールが出来なくなっている者。
彼自身の所有資産の量の増大において、適切なコントロール能力を喪失している者。
彼自身の所有資産の量の増大において、暴走を引き起こしていて、自力で停止できなくなっている者。
彼自身の資産所有欲の増大において、彼自身を律することが出来なくなっている者。
その結果。社会的に深刻な経済格差を引き起こす者。
その結果。彼自身の所有資産が増え過ぎて、超新星爆発を引き起こす者。
その結果。彼自身の所有資産が極小化してしまう者。
そうした超富裕層の生物。例。グローバルな超富裕層の、社会的エ

スタブリッシュメント層の、人たち。
彼らは、精神病者であること。
彼らは、世界的に、有効な社会秩序を破壊する者であること。
彼らの存在は、社会的に有害であること。
彼らの存在は、社会的なゴミであること。
彼らには、社会的治療や矯正が必要であること。
彼らにとって必要な治療や矯正。それらは、以下の内容である。
彼らの資産所有欲を抑制する、精神病薬。それらを彼らに強制的に服用させること。そうした治療を実行する精神科医を、社会的に沢山育成すること。
彼らの資産所有欲を抑制する、心理療法。それらを彼らに強制的に適用させること。彼らの所有資産の量を、無駄に大幅に増減させることを繰り返すこと。そのことで、彼らの資産所有欲にダメージを与えること。例。アメリカのトランプ大統領が現在引き起こしている、株価の短期間の大幅変動の繰り返し。
彼らの所有資産を、強制的にダイエットし、切除手術すること。そのことで、彼らの所有資産量の更なる急激な膨張や爆発を、予防し防止すること。
彼らの所有資産を、強制的に爆発させ、極小化すること。そのことで、彼らの所有資産を、世界社会全体に、あまねくばら撒くこと。社会的に切除し粉々にした彼らの所有資産を、国際的にグローバルに、有効活用すること。そうした施策が、世界的に必須であること。
例。それらの資産について。国際的な公共基金化を行うこと。資産がより少ない者へと、国際的な配分や移転を行うこと。
そうした国際的施策を打ち出すことこそが、真に推奨されるべきグローバリズムであること。

追加内容。2025年5月中旬。保存性物質は、世界の中心を指向すること。保存性物質は、世界の中心者になりたがること。保存性物質における、自己中心性。保存性物

質における、自己中心化の実現方法。

保存性物質。引力を専ら行使する物質。

保存性の物質は、世界の中心や中枢や中核に位置することを、指向すること。
保存性の物質は、世界の周縁や周辺や表面に位置することを、忌避すること。
保存性の物質における、そうした性質。それは、即ち、自己中心性であること。
世界の中心に位置すること。それは、即ち、自己中心化であること。

そうした保存性物質の例。天体。恒星。液体分子。生物一般。女性。定住生活様式社会の人々。中国や韓国や日本やロシアの人々。

保存性の物質にとっての、社会的地位とは。
世界の中心に位置する者が、最上位者であること。
世界の中心に、より近く位置する者が、より上位者であること。
世界の中心から、より遠く位置する者が、より下位者であること。
世界の周縁に位置する者が、最下位者であること。

保存性の物質にとっての、社会的地位とは。
より上位であること。それは、より中心に近いことと、同義であること。
より下位であること。それは、より周縁に近いことと、同義であること。
より上位者であること。それは、より中心や中枢や中核に位置することと、同義であること。
より下位者であること。それは、より周縁や周辺に位置することと、同義であること。
より上位者であること。それは、より奥に位置することと、同義であること。
より下位者であること。それは、より表面に位置することと、同義

であること。

例。天体において。
地中は、より天体の中心部に近く、それゆえ、より上位であること。
地表は、より天体の中心部から遠く、それゆえ、より下位であること。

天体。
そのサイズは、巨大恒星のサイズから、微小粒子のサイズまで、様々であること。
その構成要素は、数兆の粒子群から、数個の粒子群や、単一粒子のみまで、様々であること。

保存性の物質にとっての、優劣関係とは。
より優位であること。それは、彼女自身が行使可能な引力がより大きいことと、同義であること。
より劣位であること。それは、彼女自身が行使可能な引力がより小さいことと、同義であること。
より優位であること。それは、彼女自身がより中心部へと進出しやすいことと、同義であること。
より劣位であること。それは、彼女自身がより中心部へと進出しにくいことと、同義であること。
より優位であること。それは、彼女自身がより中心者になりやすいことと、同義であること。
より劣位であること。それは、彼女自身がより中心者になりにくいことと、同義であること。

保存性の物質粒子にとっての、有能性とは。
主に保存性物質によって形成される世界は、その中心部に近づくほど、高密度化し高圧化して、近づきにくくなること。
そうした高圧で過密な状況を、耐え忍び、撥ね退けて、そうした世界の中心部へと、どんどん食い込んで行くことが出来る、能力。
そうして最終的に、世界における一番の中心位置を獲得することが出来る、能力。
そうした能力が、豊富に有ること。
そうした能力の源泉。それは、その粒子が行使できる引力の大きさ

であること。それは、その粒子の比重の大きさであること。それは、その粒子の総重量の大きさであること。

保存性の物質粒子にとっての、既得権益とは。
その粒子が、今までの引力行使によって、周囲の他粒子から既に獲得し搾取し集積した、その粒子自身の総重量。
その粒子が、他粒子との合併や合体によって、既に獲得し集積した、それらの粒子の新たなひとまとまりの合計の総重量。

保存性の物質にとっての、評価とは。
それは、相対評価への一択となること。それは、絶対評価を拒絶すること。
その理由。それは、以下の内容である。
保存性物質の粒子は、相互に近接し隣接することを、絶えず指向すること。
保存性物質の粒子は、相互に集合し所属することを、絶えず指向すること。
そのため、相互の優劣関係や上下関係を、絶えず即座にリアルタイムで認識可能であること。
そのため、相互の優劣関係や上下関係を、絶えず即座にリアルタイムで認識しないと気が済まないこと。

どういった性質の保存性の粒子が、保存性の物質の塊の中において、より中心位置を獲得しやすいか？
どういった振る舞いをする保存性の粒子が、保存性の物質の塊の中において、より中心位置を獲得しやすいか？
どういった戦略で動く保存性の粒子が、保存性の物質の塊の中において、より中心位置を獲得しやすいか？

どういった性質の保存性の粒子が、保存性の物質の塊の中において、より社会的上位を獲得しやすいか？
どういった振る舞いをする保存性の粒子が、保存性の物質の塊の中

において、より社会的上位を獲得しやすいか？
どういった戦略で動く保存性の粒子が、保存性の物質の塊の中において、より社会的上位を獲得しやすいか？

それらは、以下の内容である。

性質的な側面。
より強い引力を行使できること。より重たいこと。それは、次の２つの内容へと分けることが出来ること。
-
能力的側面。比重がより大きいこと。
既得権益的側面。既に獲得し集積している総重量が、より大きいこと。
-

戦略的な側面。

--
その塊の最初期からのメンバーとなること。
最初から、その塊の真ん中に位置すること。
そのために。
最初は、単独で少し動き回って、彼女自身の周囲に、従者メンバーの粒子群を、徐々に集めること。
そうして、彼女自身の従者メンバーの粒子群を、一通り十分に集めることに成功したら、彼女自身は、中心位置に定住して、徐々に不動になること。
例。人間社会において。ある宗教の創始者が、まず諸国を行脚して弟子を集めてから、彼自身の宗門を新たに名乗って、開山して、その地点にそのまま鎮座すること。

--
その塊の中において。
周囲の他のメンバーからの引き合いが、より多い者となること。
周囲の他のメンバーからの注目が、より多い者となること。

その塊の外において。
周囲の他の塊からの引き合いが、より多い者となること。
周囲の他の塊からの注目が、より多い者となること。

その塊の内外において、プラスの意味で、より目立つ者となること。
その塊の内外において、プラスの意味で、より注意を引く者となること。
その塊の内外において、プラスの意味で、より引力を行使する者となること。

その塊における、人気者となること。
そのために、周囲に向けて、自己宣伝や見栄張りを積極的に行うこと。
そのために、周囲に向けて、引力行使の試行を積極的に行うこと。
そのために。
そうした引力行使の元手として。彼女自身の手持ちの資源を、消費し供出すること。彼女自身で出費をすること。
その結果。彼女自身の手持ちの資源を減らすこと。彼女自身の手持ちの質量を減らすこと。彼女自身が貧乏になること。
その結果。その副作用として、彼女自身の引力が弱まってしまうこと。そのことで、彼女自身の自己宣伝力が弱まってしまうこと。
そうした事態を防ぐために。
金づるとなる他のメンバーを、何とかして獲得すること。
そうして獲得した金づるとなるメンバーを、懐柔して手なずけて、決して手放さないこと。
金づるとなるメンバーとは。彼女自身のために、資源を積極的に供出してくれる、支援者や応援者や協力者としての粒子のこと。
金づるとなるメンバーの確保。彼女は、そのことで、以下の内容を、新たに実現可能になること。
彼女自身の自己宣伝や見栄張りを積極的に行いつつ。周囲に向けて、彼女自身による引力行使の試行を積極的に行いつつ。
却って、彼女自身の所有資源を増やすことが出来ること。
却って、彼女自身の質量を増やすことが出来ること。
却って、彼女自身の引力を増やすことが出来ること。
却って、彼女自身の集客力を増やすことが出来ること。
却って、彼女自身の位置を、より中心へと近づけることが出来ること。
却って、彼女自身の社会的地位を、より上位へと近づけることが出来ること。
その場合。
金づるとなる他のメンバーからの資源供出を、より安定化させること。

金づるとなる他のメンバーを、より固定化させること。
金づるとなる他のメンバーを、より厳選すること。

金づるとなる他のメンバーから、常時資源を搾取できる状態にすること。
そのために、金づるとなる他のメンバーを、彼女自身よりも社会的に下位に置けるように、物事を運ぶこと。
そのために、金づるとなる他のメンバーよりも、彼女自身がより大きな引力を行使できるように、予め、用意しておくこと。

--
その塊の内部と外部において。
周囲の他のメンバーの注目を、より多く集めること。
周囲の他のメンバーを、より多く集客すること。
周囲の他のメンバーを、より良くまとめること。

まとまりの度合い。それは、以下の内容である。
-
まとめている粒子の総数。
まとめている粒子が社会的上位である割合の高さ。
まとまりのサイズ。
まとまりの総質量。
まとまりの強さ。
まとまりの安定性。
まとまりの柔軟性。
まとまりの攻略困難性。
-

--
その塊の内部と外部において。
周囲の他のメンバーから、より良く受け入れられること。
周囲の他のメンバーから、より良い信望を集めること。
周囲の他のメンバーからの応援や支援を、より多く受け取ること。
周囲の他のメンバーから、より多く資源を獲得すること。
周囲の他のメンバーから、より多く集金すること。
そのことで、彼女自身の質量を、より大きくすること。
そのことで、彼女自身が行使可能な引力を、より大きくすること。
その結果。彼女自身が、他のメンバーにとってのパトロンとなるこ

と。
そのことで、彼女自身が、他のメンバーにとって欠かせない存在となること。
そのことで、彼女自身が、他のメンバーの命運を握る存在となること。
そのことで、彼女自身が、他のメンバーにとっての中心的存在となること。

--
ある粒子が、その塊に後から加入する場合。
周辺者としての粒子が、中心位置へと近づく方法。周辺者が、新たな中心者へと成り上がる方法。
最初に。彼女自身が、その塊の中に、何とかして入れてもらうこと。彼女自身が、その塊の中に所属することを、許されること。
その後。彼女自身が、その塊の中において。
まず。既存の中心者に接近すること。既存の中心者に取り入ること。既存の中心者から、引力行使の実力を認められること。
そうして、既存の中心者におもねること。
そうして、既存の中心者に懐くこと。
そうして、既存の中心者に融合し一体化すること。
そうして、既存の中心者に、彼女自身のパトロンになって貰うこと。
そうして、既存の中心者によって、彼女自身を、より中心位置へと引っ張り上げて貰うこと。
そうして、既存の中心者から、後継者として認定されること。
そうして、既存の中心者から、中心位置を禅譲されること。

あるいは。
その塊の内部において。
既存の中心者を倒して、中心位置を強引に入手すること。下剋上を実行すること。
そのために。
既存の中心者から、その取り巻き連中を引き抜いて、その勢力を削ぐこと。
既存の中心者から、その取り巻き連中を横取りして、その勢力を削ぐこと。
既存の中心者から、その取り巻き連中を打倒して、その勢力を削ぐこと。
そのために。

既存の中心者の取り巻き連中よりも、より大きい引力を、予め行使可能にしておくこと。
既存の中心者自身よりも、より大きい引力を、予め行使可能にしておくこと。

あるいは。
その塊の内部において、既存の中心部を丸ごと破壊して、中心位置を強引に入手すること。
例。宇宙における、ある惑星系の内部において。ある衛星Aが、中心惑星Bに衝突して、その中心惑星Bを図らずも丸ごと破壊すること。
例。人間社会において。ある国の家来が、その国の王将の本拠地の焼き討ちを行うこと。

その塊の外側から、その塊の既存の中心部を破壊して、中心位置を強引に入手すること。
例。宇宙における、ある惑星系において。その惑星系の外部から飛来した、ある巨大彗星Cが、その惑星系の中心惑星Dに衝突して、その中心惑星Dを丸ごと破壊すること。
例。人間社会において。外国軍隊が、別の国の首都の王宮を砲弾で破壊すること。

その塊の外側から、その塊の既存の中心部へと落下傘でいきなり降り立って、中心位置を強引に入手すること。
例。生物社会において。ある鳥Aが、別の鳥Bの巣に飛来して、その巣を急襲して、そのまま強奪すること。
例。人間社会において。ある外部者が、首都の王宮にパラシュート降下して、王将の寝起きを襲って、その王将を追放すること。

そのために。
他のエネルギー性の物質の助けを、何とかして借りること。あるいは。彼女自身のエネルギー性を、ある程度以上は、予め備えておくこと。
他のエネルギー性の物質を、予め、手下として手なずけておくこと。
例。
生物社会において。
女性が、男性を、破壊行為担当の手下として、予め篭絡しておくこと。
女性が、そうした男性に危険な破壊行為を行わせつつ、彼女自身は

安全地帯に滞留して難なく自己保身し続けること。

追加内容。2025年5月下旬。保存性物質の各粒子は、その内部世界の中心を指向すること。そのことが、保存性物質内部を、活火山化させること。そのことが、活火山爆発を引き起こすこと。その結果。保存性物質は、エネルギー性物質の発生の母胎となること。引力性物質は、斥力性物質の発生の母胎となること。ある宇宙世界における最上位の保存性物質は、その宇宙世界の中心に位置する超巨大恒星であること。生物世界における最上位の生物は、結局は、女性であること。

保存性の物質においては。
その内部の各々の粒子が、皆、揃って、その内部世界の周辺や周縁へと位置することを、忌避しようとすること。
その内部の各々の粒子が、皆、揃って、その内部世界の中心や中枢

へと位置しようとすること。
その内部の各々の粒子が、皆、揃って、その内部世界の中心や中枢へと進出しようとすること。
その内部の各々の粒子が、皆、揃って、その内部世界の中心や中枢へと、一方的に、通行し進行しようとすること。
その内部の各々の粒子が、皆、揃って、その内部世界の奥深くへと、一方的に、通行し進行しようとすること。
その結果。その内部の各々の粒子において。皆が、その内部世界の中心位置の奪取を巡って、過度に競争し抗争し続けること。
その結果。その内部の各々の粒子において。皆が、その内部世界の中心部へと、過度に集中し続けること。その現象は、例えば、定住生活様式の社会の首都への過度の人口集中と、同様であること。
その結果。その中心部が、どんどん過密化すること。
その結果。その中心部に掛かる集中への圧力が、どんどん高まること。その現象は、例えば、通勤ラッシュ時の満員電車の車内の乗客に掛かる高い圧力と、同様であること。
その結果。その中心部が、常時、過度に高圧化すること。
その結果。その中心部の各々の粒子は、高圧のせいで、互いに身動きがどんどん取りにくくなること。
その結果。その中心部の各々の粒子において。各粒子の運動エネルギーが、各粒子へと高圧が掛かることによって、常時、熱エネルギーへと変換され続けること。
その結果。その中心部が、常時、過度に高熱化すること。
その結果。その中心部が、常時、過度に高エネルギー化すること。
その結果。その中心部が、常時、過度に光熱化すること。
その結果。その中心部が、常時、過度に、超高温に液状化して、マグマ化すること。
その結果。その中心部において、高度のエネルギーが、常時、蓄積され溜まり続けること。
その結果。その中心部において、超高温の光熱を伴う液体としてのマグマや金属が、常時、蓄積され溜まり続けること。
その結果。そうした中心部が、活火山として、常時活動するようになること。そうした活火山としての活動は、その保存性物質の内部における社会的上位性の、象徴であること。
その結果。そのように溜まりまくった高度のエネルギーが、間歇的に、周縁部に向けて、活火山爆発を引き起こすこと。
その結果。超高温の光熱を伴う液体としてのマグマが、間歇的に、周縁部に向けて、活火山爆発を引き起こすこと。
その結果。液体としてのマグマや、固体としての溶岩や、気体としての火山ガスが、周縁部に向けて、高い光熱を伴って、一気にまき

散らされること。
そうした爆発においては、液体としてのマグマや金属が、主役であること。そうした液体としてのマグマや金属は、その保存性物質の内部世界における、最上位の保存性物質であること。
そうした活火山爆発によって、周縁部の大地や地上も、大きく振動し、割れ、ズレること。それは、即ち、地震であること。
そうした活火山爆発の発生や続行は、同伴するエネルギーの度合が高すぎて、誰にも止めることが出来ないこと。
そうした活火山爆発の発生や続行は、そうした活火山それ自体の気が済むまで、延々と続くこと。

その結果。そうした活火山爆発に伴って、周囲に対して、高エネルギーの光熱が、まき散らされ続けること。
その結果。そうした高エネルギーの光熱の放散が、エネルギー性物質の源泉となること。
その結果。そうした高エネルギーの光熱の放散が、物質一般における、引力から斥力への転化を引き起こす源泉となること。
その結果。そうした高エネルギーの光熱の放散が、物質一般における、保存性からエネルギー性への転化を引き起こす源泉となること。
そうした高エネルギー化した保存性物質が、電子や光子といったエネルギー性物質を新たに生み出す、源泉となること。
あるいは。そうした高エネルギー化した引力性物質が、電子や光子といった斥力性物質を新たに生み出す、源泉となること。
結局。そうした高エネルギー化した保存性物質が、子供としてのエネルギー性物質を新たに産み落とす、母親や母胎となること。
あるいは。そうした高エネルギー化した引力性物質が、子供としての斥力性物質を新たに産み落とす、母親や母胎となること。
その結果。物質世界一般において。保存性物質の、エネルギー性物質に対する、存在における根源的優位性。そうした保存性物質の優位性が、大元において確立されていること。
あるいは。物質世界一般において。保存性物質の、斥力性物質に対する、存在における根源的優位性。そうした引力性物質の優位性が、大元において確立されていること。
それは、例えば、以下の内容である。
物質一般のサブクラスとしての生物。そうした生物世界一般において。保存性や引力性の生物としての女性の、エネルギー性や斥力性の生物としての男性に対する、存在における根源的優位性。そうした女性の優位性が、大元において確立されていること。

その活火山爆発を引き起こす保存性物質が、巨大な恒星である場合。そうした活火山爆発の発生や続行は、その巨大な星の全部の体積を使って、超高度なレベルで、エンドレスに、続くこと。
そうした超巨大な恒星。それは、その宇宙世界における、最上位の保存性物質であること。
あるいは。
中規模な恒星としての太陽において。そうした活火山爆発の発生や続行は、その星の全部の体積を使って、高度なレベルで、エンドレスに、続くこと。
そうした太陽。それは、その宇宙世界における、最上位の保存性物質では無いこと。
一方では。
そうした太陽は、太陽系における、最上位の保存性物質であること。
太陽系の一つの惑星に過ぎない地球。そうした地球は、太陽系における、最上位の保存性物質では、全然無いこと。
地球上の小さな生物は、太陽系における、最上位の保存性物質では、全然無いこと。
それらの具体例。
地球上の小さな生物に過ぎない人間は、宇宙世界における、最上位の保存性物質では、そもそも全然無いこと。その最上位の保存性物質。それは、超巨大恒星であること。
地球上の小さな生物に過ぎない人間は、太陽系における、最上位の保存性物質では、そもそも全然無いこと。その最上位の保存性物質。それは、太陽であること。
地球上の男性は、生物世界における、最上位の個体では、そもそも全然無いこと。その最上位の個体。それは、女性であること。

追加内容。2025年6月中旬。宇宙物理学における、互いに専門化され分断された各分野の様々な知見の、新たな統合と総括。そのこと

によってもたらされる、宇宙物理学が持つ、新たな全貌。その要約。

宇宙物理学における、互いに専門化され分断された各分野の様々な知見の、新たな統合と総括。
そのことによってもたらされる、宇宙物理学が持つ、新たな全貌。
それらの要約は、以下の内容である。

宇宙物質としての星屑におけるプロセスは、以下の３種類のプロセスの、始まりも終わりも無い無限の繰り返しであること。
-
Ａ１．ある星屑自身が保有する重力による、星屑同士の吸収合併や集中。その結果。星屑は、大きな体積や質量や重力を備えた星へと、進化すること。
Ａ２．そうしたＡ１の結果。一つの星への物質の過集中が起きること。そのことにより、その星の中核部の物質へと、過大な高圧負荷がどんどん掛かり続けること。
Ｂ．そうしたＡ２の結果としての、超新星爆発。そのことによる、その星の破裂。そのことで生成された無数の星屑の破片の、分散や拡散。
-
そうした現象は、宇宙物質や星屑における、エンドレスの輪廻、と呼ぶことができること。

地球の地上の岩石や土砂も、そうした星屑の一種であること。
地球の地上の生物も、そうした星屑の一種であること。
そうした生物の一種としての人間も、そうした星屑の一種であること。

そうしたエンドレスの輪廻の思想を採用する場合。
宇宙の始まりや終わりは、不可視となること。

超新星爆発によって爆誕した、多数の小さな単一の星屑としての、星の破片。
そうした破片同士が吸収合併を繰り返すことで、保有する質量と重力がどんどん増大して行くこと。
その結果。そうした破片同士の塊の中心部が、徐々に高圧高熱化して融合して、小さな星へと成長して行くこと。
そうした小さな星は、更に吸収合併を繰り返すことで、更に明るく光り輝く恒星へと成長して行くこと。
それらの行為が行きつくところは、巨大恒星や赤色超巨大恒星であること。
それは、星における、その星自身へとより大きな質量と重力をもたらす資源の獲得の貪欲な繰り返しであること。
それは、宇宙物資や星における資本主義であること。

星と星との吸収合併は、それらの星々にとって。
-
質量資源と重力資源の増大であること。
更に質量や重力を増やすための元手となる質量重力資本の増大であること。
-

星や星屑は、その本質において、資本主義者であり、資本家であること。
そうした星屑のサブクラスとしての生物や人間も、資本主義者であり、資本家であること。

宇宙の星屑や星そのものが、質量や重力に基づく資本主義で動いていること。
生物や人間における資本主義の根源は、宇宙の星屑そのものに存在すること。

ある星において。
一定程度への巨大化により、中央の核が一定限度の圧力を超えるようになった場合。
その核を形成する粒子群の動きが高圧によって封じられて、熱エネルギーへと転化すること。
その熱の高さが一定程度を超えるようになった場合。
それは光エネルギーへと転化して、その箇所が、新たに光り輝くようになること。

最初は、中核も周辺部も暗黒であるが、その場合においても、中核は周辺部に比べて、光熱の度合いが、より高いこと。
その後、中核のみが光熱を持って、周辺部は低温で暗黒であること。
しかし。
星の巨大化によって、周辺部も光熱を持って、光り輝くようになること。

星の巨大化により、星の中核部は、以下のＡの状態から、以下のＢの状態へと、どんどん進化していくこと。
-
Ａ．液体が高圧によって封じられている状態。
Ｂ．本来どんどん自由に拡散して行くはずの気体が、重力がもたらす超高圧によって、強引に封じられて液化あるいは固体化している状態。
-

そのように、その超高圧が、本来高速なはずの気体の動きを封じること。
そのことで、ますます、中枢部粒子群における運動エネルギーから光熱エネルギーへの転換が、加速度的に進むこと。
その結果。星の中核部の光熱を発する度合いが、凄まじい勢いで進むこと。

赤色超巨大恒星は、恒星の巨大化における最終局面であること。
赤色超巨大恒星は、余りに大きすぎるため、周辺部の表面まで中枢部の光熱が十分に伝わらないこと。
その結果。その恒星の表面は暗い赤色となること。

超新星爆発において。
赤色超巨大恒星の中核部は、素粒子間の結合が、余りの高温高圧によって、すっかり溶解して気体化して無効化されること。
その結果。中核部の求心力が余りにも急激に低下して、超巨大重力による超高圧でも封じることが出来なくなること。
その結果。自己破壊的な自己爆発を引き起こすこと。その際の、中核部の残りかすが、白色矮星となって暗く光り輝くこと。
その後、白色矮星は、自力でそれ自身を十分に温めることが出来ないため、冷えて、光機を失うこと。
その結果。その矮星は、大きな重力を保ったまま、観察者としての生物の目には見えなくなること。

それが、ブラックホールであること。それは、暗黒物質の親玉的な存在であること。
そのブラックホールは、周辺部の星を貪欲に呑み込み続けることで、巨大な重力を持つようになること。
その結果。そのブラックホールは、新たな中核部において、超高圧が掛かること。
その結果。そのブラックホールは、高熱化して、巨大恒星として、再び光り輝くようになること。
ブラックホールとは、そのように再び光り輝くようになるまでの一時的な現象に過ぎないこと。

光り輝く程には温度が高くない物質は、全て暗黒物質であること。
外部から光を得ないと、何も見ることが出来ない生物も、暗黒物質の一種であること。そうした生物の一種である人間も、暗黒物質の一種であること。
ある物質が暗黒かどうかは、観察者としての生物の視覚の性能によって決まること。
観察者としての生物の視覚の性能が低い場合。本来、光熱を持っている星も、その生物にとっては、暗黒に見えること。

追加内容。2025年6月中旬。量子力学と質子力学との対比。今後の物理学において、質子力学が新たな主流となるべきこと。宇宙物理学や分子動力学との関連について。

質子力学の新たな必要性について。

量子力学は、バラバラで自由で動的な量子粒子の振る舞いを前提とする、エネルギー性の思想であること。

それとの対比で、以下のような保存性の思想に基づく、別の力学が、物理学において、新たに必要であること。
保存性で動く物体や粒子同士の、物理的相互作用。
不動的か微動的な粒子同士の、結合や、持続的接触や、引力や重力や圧力の掛け合いや、足の引っ張り合いや、ブレーキ掛けや、原状回復の動きや、表面の形成。
それらの振る舞いを記述する、保存性の思想に基づく、質子力学。
そうした質子力学が、今後の物理学における、新たな主流となるべきこと。

例。
宇宙物理学との関連においては。
星屑や星そのものの質量や固体性や液体性が、質子力学の対象となること。
星屑や星が行使する、引力や重力や圧力が、質子力学の対象となること。
星屑や星における質量重力資本の蓄積行動そのものが、質子力学の対象となること。
星屑や星そのものや、星の地上で暮らす生物一般や、そのサブクラスとしての人間の、物理的な動作や行動。
それらの動作や行動は、相互の引力行使や、重力資本の獲得と蓄積といった側面において、十分に、質子力学の対象となること。

例。
分子動力学との関連においては。
引力や重力や圧力を行使する液体分子群や固体分子群が、質子力学の対象となること。
気体分子群も、液体分子群や固体分子群と相互作用して、空気圧を行使する場合には、質子力学の対象となること。
電子群も、液体分子群や固体分子群と相互作用して、光熱を行使したり破壊したりする場合には、質子力学の対象となること。

その具体例。
生物一般との関連では。
生物の身体の分子レベルを構成する液体分子群や固体分子群の相互作用や相互連絡が、質子力学の対象となること。

生物の身体の分子レベルの設計図に当たる、DNAやRNAの、生物の身体内部の液体分子群や固体分子群を物理的に制御し統制する振る舞いが、質子力学の対象となること。
生物の身体の分子レベルの設計図に当たる、DNAやRNAの、放射線の影響による物理的破壊が、質子力学の対象となること。

追加内容。2025年6月下旬。熱エネルギーと、運動エネルギーとの関係について。光熱の発生の、保存性やエネルギー性との関連について。光熱の発生の、世界における中心性との関連について。物質の様々な性質の、ビジュアル化の方法について。

重力や引力の役割。それは、以下の内容である。
物質個体間に、リンクを張ること。
物質の質量を保持すること。
その役割を果たす物質は、例えば、陽子や中性子や質量子であること。それらは、質子と呼ぶことが出来ること。

斥力の役割。それは、以下の内容である。
物質個体間のリンクを切断し破壊すること。
物質の質量をゼロにすること。
その役割を果たす物質は、例えば、電子であること。それらは、量子と呼ぶことが出来ること。

重力や引力においては、以下の２種類が存在すること。
--
プラスの性質とマイナスの性質との間の引き付け合い。例。陽イオンと陰イオンとの関係。男女の性差。
大きな性質と小さな性質との間の引き付け合い。例。大きな恒星が、小さな星屑を、引き寄せ呑み込むこと。
--

エネルギー性。
それは、質量と斥力との掛け合わせであること。
その性質は、反質量であること。
それは、質量を持つ物質を、破壊し改変すること。
それは、動かす力であること。それは、アクセルであること。
それは、運動を生み出すこと。それは、加速性や高速性をもたらすこと。
それは、解放する力であること。それは、爆発や拡散をもたらすこと。
それは、熱エネルギーを運動エネルギーへと転化させること。例。赤色巨星の超新星爆発。

保存性。
それは、質量と引力や重力との掛け合わせであること。
その性質は、質量であること。
それは、質量を持つ物質を、現状維持し原状回復し増量すること。
それは、止める力であること。それは、ブレーキであること。
それは、不動や微動を生み出すこと。それは、停止や減速や慣性をもたらすこと。
それは、抑圧する力であること。それは、加圧や集中をもたらすこと。
それは、運動エネルギーを熱エネルギーへと転化させること。例。地球の中核部が光熱化してマグマとなること。

熱エネルギー。
それは、物質における引力や保存力の行使の、副産物であること。

それは、物質における重力や引力の累積の副産物であること。
それは、女性性の表れであること。
しかし、それは、最終的には、物質の保存性を無効化して、物質に対して破壊的な爆発を引き起こすこと。
そうした破壊的爆発は、運動エネルギーへの転化であり、斥力や男性性の表れであること。

熱の理解に必要な諸概念の整理。それは、以下の内容である。

--
温度。
ある物質における、運動の激しさの度合い。ある一定単位質量の物質が、光熱を持つ度合い。

--
熱容量。
ある物質が蓄積可能な光熱の度合い。その物質が持つ光熱量の合計値。それは、質量の値と比熱の値との、掛け合わせの値であること。

--
比熱。
ある物質１グラムの内部温度を１度上昇させるために必要な、熱量の大きさの値であること。
ある物質において、その物質の１グラムの内部温度が１度上昇する時に、その物質内部に蓄えられる、熱量の大きさであること。

比熱。
それは、運動を光熱へと変換する力であること。それは、運動をストップして光熱化する力であること。その実態は、引力や重力の大きさであること。その実態は、保存性であること。それを保有する物質は、液体分子群や固体分子群であること。それは、質量を持つ物体の塊であること。その性質は、抑圧や規制であり、順応の強制であること。それは、女性性であること。

--
爆発力。
それは、光熱を運動へと変換する力であること。それは、光熱を運

動化する力であること。その実態は、斥力の大きさであること。その実態は、エネルギー性であること。それを保有する物質は、気体分子群や電子群であること。それは、実質質量ゼロの物体であること。その性質は、破壊や暴力行使であり、逆転や反発であり、自壊や自爆であること。それは、男性性であること。

--
速度。ある物質における、運動の大きさの度合。

--
熱量。ある物質が保有する光熱の大きさの値。それは、以下の２つの値と等価であること。
運動エネルギーの値。ある物質における、質量と、速度の２乗とを掛け合わせた値を、２分の１にした値。
熱エネルギーの値。ある物質における、質量と、比熱と、温度の上昇値とを、掛け合わせた値。
ある運動エネルギーは、それと等価の熱量の、熱エネルギーへと、変換されること。
ある熱エネルギーは、それと等価の熱量の、運動エネルギーへと、変換されること。

ある物質における比熱が大きいこと。それは、以下の内容である。
その物質の温度が上がりにくいこと。その物質の温度上昇時に掛かる抑止力が大きいこと。その物質が、光熱を持ちにくいこと。その物質内部における抑圧性や保存性の度合いが大きいこと。その物質が、エネルギー性を持ちにくいこと。

ある物質における比熱が小さいこと。それは、以下の内容である。
その物質の温度が上がりやすいこと。その物質の温度上昇時に掛かる抑止力が小さいこと。その物質が、光熱を持ちやすいこと。その物質内部における抑圧性や保存性の度合いが小さいこと。その物質が、エネルギー性を持ちやすいこと。

物体１から物体２への熱移動が起こること。それは、以下の内容である。
物体１の温度が低下すること。

物体２の温度が上昇すること。
その結果。物体１と物体２の温度が等しくなること。熱平衡。
その熱平衡の場合において。
高温だった物体１が失った熱量。物体１の質量と、物体１の比熱と、物体１における温度の低下量との、掛け合わせの数値。
低温だった物体２が得た熱量。物体２の質量と、物体２の比熱と、物体２における温度の上昇量との、掛け合わせの数値。
その２つの熱量の値が、等しいこと。
それは、熱量保存の法則であること。

ある物質における、内部粒子の実態。
それは、分子や原子などであること。

ある物質における、熱の実態。それは、以下の内容である。
その物質の内部粒子における、運動の激しさであること。

--
ある物質における、温度。それは、以下の内容である。
その物質の内部粒子における、運動エネルギーの平均値であること。

ある物質における、熱量。それは、以下の内容である。
--
その物質の内部粒子全部における、運動エネルギーの総和であること。
その物質内部の全ての運動エネルギーの合計値であること。
その物質を構成する全ての粒子の運動エネルギーの総和であること。

その物質内部における、運動の激しさを表す値であること。
その物質内部において、粒子が動こうとしているのに、外圧によって強制停止を食らう度合い。その度合の大きさを表す値であること。

その前提条件。その物質の外部との間では、熱のやり取りが無いこと。その物質の熱が全量保存されていること。

--

運動の激しさ。それは、以下の２通りであること。
--
スケールの大きな運動の激しさ。飛翔の激しさ。
例。気体分子による大きな飛翔の激しさ。
--
スケールの小さな運動の激しさ。振動や微動の激しさ。
例。固体分子による振動の激しさ。液体分子による微動の激しさ。
--

圧力。それは、以下の内容である。
１つの粒子が、相手の粒子と互いに接触した状態で、相手の粒子に対して、一定時間に与える力の大きさ。

--
引力。それは、以下の内容である。
１つの粒子が、相手の粒子と互いに非接触の状態で、相手の粒子に対して、一定時間に与える力の大きさ。

物質内部における、光熱量。物質内部における、発熱。それは、以下の内容に比例すること。
--
その１。
物質内部における、各粒子が、活発に動き回りたい度合い。
物質内部における、各粒子が、自由運動を行いたい度合い。
--
その２。
他の粒子や粒子群からの圧力や重力引力の行使による、各粒子の運動停止や減速の度合い。
各粒子が、本来の活動を、外部からの圧力や重力引力の行使によって、阻害され邪魔される度合い。
各粒子が、本来の活動を、外部からの保存力の行使によって、阻害され邪魔される度合い。

各粒子が、本来の自由運動を、外部からの抑圧によって、阻害され邪魔される度合い。
各粒子が、本来の自由運動を、外部からの抑圧によって、不自由な振動や微動へと、強制的に転化させられる度合い。
--

他の粒子からの圧力行使。それは、以下の内容である。
他の粒子の運動。他の粒子からの衝突。

--
他の粒子からの重力引力の行使。それは、以下の内容である。
他の粒子から、遠隔で、足を引っ張られること。
他の粒子から、遠隔で、引き合う方向での相互作用を受けること。

物質における発熱。その具体例。
例。電気抵抗による発熱。電気ストーブ。電熱線内部の電子の動きが、内部抵抗によって、強制的に停止されたり、減速されること。その結果、電熱線の発熱が起きること。
例。摩擦熱。自動車のブレーキの発熱。自動車の車軸の動きが、ブレーキ板によって、強制的に停止されたり、減速されること。その結果、車軸とブレーキ板の発熱が起きること。

粒子の運動。それは、以下の２通りであること。
--
その１。
自由運動。
外部からの拘束や束縛を伴わない、通常の運動エネルギーによる、運動。
--
その２。振動や微動。
外部からの拘束や束縛を伴う、運動。
外部から大元を固定された状態での、運動。
外部から専制支配を受けた状態での、運動。

そこでは、本来の運動エネルギーが、そうした拘束や束縛の度合いに応じて、高速振動や高速微動へと転化すること。
それらの高速振動や高速微動の度合いが、発熱や発光として、表現されること。
それは、運動エネルギーの、熱エネルギーへの転化として、表現されること。

そうした高速振動や高速微動の勢いが、外部からの拘束や束縛を断ち切る勢いになった時に、破裂や爆発が起きること。
そうして、外的な拘束や束縛を解かれることで、振動は、自由運動へと、転化すること。
それは、熱エネルギーの、運動エネルギーへの転化として、表現されること。

結局、熱エネルギーは、運動エネルギーの一種であること。その場合の運動とは、動きの幅を制限された高速振動や高速微動であること。
--

自由運動エネルギーは、保存性物質の内部に呑み込まれ吸収されると、保存性物質の内部における熱エネルギーとなること。それは、以下の内容である。
その保存性物質の内部において、構成粒子の振動や微動が、より激しくなること。
その保存性物質の内部において、構成粒子の振動や微動の運動エネルギーが、より大きくなること。
その振動や微動の激しさの度合いを表す数値が、温度であること。

その保存性物質の内部における、構成粒子の運動の不自由さの度合い。その度合いを表す数値が、引力や圧力や密度や粘度や湿度であること。

ある物質の内部における発熱の度合い。その物質の内部における、各粒子に対する専制支配の度合い。その両者の度合いは、互いに比例すること。
その具体例。
ある生物社会の内部における発熱の度合い。その生物社会の内部における、各個体に対する専制支配の度合い。その両者の度合いは、

互いに比例すること。
その具体例。
ある人間社会の内部における発熱の度合い。その人間社会の内部における、各個人に対する専制支配の度合い。その両者の度合いは、互いに比例すること。

融解。解放。自由化。固体の液化。液体の気化。それらは、以下の内容である。
その物質内部の粒子の自由運動の度合いを強めること。その物質内部の粒子間の結合を緩めること。その物質内部の粒子間の結合を壊すこと。その物質の保存性の度合いを低下させること。
その実現のためには。
--
外部からの伝熱や、外部からの熱の吸収が必要であること。それらは、外部から熱エネルギーを奪うこと。
外部からの仕事が必要であること。それは、外部から運動エネルギーを奪うこと。
--

凝固。液体の固体化。気体の液化。それらは、以下の内容である。
その物質内部の粒子間の結合をきつくすること。その物質内部の粒子間の結合を強めること。その物質の保存性の度合いを上昇させること。
その実現のためには。
外部への熱の放出が必要であること。内部における自由運動の禁止の追加が、必要であること。
それは、内部から、熱エネルギーや運動エネルギーを奪うこと。

熱エネルギーは、重力引力や保存性とリンクすること。それは、爆発や噴火とリンクすること。
例。赤色巨星の超新星爆発。
そうした爆発や噴火によって、熱エネルギーは、自由運動エネルギーへと転化すること。
例。自由に動き回る自動車における、内燃機関の稼働メカニズム。
例。宇宙空間を自由に飛び回る光子や電子が、燃えさかる巨大恒星から噴出し続けること。
自由運動エネルギーは、斥力やエネルギー性とリンクすること。そ

れは、仕事や稼ぎとリンクすること。

光熱量。温度。圧力。重力や引力。斥力。粘度。湿度。それらのビジュアルな表現方法。
--
大きさ。強さ。それらは、サイズの大きさや線の太さや表示の明るさによって、表現されること。
方向。それらは、始点と終点とを結ぶ、線と矢印と、その矢印の向きとによって、表現されること。
--
例。ある物質粒子における光熱量。その粒子の色がより派手なほど、その粒子は熱く光っていること。その表現において、色彩温度を活用すること。

それらの表現は、以下の内容のビジュアルな表現において、有効であること。
--
例。宇宙における、物質の塊や星において。その内部粒子群の挙動。その中心部が、光り輝き、熱を持つこと。
例。生物一般において。その社会内部の挙動。その社会の中枢部が、光り輝き、熱を持つこと。
例。人間社会において。その社会内部の挙動。その社会の都市部が、光り輝き、熱を持つこと。
--
例。保存性物質において。
その物質内部の各粒子が、その内部世界の中心を指向すること。
そのために、その内部世界の中心部において、粒子間において、より中心の位置の獲得を巡って、激しい内部抗争が起きること。
そのために、その内部世界の中心部が、光熱を持つこと。
--
例。エネルギー性物質において。その物質を構成する各粒子が、激しく飛び回ること。そのために、各粒子が、光熱を持つこと。
--
それらの物質個体群の挙動のコンピュータシミュレーション。そのプログラム出力の、ビジュアル化。

その際に、各粒子の個体識別を行うこと。

例。各粒子に、A,B,C,D等の記号を順に振ること。
そのことで、各粒子の動き回り方を、個別に追跡出来るようにすること。
それは、動物学における、各動物個体の識別研究と同様であること。例。個別の猿や小鳥を、名前を付けて呼ぶこと。

追加内容。2025年10月下旬。エネルギー性優位社会は、仮想性優位であり、仮想資産の運用によって動くこと。保存性優位社会は、実体性優位であり、実体資産の貯蓄によって動くこと。定型発達者は、保存性で動き、発達障害者は、エネルギー性で動くこと。生物界において、保存性の生物は、本尊や母屋や飼い主であり、エネルギー性の生物は、脇侍や寄宿者や暴れ馬であること。

エネルギー性優位社会の個体たち。それらは、例えば、電子や気体分子であること。それらは、生物界の中においては、ウィルスや男性であること。

保存性優位社会の個体たち。それらは、例えば、陽子や固体分子や液体分子や生物一般であること。それらは、生物界の中においては、生細胞や女性であること。

エネルギー性優位社会。
それは、斥力優位社会であること。
エネルギー性優位社会の個体たち。
それらは、斥力に基づいて動くこと。
それらは、反転や逆転の社会ルールに基づいて動くこと。
それらは、破壊や変革やリスクテイキングを指向すること。
それらは、相互に拡散して、世界の果てを指向すること。
そうした行動上の思想。それは、エネルギー性の思想であること。

保存性優位社会。
それは、引力優位社会であること。
保存性優位社会の個体たち。
それらは、引力に基づいて動くこと。
それらは、順応の社会ルールに基づいて動くこと。
それらは、保身や保全や安定や安全を指向すること。
それらは、相互に集中して、世界の中心を指向すること。
そうした行動上の思想。それは、保存性の思想であること。

エネルギー性の思想。それは、保存性の思想の所有者にとって、脅威や禁忌となること。
保存性の思想の所有者。その例。定住生活様式で暮らす人たち。中国。ロシア。
保存性の思想。それは、エネルギー性の思想の所有者にとって、脅威や禁忌となること。
エネルギー性の思想の所有者。その例。移動生活様式で暮らす人たち。欧米諸国。中東諸国。

仮想性と実体性との関連において。
仮想性の物質。
それは、速過ぎて、小さ過ぎて、不可視であること。例。電子。気体分子。
それは、実物を手に取って確認することが出来ないこと。それは、不可触であること。例。絵の中の存在。コミック。紙でパラパラ捲

りをした時のみ生き生きとして見える存在。ディスプレイ画面の中で生きている存在。アニメやゲーム。
それは、結局は、エネルギー性の物質であること。

実体性の物質。
それは、十分に遅くて、十分に大きくて、可視であること。
それは、実物を手に取って確認することが出来ること。それは、可触であること。例。紙の書籍。生身の生物。貴金属のインゴット。
それは、結局は、保存性の物質であること。

エネルギー性優位社会。それは、仮想性優位社会であること。
保存性優位社会。それは、実体性優位社会であること。

エネルギー性優位社会。仮想性優位社会。それは、仮想資産の運用によって動くこと。
保存性優位社会。実体性優位社会。それは、実体資産の貯蓄によって動くこと。

エネルギー性の資産。仮想資産。その例。電力によって生成され運用される、電子的な暗号通貨。仕事での稼ぎに基づく株式。
それらは、仕事や電気や電子の力によって運用されること。それは、エネルギー行使の象徴であること。

保存性の資産。実体資産。その例。貴金属によって生成される、金貨や銀貨。それらの貯蓄。
それらは、耐火金庫によって保管され守られること。そうした耐火金庫。それは、外部からのエネルギー行使に対する防波堤であり、対抗策であること。それは、保存力行使の象徴であること。

エネルギー性の情報。仮想情報。その例。電子情報。電気の力で駆動する液晶モニターに表示される、光子の輝きに基づく情報。
保存性の情報。実体情報。その例。フィルムや紙に印刷記録された情報。

エネルギーによって生成される物体。仮想の物体。その例。電子的な物体。電気の力で駆動する液晶モニターに表示されるコンピュータグラフィックスによる、電子的な画像やアニメで表現される物体。電子書籍。気体の空気。

保存力によって生成される物体。実体のある物体。その例。貴金属。紙の書籍。液体の水。固体の岩石。

エネルギー性の思想の所有者。
その例。移動生活様式で暮らす人たち。欧米諸国。中東諸国。
彼らは、仮想資産の所有や運用を、より好むこと。例。暗号通貨。株式。金融。それらの所有や運用。
彼らは、仮想のコンテンツの視聴や閲覧を、より好むこと。例。電子的なコンテンツ。コンピュータグラフィックスで表示されるアニメやゲーム。電子書籍。
彼らは、エネルギー性の物質の取り扱いや研究を、より好むこと。例。火の取り扱い。電磁波の取り扱い。ガスの取り扱い。インターネットのようなデジタル情報システムの運用。
彼らは、エネルギー性の行為を、より好むこと。例。岩盤の破壊。ミサイルの発射。飛行機や自動車の運転。鉄道システムの運用。

保存性の思想の所有者。
その例。定住生活様式で暮らす人たち。中国。ロシア。
彼らは、実体資産の所有や運用を、より好むこと。例。貴金属。貴重品。財宝。それらの所有や貯蓄。
彼らは、実体のあるコンテンツの視聴や閲覧を、より好むこと。
例。紙に書かれたコンテンツ。紙の書籍。石に記録されたコンテンツ。石碑。フィルムに記録されたコンテンツ。フィルムの写真や映画。生身のコンテンツ。生き物。生身の人間。
彼らは、保存性の物質の取り扱いや研究を、より好むこと。例。水の取り扱い。生物の取り扱い。ペットの飼育や植物栽培。ファクシミリのようなアナログ情報システムの運用。柔軟な縫いぐるみを好むこと。
彼らは、保存性の行為を、より好むこと。例。家屋の清掃による原状回復。生体維持に必要な食事の用意。病者の看護や治癒。

発達障害との関連において。
生物における定型発達者。彼らは、保身や順応といった、保存性の思想に基づいて、行動すること。彼らは、引力の行使を主眼として、行動すること。
例。アンチASD。彼らは、集団による同調協調行動を好むこと。彼

らは、相互の仲間化を好むこと。彼らは、他の個体との間で、コミュニケーションをひたすら取り合うこと。彼らは、他の個体といつも一緒に行動すること。
例。アンチADHD。彼らは、不動や微動を好むこと。彼らは、物事の整理整頓や原状回復を、好むこと。

生物における非定型発達者。発達障害者。彼らは、反転や逆転といった、エネルギー性の思想に基づいて、行動すること。彼らは、斥力の行使を主眼として、行動すること。
例。ASD。彼らは、個人の自由行動を好むこと。彼らは、個人の自主独立を好むこと。彼らは、他の個体との間で、一時的に接触や折衝を行うが、普段は自閉的であること。彼らは、他の個体とは、直ぐに別れて、互いに別行動をすること。
例。ADHD。彼らは、多動を好むこと。彼らは、物事の散らかしや破壊を、好むこと。

生物における性差との関連において。
生物一般は、もともと保存性の個体であること。生物一般は、彼ら自身の生存維持を指向すること。
生物は、彼ら自身の生存維持に必要な資源獲得のために、エネルギー行使による環境破壊改変行為を絶えず必要とすること。例。水飲み場や耕地の新たな開拓。
そのため、生物は、保存性の生物と、エネルギー性の生物とに、分化したこと。
保存性の生物。その例。生細胞。女性。
エネルギー性の生物。その例。ウィルス。男性。

保存性の生物。それは、生物一般における、本尊であり、本体であること。それは、ホテルや母屋といった家屋であること。
エネルギー性の生物。それは、生物一般における、脇侍であり、補佐役であり、付随物であること。それは、本体家屋への寄宿者や宿泊者であること。

エネルギー性の生物。それは、生物一般における、エネルギー行使者であること。それは、暴れ馬であること。
保存性の生物。それは、生物一般における、保存力行使者であること。それは、暴れ馬の飼い主であること。

生物は、保存性の生物と、エネルギー性の生物との分業体制によって、生き延びていること。
例。生細胞とウィルスとの、分業体制。
例。女性と男性との、分業体制。性別分業。

Table of Contents

的中心性と専制支配力との相関。そうした相関の、コンピュータシミュレーションによる測定の、必要性。
追加内容。2024年9月下旬。物質一般の社会について。引力や斥力と、保存性やエネルギー性との対応関係。引力や斥力と、専制支配や暴力支配との対応関係。物質一般における引力の存在と、資本主義の根源との関連。それらの知見の、生物一般の社会や人間社会への適用。
追加内容。2024年9月下旬。その2。従来の物理学における、地球の重力や位置エネルギーや保存力の概念。それらを全面的に置換する、新たな上位互換の視点の必要性。その最終目標としての、物質一般における引力や斥力の法則の解明の必要性。物質一般における物理法則の研究において新たに克服されるべき、従来の社会的価値観。
追加内容。2024年11月上旬。保存性物質における、内部発熱と内部発光の発生のメカニズム。保存性物質における、熱エネルギー内部保有のメカニズム。その物質における構成要素同士の引力行使の大きさとの関連。保存性物質内部における、保存性とエネルギー性との共存。弁証法的物質としての保存性物質。保存性物質における、エネルギー性行為としての爆発と、その直後の再度の沈静化の、定期的な繰り返しの発生について。
追加内容。2024年12月上旬。Python3のマルチプロセッシング機能を利用した、引力と斥力の両方を考慮した、汎用的な物質動作シミュレーションプログラム。その最初のスクラッチ版のソースコード。
追加内容。2025年1月上旬。物質の分子や原子の構造における、陽子と電子、引力と斥力、保存性とエネルギー性、女性性と男性性との、相互関連。物質における化学反応と、保存性やエネルギー性との関連。物質個体における一般社会理論。生物的神経系における斥力の出力の実現。相対性理論と、移動性や定住性との関連。
追加内容。2025年1月中旬。物理学における発光や発熱の研究についての方向修正の必要性。物質個体における、エネルギーや斥力の行使についての一般的な法則の樹立を、より優先すべきであること。サブクラスとしての光や熱には、研究の視点を置かないこと。それらのスーパークラスに該当する、エネルギーや斥力そのものへと、研究の視点を、新たに集中すべきであること。その際に、生物神経科学との社会的分業が、新たに必要であること。
追加内容。2025年1月下旬。巨大な保存性物質における、そ

の中心部からのエネルギー性の対外放射。保存性物質のエネルギー性物質への転換。
追加内容。2025年2月上旬。引力や保存力は、斥力やエネルギーの源であること。保存性物質や女性は、エネルギー性物質や男性の源であること。保存性物質や女性は、家屋であること。エネルギー性物質や男性は、その借用者であること。そのことが、男女の性差の根源であり、その差を覆すことは、誰にも出来ないこと。
追加内容。2025年3月下旬。磁力と磁石と、エネルギー性物質や保存性物質との関連。プラズマと、エネルギー性物質との関連。
追加内容。2025年5月中旬。保存性物質や生物における、資産肥満者や資産デブの存在。彼らの社会的な有害性を、新たに認識することが必要であること。彼らに対する社会的治療や矯正が必要であること。
追加内容。2025年5月中旬。保存性物質は、世界の中心を指向すること。保存性物質は、世界の中心者になりたがること。保存性物質における、自己中心性。保存性物質における、自己中心化の実現方法。
追加内容。2025年5月下旬。保存性物質の各粒子は、その内部世界の中心を指向すること。そのことが、保存性物質内部を、活火山化させること。そのことが、活火山爆発を引き起こすこと。その結果。保存性物質は、エネルギー性物質の発生の母胎となること。引力性物質は、斥力性物質の発生の母胎となること。ある宇宙世界における最上位の保存性物質は、その宇宙世界の中心に位置する超巨大恒星であること。生物世界における最上位の生物は、結局は、女性であること。
追加内容。2025年6月中旬。宇宙物理学における、互いに専門化され分断された各分野の様々な知見の、新たな統合と総括。そのことによってもたらされる、宇宙物理学が持つ、新たな全貌。その要約。
追加内容。2025年6月中旬。量子力学と質子力学との対比。今後の物理学において、質子力学が新たな主流となるべきこと。宇宙物理学や分子動力学との関連について。
追加内容。2025年6月下旬。熱エネルギーと、運動エネルギーとの関係について。光熱の発生の、保存性やエネルギー性との関連について。光熱の発生の、世界における中心性との関連について。物質の様々な性質の、ビジュアル化の方法について。

追加内容。2025年10月下旬。エネルギー性優位社会は、仮想性優位であり、仮想資産の運用によって動くこと。保存性優位社会は、実体性優位であり、実体資産の貯蓄によって動くこと。定型発達者は、保存性で動き、発達障害者は、エネルギー性で動くこと。生物界において、保存性の生物は、本尊や母屋や飼い主であり、エネルギー性の生物は、脇侍や寄宿者や暴れ馬であること。
私の書籍についての関連情報。

私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。
筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。
参考文献。
私が執筆した全ての書籍。その一覧。
私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。
私の略歴。

私の書籍についての関連情報。

私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。

////
私は、以下の内容を、発見した。
男女の社会行動上の性差。
そのことについての、新たな、基本的で、斬新な、説明。

男女の性差。
それは、以下の内容である。
精子と卵子との、性質の差。
それらの、直接的な、延長であり、反映。

男女の社会行動上の性差。
それらは、以下の内容に、忠実に、基づいている。
精子と卵子との、社会行動上の差。

それは、全ての生物において、共通している。
それは、生物の一種としての人間にも、当てはまる。

男性の心身は、精子の乗り物に過ぎない。
女性の心身は、卵子の乗り物に過ぎない。

子孫の生育に必要な、栄養分と水分。
卵子は、それらの、所有者であり、占有者である。

生殖設備。
女性は、それらの所有者であり、占有者である。

卵子が占有する、栄養分や水分。
精子は、それらの、借用者である。

女性が占有する生殖設備。
男性は、それらの、借用者である。

所有者が上位者であり、借用者が下位者である。

その結果。
栄養分や水分の所有。
それらにおいては、卵子が上位者であり、精子が下位者である。
生殖設備の所有。
それらにおいては、女性が上位者であり、男性が下位者である。

卵子は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、精子を、一方的に選別すること。
そのことで、精子に対して、受精を、一方的に許可すること。
そうした権限。

女性は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、男性を、一方的に選別すること。
そのことで、男性に対して、婚姻を、一方的に許可すること。
そうした権限。

女性は、以下の行為を、行う。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、男性を、様々な側面から、総合的に搾取すること。

卵子は、精子を、性的に誘引する。
女性は、男性を、性的に誘引する。

卵子は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
それ自身の内部への、精子の進入。
そのことについての、許認可。
その権限。

女性は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。

男性に対する、セックスの許認可。
その権限。

彼女自身が所有する生殖設備。
男性による、それらの、借用。
その許認可。
その権限。

男性からの求婚。
それに対する許諾。
その権限。

生物が、有性生殖を行う限り、以下の内容は、確実に存在する。
男女の社会行動上の性差。

男女の社会行動上の性差。
それらは、無くすことは、決して出来ない。

私は、以下の内容を、新たに説明する。
世界には、男性優位の社会だけでなく、女性優位の社会も、同様に、普通に、多数存在すること。

それは、以下の内容である。
女性優位社会の存在の明瞭性。
その、世界社会における、新たな再確認。

男性優位社会は、移動生活様式の社会である。
女性優位社会は、定住生活様式の社会である。

精子。
その乗り物としての、男性の心身。
彼らは、移動生活様式者である。

卵子。
その乗り物としての、女性の心身。
彼らは、定住生活様式者である。

男性優位社会は、例えば、以下のような社会である。
欧米諸国。中東諸国。モンゴル。

女性優位社会は、例えば、以下のような社会である。
中国。ロシア。日本。韓国や北朝鮮。東南アジア。

男性は、行動の自由の確保を最優先する。
男性は、上位者に反抗する。
男性は、下位者を、暴力で強引にねじ伏せて、服従させる。
男性は、以下の内容についての余地は、少しだけ残す。
下位者による反抗。
その可能性。
下位者による自由行動。
その可能性。
それらの余地。

男性優位社会は、暴力による支配を行う。

女性は、自己保身を最優先する。
女性は、上位者に対して、隷従する。

女性は、下位者を、隷従させる。

それは、以下の内容である。
//
最大限の高慢さと尊大さを、用いること。

下位者による反抗や自由行動。
それらの行動の余地を、完全に封殺して、一切不可能にすること。

それは、以下の内容である。
周囲の同調者と、予め、示し合わせて、行われること。
下位者による反抗を、一切、許さないこと。
下位者を、逃げ場の一切無い、密閉空間に監禁すること。
上位者の気が済むまで、粘着的に、行われれること。
下位者を、サンドバッグ代わりにして、一方的に、虐待し続けること。
//

女性優位社会は、専制による支配を行う。

欧米諸国と、ロシアや中国との、対立。

それらは、以下の内容として、十分に説明可能である。
男性優位社会と、女性優位社会との、対立。

移動生活様式は、男性優位社会を、生み出す。
そこでは、女性差別が起きる。
定住生活様式は、女性優位社会を、生み出す。
そこでは、男性差別が起きる。

女性優位社会では、以下の内容が、恒常的に発生する。
上位者としての女性による、以下のような行動。
自己弱者性についての、恣意的な連呼。
男性の強者性についての、恣意的な連呼。
それらは、以下の内容を、故意に隠蔽する。
女性の社会的優位性。
男性差別。
それらは、女性優位社会の存在そのものを、対外的に、隠蔽する。

女性優位社会における、その内部の機密性や閉鎖性や排他性。
その内部情報の非公開性。
それらは、女性優位社会の存在そのものを、対外的に、隠蔽する。

生物や人間の社会において、性差別を無くすこと。
その実現は、不可能である。
そうした試みは、しょせんは、綺麗事の理想の主張に過ぎない。
それらの行為は、全て無駄である。

男女の性差の存在を強引に否定すること。
性差別に反対すること。
欧米主導の、そうした社会運動。
それらは、基本的に、全て無意味である。

男女の性差の存在を前提とする、社会政策。
その展開が、新たに必要である。

////
私は、以下の内容を、発見した。
人間の本質。
それらについての、新たな、基本的で、斬新な、説明。

当方は、以下のような見方を、根本的に転換し、破壊する。

従来の、欧米やユダヤや中東による主導の、移動生活様式の思想。
それらは、人間と、人間以外の生物とを、峻別する。
それらは、以下の内容に基づく。
家畜の恒常的な屠殺。その必要性。
そうした見方。

私の主張は、以下の内容である。

人間の存在は、生物一般の存在へと、完全に包含される。
人間の本質は、以下の方法によって、より効果的に説明できる。
人間を、生物の一種として、眺めること。
人間の本質を、生物一般の本質として、捉えること。

生物の本質。
それは、以下の内容である。
自己の複製。
自己の存続。
自己の増殖。

それらの本質は、生物に対して、以下のような欲求を、生み出す。
私的な生きやすさ。
その、飽くなき追求。
それへの欲求。

その欲求は、生物に対して、以下のような欲求を、生み出す。
有能性の獲得。
既得権益の獲得。
それらへの欲求。

その欲求は、生物に対して、以下の内容を、絶えず生じさせる。
生存における、優位性。
その確認。
その必要性。

そのことは、結果的に、生物の間に、以下の内容を、生み出す。
社会的優劣関係。
社会的上下関係。

そのことは、以下の内容を、必然的に生み出す。
上位者の生物による、下位者の生物に対する、虐待や搾取。

そのことは、生物に対して、原罪を、回避不可能な形で、もたらす。
それは、生物を、生きにくくする。

そうした原罪や生きにくさから逃れること。
その実現。
どんな生物も、その内容は、生きている限り、決して、実現出来ない。
それは、生物の一種である人間においても、同様である。
人間の原罪は、生物であることそのものにより、生じている。

////
私は、以下の内容を、新たに発見した。
従来の生物学において主流である、進化論。
それについて、以下の内容を指摘すること。
その内容面における根本的な誤り。
そのための、新たな説明。

それは、以下のような見方を、根本的に否定する。
人間は、生物の進化の完成形であること。
生物の頂点に、人間が、君臨すること。
そうした見方。

生物は、自己複製を、ひたすら、機械的に、自動的に、繰り返すだけである。
生物は、そうした点において、純粋に物質的な存在である。
生物は、進化への意思を、全く持たない。

生物の自己複製における突然変異。
それらは、純粋に、機械的に、自動的に、起きる。
それは、生物に対して、新たな形態を、自動的にもたらす。

従来の進化論の説明。
そうした新たな形態が、従来の形態よりも、優れていること。
そうした説明は、何も根拠が無い。

現状の、生物の一環としての人間の、形態。
それが、生物による自己複製の繰り返しの過程において、そのまま保たれること。
そうした保証は、一切無い。

生物を取り巻く環境は、常に、予想外の方向へと変化する。
以前の環境において適応的だった形質。
それらは、次の変化した環境においては、往々にして、以下のような形質となる。
その新たな環境に対して、不適応であること。

その結果。
生物の形態は、自己複製と突然変異により、常に変化する。
それは、以下の内容の実現を、全く保証しない。
より望ましい状態への進化。
その持続。

////
私の、上記の主張。
それは、以下の内容である。

世界の上位を独占する、世界一の既得権益者。
そうした、男性優位社会。
欧米諸国。
ユダヤ。

国際秩序。
国際的な価値観。
それらは、彼らを中心として、生成されている。
それらの内容は、彼らが、彼ら自身が有利になるように、一方的に決定した。
それらの背景をなす、彼らの、伝統的な社会思想。
キリスト教。

進化論。
リベラリズム。
民主主義。
彼らにとって、一方的に有利な内容の、様々な社会思想。
それらの内容を、根本的に破壊し、封殺し、初期化すること。

国際秩序。
国際的な価値観。
それらの決定のプロセスにおける、女性優位社会の関与の度合い。
その拡大。
その実現を、更に促進すること。

女性優位社会の内部における、根本的に生きづらい、社会的内実。
それは、上位者への隷従と、下位者への専制支配によって、完全に満たされている。
例。
日本社会の内実。

そうした不都合な社会的内実。
その発生メカニズムを徹底的に解明すること。
その結果の内容を、暴露し、内部告発すること。
そうした内容であること。

////
私の書籍。
それらの内容における、隠れた、重要な目的。
それは、以下の内容である。

女性優位社会の人々。
彼らは、今まで、以下の内容に頼るしか無かった。
男性優位社会の人々が、彼ら自身のために生成した、社会理論。

女性優位社会の人々。
彼らが、彼ら自身の社会を説明する、自前の社会理論。
彼らが、それを、自前で持つことが出来るようにすること。
その実現。

そのことによる、以下の内容の実現。
世界秩序の形成において、現在、優位に立っている、男性優位社

会。
それらの弱体化。
女性優位社会の力の、新たな強化。
私が、それを、手伝うこと。

女性優位社会の人々。
彼らが、自前の社会理論を、いつまで経っても、なかなか持つことが出来ないこと。
その理由。
それらは、以下の内容である。

分析行動そのものを、心の底で、嫌っていること。
対象との一体化や、対象との共感を、対象の分析よりも、優先すること。

彼ら自身の社会が持つ、強い排他性や閉鎖性。
彼ら自身の社会の内実を解明されることに対して、強い抵抗感を持っていること。

彼ら自身の女性的な自己保身性に基づく、強い退嬰性。
未知の危険な領域を探査することを嫌うこと。
安全性が既に確立された、前例踏襲ばかりを優先すること。

前例の無い、女性優位社会の内実の探査。
そうした行動そのものを、嫌うこと。

前例としての、男性優位社会の社会理論。
その内容を、ひたすら暗記学習すること。
それしか、能力的に、出来ないこと。

（2022年3月初出。）

筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。

私の執筆の目的。

生物にとっての生きやすさ。生物にとっての生存可能性。生物にとっての増殖可能性。それを増大させること。
それは、生物にとって、一番、価値があることである。それは、生物にとって、本質的に、善である。それは、生物にとって、本質的に、光明性をもたらす。
社会的上位者にとっての善。それは、以下の内容である。最上位の社会的地位の獲得。覇権の獲得。獲得した既得権益の維持。
社会的下位者にとっての善。それは、以下の内容である。有能性の獲得による、社会的上昇。社会的革命の生成による、社会的上位者の既得権益の、破壊と初期化。
その実現に役立つ思想。真実。生物が、自分自身の真実を知ること。それは、生物にとって、冷酷で厳しく辛辣な内容である。その受容。その助けになる思想。それらを、効率良く生み出す方法。その確立。

私の方法論。
上記の目的。その実現に当たっての手順。その実現に当たっての勘所。その実現に当たっての注意点。それらは、以下の内容である。
ネット検索やネット閲覧によって、環境や生物社会の動向を常に俯瞰し観察し把握すること。それらの行為は、以下の内容の源泉になる。
環境や生物社会の真実や法則の解明において、説明力や説得力のあるアイデア。
あるアイデアによって、真実を８０％説明できそうな見通しが立った場合。そのアイデアの内容を、どんどん書き出して、体系化すること。真実に近そうな、説明力の高そうな思想を、独力で、どんどん生み出すこと。その行為を、最優先すること。
詳細な説明を後回しにすること。難解な説明を避けること。
過去の前例との照合は、後回しにすること。正しさの完全な検証は、後回しにすること。
簡潔で分かりやすく使いやすい法則の確立。その行為を、最優先すること。それは、例えば、以下の行為と同様である。簡潔で分かりやすく使いやすいコンピュータのソフトウェアの開発。

私の執筆における、理想とスタンス。

私の執筆における、理想。
それは、以下の内容である。
//

私が生成する内容の説明力の最大化。
そのためにかける手間や時間の最小化。
//

それらの実現のための方針やスタンス。それらは、下記の内容である。

私の執筆における、スタンス。

私が、文章の作成において、考慮する、根本的な方針。
それらの対比。
それらの主要な項目一覧。
それは、以下の内容である。

上位概念性。 / 下位概念性。
要約性。 / 詳細性。
根幹性。 / 枝葉性。
一般性。 / 個別性。
基本性。 / 応用性。
抽象性。 / 具体性。
純粋性。 / 混合性。
集約性。 / 粗放性。
一貫性。 / 変動性。
普遍性。 / 局所性。
網羅性。 / 例外性。
定式性。 / 非定式性。
簡潔性。 / 複雑性。
論理性。 / 非論理性。
実証可能性。 / 実証不能性。
客観性。 / 非客観性。
新規性。 / 既知性。
破壊性。 / 現状維持性。
効率性。 / 非効率性。
結論性。 / 中途性。
短縮性。 / 冗長性。

全ての文章において、内容面で、以下のような性質を、最初から、最上級の形で、実現すること。

概念上位性。

要約性。
根幹性。
一般性。
基本性。
抽象性。
純粋性。
集約性。
一貫性。
普遍性。
網羅性。
定式性。
簡潔性。
論理性。
実証可能性。
客観性。
新規性。
破壊性。
効率性。
結論性。
短縮性。

その実現を最優先して、文章の内容を、執筆すること。
その内容を、なるべく早く完成させること。
その内容を、書き上げた部分毎に、直ぐに、本文に、マージしていくこと。
それらを、最優先すること。
例。
固有名詞を、使わないこと。
ローカルな、抽象度の低い意味の語句を、使わないこと。

先進的なコンピュータプログラミング技術を、文章作成の方法へと、積極的に、応用すること。

例。
オブジェクト思考に基づく、文章作成の技術。
クラスとインスタンスの概念の、文章作成への応用。
上位クラスの内容の優先的な記述。

例。

アジャイル開発の方法の、文章作成への応用。
頻繁に、以下の行動を、繰り返すこと。
電子書籍の内容の、バージョンアップ。
その電子書籍ファイルの、公開サーバーへのアップロード。

私は、従来の学術論文の作成方法とは異なる方法を、採用している。
従来の学術論文の作成方法は、説明力のある内容の導出において、非効率である。

書籍の執筆における、私の視点。
それは、以下の内容である。

統合失調症の患者からの視点。
社会における、最下位者からの視点。
社会における扱いが、一番、劣悪な者からの視点。
社会から、拒絶され、差別され、迫害され、追放され、隔離された者からの視点。
社会不適応者からの視点。
社会で生きることを諦めた者からの視点。
一番、社会的ランクが下位の病気に罹患した患者からの視点。
社会における、一番の有害者からの視点。
社会における、一番の嫌われ者からの視点。
社会に対して、生涯、心を閉ざした者からの視点。
生物や人間に対して、根本的にがっかりした者からの視点。
生物や人間に対して、絶望した者からの視点。
人生を諦めた者からの視点。
罹患した病気のせいで、彼自身の遺伝的子孫を残すことを、社会的に拒絶された者からの視点。
罹患した病気のせいで、極めて短命に終わること。そのことを、運命付けられた者からの視点。
罹患した病気のせいで、生きやすさや救いを、生涯、得られないこと。そのことが、予め確定している者からの視点。
罹患した病気のせいで、有能性を、生涯、得られないこと。そのことが、予め確定している者からの視点。
罹患した病気のせいで、生涯にわたって、社会から、虐待や搾取を受け続けること。そのことが、予め確定している者からの視点。
そうした者による、生物社会や人間社会に対する内部告発の視点。

私の人生目標。
それは、以下の内容である。
男女の性差。
人間社会や生物社会。
生物そのもの。
それらの本質を、自力で、分析し、解明すること。

そうした、私の人生目標は、以下のような人々によって、大きく妨害された。

男性優位社会の人々。例。欧米諸国。
そうした、男性優位社会によって支配されている、女性優位社会の人々。例。日本と韓国。
彼らは、女性優位社会の存在を、決して認めない。
彼らは、男女の本質的な性差を、決して認めない。
彼らは、男女の性差についての研究そのものを、社会的に、妨害し、禁止している。
そうした、彼らの態度は、男女の性差の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

人間と、人間以外の生物との、本質的な共通性。
彼らは、それを、決して認めない。
彼らは、人間と、人間以外の生物とを、必死で、区別し、差別しようとする。
彼らは、人間の、人間以外の生物に対する優位性を、必死で、主張しようとする。

そうした、彼らの態度は、人間社会や生物社会の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

女性優位社会の女性たち。例。日本社会の女性たち。
彼らは、女性優位社会における女性の優位性を、表向きは、決して認めない。
女性専用社会や、女性優位社会における、それらの社会の内部の真実。
彼らは、その公開を、決して認めない。
そうした、彼らの態度は、男女の性差の本質の解明にとって、本質

的に、邪魔であり、有害である。
そうした、彼らの態度は、人間社会や生物社会の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

上記のような人々。
そうした、彼らの態度は、私の人生目標を、根本的に、妨害した。
そうした、彼らの態度は、私の人生を、その土台から、狂わせ、破壊し、台無しにした。
私は、それらの結果について、とても怒っている。
私は、彼らに対して、鉄槌を下したい。
私は、彼らに対して、以下の内容を、何としてでも、理解させたい。
私は、以下の内容を、何としてでも、自力で解明したい。
//
男女の性差における、真実。
人間社会や生物社会における、真実。
//

私は、人間社会を、冷静に、客観的に、分析したかった。
そこで、私は、人間社会から、一時的に、私自身を、隔離した。
私は、人間社会の俯瞰者となった。
私は、人間社会の動向を、ネット経由で、毎日、ひたすら、観察し続けた。

その結果。
私は、以下の内容を、手に入れた。
人間社会の全体を、最下位から俯瞰する、独自の視点。

その結果。
私は、以下の内容を、自力で、何とか、掴んだ。
//
男女の性差の本質。
人間社会や生物社会の本質。
//

その結果。
私は、新たな人生目標を、手に入れた。

私の、新たな人生目標。

彼らの社会的妨害に対して、対抗し、挑戦すること。
そして、以下の内容を、人々の間に広く知らせること。
//
私が自力で掴んだ、男女の性差の真実。
私が自力で掴んだ、人間社会や生物社会の真実。
//

私は、そうした目標の実現のために、これらの書籍を作成している。
私は、そうした目標の実現のために、これらの書籍の内容を、
日々、熱心に、改訂し続けている。

（2022年2月初出。）

参考文献。

＝＝ 男女の性差。
/ 総説。

Bakan, D. The duality of human existence . Chicago: Rand-McNally. 1966.
Crandall, V. J., & Robson, S. (1960). Children's repetition choices in an intellectual achievement situation following success and failure. Journal of Genetic Psychology, 1960, 97, 161-168.(間宮1979 p178参照)
Deaux,K.: The Behavior of Women and Men, Monterey, California: Brooks/Cole, 1976
Goldstein, MJ (1959). The relationship between coping and avoiding behavior and response to fear-arousing propaganda. Journal of Abnormal and Social Psychology, 1959, 58, 247-252.(対処的・回避的行動と恐怖を誘発する宣伝に対する反応との関係)
影山裕子 : 女性の能力開発, 日本経営出版会, 1968
間宮武 : 性差心理学, 金子書房, 1979
皆本二三江 : 絵が語る男女の性差, 東京書籍, 1986
村中 兼松 (著), 性度心理学—男らしさ・女らしさの心理 (1974年) ,

帝国地方行政学会, 1974/1/1
Mitchell,G. : Human Sex Differences - A Primatologist's Perspective, Van Nostrand Reinhold Company, 1981 (鎮目恭夫訳 : 男と女の性差 サルと人間の比較, 紀伊国屋書店, 1983)
Newcomb,T.M.,Turner,R.H.,Converse,P.E. : Social Psycholgy:The Study of Human Interaction, New York: Holt,Rinehart and Winston, 1965 (古畑和孝訳 : 社会心理学 人間の相互作用の研究,岩波書店,1973)
Sarason, I.G., Harmatz, M.G., Sex differences and experimental conditions in serial learning. Journal of Personality and Social Psychology., 1965, 1: 521-4.
Schwarz, O, 1949 The psychology of sex / by Oswald Schwarz Penguin, Harmondsworth, Middlesex.
Trudgill,P.:Sociolinguistics: An Introduction, Penguin Books, 1974(土田滋訳 : 言語と社会, 岩波書店, 1975)
Wallach M. A., & Caron A. J. (1959). "Attribute criteriality and sex-linked conservatism as determinants of psychological similarity. Journal of Abnormal and Social Psychology, 59, 43-50(心理的類似性の決定因としての帰属的規準性と性別関連の保守性)
Wright,F.: The effects of style and sex of consultants and sex of members in self-study groups, Small Group Behavior, 1976, 7, p433-456

東清和、小倉千加子(編) , ジェンダーの心理学, 早稲田大学出版部, 2000
宗方比佐子、佐野幸子、金井篤子(編), 女性が学ぶ社会心理学, 福村出版, 1996
諸井克英、中村雅彦、和田実, 親しさが伝わるコミュニケーション, 金子書房, 1999
D.Kimura, Sex And Cognition, MIT Press,Cambridge,Massachusetts, 1999. (野島久雄、三宅真季子、鈴木眞理子訳 (2001) 女の能力、男の能力 - 性差について科学者が答える - 新曜社)

E.Margolies,L.VGenevie, The Samson And Delilah Complex,Dodd,Mead &Company, Inc.,1986(近藤裕訳 サムソン = デリラ・コンプレックス - 夫婦関係の心理学 - ,社会思想社,1987)

/ 各論。

// 男性単独。

E.モンテール (著), 岳野 慶作 (翻訳), 男性の心理—若い女性のために (心理学叢書) , 中央出版社, 1961/1/1
// 女性単独。
扇田 夏実 (著), 負け犬エンジニアのつぶやき~女性SE奮戦記, 技術評論社, 2004/7/6

// 男女間比較。

/// 1.能力における性差

//// 1.1 空間能力における性差

Collins,D.W. & Kimura,D.(1997) A large sex difference on a two-dimensional mental rotation task. Behavioral Neuroscience,111,845-849
Eals,M. & Silverman,I.(1994)The hunter-gatherer theory of spatial sex differences: proximate factors mediating the female advantage in recall of object arrays. Ethology & Sociobiology,15,95-105.
Galea,L.A.M. & Kimura,D.(1993) Sex differences in route learning. Personality & Individual Differences,14,53-65
Linn,M.C.,Petersen,A.C.(1985) Emergence and Characterization of Sex Differences in Spatial Ability : A Meta-Analysis. Child Development, 56, No.4, 1479-1498.
McBurney,D.H., Gaulin, S.J.C., Devineni,T. & Adams,C.(1997) Superior spatial memory of women: stronger evidence for the gathering hypothesis. Evolution & Human Behavior,18,165-174
Vandenberg,S.G. & Kuse,A.R.(1978) Mental rotations, a group test of three-dimensional spatial visualization. Perceptual & Motor Skills, 47,599-601
Watson,N.V. & Kimura,D.(1991)Nontrivial sex differences in throwing and intercepting: relation to psychometrically-defined spatial functions. Personality & Individual Differences,12,375-385

//// 1.2 数学的能力における性差

Bembow,C.P., Stanley,J.C.(1982) Consequences in high school and college of sex differences in mathematical reasoning ability : A Longtitudinal perspective. Am. Educ. Res. J. 19,598-622.
Engelhard,G.(1990) Gender differences in performance on mathematics items: evidence from USA and Thailand.

Contemporary Educational Psychology,15,13-16
Hyde,J.S.,Fennema,E. & Lamon,S.J.(1990) Gender differences in mathematics performance: a meta-analysis. Psychological Bulletin,107,139-155.
Hyde,J.S.(1996) Half the human experience : The Psychology of woman. 5th ed., Lexington, Mass.: D.C.Heath.
Jensen,A.R.(1988)Sex differences in arithmetic computation and reasoning in prepubertal boys and girls. Behavioral & Brain Sciences,11,198-199
Low,R. & Over,R.(1993)Gender differences in solution of algebraic word problems containing irrelevant information. Journal of Educational Psychology,85,331-339.
Stanley,J.C., Keating,D.P., Fox,L.H. (eds.)(1974) Mathematical talent: Discovery, description, and development. Johns Hopkins University Press, Baltimore.

//// 1.3 言語能力における性差

Bleecker,M.L.,Bolla-Wilson,K. & Meyers,D.A.,(1988)Age related sex differences in verbal memory. Journal of Clinical Psychology,44,403-411.
Bromley(1958) Some effects of age on short term learning and remembering. Journal of Gerontology,13,398-406.
Duggan,L.(1950)An experiment on immediate recall in secondary school children. British Journal of Psychology,40,149-154.
Harshman,R., Hampson,E. & Berenbaum,S.(1983) Individual differences in cognitive abilities and brain organization,Part I: sex and handedness differences in ability. Canadian Journal of Psychology,37,144-192.
Hyde,J.S. & Linn,M.C.(1988) Gender differences in verbal ablility:A Meta-analysis. Psychological Bulletin, 104, No.1,53-69.
Kimura,D.(1994)Body asymmetry and intellectual pattern. Personality & Individual Differences,17,53-60.
Kramer,J.H.,Delis,D.C. & Daniel,M.(1988) Sex differences in verbal learning. Journal of Clinical Psychology,44,907-915.
McGuinness,D.,Olson,A. & Chapman,J.(1990)Sex differences in incidental recall for words and pictures. Learning & Individual Differences,2,263-285.

//// 1.4 運動能力における性差

Denckla,M.B.(1974)Development of motor co-ordination in normal children. Developmental Medicine & Child Neurology,16,729-741.
Ingram,D.(1975)Motor asymmetries in young children. Neuropsychologia,13,95-102
Nicholson,K.G. & Kimura.D.(1996) Sex differences for speech and manual skill.Perceptual & Motor Skills,82,3-13.
Kimura,D. & Vanderwolf,C.H. (1970) The relation between hand preference and the performance of individual finger movements by left and right hands. Brain,93,769-774
Lomas,J. & Kimura, D.(1976) Intrahemispheric interaction between speaking and sequential manual activity. Neuropsychologia,14,23-33.
Watson,N.V. & Kimura,D.(1991)Nontrivial sex differences in throwing and intercepting: relation to psychometrically-defined spatial functions. Personality & Individual Differences,12,375-385

//// 1.5 知覚能力における性差

Burg,A.(1966)Visual acuity as measured by dynamic and static tests. Journal of Applied Psychology,50,460-466.
Burg,A.(1968)Lateral visual field as related to age and sex. Journal of Applied Psychology,52,10-15.
Denckla,M.B. & Rudel,R.(1974) Rapid "automatized"naming of pictured objects,colors,letters and numbers by normal children. Cortex,10,186-202.
Dewar,R.(1967)Sex differences in the magnitude and practice decrement of th Muller-Lyer illusion. Psychonomic Science,9,345-346.
DuBois,P.H.(1939)The sex difference on the color naming test. American Journal of Psychology,52,380-382.
Ghent-Braine,L.(1961)Developmental changes in tactual thresholds on dominant and nondominant sides. Journal of Comparative & Physiological Psychology,54,670-673.
Ginsburg,N.,Jurenovskis,M. & Jamieson,J.(1982) Sex differences in critical flicker frequency. Perceptual & Motor Skills,54,1079-1082.
Hall,J.(1984)Nonverbal sex differences. Baltimore:Johns Hopkins.
McGuinness, D.(1972)Hearing: individual differences in perceiving. Perception,1,465-473.
Ligon,E.M.(1932)A genetic study of color naming and word reading.

American Journal of Psychology,44,103-122.
Velle,W.(1987)Sex differences in sensory functions. Perspectives in Biology & Medicine,30,490-522.
Weinstein,S. & Sersen, E.A.(1961)Tactual sensitivity as a function of handedness and laterality. Journal of Comparative & Physiological Psychology,54,665-669.
Witkin,H.A.(1967)A cognitive style approach to cross-cultural research. International Journal of Psychology,2,233-250.

/// 2.パーソナリティの性差

Maccoby, E.E. & Jacklin, C.N.(1974) The Psychology of sex differences. Stanford,CA:Stanford University Press.

/// 3.社会的行動の性差

Brehm,J.W.(1966)A theory of psychological reactance. Academic Press.
Cacioppo,J.T. & Petty,R.E.(1980) Sex differences in influenceability:Toward specifying the underlying processes. Personality and Social Psychology Bulletin,6,651-656
Caldwell,M.A., & Peplau,L.A.(1982) Sex Differences in same-sex friendships. Sex Roles,8,721-732.
Chesler,M.A. & Barbarin,O.A.(1985) Difficulties iof providing help in crisis: Relationships between parents of children with cancer and their friends. Journal of Social Issues,40,113-134.
大坊郁夫(1988)異性間の関係崩壊についての認知的研究,日本社会心理学会第29回発表論文集,64.
Eagly,A.H.(1978) Sex differences in influenceability.Psychological Bulletin,85,86-116.
Eagly,A.H. & Carli,L.L.(1981) Sex of researchers and sex-typed communications as determinants of sex differences in influenceability:A meta-analysis of social influence studies. Psychological Bulletin,90,1-20.
Eagly,A.H. & Johnson,B.T.(1990) Gender and leadership style: A meta-analysis. Psychological Bulletin,108,233-256.
Hall,J.A.(1984) Nonverbal sex differences:Communication accuracy and expressive style. Baltimore:John Hopkins University Press.
Hays,R.B.(1984) The development and maintenance of friendship. Journal of Personal and Social Relationships,1,75-98.

Horner,M.S.(1968)Sex differences in achievement motivation and performance in competitive and non-competitive situation. Unpublished Ph.D. thesis. University of Michigan.
Jourard,S.M.(1971) Self-disclosure:An experimental analysis of the transparent self. New York:Wiley & Sons, Inc.
Jourard,S.M & Lasakow,P.(1958) Some factors in self-disclosure. Journal of Abnormal and Social Psychology, 56, 91-98.
Latane',B. & Bidwell,L.D.(1977) Sex and affiliation in college cafeteria.Personality and Social Psychology Bulletin,3,571-574
松井豊(1990)青年の恋愛行動の構造,心理学評論,33,355-370.
Nemeth,C.J. Endicott,J. & Wachtler,J.(1976) From the '50s to the '70s:Women in jury deliberations,Sociometry,39,293-304.
Rands,M. & Levinger, G. (1979)Implicit theory of relationship: An intergenerational study. Journal of Personality and Social Psychology,37,645-661.
坂田桐子、黒川正流(1993) 地方自治体における職場のリーダーシップ機能の性差の研究-「上司の性別と部下の性別の組合せ」からの分析,産業・組織心理学研究,7,15-23.
総務庁青少年対策本部(1991) 現代の青少年 - 第 5 回青少年の連帯感などに関する調査報告書,大蔵省印刷局.
上野徳美(1994) 説得的コミュニケーションに対する被影響性の性差に関する研究,実験社会心理学研究,34,195-201
Winstead,B.A.(1986) Sex differences in same-sex friendships. In V.J.Derlega & B.A.Winstead(Eds.) Friendship and social interaction. New York:Springer-Verlag.Pp.81-99
Winstead,B.A., Derlega,V.J., Rose,S. (1997) Gender and Close Relationships. Thousand Oaks, California:Sage Publications.
山本真理子、松井豊、山成由紀子(1982) 認知された自己の諸側面の構造,教育心理学研究,30,64-68

＝＝ 世界の社会の分類。男女間における、優位性の比較。
/ 一般。

富永 健一 (著), 社会学原理, 岩波書店, 1986/12/18
岩井 弘融 (著), 社会学原論, 弘文堂, 1988/3/1

笠信太郎, ものの見方について, 1950, 河出書房
伊東俊太郎 (著) , 比較文明 UP選書 , 東京大学出版会, 1985/9/1

/ 気候。
和辻 哲郎 (著), 風土: 人間学的考察, 岩波書店, 1935
鈴木秀夫, 森林の思考・砂漠の思考, 1978, 日本放送出版協会
石田英一郎, 桃太郎の母 比較民族学的論集 , 法政大学出版局 , 1956
石田英一郎, 東西抄 - 日本・西洋・人間, 1967, 筑摩書房
松本 滋 (著), 父性的宗教 母性的宗教 (UP選書) , 東京大学出版会, 1987/1/1
ハンチントン (著), 間崎 万里 (翻訳), 気候と文明 (1938年) (岩波文庫) , 岩波書店, 1938
安田 喜憲 (著), 大地母神の時代―ヨーロッパからの発想 (角川選書) , 角川書店, 1991/3/1
安田 喜憲 (著), 気候が文明を変える (岩波科学ライブラリー (7)) , 岩波書店, 1993/12/20

鈴木 秀夫 (著), 超越者と風土 , 原書房, 2004/1/1
鈴木 秀夫 (著), 森林の思考・砂漠の思考 (NHKブックス 312) , NHK出版1978/3/1
鈴木 秀夫 (著), 風土の構造, 原書房, 2004/12/1
梅棹 忠夫 (著), 文明の生態史観, 中央公論社, 1967

ラルフ・リントン (著), 清水 幾太郎 (翻訳), 犬養 康彦 (翻訳), 文化人類学入門 (現代社会科学叢書), 東京創元社, 1952/6/1
祖父江孝男『文化とパーソナリティ』弘文堂，1976
F.L.K.シュー (著), 作田 啓一 (翻訳), 浜口 恵俊 (翻訳), 比較文明社会論―クラン・カスト・クラブ・家元 (1971年), 培風館，1970 .

J□J□バハオーフェン (著), 吉原 達也 (翻訳), 母権論序説 付・自叙伝, 創樹社, 1989/10/20

阿部 一, 家族システムの風土性, 東洋学園大学紀要 (19), 91-108, 2011-03

/ 移動性。
大築立志, 手の日本人、足の西欧人, 1989, 徳間書店
前村 奈央佳, 移動と定住に関する心理的特性の検討 : 異文化志向と定住志向の測定および関連性について, 関西学院大学先端社会研究所紀要, 6号 pp.109-124, 2011-10-31
浅川滋男, 東アジア漂海民と家船居住, 鳥取環境大学, 紀要, 創刊号, 2003.2 pp41-60

/ 食糧の確保の手段。
千葉徳爾, 農耕社会と牧畜社会, 山田英世 (編), 風土論序説 (比較思想・文化叢書) , 国書刊行会, 1978/3/1
大野 盛雄 (著), アフガニスタンの農村から—比較文化の視点と方法 (1971年) (岩波新書) , 岩波書店, 1971/9/20
梅棹 忠夫 (著), 狩猟と遊牧の世界—自然社会の進化, 講談社, 1976/6/1
志村博康 (著), 農業水利と国土, 東京大学出版会, 1987/11/1

/ 心理。
Triandis H.C., Individualism & Collectivism, Westview Press, 1995, （H.C. トリアンディス (著), Harry C. Triandis (原著), 神山 貴弥 (翻訳), 藤原 武弘 (翻訳), 個人主義と集団主義—2つのレンズを通して読み解く文化, 北大路書房, 2002/3/1 ）
Yamaguchi, S., Kuhlman, D. M., & Sugimori, S. (1995). Personality correlates of allocentric tendencies in individualist and collectivist cultures. Journal of Cross-Cultural Psychology, 26, 658-672
Markus H.R.,Kitayama,S., Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. Psychological Review, 98, pp224-253 1991

千々岩 英彰 (編集), 図解世界の色彩感情事典—世界初の色彩認知の調査と分析, 河出書房新社, 1999/1/1

＝＝ 男性優位社会。移動生活様式。遊牧と牧畜。気体。

/ 欧米諸国。全般。
星 翔一郎 (著), 国際文化教育センター (編集), 外資系企業 就職サクセスブック, ジャパンタイムズ, 1986/9/1

/ 西欧。
// 単独社会。
// 社会間比較。
西尾幹二, ヨーロッパの個人主義, 1969, 講談社
会田 雄次 (著), 『アーロン収容所：西欧ヒューマニズムの限界』中公新書, 中央公論社 1962年
池田 潔 (著), 自由と規律: イギリスの学校生活 (岩波新書) , 岩波書

店, 1949/11/5

鯖田 豊之 (著), 肉食の思想―ヨーロッパ精神の再発見 (中公新書 92) , 中央公論社, 1966/1/1
八幡 和郎 (著), フランス式エリート育成法―ENA留学記 (中公新書 (725)) , 中央公論社, 1984/4/1
木村 治美 (著), 新交際考―日本とイギリス, 文藝春秋, 1979/11/1
森嶋 通夫 (著), イギリスと日本―その教育と経済 (岩波新書 黄版 29) , 岩波書店, 2003/1/21
/ アメリカ。
// 単独社会。
松浦秀明, 米国さらりーまん事情, 1981, 東洋経済新報社
Stewart, E.C., American Cultural Patterns A Cross-Cultural Perspectives, 1972, Inter-cultural Press (久米昭元訳, アメリカ人の思考法, 1982, 創元社)
吉原 真里 (著), Mari Yoshihara (著), アメリカの大学院で成功する方法―留学準備から就職まで (中公新書), 中央公論新社, 2004/1/1
リチャード・H. ロービア (著), Richard H. Rovere (原著), 宮地 健次郎 (翻訳), マッカーシズム (岩波文庫) , 岩波書店, 1984/1/17
G.キングスレイ ウォード (著), 城山 三郎 (翻訳), ビジネスマンの父より息子への30通の手紙, 新潮社, 1987/1/1
長沼英世, ニューヨークの憂鬱ー豊かさと快適さの裏側, 中央公論社, 1985
八木 宏典 (著), カリフォルニアの米産業, 東京大学出版会, 1992/7/1
// 社会間比較。
/ ユダヤ。
// 単独社会。
旧約聖書。
新約聖書。
中川 洋一郎, キリスト教・三位一体論の遊牧民的起源―イヌの《仲介者》化によるセム系一神教からの決別―, 経済学論纂 (中央大学) 第60巻第 5 ・ 6 合併号 (2020年 3 月) ,pp.431-461
トマス・ア・ケンピス (著), 大沢 章 (翻訳), 呉 茂一 (翻訳), キリストにならいて (岩波文庫) , 岩波書店, 1960/5/25
// 社会間比較。
/ 中東。
// 単独社会。
クルアーン。コーラン。
鷹木 恵子 U.A.E.地元アラブ人の日常生活にみる文化変化：ドバイで

の文化人類学的調査から http://id.nii.ac.jp/1509/00000892/Syouwa63nenn
// 社会間比較。
後藤 明 (著), メッカ—イスラームの都市社会 (中公新書 1012) , 中央公論新社, 1991/3/1
片倉もとこ『「移動文化考」 イスラームの世界をたずねて 』日本経済新聞社、1995年
片倉もとこ『イスラームの日常世界』岩波新書，1991．
牧野 信也 (著), アラブ的思考様式, 講談社, 1979/6/1
井筒 俊彦 (著), イスラーム文化－その根柢にあるもの , 岩波書店, 1981/12/1
/ モンゴル。
// 単独社会。
鯉渕 信一 (著), 騎馬民族の心—モンゴルの草原から (NHKブックス) , 日本放送出版協会, 1992/3/1
// 社会間比較。

＝＝ 女性優位社会。定住生活様式。農耕。液体。
/ 東アジア。
山口 勧 (編集), 社会心理学—アジア的視点から (放送大学教材) , 放送大学教育振興会, 1998/3/1
山口 勧 (編集), 社会心理学—アジアからのアプローチ, 東京大学出版会, 2003/5/31
石井 知章 (著), K□A□ウィットフォーゲルの東洋的社会論, 社会評論社, 2008/4/1
/ 日本。
// 単独社会。

/// 文献調査。
南博, 日本人論 - 明治から今日まで , 岩波書店, 1994
青木保,「日本文化論」の変容-戦後日本の文化とアイデンティティー-, 中央公論社, 1990

/// 社会全般。
//// 著者が、日本人の場合。
浜口恵俊 「日本らしさ」の再発見 日本経済新聞社 1977
阿部 謹也 (著),「世間」とは何か (講談社現代新書) , 講談社, 1995/7/20
川島武宣, 日本社会の家族的構成, 1948, 学生書房

中根千枝, タテ社会の人間関係, 講談社, 1967
木村敏, 人と人との間, 弘文堂, 1972
山本七平 (著), 「空気」の研究, 文藝春秋, 1981/1/1
会田 雄次 (著), 日本人の意識構造 (講談社現代新書) , 講談社, 1972/10/25
石田英一郎, 日本文化論 筑摩書房 1969
荒木博之, 日本人の行動様式 -他律と集団の論理- , 講談社, 1973

吉井博明 情報化と現代社会[改訂版] 1997 北樹出版

//// 著者が、日本人以外の場合。
///// 欧米諸国からの視点。
Benedict,R., The Chrysanthemum and the Sword : Patterns of Japanese Culture, Boston Houghton Mifflin, 1948 (長谷川松治訳, 菊と刀 - 日本文化の型, 社会思想社, 1948)
Caudill,W., Weinstein,H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America, Psychiatry,32 1969
Clark,G.The Japanese Tribe:Origins of a Nation's Uniqueness, 1977(村松増美訳 日本人 - ユニークさの源泉 - , サイマル出版会 1977)
Ederer,G., Das Leise Laecheln Des Siegers, 1991, ECON Verlag(増田靖訳 勝者・日本の不思議な笑い, 1992 ダイヤモンド社)
Kenrick,D.M., Where Communism Works: The Success of Competitive-Communism In Japan,1988,Charles E. Tuttle Co., Inc., (ダグラス・M. ケンリック (著), 飯倉 健次 (翻訳), なぜ“共産主義”が日本で成功したのか, 講談社, 1991/11/1)
Reischauer,E.O., The Japanese Today: Change and Continuity,1988, Charles E. Tuttle Co. Inc.
W.A.グロータース (著), 柴田 武 (翻訳), 私は日本人になりたい—知りつくして愛した日本文化のオモテとウラ (グリーン・ブックス 56) , 大和出版, 1984/10/1

///// 東アジアからの視点。
李 御寧 (著), 「縮み」志向の日本人, 学生社, 1984/11/1

/// 心理。
安田三郎「閥について——日本社会論ノート（３）」（『現代社会

学3』2巻1号所収・1975・講談社)
木村敏, 人と人との間 - 精神病理学的日本論, 1972, 弘文堂
丸山真男, 日本の思想, 1961, 岩波書店
統計数理研究所国民性調査委員会 (編集), 日本人の国民性〈第5〉戦後昭和期総集, 出光書店, 1992/4/1

/// コミュニケーション。
芳賀綏, 日本人の表現心理, 中央公論社, 1979

/// 歴史。
R.N.ベラー (著), 池田 昭 (翻訳), 徳川時代の宗教 (岩波文庫), 岩波書店, 1996/8/20
勝俣 鎮夫 (著), 一揆 (岩波新書) , 岩波書店, 1982/6/21
永原 慶二 (著), 日本の歴史〈10〉下克上の時代, 中央公論社, 1965年
戸部 良一 (著), 寺本 義也 (著), 鎌田 伸一 (著), 杉之尾 孝生 (著), 村井 友秀 (著), 野中 郁次郎 (著), 失敗の本質—日本軍の組織論的研究, ダイヤモンド社, 1984/5/1

/// 民俗。
宮本 常一 (著), 忘れられた日本人 (岩波文庫) , 岩波書店, 1984/5/16

/// 食糧の確保。
大内力 (著), 金沢夏樹 (著), 福武直 (著) , 日本の農業 UP選書, 東京大学出版会, 1970/3/1

/// 地域。
//// 村落。
中田 実 (編集), 坂井 達朗 (編集), 高橋 明善 (編集), 岩崎 信彦 (編集), 農村 (リーディングス日本の社会学) , 東京大学出版会, 1986/5/1
蓮見 音彦 (著), 苦悩する農村—国の政策と農村社会の変容, 有信堂高文社, 1990/7/1
福武直 (著) , 日本農村の社会問題 UP選書, 東京大学出版会, 1969/5/1
余田 博通 (編集), 松原 治郎 (編集), 農村社会学 (1968年) (社会学選

書) , 川島書店, 1968/1/1
今井幸彦 編著, 日本の過疎地帯 (1968年) (岩波新書), 岩波書店, 1968-05

きだみのる (著), 気違い部落周游紀行 (冨山房百科文庫 31), 冨山房, 1981/1/30
きだ みのる (著), にっぽん部落 (1967年) (1967年) (岩波新書)

//// 都市。
鈴木広 高橋勇悦 篠原隆弘 編, リーディングス日本の社会学 7 都市, 東京大学出版会, 1985/11/1
倉沢 進 (著), 秋元 律郎 (著), 町内会と地域集団 (都市社会学研究叢書) , ミネルヴァ書房, 1990/9/1
佐藤 文明 (著), あなたの「町内会」総点検 [三訂増補版] —地域のトラブル対処法 (プロブレムQ&A), 緑風出版, 2010/12/1

//// エリア毎の特色。
京都新聞社 (編さん), 京男・京おんな, 京都新聞社, 1984/1/1
丹波 元 (著), こんなに違う京都人と大阪人と神戸人 (PHP文庫) , PHP研究所, 2003/3/1
サンライズ出版編集部 (編集), 近江商人に学ぶ, サンライズ出版, 2003/8/20

/// 血縁関係。
有賀 喜左衛門 (著), 日本の家族 (1965年) (日本歴史新書) , 至文堂, 1965/1/1
光吉 利之 (編集), 正岡 寛司 (編集), 松本 通晴 (編集), 伝統家族 (リーディングス 日本の社会学) , 東京大学出版会, 1986/8/1

/// 政治。
石田雄, 日本の政治文化 - 同調と競争, 1970, 東京大学出版会
京極純一, 日本の政治, 1983, 東京大学出版会

/// ルール。法律。
青柳文雄, 日本人の罪と罰, 1980, 第一法規出版
川島武宣, 日本人の法意識 (岩波新書 青版A-43) , 岩波書店, 1967/5/20

/// 行政。

辻清明 新版 日本官僚制の研究 東京大学出版会 1969
藤原 弘達 (著), 官僚の構造 (1974年) (講談社現代新書) , 講談社, 1974/1/1
井出嘉憲 (著), 日本官僚制と行政文化―日本行政国家論序説, 東京大学出版会, 1982/4/1
竹内 直一 (著), 日本の官僚―エリート集団の生態 (現代教養文庫) , 社会思想社, 1988/12/1
教育社 (編集), 官僚―便覧 (1980年) (教育社新書―行政機構シリーズ〈122〉), 教育社, 1980/3/1
加藤栄一, 日本人の行政―ウチのルール (自治選書), 第一法規出版, 1980/11/1
新藤 宗幸 (著), 技術官僚―その権力と病理 (岩波新書), 岩波書店, 2002/3/20
新藤 宗幸 (著), 行政指導―官庁と業界のあいだ (岩波新書) , 岩波書店, 1992/3/19

武藤 博己 (著), 入札改革―談合社会を変える (岩波新書) , 岩波書店, 2003/12/19

宮本政於, お役所の掟, 1993, 講談社

/// 経営。

間宏,日本的経営 - 集団主義の功罪,日本経済新聞社,1973
岩田龍子, 日本の経営組織, 1985, 講談社
高城 幸司 (著), 「課長」から始める 社内政治の教科書, ダイヤモンド社, 2014/10/31

/// 教育。

大槻 義彦 (著), 大学院のすすめ―進学を希望する人のための研究生活マニュアル, 東洋経済新報社, 2004/2/13
山岡栄市 (著), 人脈社会学―戦後日本社会学史 (御茶の水選書) , 御茶の水書房, 1983/7/1

/// スポーツ。

Whiting, R., The Chrysanthemum and the Bat 1977 Harper Mass Market Paperbacks (松井みどり訳, 菊とバット 1991 文藝春秋)

/// 性差。
//// 母性。母親。
Caudill,W., Weinstein, H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America Psychiatry,32 1969

河合隼雄, 母性社会日本の病理, 中央公論社 1976
佐々木 孝次 (著), 母親と日本人, 文藝春秋, 1985/1/1
小此木 啓吾 (著), 日本人の阿闍世コンプレックス, 中央公論社, 1982
斎藤学, 『「家族」という名の孤独』講談社 1995
山村賢明, 日本人と母—文化としての母の観念についての研究, 東洋館出版社, 1971/1/1
土居健郎, 「甘え」の構造, 1971, 弘文堂

山下 悦子 (著), 高群逸枝論—「母」のアルケオロジー, 河出書房新社, 1988/3/1
山下 悦子 (著), マザコン文学論—呪縛としての「母」(ノマド叢書), 新曜社, 1991/10/1

中国新聞文化部 (編集), ダメ母に苦しめられて (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1999/1/1

加藤秀俊, 辛口教育論 第四回 衣食住をなくした家, 食農教育 200109, 農山漁村文化協会

//// 女性。
木下 律子 (著), 妻たちの企業戦争 (現代教養文庫) , 社会思想社, 1988/12/1
木下律子 (著), 王国の妻たち—企業城下町にて, 径書房, 1983/8/1
中国新聞文化部 (編集), 妻の王国—家庭内“校則”に縛られる夫たち (女のココロとカラダシリーズ), ネスコ, 1997/11/1

//// 男性。
中国新聞文化部 (編集), 長男物語—イエ、ハハ、ヨメに縛られて (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1998/7/1
中国新聞文化部 (編集), 男が語る離婚—破局のあとさき (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1998/3/1

// 社会間比較。

/// 欧米諸国との比較。
山岸俊男, 信頼の構造, 1998, 東京大学出版会
松山幸雄「勉縮」のすすめ, 朝日新聞社, 1978
木村尚三郎, ヨーロッパとの対話, 1974, 日本経済新聞社
栗本 一男 (著), 国際化時代と日本人—異なるシステムへの対応 (NHKブックス 476) , 日本放送出版協会, 1985/3/1
/// 社会の特殊性。その有無についての検討。
高野陽太郎、纓坂英子, " 日本人の集団主義" と" アメリカ人の個人主義" -通説の再検討-心理学研究vol.68 No.4,pp312-327,1997
杉本良夫、ロス・マオア, 日本人は「日本的」か - 特殊論を超え多元的分析へ - , 1982, 東洋経済新報社
/// 血縁関係。
増田光吉, アメリカの家族・日本の家族, 1969, 日本放送出版協会
中根千枝『家族を中心とする人間関係』講談社，1977
/// コミュニケーション。
山久瀬 洋二 (著), ジェイク・ロナルドソン (翻訳), 日本人が誤解される100の言動 100 Cross-Cultural Misunderstandings Between Japanese People and Foreigners【日英対訳】 (対訳ニッポン双書) , IBCパブリッシング, 2010/12/24
鈴木 孝夫 (著), ことばと文化 (岩波新書) , 岩波書店, 1973/5/21
/// 独創性。
西沢潤一, 独創は闘いにあり, 1986, プレジデント社
江崎玲於奈, アメリカと日本 - ニューヨークで考える, 1980, 読売新聞社
乾侑, 日本人と創造性, - 科学技術立国実現のために, 1982, 共立出版
S.K.ネトル、桜井邦朋, 独創が生まれない - 日本の知的風土と科学, 1989, 地人書館

/// 経営。
Abegglen, J.C.,The Japanese Factory:Aspects of Its Social Organization,Free Press 1958（占部都美 監訳 「日本の経営」ダイヤモンド社 1960）
林 周二, 経営と文化, 中央公論社, 1984
太田肇 (著) , 個人尊重の組織論, 企業と人の新しい関係 (中公新書) , 中央公論新社, 1996/2/25
/// 保育。
Caudill,W., Weinstein, H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America Psychiatry,32 1969
/// 教育。

岡本 薫 (著), 新不思議の国の学校教育—日本人自身が気づいていないその特徴, 第一法規, 2004/11/1
宮智 宗七 (著), 帰国子女—逆カルチュア・ショックの波紋 (中公新書) 中央公論社, 1990/1/1
グレゴリー・クラーク (著), Gregory Clark (原著), なぜ日本の教育は変わらないのですか? , 東洋経済新報社, 2003/9/1
恒吉僚子, 人間形成の日米比較 - かくれたカリキュラム, 1992, 中央公論社
/// 性差。
//// 女性。
杉本 鉞子 (著), 大岩 美代 (翻訳), 武士の娘 (筑摩叢書 97) , 筑摩書房, 1967/10/1
//// 男性。
グスタフ・フォス (著), 日本の父へ, 新潮社, 1977/3/1
/ 韓国。
// 単独社会。
朴 泰赫 , 醜い韓国人, —われわれは「日帝支配」を叫びすぎる (カッパ・ブックス) 新書 – , 光文社, 1993/3/1
朴 承薫 (著), 韓国 スラングの世界, 東方書店, 1986/2/1
// 社会間比較。
コリアンワークス, 知れば知るほど理解が深まる「日本人と韓国人」なるほど事典—衣食住、言葉のニュアンスから人づきあいの習慣まで (PHP文庫) 文庫 – , PHP研究所, 2002/1/1
造事務所 , こんなに違うよ！ 日本人・韓国人・中国人 (PHP文庫), PHP研究所 (2010/9/30)
/ 中国。
// 単独社会。
/// 社会全般。
林 松濤 (著), 王 怡韡 (著), 舩山 明音 (著) , 日本人が知りたい中国人の当たり前, 中国語リーディング, 三修社, 2016/9/20
/// 心理。
園田茂人, 中国人の心理と行動, 2001, 日本放送出版協会
デイヴィッド・ツェ (著), 吉田 茂美 (著), 関係(グワンシ) 中国人との関係のつくりかた , ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2011/3/16
/// 歴史。
加藤 徹 (著), 西太后—大清帝国最後の光芒 (中公新書) 新書 – , 中央公論新社, 2005/9/1
宮崎 市定 (著), 科挙—中国の試験地獄 (中公新書 15) , 中央公論社, 1963/5/1

/// 血縁関係。
瀬川 昌久, 現代中国における宗族の再生と文化資源化 東北アジア研究 18 pp.81-97 2014-02-19
// 社会間比較。
邱 永漢 (著), 騙してもまだまだ騙せる日本人—君は中国人を知らなさすぎる, 実業之日本社, 1998/8/1
邱永漢 (著) , 中国人と日本人, 中央公論新社, 1993
/ ロシア。
// 単独社会。
/// 社会全般。
ヘドリック スミス (著), 飯田 健一 (翻訳), 新・ロシア人〈上〉, 日本放送出版協会, 1991/2/1
ヘドリック スミス (著), 飯田 健一 (翻訳), 新・ロシア人〈下〉, 日本放送出版協会, 1991/3/1
/// 歴史。
伊賀上 菜穂, 結婚儀礼に現れる帝政末期ロシア農民の親族関係 : 記述資料分析の試み スラヴ研究, 49, 179-212 2002
奥田 央, 1920年代ロシア農村の社会政治的構造（１）, 村ソヴェトと農民共同体, 東京大学, 経済学論集, 80 1-2, 2015-7 https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp › econ0800102
大矢 温, スラヴ派の共同体論における「ナショナル」意識 - 民族意識から国民意識への展開 - , 札幌法学 29 巻 1・2 合併号 (2018) , pp.31-53
// 社会間比較。
/// 心理。
アレックス インケルス (著), Alex Inkeles (原著), 吉野 諒三 (翻訳), 国民性論—精神社会的展望, 出光書店, 2003/9/1
服部 祥子 (著), 精神科医の見たロシア人 (朝日選書 245), 朝日新聞社出版局, 1984/1/1
/// 民俗。
アレクサンドル・プラーソル, ロシアと日本：民俗文化のアーキタイプを比較して, 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第10号、2007.
/// 血縁関係。
高木正道, ロシアの農民と中欧の農民, ——家族形態の比較——, 法経研究, 42巻1号 pp.1-38, 1993
/// 経営。
宮坂 純一, ロシアではモチベーションがどのような内容で教えられているのか, 社会科学雑誌』第 5 巻 (2012年11月) —— 503-539
宮坂 純一, 日ロ企業文化比較考, 『社会科学雑誌』第 18 巻 (2017 年 9 月) ——, pp.1-48

/// 性差。
Д.Х. Ибрагимова, Кто управляет деньгами в российских семьях?, Экономическая социология. Т. 13. № 3. Май 2012, pp22-56

/ 東南アジア。
// 単独社会。
丸杉孝之助, 東南アジアにおける農家畜産と農業経営, 熱帯農業, 19(1), 1975 pp.46-49
中川 剛 (著), 不思議のフィリピン―非近代社会の心理と行動 (NHKブックス) , 日本放送出版協会, 1986/11/1
// 社会間比較。

＝＝ 液体。
/ 液体の性質。液体の動き。
小野周 著, 温度とはなにか , 岩波書店、1971
小野 周 (著), 表面張力 (物理学one point 9), 共立出版, 1980/10/1
イーゲルスタッフ (著), 広池 和夫 (翻訳), 守田 徹 (翻訳), 液体論入門 (1971年) (物理学叢書) , 吉岡書店, 1971
上田 政文 (著), 湿度と蒸発―基礎から計測技術まで, コロナ社, 2000/1/1
稲松 照子 (著), 湿度のおはなし, 日本規格協会, 1997/8/1
伊勢村 寿三 (著), 水の話 (化学の話シリーズ (6)) , 培風館, 1984/12/1
力武常次 (著), 基礎からの物理 総合版 (チャート式シリーズ) , 数研出版, 数研出版, 1986/1/1
野村 祐次郎 (著), 小林 正光 (著), 基礎からの化学 総合版 (チャート式・シリーズ) , 数研出版, 1985/2/1
物理学辞典編集委員会 , 物理学辞典 改訂版 , 培風館, 1992
池内満, 分子のおもちゃ箱 , 2008年1 月19日 http://mike1336.web.fc2.com/ (2008年2月23日)
/ 液体の知覚。
大塚巌 (2008). ドライ、ウェットなパーソナリティの認知と気体、液体の運動パターンとの関係. パーソナリティ研究, 16, 250-252

＝＝ 生物。
/ 総論。
鈴木孝仁, 本川達雄, 鷺谷いづみ, チャート式シリーズ, 新生物 生物

基礎・生物 新課程版, 数研出版, 2013/2/1
/ 遺伝子。
リチャード・ドーキンス【著】，日高敏隆，岸由二，羽田節子，垂水雄二【訳】, 利己的な遺伝子, 紀伊國屋書店, 1991/02/28
/ 精子。卵子。
緋田 研爾 (著), 精子と卵のソシオロジー―個体誕生へのドラマ (中公新書) 中央公論社, 1991/3/1
/ 神経系。
二木 宏明 (著), 脳と心理学―適応行動の生理心理学 (シリーズ脳の科学) , 朝倉書店, 1984/1/1
山鳥 重 (著), 神経心理学入門, 医学書院, 1985/1/1
伊藤 正男 (著), 脳の設計図 (自然選書) , 中央公論社, 1980/9/1
D.O.ヘッブ (著), 白井 常 (翻訳), 行動学入門―生物科学としての心理学 (1970年) , 紀伊国屋書店, 1970/1/1
// 知覚。
岩村 吉晃 (著), タッチ (神経心理学コレクション), 医学書院, 2001/4/1
松田 隆夫 (著), 知覚心理学の基礎, 培風館, 2000/7/1
// パーソナリティ。
Murray,H.A., 1938, Exploration in personality:A clinical and experimental study of fifty men of collegeage.
Schacter, S., 1959, The Psychology of affiliation.Stanford University press.
三隅三不二, 1978, リーダーシップの科学, 有斐閣
Fiedler,F.E., 1973, The trouble with leadership training is that it doesn't train leaders-by. Psychology Today Feb(山本憲久訳 1978 リーダーシップを解明する 岡堂哲雄編 現代のエスプリ131: グループ・ダイナミクス 至文堂).
Snyder,M., 1974, The self-monitoring of expssive behavior. Journal of Personality and Social Psychology, 30, 526-537.
Fenigstein, A., Scheier,M.F., & Buss,A.H., 1975, Public and private self-consciousness: Assessment and theory. Journal of Consulting and Clinical Psychology,43,522-527.
押見輝男, 自分を見つめる自分-自己フォーカスの社会心理学, サイエンス社, 1992
Wicklund, R.A., & Duval,S. 1971 Opinion change and performance facilitation as a result of objective self-awareness. Journal of Experimental Social Psychology,7,319-342.
Jourard, S.M. 1971, The transparent self, rev.ed.Van Nostrand Reinhold(岡堂哲雄訳 1974 透明なる自己 誠信書房).

Brehm, J.W.,1966, A Theory of psychological reactance. Academicpss.
Toennies, F.,1887, Gemeinshaft und Gesellshaft, Leipzig,(杉之原寿一訳「ゲマインシャフトとゲゼルシャフト」1957 岩波書店)
McCrae, R. R., Costa, P. T., Jr., 1987, Validation of the five-factor model of personality across instruments and observers., Journal of Personality and Social Psychology, 52, 81-90
Eysenck, H. J., 1953, The structure of human personality. New York: Wiley.
Edwards, A.L., 1953, The relationship between judged desirebility of a trait and the plobability that the trait will be endowsed. Journal of Applied Psychology, 37,90-93
// 情報。
吉田 民人 (著), 情報と自己組織性の理論, 東京大学出版会, 1990/7/1
/ 社会性。
吉田 民人 (著), 主体性と所有構造の理論, 東京大学出版会, 1991/12/1

/ 人間以外の生物。
// 行動。
デティアー(著), ステラー(著), 日高敏隆(訳),小原嘉明(訳), 動物の行動 - 現代生物学入門7巻, 岩波書店, 1980/1/1
// 心理。
D.R.グリフィン (著), 桑原 万寿太郎 (翻訳), 動物に心があるか—心的体験の進化的連続性 (1979年) (岩波現代選書—NS〈507〉), 岩波書店, 1979年
// 文化。
J.T.ボナー (著), 八杉 貞雄 (翻訳), 動物は文化をもつか (1982年) (岩波現代選書—NS〈532〉) , 岩波書店, 1982/9/24
// 社会。
今西 錦司 (著), 私の霊長類学 (講談社学術文庫 80) , 講談社, 1976/11/1
今西錦司『私の自然観』講談社学術文庫，1990 (1966)．
河合雅雄 (著), ニホンザルの生態, 河出書房新社, 1976/1/1
伊谷純一郎 (著) , 高崎山のサル (講談社文庫), 講談社, 1973/6/26
伊谷純一郎 (著) , 霊長類社会の進化 (平凡社 自然叢書) 単行本 –, 平凡社, 1987/6/1
/ 無神論。
リチャード・ドーキンス (著), 垂水 雄二 (翻訳), 神は妄想である—

宗教との決別, 早川書房, 2007/5/25

＝＝ 辞書。
新村出 (編著) ,広辞苑 - 第5版, 岩波書店, 1998
Stein, J., & Flexner, S. B. (Eds.), The Random House Thesaurus., Ballantine Books., 1992

＝＝ データ分析の方法。
田中敏 (2006). 実践心理データ解析 改訂版 新曜社
中野博幸, JavaScript-STAR , 2007年11月9日 http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/ (2008年2月25日)

＝＝＝＝＝
追加の参考文献リスト。2023年4月現在。

＝＝＝
物理学。 Physics. Физика. 物理学。

都築嘉弘 (著), 井上邦雄 (著), チャート式シリーズ 新物理 物理基礎・物理, 数研出版, 2014
近角 聰信 (著, 編集), 三浦 登 (著, 編集), 理解しやすい物理 物理基礎収録版, 文英堂, 2013

猪木 正文 (著), 大須賀 健 (監修), 数式を使わない物理学入門 アインシュタイン以後の自然探検, KADOKAWA, 2020
伊達 宗行, 新しい物性物理—物質の起源からナノ・極限物性まで, 講談社, 2005

ルクレーティウス (著), 樋口 勝彦 (翻訳), 物の本質について, 岩波書店, 1961

ポフ ボグダン(著), ロシナ ミーチャ(著), 園田 英徳 (翻訳), 石川 隆 (翻訳), 原理と直観で読み解く 量子系の物理(第2版):素粒子から宇宙まで, 森北出版, 2019

竹内 淳 (著), 高校数学でわかる流体力学, 講談社, 2014

化学。 Chemistry. Химия. 化学。

戸嶋 直樹 (著, 編集), 瀬川 浩司 (著, 編集), 理解しやすい化学 化学基礎収録版, 文英堂, 2012
野村祐次郎 (著), 辰巳敬 (著), 本間善夫 (著), チャート式シリーズ 新化学 化学基礎・化学, 数研出版, 2014

生物学。 Biology. Биология. 生物学。

水野 丈夫 (著, 編集), 浅島 誠 (著, 編集), 理解しやすい生物 生物基礎収録版, 文英堂, 2012
鈴木孝仁(著者), 本川達雄(著者), 鷲谷いづみ(著者), チャート式シリーズ 新生物 生物基礎・生物, 数研出版, 2013

デイヴィッド・サダヴァ (著), 丸山 敬 (翻訳), 石崎 泰樹 (翻訳), カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学, 講談社, 2010
デイヴィッド・サダヴァ (著), クレイグ.H□ヘラー (著), その他, カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学, 講談社, 2010
デイヴィッド・サダヴァ (著), クレイグ.H□ヘラー (著), その他, カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学, 講談社, 2010
池内 昌彦 (監修, 翻訳), 伊藤 元己 (監修, 翻訳), 箸本 春樹 (監修, 翻訳), エッセンシャル・キャンベル生物学 原書6版, 丸善出版, 2016

緋田 研爾 (著), 精子と卵のソシオロジー—個体誕生へのドラマ, 中央公論社, 1991
ロビン ベイカー (著), Robin Baker (原名), 秋川 百合 (翻訳), 精子戦争—性行動の謎を解く, 河出書房新社, 1997

江上 不二夫 (著), 生命を探る, 岩波書店, 1967
柳川 弘志, 生命の起源を探る, 岩波書店, 1989
オパーリン (著), 江上 不二夫 (編さん), 生命の起源と生化学, 岩波書店, 1956

中屋敷 均 (著), ウイルスは生きている, 講談社, 2016
武村 政春 (著), 生物はウイルスが進化させた 巨大ウイルスが語る新たな生命像, 講談社, 2017

日本生態学会 (編集), 生態学入門(第2版) 第2版, 東京化学同人, 2012
沓掛 展之 (著), 古賀 庸憲 (著), 日本生態学会 (編集), 沓掛 展之 担当編集 (その他), その他, 行動生態学, 共立出版, 2012

池田清彦 (著), メスの流儀 オスの流儀, 静山社, 2010

佐々木 敏 (著), 佐々木敏の栄養データはこう読む! 第2版, 女子栄養大学出版部, 2020

地学。地理学。 Geology. Geography. Геология. География. 地质学。地理学。

内田 忠賢 (著, 監修), 理解しやすい地理B, 文英堂, 2010
大塚 韶三 (著), 萩島 智子 (著), 青木 寿史 (著), ひとりで学べる地学—「地学基礎」「地学」に対応, 清水書院, 2012
小倉 義光 (著), 一般気象学 第2版, 東京大学出版会, 1999
柏野 祐二 (著), 海の教科書 波の不思議から海洋大循環まで, 講談社, 2016

数学。 Math. Математика. 数学。

都筑 卓司 (著), トポロジー入門 奇妙な図形のからくり, 講談社, 2019

工学。 Engineering. Инжиниринг. 工程。

浜辺 隆二 (著), 論理回路入門(第3版), 森北出版, 2015
井澤 裕司 (著), ビジュアル 論理回路入門, プレアデス出版, 2008
木村 真也 (著), わかるVerilog HDL入門—文法の基礎から論理回路設

計、論理合成、実装まで 改訂新版, CQ出版, 2006
長谷川 裕恭 (著), VHDLによるハードウェア設計入門―言語入力によるロジック回路設計手法を身につけよう 改訂版, CQ出版, 2004
熊谷 英樹 (著), 必携 シーケンス制御プログラム定石集―機構図付き, 日刊工業新聞社, 2003
南 裕樹 (著), Pythonによる制御工学入門, オーム社, 2019
森 泰親 (著), 演習で学ぶ基礎制御工学, 森北出版, 2004
佐藤 和也 (著), 平元 和彦 (著), 平田 研二 (著), はじめての制御工学, 講談社, 2010
Neo4jユーザーグループ (著), 石坂 登 (著), 秋田 進之助 (著), 大西 芳佳 (著), その他, グラフ型データベース入門 - Neo4jを使う, リックテレコム, 2016

神経系。 Nervous System. Нервная система. 神经系统。

養老 孟司 (著), 唯脳論, 青土社, 1989
二木 宏明 (著), 脳と記憶―その心理学と生理学, 共立出版, 1989
山鳥 重 (著), 記憶の神経心理学, 医学書院, 2002
理化学研究所脳科学総合研究センター (編集), 脳科学の教科書 神経編, 岩波書店, 2011
渡辺 正峰 (著), 脳の意識 機械の意識 - 脳神経科学の挑戦, 中央公論新社, 2017

心理学。 Psychology. Психология. 心理学。

鹿取 廣人 (編集), 杉本 敏夫 (編集), 鳥居 修晃 (編集), 河内 十郎 (編集), 心理学 第5版補訂版, 東京大学出版会, 2020
無藤 隆 (著), 森 敏昭 (著), 遠藤 由美 (著), 玉瀬 耕治 (著), 心理学 新版, 有斐閣, 2018

霜山 徳爾 (監修), 鍋田 恭孝 (編集), 心理療法を学ぶ―基礎理論から臨床まで, 有斐閣, 2000
今田 純雄 (編集), 北口 勝也 (編集), 動機づけと情動, 培風館, 2015
菊地 正 (編集), 感覚知覚心理学, 朝倉書店, 2008

アイン・ランド (著), 田村 洋一 (監修), オブジェクティビズム研究会 (翻訳), SELFISHNESS(セルフィッシュネス) ―― 自分の価値を実

現する, Evolving, 2021
高橋 昌一郎 (監修), パラドックス大図鑑, ニュートンプレス, 2021
D. マツモト (著), David Matsumoto (原名), 南 雅彦 (翻訳), 佐藤 公代 (翻訳), 文化と心理学―比較文化心理学入門, 北大路書房, 2001
福間詳 著 (著), ストレスのはなし - メカニズムと対処法, 中央公論新社, 2017

遠藤 利彦 (著), 佐久間 路子 (著), 徳田 治子 (著), 野田 淳子 (著), 乳幼児のこころ -- 子育ち・子育ての発達心理学, 有斐閣, 2011
岩田 純一 (著), 発達心理学, 有斐閣, 1992

坂野 雄二 (編集), 臨床心理学キーワード 補訂版, 有斐閣, 2005
大平 英樹 (編集), 感情心理学・入門, 有斐閣, 2010
岩壁 茂 (著), 福島 哲夫 (著), 伊藤 絵美 (著), 臨床心理学入門 -- 多様なアプローチを越境する, 有斐閣, 2013

宗教学。 Religious Studies. Религиозные исследования. 宗教研究。

仏教伝道協会 (編集) , 仏教聖典, 仏教伝道協会, 1905
中村 圭志, 西洋人の「無神論」日本人の「無宗教」, ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2019
安田喜憲, 森を守る文明・支配する文明, PHP研究所, 1997
安田喜憲, 一神教の闇―アニミズムの復権, 筑摩書房, 2006
島薗 進, 宗教学の名著30, 筑摩書房, 2008

社会学。経済学。政治学。 Sociology. Economics. Political science. Социология. Экономика. Политология. 社会学。经济学。政治学。

長田 攻一 (著), 社会学の要点整理, 実務教育出版, 1987
新 睦人 (著), 大村 英昭 (著), 宝月 誠 (著), 中野 正大 (著), 中野 秀一郎 (著), 社会学のあゆみ, 有斐閣, 1979
那須 壽 (編さん), クロニクル社会学, 有斐閣, 1997
小林 昇 (編集), 杉原 四郎 (編集), 新版 経済学史, 有斐閣, 1986

山内 昶 (著), タブーの謎を解く―食と性の文化学, 筑摩書房, 1996
マーヴィン ハリス (著), 長島 信弘 (翻訳), 鈴木 洋一 (翻訳), 文化唯物論―マテリアルから世界を読む新たな方法〈上〉, 早川書房, 1987
マーヴィン ハリス (著), Marvin Harris (原名), 板橋 作美 (翻訳), 食と文化の謎, 岩波書店, 2001

森 三樹三郎 (著), 老子・荘子, 講談社, 1994
大城 太 (著), 華僑の奥義 一生お金に困らない儲けと成功の法則, 日本実業出版社, 2019

徳永 恂 (編集), 厚東 洋輔 (編集), 人間ウェーバー―人と政治と学問, 有斐閣, 1995
大塚 久雄 (著), 小野塚 知二 (著), 共同体の基礎理論 他六篇, 岩波書店, 2021
水田 洋 (著), アダム・スミス, 講談社, 1997

村武 精一 (編集), 佐々木 宏幹 (編集), 文化人類学, 有斐閣, 1991
小沢 周三 (著), 小沢 滋子 (著), 影山 昇 (著), 今井 重孝 (著), 教育思想史, 有斐閣, 1993
田中 成明 (著), 竹下 賢 (著), 深田 三徳 (著), 亀本 洋 (著), 平野 仁彦 (著), 法思想史 第2版, 有斐閣, 1997
小笠原 弘親 (著), 藤原 保信 (著), 小野 紀明 (著), 政治思想史, 有斐閣, 1987

伊藤 真 (著), 伊藤真の民法入門 第5版, 日本評論社, 2014
川井 健 (著), 民法入門 第7版, 有斐閣, 2012

塩野七生, マキアヴェッリ語録, 新潮社, 1992
トマス・ホッブズ (著), 高野清弘 (著) , 法の原理 ― 自然法と政治的な法の原理, 行路社, 2016
田中 浩 (著), ホッブズ――リヴァイアサンの哲学者, 岩波書店, 2016

森永 卓郎 (著), なぜ日本だけが成長できないのか, KADOKAWA, 2018
ロナルド ドーア (著), Ronald Dore (原名), 藤井 真人 (翻訳), 日本型資本主義と市場主義の衝突―日・独対アングロサクソン, 東洋経済新報社, 2001

私が執筆した全ての書籍。その一覧。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Sex Differences And Female Dominance
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 性别差异和女性主导地位
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Половые различия и женское превосходство
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 男女の性差と女性の優位性

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Female-Dominated Society Will Rule The World.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 女性主导的社会将统治世界
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Общество, в котором доминируют женщины, будет править миром.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 女性優位社会が、世界を支配する。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Mobile Life. Settled Life. The origins of social sex differences.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 移动生活。定居生活。社会性别差异的起源。
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Мобильная жизнь. Урегулированная жизнь. Истоки социальных различий по половому признаку.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 移動生活様式。定住生活様式。社会的性差の起源。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) The essence of life. The essence of human beings. The darkness of them.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 生物的本质。人类的本质。他们的黑

暗。
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Сущность жизни. Сущность человеческих существ. Их тьма.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 生物の本質。人間の本質。それらの暗黒性。

Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) On Atheism and the Salvation of the Soul. Live by neuroscience!
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) 论无神论与灵魂的救赎。靠神经科学生存！
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) Об атеизме и спасении души. Живи неврологией!
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) 無神論と魂の救済について。脳神経科学で生きよう！

Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) Dryness. Wetness. Sensation of humidity. Perception of humidity. Personality Humidity. Social Humidity.
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) 干性。湿气。湿度的感觉。对湿度的感知。性格湿度。社会湿度。
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) Сухость. Мокрота. Сенсация влажности. Восприятие влажности. Личностная влажность. Социальная влажность.
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) ドライさ。ウェットさ。湿度の感覚。湿度の知覚。性格の湿度。社会の湿度。

Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) Gases and liquids. Classification of behavior and society. Applications to life and humans.
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) 气体和液体。行为与社会的分类。在生活和人类中的应用。
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) Газы и жидкости. Классификация поведения и общества. Применение к жизни и человеку.
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) 気体と液体。行動や社会の分類。生物や人間への応用。

Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) Elements of livability. Functionalism of life. Society as life.
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) 宜居的要素。生活的功能主义。社会即生活。
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) Элементы благоустроенности. Функциональность жизни. Общество как жизнь.
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) 生きやすさの素。生物の機能主義。生物としての社会。

Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) The laws of history. History as a system. History for life.
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) 历史的规律。历史是一个系统。历史的生物。
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) Законы истории. История как система. История на всю жизнь.
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) 歴史の法則。システムとしての歴史。生物にとっての歴史。

Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Social Theory of Maternal Authority. A Society of Strong Mothers. Japanese Society as a Case Study.
Iwao Otsuka (Sep 20, 2020) 母亲权威的社会理论。强势母亲的社会。以日本社会为个案研究。
Iwao Otsuka (Sep 20, 2020) Социальная теория материнства: Общество сильных матерей. Японское общество как пример.
Iwao Otsuka (Sep 15, 2020) 母権社会論 - 強い母の社会。事例としての日本社会。 -

Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Mechanisms of Japanese society. A society of acquired settled groups.
Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) 日本社会的机制。后天定居群体的社会。

Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Механизмы японского общества. Общество приобретенных оседлых групп.
Iwao Otsuka (Aug 28, 2020) 日本社会のメカニズム。後天的定住集団の社会。

Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) Inertial Society
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) 惯性社会（中文版本）
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) инерционное общество
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) 慣性社会（日本語版）

Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) Neurosociology
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) 神经社会学（中文版本）
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) Нейросоциология
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) 神経社会学（日本語版）

Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) From transportation-centric society to communication-centric society. The Progress of Transition.
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) 从以交通为中心的社会向以通信为中心的社会。转型的进展。
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) От общества, ориентированного на транспорт, к обществу, ориентированному на коммуникации. Прогресс переходного периода.
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) 交通中心社会から通信中心社会へ。移行の進展。

Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) The Sociology of the Individual -The Elemental Reduction Approach.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 个人社会学 -元素还原法。
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Социология личности -Элементный подход к сокращению.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 個人の見える社会学　 - 要素還元アプローチ -

Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Introduction Of A White Tax To Counter Discrimination Against Blacks.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 引入白人税以打击对黑人的歧视
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Введение белого налога для противодействия дискриминации черных
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 黒人差別対策としての白人税導入

Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) Personality and sensation, perception. Light and dark. Warm and cold. Hard and soft. Loose and tight. Tense and relaxed.
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) 人格与感觉、知觉。明与暗。温暖与寒冷。硬和软。松与紧。紧张与放松。
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) Личность и ощущения, восприятие. Светлое и темное. Тепло и холодно. Твердый и мягкий. Свободный и тугой. Напряженный и расслабленный.
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) 性格と感覚、知覚。明暗。温冷。硬軟。緩さときつさ。緊張とリラックス。

Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) Motherhood and Fatherhood. Maternal and paternal authority. Parents and Power.
Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) 母性与父性。母权和父权。父母与权力。
Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) Материнство и отцовство. Материнская и отцовская власть. Родители и власть.
Iwao Otsuka (Nov 22, 2020) 母性と父性。母権と父権。親と権力。

Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) Sex differences and sex discrimination. They cannot be eliminated. Social mitigation and compensation for them.
Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) 性别差异和性别歧视。它们无法消除。对它们进行社会缓解和补偿。

Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) Половые различия и дискриминация по половому признаку. Они не могут быть устранены. Социальное смягчение и компенсация за них.
Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) 男女の性差と性差別。それらは無くせない。それらへの社会的な緩和や補償。

Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) Mechanisms of acquired settled group societies. Female dominance.
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) 后天定居群体社会的机制。女性主导地位。
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) Механизмы обществ приобретенных оседлых групп. Доминирование женщин.
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) 後天的定住集団社会のメカニズム。女性の優位性。

Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) Ownership and non-ownership of resources. Their advantages and disadvantages.
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) 资源的所有权和非所有权。其利弊。
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) Владение и не владение ресурсами. Их преимущества и недостатки.
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) 資源の所有と非所有。その利点と欠点。

Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) Wealth and poverty. The emergence of economic disparity. Causes and solutions.
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) 财富与贫穷。经济差距的出现。原因和解决办法。
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) Благополучие и бедность. Появление экономического неравенства. Причины и решения.
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) 富裕と貧困。経済的格差の発生。その原因と解消法。

Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) Social delinquents. A true delinquent. The difference between the two.
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) 社会不良分子。真正的不良分子。两者之间的区别。
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) Социальные преступники. Настоящий преступник. Разница между ними.
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) 社会的な不良者。真の不良者。両者の違い。

Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) How to enjoy game music videos.
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) 如何欣赏游戏音乐视频。
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) Как наслаждаться игровыми музыкальными клипами.
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) ゲーム音楽動画の楽しみ方。

Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) Life worth living. Fulfilling life. The source of them.
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) 值得生活的生活。充实的生活。他们的源头。
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) Жизнь, достойная жизни. Полноценная жизнь. Источник их.
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) 生きがい。充実した人生。それらの源。

私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。

ご訪問ありがとうございます！

私は本の内容を頻繁に改訂しています。
そのため、読者の皆様には、随時サイトを訪れていただき、新刊や改訂版の書籍をダウンロードしていただくことをお勧めしています。

自動翻訳には以下のサービスを利用しています。

DeepL プロ
https://www.deepl.com/translator

本サービスは以下の会社が提供しています。

DeepL GmbH

私の本の原語は日本語です。
私の本の自動翻訳の順序は以下の通りです。
日本語→英語→中国語、ロシア語

どうぞお楽しみ下さい！

私の略歴。

私は、1964年に、日本の神奈川県で、生まれた。
私は、1989年に、東京大学文学部社会学科を卒業した。
私は、1989年度の日本の国家公務員採用試験のI種区分の、社会学の職種に、最終合格した。
私は、1992年度の日本の国家公務員採用試験のI種区分の、心理学の職種に、最終合格した。
私は、大学卒業後は、日系大手IT企業の研究所に勤務して、コンピュータのソフトウェアの試作業務に従事した。
私は、現在は、企業を退職して、執筆活動に専念中である。

Source code _1

```
# coding: UTF-8



import multiprocessing
from multiprocessing import Process, Queue, Pipe
import os
import time
import random
import math
from decimal import Decimal
import numpy as np



import pygame
from pygame import draw
from pygame import gfxdraw


def norm(x):
    return np.sqrt(np.dot(x, x))


def sqrt(x):
    """Safe square root"""
    return np.sqrt(np.clip(x, 0, np.inf))

def vector_normalize(x):

    # ベクトルを定義
    #vector = np.array([3, 4])
    # ノルムを計算
#     norm = np.linalg.norm(vector)
    norm = np.linalg.norm(x)
    # ベクトルをノルムで割る
    normalized_vector = x / norm
```

```
#    print("正規化されたベクトル:", normalized_vector)
    return normalized_vector

def collide_without_acceralation(v1, v2, r1, r2, d1, d2,
#def collide_with_acceralation(a1, a2, v1, v2, r1, r2, c
        """
        Process eventual collisions

        """
        ##### all vector data below
        ## a1, a2, #acceralation
        # v1, v2, #velocity
        # r1, r2, #position
        # d1, d2, #length of (radius * 2)
        # m1, m2, #mass


        # Relative positions and velocities
        #da = a2-a1
        dv = v2-v1
        dr = r2-r1

        # Backtrack
        #nda = norm(da)
        ndv = norm(dv)
        if ndv == 0:
            # Special case: overlapping particles with s
            ndr = norm(dr)
            offset = .5*dr*(.5*(d1+d2)/ndr - 1.)
            r1 -= offset
            r2 += offset
#             continue



################## process of velocity only

        ru = np.dot(dv, dr)/ndv
        ds = ru + sqrt(ru**2 + .25*(d1+d2)**2 - np.dot(c
        if np.isnan(ds):
```

```
            1/0

        # Time since collision
        dtc = ds/ndv

        # New collision parameter
        drc = dr - dv*dtc

        # Center of mass velocity
        vcm = (m1*v1 + m2*v2)/(m1+m2)

        # Velocities after collision
        dvf = dv - 2.*drc * np.dot(dv, drc)/np.dot(drc,
        v1f = vcm - dvf * m2/(m1+m2)
        v2f = vcm + dvf * m1/(m1+m2)

######################


        # Backtracked positions
        r1f = r1 + (v1f-v1)*dtc
        r2f = r2 + (v2f-v2)*dtc

        # Update values
        r1 = r1f
        r2 = r2f
        v1 = v1f
        v2 = v2f

        list_renewed_data = [v1, v2, r1, r2, d1, d2, m1,

        return list_renewed_data


#def collide_without_acceralation(v1, v2, r1, r2, d1, d2
def collide_with_acceralation(a1, a2, v1, v2, r1, r2, d1
        """
        Process eventual collisions

        """
```

```
        ##### all vector data below
        # a1, a2, #acceralation
        # v1, v2, #velocity
        # r1, r2, #position
        # d1, d2, #length of (radius * 2)
        # m1, m2, #mass


        # Relative positions and velocities
#        da = a2-a1
        dv = v2-v1
        dr = r2-r1

        # Backtrack
#        nda = norm(da)
        ndv = norm(dv)
        if ndv == 0:
            # Special case: overlapping particles with s
            ndr = norm(dr)
            offset = .5*dr*(.5*(d1+d2)/ndr - 1.)
            r1 -= offset
            r2 += offset
#            continue



################## process of velocity only

        ru = np.dot(dv, dr)/ndv
        ds = ru + sqrt(ru**2 + .25*(d1+d2)**2 - np.dot(c
        if np.isnan(ds):
            1/0

        # Time since collision
        dtc = ds/ndv

        # New collision parameter
        drc = dr - dv*dtc

        # Center of mass velocity
```

```
        vcm = (m1*v1 + m2*v2)/(m1+m2)

        # Velocities after collision
        dvf = dv - 2.*drc * np.dot(dv, drc)/np.dot(drc,
        #daf = da - 2.*drc * np.dot(da, drc)/np.dot(drc,
        v1f = vcm - dvf * m2/(m1+m2)
        v2f = vcm + dvf * m1/(m1+m2)
        v1fn = vector_normalize(v1f)
        v2fn = vector_normalize(v2f)
        a1len = np.linalg.norm(a1)
        a2len = np.linalg.norm(a2)
        a1f = a1len * v1fn
        a2f = a2len * v2fn

######################


        # Backtracked positions
        r1f = r1 + (v1f-v1)*dtc
        r2f = r2 + (v2f-v2)*dtc

        # Update values
        r1 = r1f
        r2 = r2f
        v1 = v1f
        v2 = v2f
        a1 = a1f
        a2 = a2f

        list_renewed_data = [a1, a2, v1, v2, r1, r2, d1,

        return list_renewed_data


def arrowPos(A, B, w, h, L, R):
 Vx = B[0] - A[0]
 Vy = B[1] - A[1]
 v = math.sqrt(Vx*Vx + Vy*Vy)

 if v < 0.1:
```

```
  return -1

 Ux = Vx/v
 Uy = Vy/v
 L[0] = B[0] - Uy*w - Ux*h
 L[1] = B[1] + Ux*w - Uy*h
 R[0] = B[0] + Uy*w - Ux*h
 R[1] = B[1] - Ux*w - Uy*h

def drawArrow(A, B, w, h, c, context):
 L = [0, 0]
 R = [0, 0]

 if arrowPos(A, B, w, h, L, R) == -1:
  return

 pygame.draw.line(context, pygame.Color(c), A, B, 1)
 pygame.draw.polygon(context, pygame.Color(c), [L, B, R]

def drawParticles(n, a_xr, a_yr, a_r, a_color, a_fx, a_f
    A = [0, 0]
    B = [0, 0]

    for i in range(n):
        pygame.gfxdraw.aacircle(context, int(a_xr[i]*dis
        pygame.gfxdraw.filled_circle(context, int(a_xr[i

        if((math.sqrt((a_fx[i] * a_fx[i]) + (a_fy[i] * a

            fdata_sq_x = ((a_fx[i]) / (math.sqrt(a_fx[i]
            fdata_sq_y = ((a_fy[i]) / (math.sqrt(a_fx[i]

#            if((fdata_sq_x > 0) and (fdata_sq_y > 0)):

            A[0] = a_xr[i]*dispScale
            A[1] = a_yr[i]*dispScale
            B[0] = a_xr[i]*dispScale + fdata_sq_x * 10
            B[1] = a_yr[i]*dispScale + fdata_sq_y * 10
            #B[0] = a_xr[i]*dispScale + (a_fx[i] / math.
            #B[1] = a_yr[i]*dispScale + (a_fy[i] / math.
```

```
            drawArrow(A, B, 2, 2, a_color[i], context)

    n = n



# リスト数値の正規化。最大値を1に。最小値を0に。
def min_max_normalization(list_origin):
    accum_value = 0
    for i in range(len(list_origin)):
        accum_value = accum_value + list_origin[i] * lis
    accum_sqrt = math.sqrt(accum_value)
    norm_value_list = []
    for i in range(len(list_origin)):
        norm_value_list.append(float(list_origin[i] / ac

    return norm_value_list

# Queueにデータを書き込む
def write(q):
#    if __name__ == '__main__':
#    #                freeze_support()
        print('Process to write: {}'.format(os.getpid())
        for value in ['A', 'B', 'C']:
            print('Put {} to queue...'.format(value))
            q.put(value)
            time.sleep(random.random())


# Queueからデータを読み取り
def read(q):
#    if __name__ == '__main__':
#    #                freeze_support()
        print('Process to read: {}'.format(os.getpid()))
        while True:
            value = q.get(True)
            print('Get {} from queue.'.format(value))
```

```
#####for Windows
#if __name__ == '__main__':
#######
#    e = multiprocessing.Event()
    # 親プロセスがQueueを作って、子プロセスに渡す
#    q = Queue()
#    pw = Process(target=write, args=(q,))
#    pr = Process(target=read, args=(q,))
#    # pwを起動し、書き込み開始
#    pw.start()
#    # prを起動し、読み取り開始
#    pr.start()
#    # pwが終了するのを待つ
#
#    e.set()
#    pw.join()
#    # prは無限ループなので、強制終了
#    pr.terminate()

#    event2 = multiprocessing.Event()

event_array = []
for lighter_num_a in range(2):
    event_temp = multiprocessing.Event()
    event_array.append(event_temp)




parent_conn_array = []
child_conn_array = []
for lighter_num_c in range(2):
    parent_conn_temp, child_conn_temp = Pipe()
    parent_conn_array.append(parent_conn_temp)
    child_conn_array.append(child_conn_temp)

q_array = []
for lighter_num_i in range(2):
    q_temp = Queue()
    q_array.append(q_temp)
```

```
env_value_input = 100
env_value_output = 0
particle_name_array = ['p_01','p_02']
sleep_time_length_particle = 0.05
spike_threshold_particle = 100
output_value_particle = 100

q_value_array_input = []
for value_num_i in range(1):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_input.append(q_temp)

q_value_array_output = []
for value_num_i in range(3):
    q_temp = Queue()
    q_value_array_output.append(q_temp)



##velocity
##acceleration
#mass
#location_X
#location_Y
#size_radius
#force_attraction
#force_repulsion
#force_all


#input_output_str_data_format
#particle_all_num:2,particle_id_num:2,location_X:100,loc


def particle(name,q_input,q_output_array,sleep_time_leng
    value_array = ['','']
    q_input_get_array = []
    init_data_array_temp = []
    init_data_array_temp = init_data_str.split(',')
```

```
    q_init_num_i = 0
    init_data_array = []

    self_particle_id_num = 0
    self_location_X = 0
    self_location_Y = 0
    self_mass = 0
    self_velocity_X = 0
    self_velocity_Y = 0
    self_acceleration_X = 0
    self_acceleration_Y = 0
    self_size_radius = 0

    space_size_X = 1000
    space_size_Y = 800
    universal_gravitational_constant = 2

    received_particle_id_num = self_particle_id_num
    received_location_X = 0
    received_location_Y = 0
    received_mass = 0
    received_velocity_X = 0
    received_velocity_Y = 0
    received_acceleration_X = 0
    received_acceleration_Y = 0
    received_size_radius = 0

    list_collision_result_data_without_acceralation = []
    self_velocity_after_collision_list = []
    received_velocity_after_collision_list = []

    for q_init_num_i in range(len(init_data_array_temp)):
#        init_data_array_temp[q_init_num_i].split(':')
        data_temp_init = ((init_data_array_temp[q_init_r

        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('part
            particle_all_num = int(data_temp_init)

        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('part
            self_particle_id_num = int(data_temp_init)
```

```
#               print(self_particle_id_num)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('loca
            self_location_X = float(data_temp_init)
#               print(self_location_X)

        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('loca
            self_location_Y = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('mass
            self_mass = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('velo
            self_velocity_X = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('velo
            self_velocity_Y = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('acce
            self_acceleration_X = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('acce
            self_acceleration_Y = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('size
            self_size_radius = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('univ
            universal_gravitational_constant = float(dat
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('spac
            space_size_X = float(data_temp_init)
        if(init_data_array_temp[q_init_num_i].find('spac
            space_size_Y = float(data_temp_init)





    while True:
#           time.sleep(1)
        time.sleep(sleep_time_length)

        #return_value = myQueue.empty()
        #return_value = myQueue.qsize()
        if(q_input.empty() == False):
            q_input_len_now = q_input.qsize()
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
                    q_input_get_array.append((q_input.ge
```

```
#               print(q_input_get_array)
#               print('\n')
              q_input_sum = 0
              for q_input_array_i in range(len(q_input_get
#                   q_input_sum = q_input_sum + q_input_get
                  received_data_array_q_input_temp = []
                  received_data_array_q_input_temp = q_inp
                  q_received_num_i = 0
                  #print('RDA pre ')
                  #print(received_data_array_q_input_temp)
                  for q_received_num_i in range(len(receiv
                      data_array_temp = (received_data_arr
                      #print('RDA data_array_temp ')
                      #print(data_array_temp)
                      data_temp = data_array_temp[1]
                      if(received_data_array_q_input_temp[
                          received_particle_id_num = int((

#                       if(received_particle_id_num == self
#                           continue
#                       else:
                          #print('R ')
                          #print(received_particle_id_num)

                      if(received_data_array_q_input_temp[
                          #print('RLX pre ')
                          #print(received_data_array_q_inp

                          received_location_X = float(((da
                          #print('RLX ')
                          #print(received_location_X)
                      if(received_data_array_q_input_temp[
                          received_location_Y = float(((da
                      if(received_data_array_q_input_temp[
                          received_mass = float(((data_tem
                      if(received_data_array_q_input_temp[
                          received_velocity_X = float(((da
                      if(received_data_array_q_input_temp[
                          received_velocity_Y = float(((da
                      if(received_data_array_q_input_temp[
```

```
        received_acceleration_X = float(
    if(received_data_array_q_input_temp[
        received_acceleration_Y = float(
    if(received_data_array_q_input_temp[
        received_size_radius = float(((c

    np_self_acceleration = np.array([sel
    np_received_acceleration = np.array(
    np_self_velocity = np.array([self_ve
    np_received_velocity = np.array([rec
    np_self_location = np.array([self_lo
    np_received_location = np.array([rec
    self_radius_2 = self_size_radius * 2
    received_radius_2 = received_size_ra



    if(received_particle_id_num != self_

        #(magnitude of attraction) = (un
        distance_between_self_and_receiv
        distance_between_self_and_receiv
        magnitude_of_attraction = univer
        total_mass_both_self_and_receive
        attraction_by_self_ratio = self_
        attraction_by_received_ratio = r

        np_vector_origin_from_self_to_re
        #np_vector_origin_from_self_to_r
        #vector_origin_from_self_to_rece
        #vector_normalized_from_self_to_
        np_vector_normalized_from_self_t
        #print(vector_normalized_from_se
        np_vector_origin_from_received_t
        #np_vector_origin_from_received_
        #vector_origin_from_received_to_
        #vector_normalized_from_receivec
        np_vector_normalized_from_receiv
        #print(vector_normalized_from_re
```

```
magnitude_of_attraction_by_self_
magnitude_of_attraction_by_self_
magnitude_of_attraction_by_recei
magnitude_of_attraction_by_recei
#magnitude_of_attraction_by_self
#magnitude_of_attraction_by_self
#magnitude_of_attraction_by_rece
#magnitude_of_attraction_by_rece

self_force_capacity_X = ((self_m
self_force_capacity_Y = ((self_m
#received_force_capacity_X = ((r
#received_force_capacity_Y = ((r
if(distance_between_self_and_rec
    self_force_capacity_X = ((se
    self_force_capacity_Y = ((se

    #np_self_velocity = np.array
    #np_received_velocity = np.a
    #np_self_location = np.array
    #np_received_location = np.a
    #self_radius_2 = self_size_r
    #received_radius_2 = receive


    list_collision_result_data_w
    list_collision_result_data_w
    #list_collision_result_data_
    #self_velocity_after_collisi
    #self_velocity_X = self_velo
    #self_velocity_Y = self_velo
    #received_velocity_after_col
    #received_velocity_X = recei
    #received_velocity_Y = recei

    list_collision_result_data_w
    list_collision_result_data_w
    #list_collision_result_data_
    self_acceleration_after_coll
```

```
        self_velocity_after_collisio
        self_acceleration_X = self_a
        self_acceleration_Y = self_a
        self_velocity_X = self_veloc
        self_velocity_Y = self_veloc
        received_acceleration_after_
        received_velocity_after_coll
        received_acceleration_X = re
        received_acceleration_Y = re
        received_velocity_X = receiv
        received_velocity_Y = receiv



    self_acceleration_X_renewed = se
    self_acceleration_Y_renewed = se
    #received_acceleration_X_renewed
    #received_acceleration_Y_renewed

    #Change in velocity.
    #(new velocity) = (original velo
    #Change in position.
    #(new position) = ((original vel

    length_of_time_elapsed = sleep_t
    self_velocity_X_renewed = self_v
    self_velocity_Y_renewed = self_v
    #received_velocity_X_renewed = r
    #received_velocity_Y_renewed = r

    if(self_location_X <= 0):
        #self_location_X_renewed = 0
        self_velocity_X_renewed = (s
        self_acceleration_X_renewed
    if(self_location_Y <= 0):
        #self_location_Y_renewed = 0
        self_velocity_Y_renewed = (s
        self_acceleration_Y_renewed
    if(self_location_X >= space_size
        #self_location_X_renewed = s
```

```
                    self_velocity_X_renewed = (s
                    self_acceleration_X_renewed
                if(self_location_Y >= space_size
                    #self_location_Y_renewed = s
                    self_velocity_Y_renewed = (s
                    self_acceleration_Y_renewed

                self_location_X_renewed = self_l
                self_location_Y_renewed = self_l

                self_location_X = self_location_
                self_location_Y = self_location_
                self_velocity_X = self_velocity_
                self_velocity_Y = self_velocity_
                self_acceleration_X = self_accel
                self_acceleration_Y = self_accel
            #output_str_data_format
            #particle_id_num:2,location_X:100,locati

        q_output_str = "particle_id_num:" + str(self_par
        for q_output_array_i in range(len(q_output_array
            if(q_output_array_i != self_particle_id_num)
                q_output_array[q_output_array_i].put(q_o
#        q_output_array.put(q_output_str)
#        print('OUT\n')
#        print(q_output_str + '\n')
#        print('\n')




#             if(q_input_sum >= spike_threshold):
#                 for q_output_array_i in range(len(q_out
#                     q_output_array[q_output_array_i].pu

        q_input_get_array = []
```

```
####for Windows
if __name__ == '__main__':
######

    # Initialize pygame
    pygame.init()
    #size = [1000, 800]
    space_size = [1000, 800]
    context_pygame = pygame.display.set_mode(space_size)
#####dame pygameはそれ自体がプロセスとして稼働するので、このプロ
    context_dummy = 0

    init_data_str_a1 = "particle_all_num:2,particle_id_n
    init_data_str_a2 = "particle_all_num:2,particle_id_n


#def cell_input(name,env_value,q_output_array,sleep_time
#def cell_output(name,env_value,q_input):
#def cell_neuron_middle(name,q_input,q_output_array,slee
#    cell_input_proc = Process(target=cell_input, args=(
    #particle_proc = Process(target=particle, args=(part
    particle_proc_a1 = Process(target=particle, args=(pa
    particle_proc_a2 = Process(target=particle, args=(pa
    #particle(name,q_input,q_output_array,sleep_time_len
#    cell_output_proc = Process(target=cell_output, args

#    cell_input_proc.start()
    particle_proc_a1.start()
    particle_proc_a2.start()
#    cell_output_proc.start()

    received_particle_id_num = 0
    received_location_X = 0
    received_location_Y = 0
    received_mass = 0
    received_velocity_X = 0
    received_velocity_Y = 0
    received_acceleration_X = 0
    received_acceleration_Y = 0
    received_size_radius = 0
```

```
    n = 1
    twopi = 2*math.pi
    dispScale = 1

    q_input_get_array = []

    running = True

    # Loop until the user clicks the close button.
    while running:
        # poll for events
        # pygame.QUIT event means the user clicked X to
        for event in pygame.event.get():
            if event.type == pygame.QUIT:
                running = False



#        time.sleep(sleep_time_length)

        #return_value = myQueue.empty()
        #return_value = myQueue.qsize()
        if(q_value_array_output[2].empty() == False):
            q_input_len_now = q_value_array_output[2].qs
            for q_input_num_i in range(q_input_len_now):
                    q_input_get_array.append((q_value_ar

            #print(q_input_get_array)
            #print('\n')
            q_input_sum = 0
            for q_input_array_i in range(len(q_input_get
#                q_input_sum = q_input_sum + q_input_get
                received_data_array_q_input_temp = []
                received_data_array_q_input_temp = q_inp
                q_received_num_i = 0
                #print('RDA pre ')
                #print(received_data_array_q_input_temp)
                for q_received_num_i in range(len(receiv
```

```
                        data_array_temp = (received_data_arr
                        #print('RDA data_array_temp ')
                        #print(data_array_temp)
                        data_temp = data_array_temp[1]
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_particle_id_num = int((

#                        if(received_particle_id_num == self
#                            continue
#                        else:
                            #print('R ')
                            #print(received_particle_id_num)

                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            #print('RLX pre ')
                            #print(received_data_array_q_inp

                            received_location_X = float(((da
                            #print('RLX ')
                            #print(received_location_X)
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_location_Y = float(((da
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_mass = float(((data_tem
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_velocity_X = float(((da
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_velocity_Y = float(((da
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_acceleration_X = float(
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_acceleration_Y = float(
                        if(received_data_array_q_input_temp[
                            received_size_radius = float(((d


            a_xr = [received_location_X]
            a_yr = [received_location_Y]
            a_r = [received_size_radius]
            a_color = ["white"]
```

```
        a_fx = [received_acceleration_X]
        a_fy = [received_acceleration_Y]

        # 画面を黒色(#000000)に塗りつぶし
        context_pygame.fill((0, 0, 0))

        drawParticles(n, a_xr, a_yr, a_r, a_color, a_fx,

#        drawParticles(n, a_xr, a_yr, a_r, a_color, a_fx
        # flip() the display to put your work on screen

        pygame.display.flip()

        q_input_get_array = []


    pygame.quit()









    #pw = Process(target=write, args=(q,))
    #pr = Process(target=read, args=(q,))

#    light = Process(target=lighter, args=(q_array[0], e
    #light.setDaemon(True)
#    light.start()

#    light2 = Process(target=lighter2, args=(q_array[1],
    #light.setDaemon(True)
#    light2.start()



#    car_s = Process(target=car, args=("MINI", q_array,
    #car.setDaemon(True)
#    car_s.start()
```

```
#    light_conn_p = Process(target=lighter_conn, args=(p
    #light.setDaemon(True)
#    light_conn_p.start()

#    light2_conn_p = Process(target=lighter2_conn, args=
    #light.setDaemon(True)
#    light2_conn_p.start()



#    car_s_conn_p = Process(target=car_s_conn, args=("MI
#    car_s_conn_p = Process(target=car_s_conn_no_event,
    #car.setDaemon(True)
#    car_s_conn_p.start()





    #def hello():
    #    print("hello, world")


    #t = Timer(1, hello)
    #t.start()  # 1秒後helloが実行される


###############################################################
###############################################################
###############################################################

## Summary results of underlying assumptions at the time
## 本计划创建时的基本假设结果摘要。
## Обобщенные результаты предположений, заложенных в осн
## このプログラムの作成時における基盤的な前提知識の要約。
## Zusammenfassende Ergebnisse der zugrunde liegenden An
```

Résumé des résultats des hypothèses sous-jacentes au
Resultados resumidos das suposições subjacentes no mo
Resultados resumidos de los supuestos subyacentes en
Hasil ringkasan dari asumsi-asumsi yang mendasari pad
Bu programın oluşturulduğu sırada altta yatan varsayı
이 프로그램이 만들어질 당시의 기본 가정에 대한 요약 결과입니다
Riepilogo dei risultati delle ipotesi sottostanti al

##

Components needed to run a process-based material b
Individuals and particles. The space in which they exi

#Spatial geographic information.
#Global cartographic information. Local cartographic inf
##The sum or superposition of the various forces of attr

#An individual or particle as a constituent of matter.
#The internal attributes and internal information of an
##Velocity and acceleration of an individual. The magnit
##The direction in which the individual is moving.
##The amount of heat generated by the individual. The de
##The XY coordinates of the individual's position.
##Mass of the individual. Mass per unit volume. Total ma
##Volume of the individual. Surface area of an individua

##The interaction between individuals.
##The sum of the forces of attraction and repulsion exer
##The sum of the external forces of attraction and repul

##Collisions and contacts between the individual and oth
##The identity or overlap of positions of both individua

##The law of conservation of force when such interactior
##To calculate, for each individual, the new velocity or
##Attractive force is constant and invariant as long as

#Factors that change the forces of attraction and repuls
##In the case of attraction. An increase or decrease in
Example. The breaking up, splitting, and diffusion of

```
# Example. The individual merges and fuses with each oth
#In the case of repulsion. An increase or decrease in th

#Fluid. The movement of multiple individuals in one supe
#Solid. A superclass of multiple individuals that are ur

#Static state. A motionless individual exerting a consta
# That it is a force that moves the surrounding individu
# Next. That it is the force that causes the surrounding
# It must be a positive force for the surrounding indivi
# It must be a negative force for the surrounding indivi

#Dynamics. That a moving individual exerts a repulsive f

#Pressure.
# A force applied from outside or inside an individual t
# A force applied from outside or inside an individual t

#The way an individual or particle moves. Linear motion.


#------
#Data communication between processes. That is, data com
#Queue.
#Exchanging various data with other individuals as other
#
#In each process.
#The input and output of the queue must both be array da
##To run an infinite loop inside the process, and to rep

#---
#Output of a queue.
#The physical location of the individual itself.
#The mass of the individual.
#The individual's own velocity and acceleration.
#The radius size of the individual itself.


#---
#Queue input.
```

```
#The physical location of another individual.
#The other individual's mass.
#Velocity and acceleration of the other individual.
#Radius size of the other individual.



#-----
#Numerical calculation inside the process.
#
#
#The physical position of the individual itself.
#The mass of the individual itself.
#Physical location of the other individual.
#The mass of the other individual.
#Calculate the force of attraction from the other indivi
#
#
#The physical position of the individual itself.
#The radius size of the individual itself.
#The physical location of the other individual.
#The radius size of the other individual.
#Calculate whether or not there is a collision between i


#---
#About the gravitational force.
#
#The magnitude of the gravitational force.
#The value is proportional to the product of the masses
#The value is inversely proportional to the square of th
#The value must be calculated by the following procedure
#(magnitude of attraction) = (universal gravitational co

#The universal gravitational constant. Its value must be


#---
#About repulsion.
#
```

```
#The mass of the body itself.
##The velocity and acceleration of the individual.
#The mass of another individual.
#Velocity and acceleration of the other individual.
##Based on the above four values, calculate the amount o


#---
#Calculation of the total force capacity.
#
#---
#About gravitational attraction.
#(magnitude of attraction) = (universal gravitational co
#---
#About repulsion.
#(the individual's own force capacity) = (the individual
#(Force capacity of the other individual) = (mass of the

#Adding together the above mentioned forces of attractio
#Based on the resulting balance of the forces of self an
#Calculate the individual's own new physical position ba

#---
#Acceleration.
#(the individual's own acceleration) = ((the individual'
#(acceleration of the other individual) = ((new velocity
#
#Relation between amount of force and acceleration.
#(the individual's own repulsion) = (the individual's ow
#(repulsion of the other individual) = (mass of the othe
#(magnitude of mutual attraction between self and others
#
#(Direction of mutual attraction between self and others
#If the sign is positive. The individual itself attracts
#When the sign is negative. The individual itself is att
#
#
#Change in velocity.
#(new velocity) = (original velocity) + ((acceleration)
#Change in position.
```

#(new position) = ((original velocity) * (length of elap

##########################

运行基于过程的材料行为模拟程序所需的组件。
个体和粒子。它们存在的空间。它们的状态随时间的变化。

#空间地理信息。
#全球地图信息。局部地图信息
##在其 XY 坐标上的各种吸引力和排斥力的总和或叠加。吸引力雷达。斥力

#作为物质成分的个体或粒子。
#个体的内部属性和内部信息。
##个体的速度和加速度。个体产生的斥力大小。
##个体运动的方向。
##个体产生的热量。个体产生的热量及其温度。
##个体位置的 XY 坐标。
##个体的质量。单位体积的质量。总质量。个体产生的重力大小。
##个体的体积。个体的表面积。

##个体之间的相互作用。
##个体受到的吸引力和排斥力的总和。
##个体受到的外部吸引力和排斥力的总和。它们的空间分布。

##个体与其他个体之间的碰撞和接触。这些个体之间相互施加的吸引力和排
##两个个体的位置相同或重叠。

##发生这种相互作用时的力守恒定律。保守力和能量力的总和。吸引力和排
##根据该定律，计算每个个体在两个个体之间施力后的新速度或加速度。它
##只要每个个体的质量不变，吸引力就是恒定不变的。

#改变每个个体吸引力和排斥力的因素#
##在吸引的情况下 个体质量的增减
#例如： 个体分解、分裂、扩散成多个更小的亚个体。个体引力的减小。个
例子。个体之间通过相互结合和相互粘附而融合成一个更大的单一实体。
#在斥力的情况下。个体速度或加速度的增加或减少。个体热量的增减。

#流体。多个个体在一个超类中的运动，同时保持其形状的可变性。液体。例
#固体。由多个个体组成的超类，这些个体相互结合为一体，静止或滚动，同

#静止状态。一动不动的个体对周围施加恒定的引力。
#它是一种使周围的个体移动的力 # That it is a force that moves
下一个 它是一种力量，使周围被自己吸引的个体在自己的作用下固定不动
对周围的人来说，它必须是一种积极的力量，无论是最初还是中间。积极的
最后，它必须对周围的人产生负面的影响。负动力就是踩刹车。

#动力。即运动的个体对其周围施加一种排斥力。它必须是一种使周围个体移

#压力#
#一种从外部或内部施加到个体上的力，使个体自身不动。
#从个体外部或内部施加的力，使个体停止，而个体本身不会停止。

#个体或粒子的运动方式。直线运动。曲线运动。往复运动。波浪运动

#------
#进程之间的数据通信。即个体本身与另一个个体之间的数据通信。
#队列。
#通过队列与其他个体作为其他进程交换各种数据。
#
#在每个进程中
#队列的输入和输出都必须是数组数据
#在进程内部运行一个无限循环，以固定的时间间隔，不间断地重复从外部获

#---
#队列的输出
#个体本身的物理位置#
#个体的质量
#个体自身的速度和加速度
#个体自身的半径大小

#---
#队列输入
#另一个个体的物理位置
#另一个个体的质量
#另一个人的速度和加速度

```
#另一个人的半径大小。



#------
#进程内部的数字计算。
#
#
#个体本身的物理位置。
#个体本身的质量。
#其他个体的物理位置
#对方的质量
#根据上述四个数值，计算来自另一个个体的吸引力。
#
#
#对方的物理位置
#个体本身的半径大小。
#其他个体的物理位置。
#其他个体的半径大小。
#根据上述四个值计算自身与另一个个体之间是否存在碰撞。


#---
#关于引力
#
#引力的大小#
#其值与自身和他人质量的乘积成正比。
#引力值与自身和他者之间距离的平方成反比。
#The value must be calculated by the following procedure
#（吸引力大小）＝（万有引力常数）＊（（本体质量）＊（他体质量））／（本

#万有引力常数。其值必须恒定。


#---
#关于斥力
#
#物体本身的质量#
##个体的速度和加速度
#另一个人的质量
```

#另一个人的速度和加速度
##根据以上四个数值，计算当自己和另一个人发生碰撞时，自己和另一个人

#---
#计算总受力能力。
#
#---
#关于引力#
#（吸引力大小）=（万有引力常数）*（（自身质量）*（对方质量））/（
#---
#关于斥力。
#（个体自身的受力能力） = （个体自身的质量） * （个体自身的加速度））
#（另一个人的受力能力）=（另一个人的质量）*（另一个人的加速度）

#将上述自己和他人的吸引力和排斥力相加。
#根据得出的自身和他者的力的平衡，分别计算出个人新的速度和加速度。
#根据上述结果计算出个人新的物理位置#

#---
#加速度
#个体自身的加速度）=（（个体自身的新速度）-（个体自身的原速度））/
#（其他个体的加速度）=（（其他个体的新速度）-（其他个体的原始速度
#
#力和加速度之间的关系。
#个体自身的斥力）=（个体自身的质量）*（个体自身的加速度
#（其他个体的斥力）=（其他个体的质量）*（其他个体的加速度）
#（自身与他人之间的相互吸引力大小）=（万有引力常数）*（（自身质量
#
#自己与他人之间的相互吸引力方向）= （（自己的质量）-（他人的质量）
#如果符号为正。个体本身会吸引其他个体向自己靠近。
#如果符号为负数。个体本身被其他个体吸引。
#
#
#速度的变化
#（新速度）=（原速度）+（（加速度）*（经过的时间长度））
#位置变化。
#（新位置）= （（原始速度）*（所用时间长度）） + （1/2） * （加速度

```
###########################

#### Компоненты, необходимые для запуска программы модел
# Отдельные люди и частицы. Пространство, в котором они

#Пространственная географическая информация.
#Глобальная картографическая информация. Локальная карто
##Сумма или суперпозиция различных сил притяжения и отта

#Индивид или частица как составная часть материи.
#Внутренние атрибуты и внутренняя информация индивидуума
##Скорость и ускорение индивида. Величина силы отталкива
##Направление, в котором движется индивид.
##Количество тепла, выделяемого индивидуумом. Степень те
##Координаты XY положения индивидуума.
##Масса особи. Масса на единицу объема. Общая масса. Вел
##Объем индивидуума. Площадь поверхности индивидуума.

##Взаимодействие между особями.
##Сумма сил притяжения и отталкивания, действующих на ос
##Сумма внешних сил притяжения и отталкивания, действующ

##Столкновения и контакты между индивидом и другими инди
##Одинаковость или совпадение позиций обоих индивидов.

##Закон сохранения силы при таких взаимодействиях. Сумма
##Вычислить для каждого индивидуума новую скорость или у
##Сила притяжения постоянна и неизменна до тех пор, пока

#Факторы, которые изменяют силы притяжения и отталкивани
##В случае притяжения. Увеличение или уменьшение массы и
# Пример. Разбиение, расщепление и диффузия индивидуума
# Пример. Индивидуумы сливаются и сливаются друг с друго
#В случае отталкивания. Увеличение или уменьшение скорос

#Флюид. Движение нескольких индивидуумов в одном суперкл
#Твердое тело. Суперкласс множества индивидуумов, которы
```

```
#Статичное состояние. Неподвижный индивид, оказывающий п
# Что это сила, которая движет окружающий индивид таким
# Далее. Что это сила, которая заставляет окружающих инд
# Она должна быть положительной силой для окружающих инд
# В конце концов, она должна быть отрицательной силой дл

# Динамика. Движущийся индивид оказывает отталкивающую с

#Давление.
# Сила, приложенная снаружи или изнутри индивида, чтобы
# Сила, приложенная снаружи или изнутри индивида, чтобы

# Способ, которым движется индивид или частица. Линейное




#-----
#Data communication between processes. То есть обмен дан
#Очередь.
#Обмен различными данными с другими индивидуумами и дру
#
#В каждом процессе.
#Вход и выход очереди должны быть массивами данных.
##Чтобы запустить бесконечный цикл внутри процесса и пов

#---
#Выход очереди.
#Физическое местоположение самого индивидуума.
#Масса индивидуума.
#Собственная скорость и ускорение индивидуума.
#Размер радиуса самой особи.


#---
#Вход в очередь.
#Физическое местоположение другого индивидуума.
#Масса другого индивидуума.
#Скорость и ускорение другого индивидуума.
#Радиус другого человека.
```

```
#-----
#Численные вычисления внутри процесса.
#
#
#Физическое положение самого индивидуума.
#Масса самого индивидуума.
#Физическое положение другого индивидуума.
#Масса другого индивидуума.
#Рассчитайте силу притяжения со стороны другого человека
#
#
#Физическое положение самого индивидуума.
# Размер радиуса самого человека.
# Физическое положение другого индивидуума.
#Размер радиуса другого индивидуума.
# Вычислить, есть ли столкновение между ним и другим, ос


#---
#О гравитационной силе.
#
#Величина гравитационной силы.
# Величина пропорциональна произведению масс себя и друг
#Величина обратно пропорциональна квадрату расстояния ме
#Величина должна быть рассчитана следующим образом.
#(величина притяжения) = (универсальная гравитационная п

#Универсальная гравитационная постоянная. Ее значение до


#---
#Об отталкивании.
#
#Масса самого тела.
##Скорость и ускорение человека.
#Масса другого человека.
#Скорость и ускорение другого человека.
```

```
##На основе вышеприведенных четырех значений рассчитайте


#---
#Расчет общей мощности силы.
#
#---
#О гравитационном притяжении.
#(величина притяжения) = (универсальная гравитационная п
#---
#Отталкивание.
#(собственная сила индивида) = (собственная масса индиви
#(Силовая способность другого индивидуума) = (масса друг

#Сложение вышеупомянутых сил притяжения и отталкивания с
#На основе полученного баланса сил себя и других вычисли
#Вычислите новое физическое положение индивидуума, основ

#---
#Ускорение.
#(собственное ускорение человека) = ((собственная новая
#(ускорение другого индивидуума) = ((новая скорость друг
#
#Соотношение между количеством силы и ускорением.
#(собственное отталкивание индивидуума) = (собственная м
#(отталкивание другого индивида) = (масса другого индиви
#(величина взаимного притяжения между собой и другими) =
#
#(Направление взаимного притяжения между собой и другими
#Если знак положительный. Сам индивид притягивает к себе
#Если знак отрицательный. Сам индивид притягивает к себе
#
#
#Изменение скорости.
#(новая скорость) = (исходная скорость) + ((ускорение) *
#Изменение положения.
#(новое положение) = ((исходная скорость) * (продолжител
```

##########################

####プロセスベースの物質動作シミュレーションプログラムを動かすため
#　個体や粒子。それらが存在する空間。時間経過に伴う、それらの状態の

#空間地理的な情報。
#グローバルな地図情報。ローカルな地図情報。
##そのXY座標における、各種の引力と斥力の、合計や重なり合い。引力レ

#物質の構成要素としての、個体や粒子。
#ある個体における、内部属性や内部情報。
##その個体の、速度と加速度。その個体が行使する斥力の大きさ。
##その個体の、進行方向。
##その個体の、熱量。その個体の、発熱の度合いや温度。
##その個体の、位置のXY座標。
##その個体の、質量。単位体積当たりの質量。総質量。その個体が行使す
##その個体の、体積。その個体の、表面積。

#複数の個体の間における、相互作用。
##その個体に対して掛かる、引力と斥力の、合計。
##その個体が対外的に行使する、引力と斥力の、合計。それらの空間的な

##その個体と他の個体との衝突や接触。それらの個体の間における、引力
##双方の個体における、位置の同一性や重複性。

#そうした相互作用の発生時における、力量保存の法則。保存性の力とエネ
##その法則に従って、双方の個体同士の力の行使の後における、新たな速
##引力は、各々の個体における質量が変化しない限り、一定不変であるこ

#各々の個体における、引力や斥力の変化要因。
#引力の場合。その個体の質量が増減すること。
#　例。その個体が、より小さな複数の部分個体へと、割れて分裂し拡散す
#　例。その個体が、より大きな単一個体へと、相互結合し相互癒着するこ
#斥力の場合。その個体の速度や加速度が増減すること。その個体の熱量が

#流体。複数の個体が、互いに一つにまとまったスーパークラスの状態で、
#固体。複数の個体が、互いに一つにまとまったスーパークラスの状態で、

#静態。動かない個体は、周囲に対して、絶えず引力を及ぼしていること。
#　それは、周囲の個体を、それ自身へと引き寄せるように動かす力である
#　次に。それは、それ自身へと引き寄せられた周囲の個体を、それ自身の
#　それは、初期的あるいは中途的には、周囲の個体にとって、プラスの動
#　それは、終局的には、周囲の個体にとって、マイナスの動力であること

#動態。動く個体は、周囲に対して、斥力を及ぼしていること。それは、周

#圧力。
#　それ自身では動こうとしないある個体を動かそうとして、その個体の外
#　それ自身では止まろうとしないある個体を止めようとして、その個体の

#個体や粒子の動き方。直線運動。曲線運動。往復運動。波動。

#------
#プロセス間におけるデータ通信。それは、その個体自身と他個体との間に
#
#キューを通して、他のプロセスとしての他の個体と、各種データのやり取
#
#各プロセスにおいて。
#キューの入力と出力は、共に配列データとすること。
#プロセス内部で無限ループを実行して、外部からの入力の取得と、それに

#---
#キューの出力。
#その個体自身の、物理的位置。
#その個体自身の、質量。
#その個体自身の、速度と加速度。
#その個体自身の、半径サイズ。

#---
#キューの入力。
#他の個体の、物理的位置。
#他の個体の、質量。
#他の個体の、速度と加速度。

#他の個体の、半径サイズ。

#------
#プロセス内部における数値計算。
#
#
#その個体自身の、物理的位置。
#その個体自身の、質量。
#他の個体の、物理的位置。
#他の個体の、質量。
#上記の４つの数値に基づいて、その他個体からの引力を、計算すること。
#
#
#その個体自身の、物理的位置。
#その個体自身の、半径サイズ。
#他の個体の、物理的位置。
#他の個体の、半径サイズ。
#上記の４つの数値に基づいて、自他の衝突の有無を、計算すること。

#---
#引力について。
#
#引力の大きさ。
#その値は、自他の質量の積に、比例すること。
#その値は、自他の距離の２乗に、反比例すること。
#その値は、以下の手順で計算されること。
#（引力の大きさ）＝（万有引力定数）＊（（その個体自身の質量）＊（他
#万有引力定数。その値は、一定であること。

#---
#斥力について。
#
#その個体自身の、質量。
#その個体自身の、速度と加速度。
#他の個体の、質量。
#他の個体の、速度と加速度。

```
#上記の４つの数値に基づいて、自他の衝突時における、その個体自身が他


#---
#力量の総合計算。
#
#引力について。
#（引力の大きさ）=（万有引力定数）*（（その個体自身の質量）*（他
#
#斥力について。
#（その個体自身の力量）=（その個体自身の質量）*（その個体自身の加
#（他個体の力量）=（他個体の質量）*（他個体の加速度）
#
#上記の自他の引力と斥力とを、足し合わせること。
#その結果算出される自他の力量バランスを元に、その個体自身の、新たな
#その結果を元に、その個体自身の新たな物理的位置を、算出すること。
#
#加速度。
#（その個体自身の加速度）=（（その個体自身の新たな速度）ー（その個
#（他個体の加速度）=（（他個体の新たな速度）ー（他個体の元の速度）
#
#力量と加速度との関係。
#（その個体自身の斥力）=（その個体自身の質量）*（その個体自身の加
#（他個体の斥力）=（他個体の質量）*（他個体の加速度）
#（自他相互の引力の大きさ）=（万有引力定数）*（（その個体自身の質
#
#（自他相互の引力の向き）=（（その個体自身の質量）ー（他個体の質量
#その符号がプラスの場合。その個体自身が、他個体を、その個体自身へと
#その符号がマイナスの場合。その個体自身が、他個体へと引き寄せられる
#
#
#速度の変化。
#（新たな速度）=（元の速度）+（（加速度）*（経過時間の長さ））
#位置の変化。
#（新たな位置）=（（元の速度）*（経過時間の長さ））+（１／２）*




##########################
```

Komponenten, die zur Ausführung eines prozessbasier
Individuen und Partikel. Der Raum, in dem sie existier

#Räumliche geografische Informationen.
#Globale kartografische Informationen. Lokale kartografi
##Die Summe oder Überlagerung der verschiedenen Anziehun

#Ein Individuum oder Teilchen als Bestandteil der Materi
#Die inneren Eigenschaften und die inneren Informationen
##Geschwindigkeit und Beschleunigung eines Individuums.
##Die Richtung, in die sich das Individuum bewegt.
##Die vom Individuum erzeugte Wärmemenge. Der Grad der v
##Die XY-Koordinaten der Position des Individuums.
##Masse des Individuums. Masse pro Volumeneinheit. Die G
##Volumen des Individuums. Oberfläche eines Individuums.

##Die Wechselwirkung zwischen den Individuen.
##Die Summe der Anziehungs- und Abstoßungskräfte, die au
##Die Summe der äußeren Anziehungs- und Abstoßungskräfte

##Kollisionen und Kontakte zwischen dem Individuum und a
##Die Identität oder Überschneidung der Positionen der b

##Das Gesetz der Erhaltung der Kraft, wenn solche Wechse
##Die Berechnung der neuen Geschwindigkeit oder Beschleu
##Die Anziehungskraft ist konstant und unveränderlich, s

#Faktoren, die die Anziehungs- und Abstoßungskräfte in j
##Im Falle der Anziehung. Eine Zunahme oder Abnahme der
Beispiel. Das Aufbrechen, Aufspalten und Verteilen ein
Beispiel. Das Individuum fusioniert und verschmilzt mi
#Im Falle der Abstoßung. Eine Zunahme oder Abnahme der G

#Flüssig. Die Bewegung mehrerer Individuen in einer Ober
#Festkörper. Eine Superklasse von mehreren Individuen, d

#Statischer Zustand. Ein unbewegliches Individuum, das e
Dass es eine Kraft ist, die das umgebende Individuum s
Weiter. Dass es die Kraft ist, die bewirkt, dass die u

```
# Sie muss eine positive Kraft für die umgebenden Indivi
# Sie muss am Ende eine negative Kraft für die umgebende

#Dynamik. Dass ein sich bewegendes Individuum eine absto

#Druck.
# Eine Kraft, die von außen oder innen auf ein Individuu
# Eine Kraft, die von außen oder innen auf ein Individuu

#Die Art und Weise, wie sich ein Individuum oder ein Tei



#-----
#Datenkommunikation zwischen Prozessen. Das heißt, die D
#Warteschlange.
#Austausch verschiedener Daten mit anderen Individuen al
#
#In jedem Prozess.
#Die Eingabe und die Ausgabe der Warteschlange müssen be
##Um eine Endlosschleife innerhalb des Prozesses laufen

#---
#Ausgabe einer Warteschlange.
#Der physische Ort des Individuums selbst.
#Die Masse des Individuums.
#Die Geschwindigkeit und Beschleunigung des Individuums
#Die Größe des Radius des Individuums selbst.


#---
#Eingabe in die Warteschlange.
#Die physische Position eines anderen Individuums.
#Die Masse des anderen Individuums.
#Geschwindigkeit und Beschleunigung des anderen Individu
#Größe des Radius des anderen Individuums.



#-----
#Numerische Berechnung innerhalb des Prozesses.
```

```
#
#
#Die physische Position des Individuums selbst.
#Die Masse des Individuums selbst.
#Physikalische Position des anderen Individuums.
#Die Masse des anderen Individuums.
#Berechnen Sie die Anziehungskraft des anderen Individuu
#
#
#Die physische Position des Individuums selbst.
#Die Größe des Radius des Individuums selbst.
#Die physische Position des anderen Individuums.
#Die Größe des Radius des anderen Individuums.
#Berechne anhand der vier obigen Werte, ob eine Kollisio


#---
#Über die Gravitationskraft.
#
#Die Größe der Gravitationskraft.
#Der Wert ist proportional zum Produkt aus den Massen vo
#Der Wert ist umgekehrt proportional zum Quadrat des Abs
#Der Wert muss nach folgendem Verfahren berechnet werden
#(Größe der Anziehung) = (universelle Gravitationskonsta

#Die universelle Gravitationskonstante. Ihr Wert muss ko


#---
#Über die Abstoßung.
#
#Die Masse des Körpers selbst.
##Die Geschwindigkeit und Beschleunigung des Individuums
#Die Masse eines anderen Individuums.
#Geschwindigkeit und Beschleunigung des anderen Individu
##Berechnen Sie auf der Grundlage der vier oben genannte


#---
#Berechnung der gesamten Kraftkapazität.
```

```
#
#---
#Über die Anziehungskraft der Schwerkraft.
#(Größe der Anziehung) = (universelle Gravitationskonsta
#---
#Über die Abstoßung.
#(eigenes Kraftvermögen des Individuums) = (eigene Masse
#(Kraftkapazität des anderen Individuums) = (Masse des a

#Addiert man die oben genannten Anziehungs- und Abstoßur
#Berechnen Sie auf der Grundlage des sich ergebenden Gle
#Berechne die neue physische Position des Individuums ba

#---
#Beschleunigung.
#(die eigene Beschleunigung) = ((die eigene neue Geschwi
#(Beschleunigung des anderen Individuums) = ((neue Gesch
#
#Relation zwischen Kraft und Beschleunigung.
#(eigene Abstoßung des Individuums) = (eigene Masse des
#(Abstoßung des anderen Individuums) = (Masse des andere
#(Größe der gegenseitigen Anziehung zwischen sich selbst
#
#(Richtung der gegenseitigen Anziehung zwischen sich sel
#Wenn das Vorzeichen positiv ist. Das Individuum selbst
#Wenn das Vorzeichen negativ ist. Das Individuum selbst
#
#
#Änderung der Geschwindigkeit.
#(neue Geschwindigkeit) = (ursprüngliche Geschwindigkeit
#Änderung der Position.
#(neue Position) = ((ursprüngliche Geschwindigkeit) * (I




##########################
```

Composants nécessaires à l'exécution d'un programme
Individus et particules. L'espace dans lequel ils exis

#Informations géographiques spatiales.
#Informations cartographiques globales. Information cart
##La somme ou la superposition des différentes forces d'

#Un individu ou une particule en tant que constituant de
#Les attributs internes et les informations internes d'u
##La vitesse et l'accélération d'un individu. L'ampleur
##La direction dans laquelle l'individu se déplace.
##La quantité de chaleur générée par l'individu. Le degr
##Les coordonnées XY de la position de l'individu.
##Masse de l'individu. Masse par unité de volume. La mas
##Volume de l'individu. Surface d'un individu.

##L'interaction entre les individus.
##La somme des forces d'attraction et de répulsion exerc
##La somme des forces externes d'attraction et de répuls

##Collisions et contacts entre l'individu et d'autres in
##L'identité ou le chevauchement des positions des deux

##La loi de conservation de la force lors de ces interac
##Calculer, pour chaque individu, la nouvelle vitesse ou
##La force de répulsion est constante et invariante tant

#Les facteurs qui modifient les forces d'attraction et d
##Dans le cas de l'attraction. Une augmentation ou une d
Exemple. L'éclatement, la division et la diffusion d'u
Exemple. Les individus fusionnent et s'unissent les un
#Dans le cas de la répulsion. Une augmentation ou une di

#Fluide. Le mouvement de plusieurs individus dans une su
#Solide. Une superclasse d'individus multiples qui sont

#État statique. Un individu immobile exerçant une force
Qu'il s'agit d'une force qui déplace l'individu enviro
Suivant. Que c'est la force qui fait que les individus
Qu'elle soit une force positive pour les individus qui

```
# Elle doit être une force négative pour les individus q

#Dynamique. Qu'un individu en mouvement exerce une force

#La pression.
# Une force appliquée de l'extérieur ou de l'intérieur d
# Une force appliquée de l'extérieur ou de l'intérieur d

#La façon dont un individu ou une particule se déplace.


#-----
#Communication de données entre processus. C'est-à-dire
#File d'attente.
#Échange de diverses données avec d'autres individus ou
#
#Dans chaque processus.
#L'entrée et la sortie de la file d'attente doivent être
##Pour exécuter une boucle infinie à l'intérieur du proc

#---
#Sortie d'une file d'attente.
#L'emplacement physique de l'individu lui-même.
#La masse de l'individu.
#La vitesse et l'accélération de l'individu.
#La taille du rayon de l'individu lui-même.


#---
#Entrée de la file d'attente.
#L'emplacement physique d'un autre individu.
#La masse de l'autre individu.
#La vitesse et l'accélération de l'autre individu.
#La taille du rayon de l'autre individu.



#-----
#Calcul numérique à l'intérieur du processus.
#
```

```
#
#La position physique de l'individu lui-même.
#La masse de l'individu lui-même.
#La position physique de l'autre individu.
#La masse de l'autre individu.
#Calculez la force d'attraction de l'autre individu en f
#
#
#La position physique de l'individu lui-même.
#La taille du rayon de l'individu lui-même.
#La position physique de l'autre individu.
#La taille du rayon de l'autre individu.
#Calculer s'il y a ou non une collision entre lui-même e


#---
#A propos de la force gravitationnelle.
#
#L'ampleur de la force gravitationnelle.
#La valeur est proportionnelle au produit des masses de
#La valeur est inversement proportionnelle au carré de l
#La valeur doit être calculée par la procédure suivante.
#(magnitude de l'attraction) = (constante universelle de

#La constante universelle de gravitation. Sa valeur doit


#---
#A propos de la répulsion.
#
#La masse du corps lui-même.
##La vitesse et l'accélération de l'individu.
#La masse d'un autre individu.
#La vitesse et l'accélération de l'autre individu.
##Sur la base des quatre valeurs ci-dessus, calculez la


#---
#Calcul de la capacité de force totale.
#
```

```
#---
#A propos de l'attraction gravitationnelle.
#(magnitude de l'attraction) = (constante universelle de
#---
#A propos de la répulsion.
#(capacité de force de l'individu) = (masse de l'indivic
#(Capacité de force de l'autre individu) = (masse de l'a

#En additionnant les forces d'attraction et de répulsior
#En se basant sur l'équilibre des forces de soi et des a
#Calculer la nouvelle position physique de l'individu er

#---
#Accélération.
#(accélération de l'individu) = ((nouvelle vitesse de l'
#(accélération de l'autre individu) = ((nouvelle vitesse
#
#Relation entre la quantité de force et l'accélération.
#(répulsion de l'individu) = (masse de l'individu) * (ac
#(répulsion de l'autre individu) = (masse de l'autre inc
#(magnitude de l'attraction mutuelle entre soi et les au
#
#(Direction de l'attraction mutuelle entre soi et les au
#Si le signe est positif. L'individu lui-même attire les
#Lorsque le signe est négatif. L'individu lui-même est a
#
#
#Changement de vitesse.
#(nouvelle vitesse) = (vitesse initiale) + ((accélératic
#Changement de position.
#(nouvelle position) = ((vitesse initiale) * (durée du t
```

```
##########################
```

Componentes necessários para executar um programa c

Indivíduos e partículas. O espaço em que eles existem.

#Informações geográficas espaciais.
#Informações cartográficas globais. Informações cartográ
##A soma ou a superposição das várias forças de atração

#Um indivíduo ou partícula como um constituinte da matér
#Os atributos internos e as informações internas de um i
##Velocidade e aceleração de um indivíduo. A magnitude c
##A direção na qual o indivíduo está se movendo.
##A quantidade de calor gerada pelo indivíduo. O grau de
##As coordenadas XY da posição do indivíduo.
##Massa do indivíduo. Massa por unidade de volume. Massa
##Volume do indivíduo. Área de superfície de um indivídu

##A interação entre os indivíduos.
##A soma das forças de atração e repulsão exercidas sobr
##A soma das forças externas de atração e repulsão exerc

##Colisões e contatos entre o indivíduo e outros indivíc
##A identidade ou sobreposição de posições de ambos os i

##A lei de conservação da força quando essas interações
##Calcular, para cada indivíduo, a nova velocidade ou ac
##A força de atração é constante e invariável, desde que

#Fatores que alteram as forças de atração e repulsão em
##No caso da atração. Um aumento ou uma diminuição na ma
Exemplo. A quebra, a divisão e a difusão de um indivíc
Exemplo. O indivíduo se funde e se funde com os outros
#No caso de repulsão. Um aumento ou uma diminuição na ve

#Fluido. O movimento de vários indivíduos em uma supercl
#Sólido. Uma superclasse de vários indivíduos que são ur

#Estado estático. Um indivíduo imóvel que exerce uma for
Que é uma força que move o indivíduo ao redor de forma
Próximo. Que é a força que faz com que os indivíduos a
Deve ser uma força positiva para os indivíduos ao redo
Deve ser uma força negativa para os indivíduos ao redo

```
#Dinâmica. Que um indivíduo em movimento exerce uma forç

#Pressão.
# Uma força aplicada de fora ou de dentro de um indivídu
# Uma força aplicada de fora ou de dentro de um indivídu

#A maneira como um indivíduo ou partícula se move. Movim




#-----
#Comunicação de dados entre processos. Ou seja, a comuni
#Fila.
#Troca de vários dados com outros indivíduos e outros pr
#
#Em cada processo.
#A entrada e a saída da fila devem ser dados de matriz.
##Para executar um loop infinito dentro do processo e re

#---
#Saída de uma fila.
#A localização física do próprio indivíduo.
#A massa do indivíduo.
#A velocidade e a aceleração do próprio indivíduo.
#O tamanho do raio do próprio indivíduo.


#---
#Entrada da fila.
#A localização física de outro indivíduo.
#A massa do outro indivíduo.
#Velocidade e aceleração do outro indivíduo.
#Tamanho do raio do outro indivíduo.



#-----
#Cálculo numérico dentro do processo.
#
```

```
#
#A posição física do próprio indivíduo.
#A massa do próprio indivíduo.
#Localização física do outro indivíduo.
#A massa do outro indivíduo.
#Calcule a força de atração do outro indivíduo com base
#
#
#A posição física do próprio indivíduo.
#O tamanho do raio do próprio indivíduo.
#A localização física do outro indivíduo.
#O tamanho do raio do outro indivíduo.
#Calcule se há ou não uma colisão entre ele e o outro co


#---
#Sobre a força gravitacional.
#
#A magnitude da força gravitacional.
#O valor é proporcional ao produto das massas de si mesm
#O valor é inversamente proporcional ao quadrado da dist
#O valor deve ser calculado pelo seguinte procedimento.
#(magnitude da atração) = (constante gravitacional unive

#A constante gravitacional universal. Seu valor deve ser


#---
#Sobre a repulsão.
#
#A massa do próprio corpo.
##A velocidade e a aceleração do indivíduo.
#A massa de outro indivíduo.
#Velocidade e aceleração do outro indivíduo.
##Com base nos quatro valores acima, calcule a quantidad


#---
#Cálculo da capacidade de força total.
#
```

```
#---
#Sobre a atração gravitacional.
#(magnitude da atração) = (constante gravitacional unive
#---
#Sobre a repulsão.
#(a capacidade de força do próprio indivíduo) = (a massa
#(Capacidade de força do outro indivíduo) = (massa do ou

#Somando as forças de atração e repulsão de si mesmo e o
#Com base no equilíbrio resultante das forças de si mesm
#Calcule a nova posição física do indivíduo com base no

#---
#Aceleração.
#(a aceleração do próprio indivíduo) = ((a nova velocida
#(aceleração do outro indivíduo) = ((nova velocidade do
#
#Relação entre a quantidade de força e a aceleração.
#(a repulsão do próprio indivíduo) = (a massa do próprio
#(repulsão do outro indivíduo) = (massa do outro indivíd
#(magnitude da atração mútua entre o eu e os outros) = (
#
#(Direção da atração mútua entre o eu e os outros) = mai
#Se o sinal for positivo. O próprio indivíduo atrai outr
#Quando o sinal for negativo. O próprio indivíduo é atra
#
#
#Mudança na velocidade.
#(nova velocidade) = (velocidade original) + ((aceleraçã
#Mudança de posição.
#(nova posição) = ((velocidade original) * (duração do t




##########################
```

Componentes necesarios para ejecutar un programa de
Individuos y partículas. El espacio en el que existen.

#Información geográfica espacial.
#Información cartográfica global. Información cartográfi
#La suma o superposición de las distintas fuerzas de atr

#Un individuo o partícula como constituyente de la mater
#Los atributos internos y la información interna de un i
##Velocidad y aceleración de un individuo. La magnitud c
##La dirección en la que se mueve el individuo.
##La cantidad de calor generada por el individuo. El gra
##Las coordenadas XY de la posición del individuo.
##Masa del individuo. Masa por unidad de volumen. Masa t
##Volumen del individuo. Superficie del individuo.

##La interacción entre individuos.
##La suma de las fuerzas de atracción y repulsión ejerci
##La suma de las fuerzas externas de atracción y repulsi

##Colisiones y contactos entre el individuo y otros indi
##La identidad o superposición de posiciones de ambos in

##La ley de conservación de la fuerza cuando se producen
##Calcular, para cada individuo, la nueva velocidad o ac
##La fuerza de atracción es constante e invariante mient

#Factores que modifican las fuerzas de atracción y repul
##En el caso de la atracción. Un aumento o disminución c
#Ejemplo. La ruptura, división y difusión de un individu
Ejemplo. El individuo se fusiona y se funde con los de
#En el caso de la repulsión. Un aumento o disminución de

#Fluido. El movimiento de múltiples individuos en una su
#Sólido. Superclase de múltiples individuos que se unen

#Estado estático. Un individuo inmóvil que ejerce una fu
Que es una fuerza que mueve al individuo circundante c
Siguiente. Que es la fuerza que hace que los individuo
Que sea una fuerza positiva para los individuos circun

```
# Debe ser una fuerza negativa para los individuos circu

#Dinámica. Que un individuo en movimiento ejerza una fue

#Presión.
# Una fuerza aplicada desde fuera o dentro de un indivic
#Fuerza aplicada desde fuera o dentro de un individuo pa

#La forma en que se mueve un individuo o partícula. Movi




#-----
#Comunicación de datos entre procesos. Es decir, comunic
#Cola.
#Intercambio de datos diversos con otros individuos como
#
#En cada proceso.
#La entrada y la salida de la cola deben ser ambas datos
##Ejecutar un bucle infinito dentro del proceso, y repet

#---
#Salida de una cola.
#La ubicación física del propio individuo.
#La masa del individuo.
#La velocidad y aceleración del propio individuo.
#El tamaño del radio del propio individuo.


#---
#Entrada de cola.
#La ubicación física de otro individuo.
#La masa del otro individuo.
#Velocidad y aceleración del otro individuo.
#Tamaño del radio del otro individuo.




#-----
#Cálculo numérico dentro del proceso.
```

```
#
#
#La posición física del propio individuo.
#La masa del propio individuo.
#La posición física del otro individuo.
#La masa del otro individuo.
#Calcular la fuerza de atracción del otro individuo en b
#
#
#La posición física del propio individuo.
#El tamaño del radio del propio individuo.
#La posición física del otro individuo.
#El tamaño del radio del otro individuo.
#Calcular si hay o no colisión entre el propio individuo


#---
#Sobre la fuerza gravitacional.
#
#La magnitud de la fuerza gravitatoria.
#El valor es proporcional al producto de las masas propi
#El valor es inversamente proporcional al cuadrado de la
#El valor debe calcularse mediante el siguiente procedim
#(magnitud de la atracción) = (constante gravitatoria un

#La constante gravitatoria universal. Su valor debe ser


#---
#Sobre la repulsión.
#
#La masa del propio cuerpo.
##La velocidad y aceleración del individuo.
#La masa de otro individuo.
#Velocidad y aceleración del otro individuo.
##En base a los cuatro valores anteriores, calcula la ca


#---
#Cálculo de la capacidad de fuerza total.
```

```
#
#---
#De la atracción gravitatoria.
#(magnitud de la atracción) = (constante gravitatoria ur
#---
#Sobre la repulsión.
#(capacidad de fuerza del propio individuo) = (masa del
#(Capacidad de fuerza del otro individuo) = (masa del ot

#Sumando las fuerzas mencionadas de atracción y repulsió
#En base al equilibrio resultante de las fuerzas propias
#Calcular la nueva posición física del individuo basada

#---
#Aceleración.
#(aceleración del propio individuo) = ((nueva velocidad
#(aceleración del otro individuo) = ((nueva velocidad de
#
#Relación entre cantidad de fuerza y aceleración.
#(repulsión del propio individuo) = (masa del propio ind
#(repulsión del otro individuo) = (masa del otro individ
#(magnitud de la atracción mutua entre el individuo y lo
#
#(Dirección de la atracción mutua entre uno mismo y los
#Si el signo es positivo. El propio individuo atrae haci
#Si el signo es negativo. El propio individuo es atraído
#
#
#Cambio de velocidad.
#(nueva velocidad) = (velocidad original) + ((aceleració
#Cambio de posición.
#(nueva posición) = ((velocidad original) * (duración de




###########################
```

Komponen yang diperlukan untuk menjalankan program
Individu dan partikel. Ruang tempat mereka berada. Tra

#Informasi geografis spasial.
#Informasi kartografi global. Informasi kartografi lokal
##Jumlah atau superposisi dari berbagai gaya tarik dan g

#Sebuah individu atau partikel sebagai penyusun materi.
#Atribut internal dan informasi internal individu.
##Kecepatan dan percepatan suatu individu. Besarnya gaya
##Arah pergerakan individu.
##Jumlah panas yang dihasilkan oleh individu. Tingkat pa
Koordinat XY dari posisi individu.
##Massa individu. Massa per satuan volume. Massa total.
##Volume individu. Luas permukaan individu.

##Interaksi antar individu.
##Jumlah gaya tarik dan gaya tolak yang diberikan pada i
##Jumlah gaya tarik dan tolak eksternal yang diberikan o

##Tabrakan dan kontak antara individu dengan individu la
##Identitas atau tumpang tindih posisi kedua individu.

##Hukum kekekalan gaya ketika interaksi tersebut terjadi
##Untuk menghitung, untuk setiap individu, kecepatan ata
##Gaya tarik-menarik adalah konstan dan tidak berubah-ub

#Faktor-faktor yang mengubah gaya tarik dan gaya tolak p
##Dalam kasus daya tarik. Peningkatan atau penurunan mas
Contoh. Pecahnya, terpecahnya, dan menyebarnya suatu i
Contoh. Individu bergabung dan menyatu satu sama lain
#Dalam kasus tolakan. Peningkatan atau penurunan kecepat

#Cairan. Pergerakan beberapa individu dalam satu superke
#Padat. Superkelas yang terdiri dari beberapa individu y

#Keadaan statis. Sebuah benda yang tidak bergerak yang m
Bahwa itu adalah gaya yang menggerakkan individu di se
Selanjutnya. Bahwa itu adalah kekuatan yang menyebabka
Itu harus menjadi kekuatan positif bagi individu-indiv

```
# Ini harus menjadi kekuatan negatif bagi individu-indiv

#Dinamika. Bahwa individu yang bergerak memberikan kekua

# Tekanan.
# Sebuah gaya yang diterapkan dari luar atau dalam indiv
# Gaya yang diberikan dari luar atau dalam individu untu

#Cara sebuah individu atau partikel bergerak. Gerak lini


#-----
#Komunikasi data antar proses. Yaitu, komunikasi data an
#Antrian.
#Pertukaran berbagai data dengan individu lain sebagai p
#
#Dalam setiap proses.
#Masukan dan keluaran dari antrian harus berupa data arr
##Untuk menjalankan perulangan tak terbatas di dalam pro

#---
#Keluaran dari sebuah antrian.
#Lokasi fisik individu itu sendiri.
#Massa dari individu tersebut.
#Kecepatan dan percepatan individu itu sendiri.
#Ukuran radius individu itu sendiri.


#---
#Input antrian.
#Lokasi fisik individu lain.
#Massa individu lain.
#Kecepatan dan percepatan individu lain.
#Ukuran radius individu lain.



#-----
#Perhitungan numerik di dalam proses.
#
```

```
#
#Posisi fisik individu itu sendiri.
#Massa dari individu itu sendiri.
#Lokasi fisik individu lain.
#Massa individu lain.
#Hitung gaya tarik dari individu lain berdasarkan empat
#
#
#Posisi fisik individu itu sendiri.
#Ukuran jari-jari individu itu sendiri.
#Lokasi fisik individu lain.
#Ukuran radius individu lain.
#Menghitung ada tidaknya tabrakan antara dirinya dengan


#---
#Tentang gaya gravitasi.
#
#Besarnya gaya gravitasi.
#Nilainya sebanding dengan hasil kali massa diri sendiri
#Nilainya berbanding terbalik dengan kuadrat jarak antar
#Nilai harus dihitung dengan prosedur berikut.
#(besarnya daya tarik) = (konstanta gravitasi universal)

#Konstanta gravitasi universal. Nilainya harus konstan.


#---
#Tentang tolakan.
#
#Massa tubuh itu sendiri.
# Kecepatan dan percepatan individu.
#Massa individu lain.
#Kecepatan dan percepatan individu lain.
##Berdasarkan empat nilai di atas, hitunglah jumlah gaya


#---
##Perhitungan kapasitas gaya total.
#
```

```
#---
#Tentang daya tarik gravitasi.
#(besarnya daya tarik) = (konstanta gravitasi universal)
#---
#Tentang tolakan.
#(kapasitas gaya individu itu sendiri) = (massa individu
#(Kapasitas gaya individu lain) = (massa individu lain)

#Jumlahkan gaya tarik dan gaya tolak diri sendiri dan or
#Berdasarkan keseimbangan yang dihasilkan dari gaya diri
#Hitung posisi fisik baru individu berdasarkan hasil di

#---
#Akselerasi.
#(percepatan individu itu sendiri) = ((kecepatan baru in
#(percepatan individu lain) = ((kecepatan baru individu
#
#Hubungan antara jumlah gaya dan percepatan.
#(tolakan individu itu sendiri) = (massa individu itu se
#(tolakan individu lain) = (massa individu lain) * (perc
#(besarnya gaya tarik-menarik antara diri sendiri dan or
#
#(Arah daya tarik timbal balik antara diri sendiri dan o
#Jika tandanya positif. Individu itu sendiri menarik ind
#Jika tandanya negatif. Individu itu sendiri tertarik pa
#
#
#Perubahan kecepatan.
#(kecepatan baru) = (kecepatan awal) + ((percepatan) * (
#Perubahan posisi.
#(posisi baru) = ((kecepatan asli) * (lama waktu yang te




##########################
```

Süreç tabanlı bir malzeme davranışı simülasyon prog
Bireyler ve parçacıklar. İçinde bulundukları uzay. Zam

#Mekansal coğrafi bilgi.
#Küresel kartografik bilgi. Yerel kartografik bilgi.
##XY koordinatlarındaki çeşitli çekim ve itme kuvvetleri

#Maddenin bir bileşeni olarak bir birey veya parçacık.
#Bir bireyin içsel nitelikleri ve içsel bilgileri.
##Bir bireyin hızı ve ivmesi. Birey tarafından uygulanan
##Bireyin hareket ettiği yön.
##Birey tarafından üretilen ısı miktarı. Birey tarafında
##Bireyin konumunun XY koordinatları.
##Bireyin kütlesi. Birim hacim başına kütle. Toplam kütl
##Bireyin hacmi. Bireyin yüzey alanı.

##Bireyler arasındaki etkileşim.
##Bireye uygulanan çekim ve itme kuvvetlerinin toplamı.
##Birey tarafından uygulanan dış çekim ve itme kuvvetler

##Birey ve diğer bireyler arasındaki çarpışmalar ve tema
##Her iki bireyin pozisyonlarının özdeşliği ya da örtüşm

##Bu tür etkileşimler meydana geldiğinde kuvvetin korunu
##Bu yasaya göre iki birey arasındaki kuvvetlerin uygula
##Her bireyin kütlesi değişmediği sürece itme kuvveti sa

#Her bireydeki çekim ve itme kuvvetlerini değiştiren fak
##Çekim durumunda. Bireyin kütlesinde bir artış veya aza
#Örnek. Bir bireyin parçalanması, bölünmesi ve birden fa
Örnek. Bireyler birbirlerine bağlanarak ve karşılıklı
#İtme durumunda. Bireyin hızında ya da ivmesinde bir art

#Akışkan. Birden fazla bireyin, şekillerinin değişkenliğ
#Katı. Şekillerinin sabitliğini koruyarak birbirleriyle

#Statik durum. Çevresine sabit bir çekim kuvveti uygulay
Çevresindeki bireyi kendisine doğru çekecek şekilde ha
Sonraki. Kendisine doğru çekilen çevredeki bireylerin
Çevresindeki bireyler için ya başlangıçta ya da ortada

```
# Sonunda çevresindeki bireyler için negatif bir güç olm

#Dinamik. Hareket eden bir bireyin çevresine itici bir k

#Basınç.
# Kendi başına hareket etmeyen bir bireyi hareket ettirm
# Kendi kendine durmayan bir bireyi durdurmak için bir b

#Bir bireyin veya parçacığın hareket etme şekli. Doğrusa



#-----
#Süreçler arası veri iletişimi. Yani, bireyin kendisi il
#Kuyruk.
#Kuyruklar aracılığıyla diğer süreçler olarak diğer bire
#
#Her işlemde.
#Kuyruğun girdisi ve çıktısının her ikisi de dizi verisi
##Sürecin içinde sonsuz bir döngü çalıştırmak ve dışarıd

#---
#Bir kuyruğun çıktısı.
#Bireyin kendisinin fiziksel konumu.
#Bireyin kütlesi.
#Bireyin kendi hızı ve ivmesi.
#Bireyin kendisinin yarıçap boyutu.


#---
#Kuyruk girişi.
#Başka bir bireyin fiziksel konumu.
#Diğer bireyin kütlesi.
#Diğer bireyin hızı ve ivmesi.
#Diğer bireyin yarıçap boyutu.



#-----
#İşlem içinde sayısal hesaplama.
#
```

```
#
#Bireyin fiziksel konumu.
#Bireyin kendi kütlesi.
#Diğer bireyin fiziksel konumu.
#Diğer bireyin kütlesi.
#Yukarıdaki dört değere dayanarak diğer bireyden gelen ç
#
#
#Bireyin kendisinin fiziksel konumu.
#Bireyin kendisinin yarıçap boyutu.
#Diğer bireyin fiziksel konumu.
#Diğer bireyin yarıçap boyutu.
#Yukarıdaki dört değere dayanarak kendisi ve bir başkası


#---
#Yerçekimi kuvveti hakkında.
#
#Yerçekimi kuvvetinin büyüklüğü.
#Değer, benlik ve diğerlerinin kütlelerinin çarpımıyla o
#Değer, benlik ve diğeri arasındaki mesafenin karesi ile
#Değer aşağıdaki prosedürle hesaplanmalıdır.
#(Çekimin büyüklüğü) = (evrensel çekim sabiti) * ((birey

#Evrensel yerçekimi sabiti. Değeri sabit olmalıdır.


#---
#İtme hakkında.
#
#Vücudun kendi kütlesi.
##Bireyin hızı ve ivmesi.
#Başka bir bireyin kütlesi.
#Diğer bireyin hızı ve ivmesi.
##Yukarıdaki dört değere dayanarak, kendisi ile diğer bi


#---
#Toplam kuvvet kapasitesinin hesaplanması.
#
```

```
#---
#Yerçekimsel çekim hakkında.
#(çekimin büyüklüğü) = (evrensel çekim sabiti) * ((birey
#---
#İtme hakkında.
#(bireyin kendi kuvvet kapasitesi) = (bireyin kendi kütl
#(Diğer bireyin kuvvet kapasitesi) = (diğer bireyin kütl

#Yukarıda bahsedilen benlik ve diğerlerinin çekim ve iti
#Benlik ve diğerlerinin kuvvetlerinin ortaya çıkan denge
#Yukarıdakilerin sonucuna dayanarak bireyin kendi yeni f

#---
#İvme.
#(bireyin kendi ivmesi) = ((bireyin kendi yeni hızı) - (
#(diğer bireyin ivmesi) = ((diğer bireyin yeni hızı) - (
#
#Kuvvet miktarı ve ivme arasındaki ilişki.
#(bireyin kendi itme kuvveti) = (bireyin kendi kütlesi)
#(diğer bireyin itme kuvveti) = (diğer bireyin kütlesi)
#(benlik ve diğerleri arasındaki karşılıklı çekimin büyü
#
#(Kendisi ve diğerleri arasındaki karşılıklı çekimin yör
#İşaret pozitifse. Bireyin kendisi diğer bireyleri kendi
#İşaret negatif olduğunda. Bireyin kendisi diğer bireye
#
#
#Hızdaki değişim.
#(yeni hız) = (orijinal hız) + ((ivme) * (geçen süre))
#Pozisyon değişikliği.
#(yeni konum) = ((orijinal hız) * (geçen sürenin uzunluğ




###########################
```

공정 기반 재료 거동 시뮬레이션 프로그램을 실행하는 데 필요한

개체 및 입자. 입자가 존재하는 공간. 시간에 따른 상태의 변화.

#공간 지리 정보.
#글로벌 지도 제작 정보. 지역 지도 제작 정보.
##XY 좌표에서 다양한 인력 및 반발력의 합 또는 중첩. 인력 레이더.

#물질의 구성 요소로서의 개체 또는 입자.
#개체의 내부 속성 및 내부 정보.
##개체의 속도와 가속도. 개체가 가하는 반발력의 크기.
##개체가 이동하는 방향.
#개체에서 발생하는 열의 양. ##개체에서 발생하는 열의 양입니다. 개
##개체 위치의 XY 좌표입니다.
##개체의 질량. 단위 부피당 질량입니다. 총 질량입니다. 개체가 가하
##개체의 부피. 개체의 표면적.

##개체 간의 상호작용.
##개체에 가해지는 인력과 반발력의 합입니다.
##개체에 가해지는 외부 인력과 반발력의 합입니다. 공간 분포.

##개인과 다른 개인 간의 충돌 및 접촉. 해당 개인들 간의 인력 및 반
##두 개체의 동일성 또는 위치의 겹침.

##이러한 상호작용이 일어날 때 적용되는 힘의 보존 법칙. 보수적인 힘
##이 법칙에 따라 두 개체 사이에 힘이 작용한 후 각 개체에 대해 새
##인력은 각 개체의 질량이 변하지 않는 한 일정하고 불변합니다.

#각 개체의 인력 및 반발력을 변화시키는 요인.
##인력의 경우. 개체의 질량이 증가하거나 감소합니다.
예시. 한 개체가 여러 개의 작은 하위 개체로 분리, 분할, 확산되는
예시. 개체는 서로 결합하고 상호 접착하여 더 큰 단일 개체로 합체
#반발의 경우. 개체의 속도 또는 가속도의 증가 또는 감소. 해당 개체

#유체. 하나의 슈퍼클래스에 속하는 여러 개체가 서로 다른 모양을 유
#고체. 모양을 일정하게 유지하면서 가만히 서 있거나 구르면서 서로

#정적 상태. 움직이지 않는 개체가 주변 환경에 일정한 중력을 가하는
주변 개체를 자기 쪽으로 끌어당기는 방식으로 주변 개체를 움직이는
다음. 자기에게 끌려온 주변 개체를 자기 아래에 고정시키고 움직이
처음에는 또는 중간에는 주변 개체에게 긍정적인 힘이어야 합니다.
결국에는 주변 개인에게 부정적인 힘이 되어야 합니다. 부정적인 역

#역학. 움직이는 개체가 주변에 반발력을 가하는 것입니다. 주변 개체

#압력.
스스로 움직이지 않는 개체를 움직이기 위해 개체의 외부 또는 내부
스스로 멈추지 않는 개체를 멈추게 하기 위해 개체의 외부 또는 내

#개체 또는 입자가 움직이는 방식. 직선 운동. 곡선 운동. 왕복 운동

#------
#프로세스 간 데이터 통신. 즉, 개인 자체와 다른 개인 간의 데이터
#대기열.
#대기열을 통해 다른 프로세스로서 다른 개인과 다양한 데이터를 교환
#
#각 프로세스.
#큐의 입력과 출력은 모두 배열 데이터여야 합니다.
##프로세스 내부에서 무한 루프를 실행하고 외부로부터 입력을 획득하

#---
#대기열의 #출력.
#개인 자체의 물리적 위치.
#개체의 질량.
#개체의 자체 속도 및 가속도.
#개체 자체의 반경 크기.

#---
#대기열 입력.
#다른 개체의 물리적 위치.
#다른 개체의 질량.
#다른 개체의 #속도 및 가속도.
#다른 개체의 #반경 크기.

#------
#프로세스 내부의 수치 계산.
#
#

#개체 자체의 물리적 위치.
#개체 자체의 질량.
#다른 개체의 #물리적 위치.
#다른 개체의 질량.
#위의 네 가지 값을 바탕으로 다른 개체의 인력을 계산합니다.
#
#
#개체 자체의 물리적 위치.
#개체 자체의 반경 크기.
#다른 개체의 물리적 위치.
#다른 개체의 반경 크기입니다.
#위의 네 가지 값을 기반으로 자신과 다른 개체 간의 충돌 여부를 계

#---
#중력에 대한 정보입니다.
#
#중력의 크기입니다.
#이 값은 자신과 타인의 질량의 곱에 비례합니다.
#자신과 상대방 사이의 거리의 제곱에 반비례하는 값입니다.
#이 값은 다음 절차에 따라 계산해야 합니다.
#（인력의 크기） = （만유인력의 상수） * （（개체의 질량） * （상대방의

#만유인력의 상수. 이 값은 일정해야 합니다.

#---
#반발력에 대해.
#
#몸 자체의 질량.
##개체의 속도와 가속도.
#다른 개체의 질량.
#다른 개체의 #속도 및 가속도.
##위의 네 가지 값을 바탕으로, 자신과 다른 개체가 충돌할 때 자신과

#---
#총 힘의 용량을 계산합니다.
#
#---

```
#중력에 대한 정보.
#(인력의 크기) = (만유인력의 상수) * ((개체 자체의 질량) * (다
#---
#반발력에 대해
#(개체 자체의 힘 용량) = (개체 자체의 질량) * (개체 자체의 가속
#(다른 개체의 힘 용량) = (다른 개체의 질량)*(다른 개체의 가속도

#위에서 언급한 자신과 타인의 인력과 반발력을 합산합니다.
#자신과 다른 사람의 힘의 결과 균형을 바탕으로 개인의 새로운 속도
#위의 결과를 바탕으로 개인의 새로운 물리적 위치를 계산합니다.

#---
#가속도.
#(개인 자신의 가속도) = ((개인 자신의 새로운 속도) - (개인 자신
#(다른 개체의 가속도) = ((다른 개체의 새 속도) - (다른 개체의
#
#힘의 양과 가속도 사이의 관계.
#(개체의 자체 반발력) = (개체의 자체 질량) * (개체의 자체 가속도
#(다른 개체의 반발력) = (다른 개체의 질량) * (다른 개체의 가속도
#(자기와 다른 개체 사이의 상호 인력 크기) = (만유인력의 상수) *
#
#(자기와 다른 개체 사이의 상호 인력 방향) = ((개체 자체의 질량)
#부호가 양수인 경우. 개체 자체가 다른 개체를 자기 쪽으로 끌어당깁
#부호가 음수인 경우. 개체 자체가 다른 개체를 끌어당깁니다.
#
#
#속도의 변화.
#(새 속도) = (원래 속도) + ((가속도) * (경과된 시간))
#위치 변경.
#(새 위치) = ((원래 속도) * (경과 시간 길이)) + (1/2) * (가속

##########################

#### Componenti necessari per eseguire un programma di s
# Individui e particelle. Lo spazio in cui esistono. Le
```

#Informazioni geografiche spaziali.
#Informazioni cartografiche globali. Informazioni cartog
##La somma o la sovrapposizione delle varie forze di att

#Un individuo o una particella come costituente della ma
#Gli attributi interni e le informazioni interne di un i
##Velocità e accelerazione di un individuo. L'entità del
##La direzione in cui l'individuo si muove.
##La quantità di calore generata dall'individuo. Il grad
##Le coordinate XY della posizione dell'individuo.
##Massa dell'individuo. Massa per unità di volume. Massa
##Volume dell'individuo. Superficie di un individuo.

##L'interazione tra gli individui.
##La somma delle forze di attrazione e repulsione eserci
##La somma delle forze esterne di attrazione e repulsion

##Collisioni e contatti tra l'individuo e altri individu
##L'identità o la sovrapposizione delle posizioni di ent

##La legge di conservazione della forza quando si verifi
##Calcolare, per ogni individuo, la nuova velocità o acc
##La forza di attrazione è costante e invariante finché

#Fattori che modificano le forze di attrazione e repulsi
##Nel caso dell'attrazione. Un aumento o una diminuzione
#Esempio. La scomposizione, la divisione e la diffusione
Esempio. L'individuo si fonde e si confonde con l'altr
#Nel caso della repulsione. Un aumento o una diminuzione

#Fluido. Il movimento di più individui in una superclass
#Solido. Una superclasse di individui multipli che si un

#Stato statico. Un individuo immobile che esercita una f
Che è una forza che muove l'individuo circostante in m
Il prossimo. Che è la forza che fa sì che gli individu
Deve essere una forza positiva per gli individui circo
Alla fine deve essere una forza negativa per gli indiv

```
#Dinamica. Che un individuo in movimento esercita una fo

#Pressione.
# Una forza applicata dall'esterno o dall'interno di un
# Una forza applicata dall'esterno o dall'interno di un

#Il modo in cui un individuo o una particella si muove.




#-----
#Comunicazione di dati tra processi. Ovvero, la comunica
#Coda.
#Scambio di vari dati con altri individui o altri proces
#
#In ogni processo.
#L'ingresso e l'uscita della coda devono essere entrambi
##Per eseguire un ciclo infinito all'interno del process

#---
#Uscita di una coda.
#La posizione fisica dell'individuo stesso.
#La massa dell'individuo.
#La velocità e l'accelerazione dell'individuo stesso.
#La dimensione del raggio dell'individuo stesso.


#---
#Ingresso della coda.
#La posizione fisica di un altro individuo.
#La massa dell'altro individuo.
#Velocità e accelerazione dell'altro individuo.
#Dimensione del raggio dell'altro individuo.




#-----
#Calcolo numerico all'interno del processo.
#
#
```

```
#La posizione fisica dell'individuo stesso.
#La massa dell'individuo stesso.
#La posizione fisica dell'altro individuo.
#La massa dell'altro individuo.
#Calcolare la forza di attrazione dell'altro individuo i
#
#
#La posizione fisica dell'individuo stesso.
#La dimensione del raggio dell'individuo stesso.
#La posizione fisica dell'altro individuo.
#La dimensione del raggio dell'altro individuo.
#Calcolare se c'è o meno una collisione tra l'individuo


#---
#Per quanto riguarda la forza gravitazionale.
#
#La grandezza della forza gravitazionale.
#Il valore è proporzionale al prodotto delle masse di sé
#Il valore è inversamente proporzionale al quadrato dell
#Il valore deve essere calcolato con la seguente procedu
#(magnitudine dell'attrazione) = (costante di gravitazio

#La costante gravitazionale universale. Il suo valore de


#---
#Circa la repulsione.
#
#La massa del corpo stesso.
#La velocità e l'accelerazione dell'individuo.
#La massa di un altro individuo.
#Velocità e accelerazione dell'altro individuo.
##In base ai quattro valori precedenti, calcolare la qua


#---
#Calcolo della capacità di forza totale.
#
#---
```

```
#A proposito dell'attrazione gravitazionale.
#(magnitudine dell'attrazione) = (costante gravitazional
#---
#Per quanto riguarda la repulsione.
#(capacità di forza dell'individuo) = (massa dell'indivi
#(capacità di forza dell'altro individuo) = (massa dell'

#Sommando le suddette forze di attrazione e repulsione c
#In base all'equilibrio risultante delle forze di sé e c
#Calcolare la nuova posizione fisica dell'individuo in b

#---
#Accelerazione.
#(accelerazione dell'individuo) = ((nuova velocità dell'
#(accelerazione dell'altro individuo) = ((nuova velocità
#
#Relazione tra quantità di forza e accelerazione.
#(repulsione propria dell'individuo) = (massa propria de
#(repulsione dell'altro individuo) = (massa dell'altro i
#(entità dell'attrazione reciproca tra sé e gli altri) =
#
#(Direzione dell'attrazione reciproca tra sé e gli altri
#Se il segno è positivo. L'individuo stesso attrae gli a
#Quando il segno è negativo. L'individuo stesso è attrat
#
#
#Cambiamento di velocità.
#(nuova velocità) = (velocità originale) + ((accelerazio
#Cambiamento di posizione.
#(nuova posizione) = ((velocità originale) * (lunghezza
```

To return to the top page.